中村俊定文庫
文庫 18
81
1

長沢乃ほとりにまつ人
友をこそ待しか今を始めの旅衣
すゑの道草もゆく末なれと
ふるき言葉のまゝ
教訓を荷ひくおもきこと
すこさ侭もなくれを折
便船集をまねさまを奇
乃重荷ハ付合ハ肩を

やとり梶を枕して波の
おもて三句めありさ
まふさよ心みそれそ
くく船をそおさ
あるは初ふくろの
たゝけ松もなれん
く老ぬひくさ
すゑれも漕出人まを
久くそ乃ます

初夏の朝さみゆる
又宇治川の真淵の
砂おもこまやかにされる事
ふもまた出くる人物ともあ

延寶五初夏中浣十日

俺心よ　梅處亭

石

山科ノ宮　千里ノ濱　那須野　金貝利（ナキ）
羽ノ上ノ鵜　佐保河原　佛塔　磨（ウス）苔
舟　井戸　橋　垣　碇（イカリ）　硯　炉路　渚　湖（ミヅ）の沖
蛇篭（ジャカゴ）　階（キザハシ）　樹下　坐像佛　羊　金山　祢布川
夫と思死　泉水　墓　双六（スゴロク）　碁　楠　屋根　星
前栽　風呂　柘榴（ザクロ）　蛇（ジャ）　燕　鮒（フナ）　鮎　上戸ノ胸
産食（ウブメシ）　亀　鍼（ハリ）　白河　御影（ミカゲ）山　木戸　枕
燈篭　川ノ氷　淋病　弓　魚をやく　蜻蛉

石と云ハ水ハ米ハ年ハ月ハ日ハ時ハ人ハ男ハ女ハ子ハ孫ハ
ハ分ノ石ハ忘ハ慕ハ悲ハ別ハ恋ハ
ノ石ハ忘ハ慕ハ悲ハ別ハ恋ハ
ふせく樂（ガク）ハ石ハ
よハ史記ハ石ハ封ハ石ハ
とハ石ハ刻（キザ）ハ記（キ）悪碑（アクヒ）ハ石ハ

抱て淵よ入とかゝるなりと。石ふなるとも大佛の
石ふとうふハ大ゐなひゞれ入と。始皇の鞭ハ
ふ劇。大師の筆ハ石を入四國の石峰ゝ大祓
ふ虎石ゐ。詩の國ハ石をとゝ。初平ハ羊ハ
石とゝゆう。石業ゝゝ周詩の句や。初の石
ハ四十里四方ゐ。ゐ四ゐゐけゝゐ石ハ天平とゝ。
石の華嚴ハ天ゐにゐ。女媧氏ハ石修りて天の
うをゝるを補ひ。彦光ゐ石修りて父の疾氏
なとゝゝゐとゝゝ

岩

松苔 山乃井 枡 池ゐ紅葉 萩
古寺ゐ 梅ゐ 清水 遊 瀧川
霧 谷のゐ 磯へ 芦 荒田 雜木のゐ 緑ゐ
吉野山 春日山 戸ゐ瀬川 蛍 跑 苔 蔦
ゆゝし 老母ゐ 磨潤 苔戸ゐ浦 仙家
七夕祝 お祓山 小山聖
修羅の戦ゐ 般若石とゝふ。 猿猴ゐ 男ゐ
う 枯木ゐ 仙ゐとゝゐ。ゐ猿ゐ 男ハ脇
ゐのとゝさとゝやゐひとゐ 男とりてゐとふ

ゝゝハ神代のゐ。閑古ゐ 男戸ゐ川
とゐ 石。磨鏡の 祝ゐ男ゐとゐて十余ゝと
ゐ。十六羅漢ハ男の井ゐおとゝ。磐石ゐ蘿只
ゐ家と仙里ハ仙家のひとゝやゐなづとゐつゝゐ
男ゐなゐゐんとゐ天の羽衣ゐて ゐつとゝゐ
代のゐゝさゐとゝせゝ。苔のひとゝまてゝゐよ
ゐり。男神ゐゐさゐゐ心とゐわゐゐ色の松ゐ男也

窟

不動鬼 香水 氣遠 祈ル 誘神 夷
日光上人 洞ゐ函 大峯 笠置 三保
常盤山 夜の雨 萬ノ紀氣 寂寞の苔
苔の唐 行ゐ備ゑ 小山 車坂 まんぢ西洋
土蜘 仙人 姥嶽 氷室 志都
蘇我ノ切岡よとゝゐまて 叢客の間よこめゝれ
ゝ風ゐゐ。法窟寂寥ゐ備ゝ 定時とゝ山谷よ吟ー
ゝゐ。又ハ神の客とゐ元酒典ゐ重ゐよ客ゐまゐり。
みーゐりゝゐ。ゐゐゐゐゐのゐゐゐゐゐゐゐゐ
のゐゐやゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐり

岩船

蛭子　天の海　沖代　天地開　霞の浪
如意宝珠　盃山　荒磯　宴の市

唐綱打　伯古の浦

沖代巻　天磐櫲樟船　とり　海のさとや
沖代巻　天磐櫲樟船　とり　海のさとや
も思船を漕よもー天のさくあへ船そうー　祝
みはてくとり

筏

川崩　やや

浪の紀念　松大渡　湊　大井川
とも世の　熊野川　花　牡　軍　乳子
道をおくれを　捨　雪
語ーる論語よりてくとり　投扇
よさなの名号をすりとり　や　水の上の浮
のをくとりや　海松　泊舟　千る　岩の松　浦
磯　　芳沼　堀汲　海　影　綿鳴　与謝の海
小鳴　野鳴　紀　捨小舟　清　前司
うの世貫　鶺鴒　堀の山

庭訓往来　磯　基
の磯　なし　つひ
ての磯　も　ー　蜀
沖の手　遥　れ
そして　後　ふ

入江

鴛鴦　芦鶴　鴨　汐屑　千鳥

月若　鴫　雑波　おの海　信吉
玉津鴫　真野潟　緑
程く　湖水　の池　大井

入江の松風　村芦の葉　ふ
ん琵琶行　作ー　潯陽の
江村漁火　対愁眠
ふ　庭　玉藻　萩浜　初
岩根　氷　蓮葉　鴨　蛙　螢
御　松磐

池

生田　十市　月　麻光院　昆陽野　鯉　鮒
菱　鳥羊　小坂　遍照寺　河原院　篠原
弁才天　箱根山　諏訪宮　神泉苑

孟子よ王沼の辺や鴻鴈麋鹿をとろこ。
仏苑々館よ洲濱の沈わり。葉王ハ肉山脯林酒池
と精の隄をつき酒船をうかべ池俣をくりて
多投へ。鳥宿池中樹とも仏ゐ。宝の池の水と
も。功徳池の涙のまゝ秋ともうこう

泉

杣木 堺の浦 酒肉 濛田の森 酢
酒壷 式部 忠衡 靫平 心谷

裏白の滴 大将 稽尾寺
和泉國ひ孫とゝかよ声ゝ院やうわ治みて大和初
瀬よまこゝよ初ゝきこゝへ伯耆ハ老泉あゝとなく
くゝの湯のくゝくゝ有馬泉の湧ゝうんともも
つゝ湧ゝ出ハ根よありつゝも涸せり。大概ハ泉の釈
ゝて活水もゝゝおなゝ事うや

軍

花蛍 紅矢 矧ぎ 蛙 鬨の声 神武天皇いまゝこゝ五瀬命ハ
て船軍始終ゝゝ。殷湯王ハ桀を討。周武ハ紂を退治せゝどうや。

修羅 山法師 奈良法師
陳勝蜂起ゝて秦皇ろひ。鴨川合戦始て
平家みゝ西ゝ皆仁義を守ゝぬ平かりの心

いさゝひ

女丈 酒酔る 追従 悟気
物ゝの場 童 棒ちぎれ木 布

思ゝ弁 神事の場 人群集 井の水 隣境
柴取山 傍輩
吏いさゝひ人ゝの人ゝ事すくゝ
車仗馬士ゝゝひゝとゝの人ゝ目傭僕ハ不化坊主ゝ
合ゝ傾城ゝゝめ出会計ゝものゝを相撲ゝ云
ゝ治ゝ合血をたゝしほゝゝゝもあゝ
ありかゝゝ人ゝ戸ゝをとゝろゝも山河ゝや

生死

碁 文字 魚料理 遠釈 療治
軍場 破損ノ舟 悟道 地獄 責
ゝゝ存生ゝ死所趣ゝ活死ゝ演従せり。死た
ゝゝゝ

囲へりなどのそこそこ

生捕（イケドリ） 綱の魚をる 戦の落完そすの称 壇（ダン）
浦くゐる 手傷 鈴木 春栄 蘇武
尺戸せの遠手こ生捕（イケドル）祈よってとい和田の忠義に
とうや基井の河ふも生とりとそのうこ寺の坊
主が生ふわうそうとこ字盛ハ水練（スイレン）紙ねて弾せ
らま。紀信ハ漢王を助て焼ころさるをふ生捕（イケドリ）とや

生ぃ霊（イキミタマ） 目鉄炮のく員牛 外（ホカ）
盃棠（ウノボン）盃ハなくさくの 奥を破
ふいせ犯父母の亡魂（ボウコン）とまつ河紙（カミ）ぬいまくこ山
世よまひ父母ハ年のもくさるをねて生かう
ふうやうれなくしー饗応（キョウオウ）をなすも連れ食
をゆるもなそいさみくるとつくさ

令 小松の井山 筆硯墨 冥加（ミョウガ） 蜉蝣（カゲロウ）
おめ賀 名
なにうのねなくハ何
ようみーも急ぐぱ急
なりをれい和おかりー

いつの。松の令ハうんとうくハ者の必さーの源
きぷ松三位ハ令こひそて始をを行しく不幸続
令うてそをうこねもう三楽（ラク）とうひーハも令の
人ぺまも急令うも伺うふ父衣の母ハ報きとや

市 業人 薪 酢酒（サケ） 肉（ニク）
和文 居家 盗人（ヌスビト） 詐（イツワ）
社会 神よ 売（ウ）教
蛙 蛍火 月中
狼列（ナラ）廛（テン）于国 月中（ゲッチュウ）に為
くや。古人未有市及井若朝聚井（ショウシュウ）汲水便将貨
物於井辺貨賣故言市井とい正義よそこう。
そーきれ被の報いうかもりて思のそて
立ーきと平仲くそのこくや。
物多（オオク）の市ハ庶和（ヤワラ）をかう。数（カズ）多の市ハ庶和
引漢ふハ和のおくもろこ市ところ

菴
田中のそ 景（ケイ）の里 生の洞 数の数
世を経人 山住 夜の夜 時る 文字
彩の呉行（クレタケ） 衣裳（ショウ） 乞食 近心若 流人 大衆

田の蛙 わう蛸 読経の声 さゞの巣 宇治山
野水 おばしま うつゝ山 芭蕉の女
越して帰るそうの人のうるさゝ山伝来伝
聖平 そこ〳〵に来るの下宿 蚤員て
夏籠をふせてくるすゞの蚊 ふせ
八尾を焼羽虫 ヤケシキ 蚊 とろ猟師やうの男
もんすの面あてるへ

家

嵐 月賞 蕪着 蜘蛛 蓑虫 燕
楓 鳩 蚕 秤 鏡 法利 食竜
松 楓 蝸牛 彩花園 公儀役 兄弟子事
大学曰脩身斉家治国と。古今に伊勢が詞
おや家と妻てとるこ先。てやや。家とやれ
て三四月おつる涙八百み紗の袖もあらをなし千や。
家ぞうじ〳〵八女房へ部のみいおまへ公家武部
家仏家福家台家ぞ言家浮生部先主の公
なまてもうつてうり

家と蚤

婦乳 蚤虫 三車 法利 食籠

蜘蛛 燕の巣ぞ 嵐将 奇流 絵ぞの習
貧乏人 伝染 勘当 隠居 竈将 蝸牛
悪多太子王ぞもの死山法皇山猫ぞ一緒不在
むすめ死わそもぞ。出ていめかろうとやせんよ
ぞ。位ぞの姫の部とそうもぞ数盛とそうかうぞ。
家ぞ。疫病のやうとやいて八必ぞとおてかまやと
かろうぞ。生湯の日わうろひろ〳〵とくのをへ
八部とおて山法よ彩て日光ぞ陽とそ天家の間
の大猪ろくく死ろ〳〵

家の風

芸死の声 橋かゝる 彩のあやめ
帰ぞ 編井 氏の末 家の兵行
いとけなき人 門柳 家 竈将 琴のね
庵の松 笛の声 暮 梨ぞ
灯ろ 陰ぞ 来
ぞの埃 月の桂折 火用心
儒道仏ぞ詩ぞ琴 碁書 昼ぞ 仮
絵ぞの流とそうひもの
ぞ氏の風ろうもなし

つてつてみてつてつかつて誦ーのひーそつー

家子

蜘蛛（セド） 軒近の竹 若竹（ワカタケ） 猫 鶏 燕（ツバメ）

鼠 上ヒ階（ノボル）

土農工商の世ごとを作（ツク）てすこしもおこたらざるものゆゑ
いつもおもつぼつぼ（ツボツボ）なるとてとらぬ鳥帽子（エボシ）もあやうし
よるとてとらぬ鳥帽子もあやうし
云も家のみの名。

妹（イモ）

垣根萱（カキネカヤ） 樗（アフチ）花 麦（ムギ）豆（マメ）畑（ハタケ） 田草（タグサ）川 蔵（クラ）竜（リウ）灸（キウ）
妹背（イモセ）山 かり。妹背川 き。
ふかいわらふ姉ごにたんがくろう
こひつまいと祖（オヤ）より白（シラ）かゆるもんぜんかなま
ーを二首ともよう万葉集第十二よわり

犬

里の井を 安（ヤス）き夜（ヨ）ぬ 寝（ネ）ぬ 行（ユク）ら奥 毫野 廉将（カドノ）
宇治里 行（ユク）ら 藜（アカザ） 篭城（ロウジヤウ） 張子 箱

猴 稽 招 山神 狸

祢和 虎 猪（ヰノシシ）ろの磐石 盗人 乞食 雪
蓑笠 ろの杉山 ろの姫山 傍輩（カタバイ） 軍（イクサ） 初歩（ハツポ）行
竹筒書 趙王ノ祟（タヽリ） 寺門 菖蒲谷 岩伏
鎌倉 異国人
家を守（マモ）一犬（イチケン）ひえて吠（ホエ）ゆれば犬も泪
おぼえさとそ。犬ろの関係ろの女房の妻（ツマ）て
もる人狩場（カリバ）ふてころさんとしてすゝ門ろ
のつるをねらくひかろとや。唐ゆもる人の弟
よ家を出して主人ゆろ所よ報（シラ）さんとするゆ
今ゆ初代なよゆこれがたそとびてゐれい
る人さろて奴をも婦人をも殺（コロ）ろとなん。
和漢伽ろやうなるもの大蛇（ヲロチ）まもれて既よ食
わやうろとをお来つて大蛇をひろー助（スケ）
ねろ和を救（スクヒ）風（カゼ）て同ーくをせ信（シン）絶
ろ人おを死しろ成（ナリ）時酔て寝（ネ）た草
の井よ赤て入守（マモ）ってまの海さあ
ろ紙火をろろて猪信絶ふてもうひやぐて
大信絶う盗をろろて猪信絶ふてもうひやぐて

を求めて水に入る為とう面かりて作るのまるを
そうつるめくるとそれい火消てまねるをうとそ。
相撲入乞のおい魚肉よわ紀。淮南王の大小俗来
とうめくるも。くこのおの物語の導師を
わさをるとうり。客のおよ物を乞ひくいかいかそ
鵜（イハシ）　音分　鵜雲　田作　宇和鳴　冊後
鵜（ヒギ）　松浦　伊勢の海　榕
鵜の以も信かくとと世伝の河よ名のくわせり。
泉或ア乞のそーと石清水のよせて作うう
さるくんーにもてわ

鮎

園の竹　森の梢　野への狐　垣ケ
淳（ヌカ）ま深小袖　あこの木実　神木　孔雀（クジャク）　鸚鵡
阿弥陀経曰彼国（カノ）常有種々奇妙雑色之鳥
とふも文るの勢なるの門田　錦木　笛　屏風
ロろとこ向ひくとうこーこれも杜うくる雪
なる故よるるとのみとそ
鮎（イスケ）　山鳩　火用心　無庫浦　漁（ミヅ）名取（カドリ）しお

垣根　縁下　簗魚　飼鳥　鼠
鼈（スッポン）　鼈（スッポン）　ともに鮎のやうなる数ふして別種
みそそこらん。鮎の字を好
河ひ向るるこ心真中こ
鮎（イズリ）
かをそるくか
うるまあ　二妻和　玉の枝　わこの関
雲存　結毋　逆り　忠義　雲
昔　河双　軍謀　君中　芭蕉　中人　涙の雲
云事　程称い
鮎の仏書小説　毛向　妄語戒　こうのくの人のこの
書ふれくこ向ーと詠しくるもこうこ。鮎（カイツ）を向
穴の契つもうのろみるる　ものを乞ひせてるそれに
もむろう。利欲のくあめ　人（ヒト）　をむざしき戦場ふ
らて謀をかー。乱彩の法師　勤行と添し　宝
ひくよもひて魚つくひ鮎の根なそう。
忠信の屋敷（ヤシキ）　ふれ　ひ　ひ　ひ
ふり。河の上の西（カホニ）　ふ　ふ　ふ　ふ
中河の方こへかりひーみこーもとくや。多ひ
いぞくい鮎をこそ鮎を世なりとぞ

祈神（ル） 山桜川 山湯ニ 竈祓 敲来 産前
漆妻（スヂリ） 雛風の舟 綾の綾つり 里の御まつ
釘打 駒犬ぐ 我狗 病人
人と神とむもわる 多の幸を祈ふも祈力と祈
る人の像ハ多像ハ像。普賢菩薩ハ像。
酒盛ハ松尾。猴酒（カヘヂ）
それくの神とそれぐの神とをなほそよ

彩

うた人 雅面（ガキ） 松のけ 松のこ 神
佛 かな仮名 なほ山伏 わかひのこ 成る
船矢倉 里深 天道
紅（ぐ）彩色 ひてる路 ひてる路
とうや 女房川の水 八坂の塔のゆふ
ゆふべ 一ハ法力のゆふ 燈（ゾウ）ーるとごとを祈てせん
かなうらーに祈るの法師り。祠祈暮賽ハ文集
の河かそうーやわ祈せうのつえとすくうとあむ
うみの国のうらうら 詠せり。そを祈て世を祈
多といのつとをいのつとをいの国とを

文好

母ひわりて うるく人 教る乞中
神のもこすの内 漏 うすくこみ

鞠（リ） 笹 市 ざる 業平 小町 源のいろ
文好うの家とこ。そこのこなる女とも。重色思
傾国とい長恨ぐ小 ふ作もり。賢（トテラカコ）々易色（ニ）とい
夏ぐこけし世のく すとい菓好うるこ人のむきうるうる歌よまう
（ま）

糸

柳橘 すく蓮の根 萩 針 釣（ツリ）
珠数（アヤツリ） 操（ニレカセ） 歌 蜘蛛（クモ） 紙鳶（イカノボリ） 芸月彩
唐舩 朝鮮（チヤセン） 作り花 琴 琵琶 眉（ビン） 墨（ボクヂウ）
納豆 牛の涎（ヨダレ） 佛のひる 春雨 書通
華屋（カハヤ） 三輪 具足
梵天ぐも 糸紡（ツム）ぐ大海の底の針の耳（ミ）
とけのくとれのなるとうとるぐ。矢よ縫（イト）を

付て名付ける由を綴ること云々。後さるものいとすぢ八
めぐりとかいふこと歌のうへにもおほかり。
さ脇(ワキ)の縁(エン)よりあゆみ出(イデ)て
くゝりつゝ糸(イト)いわらぬさまをよめるなどもあり
糸竹(イトタケ)　花の賀(ガ)　四月のな　三の席(セキ)　みくら
神樂　庭火　行幸　千載集　酣酒(クムサケ)
法のこわさ　忌(イミ)　七夕　かめく　紙　宇治川
志渡浦(シドノウラ)　大井川　かるもの　永　池の舟　籬(スガレ)
九重の内　ひろの宴　寇の蜘
鳥獣(トリケモノ)　唐狗(カライヌ)　垣根の蔦　すゞめのかう
天皷　いろのかう
琴笛の音おもしろく　極樂
くらもち道(ミチ)とかいふ。醉翁亭記(スイヲウテイキ)は宴酣之樂(タノシミ)
非絲(シニ)非竹(タケニ)とか歐陽永叔(オウヤウエイシュク)が心。禁中の鶯の庵
丁の柱(ハシラ)　絲竹(シチク)のこと
糸(イト)のもの　みぐるま　三の姫宮　さの姫
緒(ヲ)と乱(ミダ)と野(ヤ)ばらいとまの海士(アマ)　いろのかう　琴　三絃(サミセン)
幼(イトケナ)　井(ヰ)より下(シモ)　常(ツネ)　落(オチ)　刈(カル)　古(フル)　雀(スズメ)の札(フミ)
貧者の衣(コロモ)　蚤(ノミ)　蚊(カ)の巣(ス)　蚤(ノミ)　紫(ムラサキ)上
高館(タカダチ)　井筒(ヰヅツ)の女(ヲンナ)　明石姫君　朝顔
武帝(ブテイ)　太子(タイシ)　遠平(トラヒラ)
幼時(ヨウジ)不勤学(ツトメガク)　老後雖悔(ヒトシケレドモクヤム)無益(エキナシ)
実語教(ジツゴキヤウ)　いろは歌(ウタ)
従兄弟(イトコ)　文字(モジ)　蚊(カ)　蠅(ハエ)　蚤(ノミ)　蟻(アリ)
伊勢物語　蜘蛛(クモ)の巣(ス)　蚤(ノミ)　蚊(カ)
なりひらとある二条の后の事ども。我好中(ワガスキノウチ)
模様(モヤウ)　歌(ウタ)　安法法師(アンポフホフシ)　平維盛(タヒラノコレモリ)
ぐるぐるめく入水(ジュスイ)
理(コトワリ)　公任(キンタウ)
云々。蒲焼(カバヤキ)　云々
みうらそでとある我兄弟(アニオトヽ)のあけくれ

稲　扇　庸　村雨　伏見　雪朋
神輿　山里　秋風
聖徳太子守屋の逆臣を誅し給ふ時稲の束を取て髪に挿し給ふ故に四月の祭礼に稲束を髪に挿す事あり
また田の面の稲穂を取てともに祝ひ給ふ事あり
また秋風の吹くごとく稲葉のそよぐごとくいふ事あり
造とは造作するやうにいふ事にて稲の面の手入をいふ
また今の世は田を作るにも稲を刈るにも皆機械を用ゆ
川をひ柳と俗にいふ柳の多きところにあるゆゑなり

稲妻

端妻の枝　月並歌　わけ忘
浅茅原　源氏物語　秋風　雪朋　雪月花
田面　雪月花　詩歌　雪月花　うた　称
村雨　うた　詩歌　雪月花　雪朋
悟空　悟空記　男女　同衾　雪朋
木の葉小雪　稲妻　山抜のうた　ふた
いかるもよし　秋の面のかりそめの宵の稲妻
といへり　足疾鬼　月並歌　雪朋

稲光　田面の露　男女　同衾　雪朋の堂　村雨　月

雲門　雷鼓　雷電　金剛経
如露亦如電　追電　馬　追電
いかなるとかいふとくとくそ　註の天人のかける時の光
せり　義経　電撃雷走
イナヒカリ

光軟　黛　笛　鞠　絹　衾　花折　陣場の旗
作り花　天井　衣裳　扇　屏風　錦木
まゆ　赤白の玉を糸のさきにつけてくくりたるに王昭君の形いるそうな
ろこづ　むろこ　ありこ　ありこ
写し絵　女人の髪のおくれもふもとの波
広袖の着合の勝と定　東坡行世
うまのたてがみ　昇　うるはし　もかもん　ありくさ
ちやうちこ　夜話　いろいろ　ありあり

文歌　秋の山へ配る　河面　冬枯　相撲　相扇
芸用集　大師　ありよ

ふるの方本の河南ふわ…
つるも松栢い潤るよ…
ゑ・麿のなる…
イクン 能吉吏 初幸 云合 雷鼓鳳の歌

衣冠

吉月翌旦 宿直 入院

人るみ…ふ…備善薩天人天詰夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽などの本よ…
わくび。梓よの書通社鄭の神を書のうめの…
ふ歩の万果も

衣裳

イーシャウ ひいる 人形 婦人 能 業姫 娘のよ
七夕祭 奨屋 山もち 三人の記
生屋 蒸の土用干 惜却
静ゥ華の衣裳ハ賜まふの…の家業よ納…通鑑よ衮冕衣裳之制興とハ黄帝の時也。易繋辞曰黄帝堯舜垂衣裳而天下治とやもろこしむかしの衣裳とかはりてつゝしろといふ…ものゝみふもかるべきすべ。衣裳よ…とハ頭飾の語よりて人のむとりあるゝや

盃子

イチコ ひろう 海む 人石 赤代 亮の金肉
蛭蛸 栗木
教よ…ふ…の棹をひろ…ちゝ…ろこなる…蓬萬系覆盃子
賜鈎子とて…女人含…
賢書…酒小和…

芋

イモ 名月 …
猿俗河系 棚 ぬぐ… 風呂…
東寺 九条 雑煮 仁和寺儒
園牧芋粟未全貧杜詩よ有芋を…
てつさかりて墻…て饑饉をなぐさむ…
おもも懶残福帥も盛真俗和も芋とのうへ名俗也

蚕豆

イリマメ なごや 良う 庚申 ちんせいる
連雀 席
蚕豆のすゝーろひとハ似合ぬものとおもふ。蚕豆よ…
豆よ死…とゝ…

大忌をみるよりもとめくるめくるめまいのやまひ
めまひ

疣 イボ　太鼓棒蛸月かまこ竹の子根
　　趾の祝　蜻蜓

ぞくし流れくゐ人のくぐなと高と童のにすさまじ見かぎり一疣よ
悩のしもめてやくくしくくれもくるいひりくろとてまもみる波あらうそ尺八

兎唇 イグチ　矢狭間　狗人の果
二世と契てわるぬ井いくちもえくれよそゆ
向とそ懐胎の河母うと兎どくひあまさ必いくち
と生くるくせり弘法の法とうを作

筑簞 イカキ　うぐゐ　河ぐと麩屋　菜つと
　　豆腐　丹波　辺江　奏摘　水掬
　　狗う

お人の河つうとよいくさをりみまいせのうのびねと
くや。僬僥国のくいうくさ紙うみう筋ど一尺寿
のくうくさとりなるいくさ

息 イキ　脊柱　鏡磨　海士　風呂　たごこ
　　氷る　濃茶　狂人　跡陀つる　馬
上り坂　森布　灯けも　死添　尺八　塗笠
蚕蛇　納豆　朝寝　女郎　麻畳　る員
同年　我うるよおろちいう息吹うけくやく水練う
土ほい息のつうひやうまいくさりふ吾そ。虫の息とよいつー人のる。灯の
井よわ虫とくの息ーそけ七の虫死るこの戒

一番 イチバン　納豆　相撲　碁　碁
　　双六　弓合　晴の舞　順礼　蓮のよ
私法合　なおせんぞく　名帳　庶やれ　軍
幕ばくーうう　我村若我
くよすくれうを一番男一番女房とふかれる
う。魚うも大なり用一番とふなるを二番とふ
をか芸ふうもうをや。晴の種を一番ひひ
しとふや。晴の芸事九とうふ

一門 イチモン　平家の落わーう根葉　設云　猿
　　吊ひ和国酒　緑のうー

婚姻祭丧のごとき一門必ず合すべし
成ること一ぺん八家の吉儀も皆ここに
避く 表裏 なき人

一久字

茅葺
伏義一画を太極とし老子は一より
りんりんとして一を守るとあり一服一
ぬるのも忘れず八十りんりんとあり

一字

賤物 秋の額 掘 額 掛物 物価の石
易の占 褒貶
一目学ぶ一字三百六十字ごとに一字不説釈氏
の如き江南の市は千金とりけり呂氏春秋
詩作は一字の活あり一字の句あり

一夏籠る

家の戸 法の行 結ぶ舟
阿波鳴門 宝林院の僧
四月より七月まで十月より四月まで経ごもり
と掃除 祓もり皆夏と云 僧ごもり

一切

衆生 経 生れる 蘆原の腦
一切諸仏所護念とは阿弥陀経のもとこそ。一
切これ生をさまざまに訓ぜど三ありうもあり。
一切八分実とは俗語ともいふ

一巻

紙子 笛 音法の奥義 衣裁
儒道仏 業
黄石公より張良の伝しかうつ一冊漢氏の伝書とその
一巻の勅を指す

一盃

池水 腰 礼食 茶椀 丹 物買ふ店
祝ふ 塩 力 斎 湯 業
使我有ら身後名不如即時一盃酒と張翰も
いへり。一盃一盃亦一盃とて一興薪の火は滑ぜど亜聖も弁せざる
ほどの紙一盃ともあるべし。一盃ともあるべし。一盃ともあるべし。
一盃ともあるべし。一盃ともあるべし。一盃ともあるべし。
一盃ともあるべし。一盃ともあるべし。一盃ともあるべし。
一盃ともあるべし。一盃ともあるべし。一盃ともあるべし。

イリヲヲイ

晩鐘 花の鐘 風呂 類杯 洋馬 お暮

交相撲 幸近くの道 勤め

その入おそうるふもそいりて又の日のひなの時が

うるまみなんらしていさもあそうわやそ。

近江八景よ三井晩鐘と称せり山翁真経帰

来晩鐘 欲待峯頭月上還 ともうの詩も述

インギン カカ

慇懃 初重畳 風呂の内 そうめ

長恨の云臨別殷懃重寄詞 又天女慇懃

織得成と錦繡段 すもおそうわやんそうんさい

ともいあり。称もそうとそと慇懃のこそをおて注

せり称んそうそ

今入 風呂 芝居 撰集 双六名 息吹海

湊船 伊勢参 神楽 乗合 秋そ花

清商曲の名曲。勤行の綾れ。今入の

名始祖ひなとそのるふ至まのそのそ時今入

とも申しそ

古色 初の松 三代の盛 月

唐ぶり 神ほまれよいらぬ

野ごえの表 又古ざくら

賊のそこまで紀つる色しと続しそ紀付うて

まて貧窮なるもそ。

いくなるもそ紀ありのや。二十年前旧詩巻

十人酬和九人無と自居易も作しそ。古ぬお

ひやそこひわそもそ称そり

賤 イヤキ 奇の姿 急度 食わ 筆法

生つそぐら

論語曰吾少也賤故多能鄙事又八九夫よ

おそ居くそ或人のいやーそ曰君子多乎

何のやーそ子曰そうわんそいやーけなるもれお

毎なんそうそとそいやーかそ勇いやーかそ

乙女ともうるをこうんのそうとこと元

憤 イキドヲリ

留八 火吹行 鼻の穴 云泥
灯きえる 海乙 ウナリ 怒 も該此
大腹 きせ油
先陣好陣よこそれ。義女 アノ 女 ツネナ 局 よなりひみハ
こうしの女うれ琴 ビ そこ〳〵亀〳〵もいさとそうを
なの面亀〳〵。数憤忘食 ニキトヲリ ヲ 路よのこうひしとや

抱 イダク

産婦 ウブメ 同なりどち 業 ツボ 蕪 子 捕去
相撲 病人 猫 雞 犬 膝
清江一曲抱村流 ケリ とい杜子義う句 陰 カゲ 而抱
陽 バ とハ易序よ述ら 主 ヌシ こうの。おさめのものあそ。又
いるかのすう内放火人ハ抱 キ 込 コウ ていく
とそ抱膝 キ 灯前影伴身ともわり

頂ノ

大 ヲホ 木 地 ヂ 蓮 ハチス 池 イケ 弁 ベン 薬 クスリ の 鈴 スズ
開 アカ 加 ヌカ 桶 ヲケ 久 ヒサ の墨 モリ 護の札 ニンジ 洗米
盃 茶碗 壺 イホウ 宴 ウタゲ 亀の甲 ヘラ 甲 カブト 摩恩
安堵 アンド の松 ヲヲマツ 善哉 ヨロコビ 賞

緊牢地 ヂ 祢 ハ 三男 ヲトコ 祢 ハ
とい〳〵〳〵ずあい 祢 ハ 百官 ハ 冠
〳〵〳〵佛の足をい〳〵〳〵
ちゐ祢い〳〵〳〵ちのわり。

板

丁銀 戸 ト 棚 ダナ 札 フダ 掛 カケ 物 モノ 下 シタ 駄 ゲタ 風炉
硯 紺 ハ 登 ノボ 庵 イホリ 下 シタ 舟 屋 ヤカタ 苑 ソノ 生
高 タカ 天井 ひさし 古 フル 寺 テラ 其 ソノ 裏 ウラ 打 ウチ 物 モノ の 中
そく 飯 櫃 ヒツ 蒲鉾 カマボコ 楊弓 ヤナギ の 的 マト
的 マト そく 鶯 ウグヒス 鈴 佛 ホトケ 棚 タナ 要 カナメ 簀 スノコ 吹 フキ
土砂 縁 エン 腰障子 紙 カミ 漉 スキ 織 オリ 物 モノ 焼 ヤキ 風 カゼ 炎
板 イタ の 和 ワ とい 縄 ナワ 〳〵 ぬり 板 イタ とい 紙 カミ 〳〵 板 井 ゐ 井 筒 ツツ 乃
ぬる 和 ワ 漆 ウルシ 数 カズ 〳〵 そく 板 イタ 下 シタ 中 ナカ 〳〵 う 板
ま 摩 マ 〳〵 ぬる 和 ワ 鋲 コビ 板 イタ ぬり。 祢 ハ 井 ゐ の 板 イタ の ぬり 筒 ツツ とい う 板
る。 祢 ハ 井 ゐ の 板 イタ の ぬり 筒 ツツ とい う 板

乾 イヌイ

祢 ハ 筮 ウラナヒ 八 卦
初歌 ウタ 四 ヨツ 句 ク 九月十月 亥 イ の 筮 ウラナヒ 八 卦
方 カタ 丈 タケ 記 シルス よ 巽 タツミ 〳〵 乾 イヌイ 〳〵 て 乾 イヌイ よ い 〳〵 ろ よ か ま り。 人 の
乾 イヌイ 〳〵 ハ 乾 イヌイ 〳〵 だ ら り な る ぐ の 〳〵 と
も 成 ナル 実 ミ の 方 カタ そ 〳〵

痛（イタミ）

植木花実草 実眼足 腫物 文
吊り服の虫 酒 橋津国（ツノクニ） 拷問（ガウモン）
長途（ド）の服 あい芝の紐（ヒモ）そ
あくい勝（マサ）れおって 何（ナニ）
あり。牛の黄いろびさめすれうち。ふのうえ ふ
いくさ代表のさうさい百姓（ヒヤクシヤウ）のいくさ。主君（シユクン）に属（ゾク）といくさ
三貫（ニカン）相模（サガミ）ハ腰の骨をいくじ

いわる

春乃屑 秋のつま 実の眼
綱（アミ）やみ 魚 業の目 備（ソナ）へ 門の袖を
借（カ）りる 魚のみ洗さうし 集 枝 科（シナ）へゆく
盗人 芝居やう
二人前の枕 起（オキ）別てうつる
ひ話の裏をもってうつる。連歌の
様の廻向（エカウ）。楽天。ゐ智恵ふく
かよみそれ。風（カゼ）の吹ハ畑（ハタケ）よひ。嵐ハ猫（ネコ）をこうり
おろうとや

入

月日 塩 嵐（アラシ）戸口 寺文 双六石
逢（アフ）るの碁 舟 撰（セン）集のこの 御室（オムロ）

鐘読経（キヤウ）ご 蛇の完 蒸茶
相撲のま 舞人数 会伝縁（ケフデン） 綿（ワタ）
公家 彼岸 大宮 時 地
海苔（ノリ）蛋（タマゴ） 南の弁 大
る祖（カミ）函谷（カンコク）の関 る。
ま。ぞ人（ビト）の大廟（ビヤウ）して事
大学のをへ。この利剣（トケン）を
傍の蛋なり

失

月日 石垣 乱（ミダ）撥（バチ） 息（イキ） 湊 舩 箕用 塩
ぞ人 嵐戸口 風呂 御（オン）くの家
町なみ 嵐の完
入てゆうべんの庭。御（オン）おてハ三時の門（モン）よりそふ
と教下（オシヘくだ）さるこそ。御（オン）入とも月（ツキ）かげ〇〇ゑめ
かの山のそもなりとも御（オン）しくり

祝

年始 朔日 五（イツ）つ供（トモ） 年（トシ）満 祢
前途（カドデ） 入祝 ぞの代 移徙（ワタマシ） 懐姙の帯
嫁（ヨメ）とり 賀入 平産 梅（ウメ）上 入舟 家（イエ）もり
畑（ハタケ）や 元服 袴（ハカマ）着 入る

濯をおごってい
つ初。喝食い髪をそ
山神をうやまひ。疱瘡の
い髪とそ(イサメ)いそみなり
諫(ル) 賢臣 神楽 神あそび 酒宴 祝 神
おやのいさめ(ル)うけ給はとも。神のいさひろ
らなくにた神せり。敢(カン)諫の甚い者。帝の御教(ヲシヘ)
さむろハ礼記の詞。大勝(ショウ)
伯夷(ハクイ)、武王(ブワウ)をいさめ(イヤ)ニレ 洗濯 そうふいつ
葉ぞろにや雨(アメ)とそ(ソ)ふるらん 川水 漆(シツ)
のみよう(ヨウ)初(ソメ)ものいまいめてとそ(ソ)もやまの(ノ)ふ(フ)。人乃
齢も三十年計よなるを祝つ(ツ)宮やにてとそ(ソ)ちの
初のおよなりとなろ(ロ)ときみの毛かそり白(シラ)よ(ヨ)ふ(フ)うり
て八十の年(トシ)ともありて沢(タク)山(サン)ほ世(ヨ)よすり(リ)尚
人のかなわ
殿 片(カタ)岡山 蓮(ハス)枸蜻 鮓 葬(ソウ)子 蝿 昼
佛(ホトケ)の前(マエ)八講(コウ)のりて(テ)せ(セ)ぐ(グ)わ(ワ)ざ(ザ)り 猫(ネコ)
ふ(フ)ひる猫(ネコ)ーたる(ル)人(ヒト)の飯(イヒ)をぬ(ヌ)ふ(フ)ひる猫(ネコ)紀
のも(モ)ち(チ)の事(コト)う娘(ムスメ)ハいひ(イヒ)ひ(ヒ)ろ(ロ)ひ(ヒ)ろ(ロ)ひ(ヒ)ろ(ロ)紀
くろ(ロ)とろ(ロ)や。麦飯(ムギイヒ)てハ飯(イヒ)ハ鯉(コイ)をつ(ツ)と。赤飯(セキハン)ハ祝(イハ)ふ(フ)猫(ネコ)
こ(コ)ゆ(ユ)もこ(コ)ういひ(イヒ)ゆ(ユ)ふ(フ)ろ(ロ)ーき(キ)方(カタ)よ(ヨ)ろ(ロ)こ(コ)ぶ(ブ)るとや祝(イハ)
ふ(フ)柿(カキ)と栗(クリ)の祝(イハ)ひ(ヒ)の里(サト)うち猫(ネコ)の精霊(ショウリヤウ)疱瘡(ホウソウ)のゆ
ひ(ヒ)のも入髪(イリガミ)をそ(ソ)ふ(フ)ハなそ(ソ)人(ヒト)のうとい(イ)みなるそ(ソ)もへ(エ)よ
麻(アサ)うそ(ソ)ふ(フ)ろ(ロ)く

みつ

稽(ケイ)古(コ) 初釜(ハツガマ) 墓(ハカ)まいり 初(ハツ)午(ウマ)
辰(タツ)の河(カハ) 戒(カイ)律

ふ(フ)ゆ(ユ)いつ(ツ)もの(ノ)ごとくふ(フ)ゆ(ユ)ふ(フ)ろ(ロ)

五十（イクチ）　菜花の着　賀祝　佛の祝法　玄宗
天命を知　あの杖つく　とみこひ
内則曰　五十にして大夫と杖つく　服をそそ。釈
のみ十年忌ハ法もめでたう　せぬも同前　と
ハ信綱ら　彼の岸の涙の　秋を経ふ　ふくしき
とをひろく　ふるて行歩ふ　ふくしき七条の　后の
のぞく

名所

稲荷（イナリ）　山城　条ハ四月初ノ午ノ日ノ祭　祇園ハ六月
千月心　山　社　滝（タキ）　嶽（ダケ）△杉（スギ）　紀
狐（キツネ）　時名　三の灯（トモシビ）　三の社　瓶治屋（カヂヤ）　火捕
北黄菊（ギクワウセン）　ほうく　人呼塚　毘沙門谷（ビシヤモンダニ）　物種
三如堂（ニヨゼダウ）　藤森（フヂノモリ）　深草（フカクサ）　東寺の門（ヒガシノトウジ）　及土
綾員山（アヤヲカ）　深園子（ミソノ）　東福寺

石倉（イハクラ）　山　小野　都ノ東西南北ニアリ
小石菊祭ハ九月十日ノ白ノ会花落　祢
八塩の器　若ノ代目新茶　ほうく　ふる
小谷山（ヲヤマ）　修学院（シユガクイン）　松ノ陰　秋

泉川（イヅミ）　河　衣ノ里山　みの　大文人　薇浪（フヂナミ）　男山（ヲトコ）
柴漬（シバヅケ）　ほうく　ふる　ふる　八月十日
松ノ葉（マツノハ）　山科（ヤマシナ）　雑子（キビス）　麻布（アサヌノ）
大文不

清水（イハシミヅ）　八幡文　恒吉（ツネヨシ）　愛敬（アイキヤウ）
弥（ヤ）月の光（ヒカリ）　大文人　薇浪（フヂナミ）　男山（ヲトコ）
かのうえ　観生寺（クワンジヤウジ）　八月十日

石面　小野　杜（モリ）△柏（ハク）　山科（ヤマシナ）　雑子（キビス）　麻布（アサヌノ）
居（クラ）　鶏（ニハトリ）　つれすさび　お嵯山（アサカヤマ）　常（ツネ）
芝草（シバクサ）　河面（カハモ）　紀（キ）

欽院（インキンヤ）　わかひ　紀（キ）
鞠（マリ）　いとこ　野（ヌ）　の
仔鯨（コクジラ）　木の（キノ）　九殿（ヒロドノ）　松虫（マツムシ）　萱（カヤ）の影（カゲ）　編（アミ）
石川　河（カハ）　瀬見小河（セミノヲガハ）　上も△君（キミ）の代（ヨ）　花田の（ハナダノ）　節（フシ）
面　催馬楽（サイバラ）　いくしくて

今宮（イマミヤ）　日数八月十五日ニ　とよみてくく

花の和（ハナノワ）　五百首（イホヤソヂ）　山家雲（ヤマガキノ）　みや七ノ社（ヤシロ）

大淀（オホヨド）　若狭（ワカサ）　常盤（トキハ）　ふるごよ　やまくひ　狭川（サガハ）　聖天（シヤウデン）　紫行村（ムラ）

岩陰（イハカケ）　日　糠（ケブリ）　久書　雲くれぬ　霧（キリ）　中納言　松ノ浦（ウラ）

伊勢（イセ）　大和（ヤマト）　通（カヨフ）河内（カハチ）　山　嶽（ダケ）　峯（ミネ）　高雲（タカクモ）

鹿（カスミ）　霧（キリ）　名　深の糸　大江（オホエ）の巻（キヌ）　わきての　附（ツク）

三津の濱（ミツノハマ）　安（ヤス）の里　若井の濱

飛火野（トブヒノ）　嶋（シマ）　鳴尾（ナルオ）の沖（オキ）　文野（カタノ）　柿

和泉（イヅミ）　山の里（サトヤマ）

岩橋（イハハシ）　日　くゝき山　夜の契（チギリ）　久米路（クメヂ）　泉（イヅミ）

住吉（スミヨシ）　名　根（ネ）　布留（フル）の山　女郎花（ヲミナヘシ）

石上（イソノカミ）　日　寺　会（エ）　吉日山　あの里　役（エン）の行者（ギヤウジヤ）　雪

亀岳（カメヲカ）　菅（スガ）の根　布留の山　女郎花

岩淵（イハセ）　日　山　秋（アキ）　浦の柳　菫

蟬（セミ）　鹿（シカ）　附（ツク）　奈良帥（ナラノソチ）　三笠山　三室（ミムロ）　名　ふるき宮

泉川（イヅミガハ）　渕（フチ）へのよ　萩（ハギ）　児（コ）も柏（カシハ）　駒（コマ）

剱（ツルギ）　倭（ヤマト）　心遍（コヽロヽ）　路（ヂ）　萩（ハギ）　露（ツユ）　衣（コロモ）　ふるさと

磐余野（イハレノ）　日　池　萩（ハギ）　女郎花（ヲミナヘシ）　篠薄（シヽスヽキ）　事（コト）　書（カキ）　ま

斑鳩（イカルガ）　河内（カハチ）　富（トミ）の小川　わが大君　亀井の水

ま（マ）もと（ヨ）也　名　聖徳太子

生田（イクタ）　摂津（セツツ）　浦　池　杜（モリ）　川里　海　山　小野

△渓川（タニガハ）　駒（コマ）　越（コエ）　昆陽野（クヤノ）　楠（クスキ）　塚（ツカ）　附（ツク）

簾（スダレ）の梅（ウメ）　乙女塚（ヲトメヅカ）　男塚（ヲトコヅカ）　梶（カヂ）葉（ハ）　二首（ニシユ）のけ

年家（トシヘ）の城（シロ）　一の谷（タニ）　布引の滝（タキ）　鹿（シカ）

秋（アキ）もなき　名　石浦（イシウラ）　真葛（マクズ）　繁（シゲ）　沢（サハ）

あるとも（ヨ）　秋（アキ）　衣（コロモ）　わが盛（モリ）　名（ナ）　菜

岩代の杜　同

こゝにも

五十鈴川　伊勢

イスゝカハ　神風　その玉ぐし　みその文

神路山　花の薫　清さやけし

度會

池田　遠江　宿

清流の國に同名あり　炭

ゆや　少将　もる者　家盛の東下り

天龍川

石山　近江　寺

秋の月　観音山　梢　湖　勢田

作り庭　日うらゝ　紫式部　源氏の添ひ

源氏供養　安居院の法下　岩ねる

順礼　蛍　擣

伊吹　同

山嶽　岑　杜里　外山の雪

大蛇　猟夫　獨活　山葵　大根

的なづし　麻衣人　関の萩川

さゝもさ

出野　伊勢　奥

尾花　ちくの枕　庵　時雨　旅衣袋

春の小山田　六月の余り　立名

紀伊野杜尾上　岳濱　峯神　松風

岩代　同

旅寝の松　蚊屋　布の足　幕

野中の清水　むすび松　小松　ふる雪

らけぬ恨　夏草　松出

岩田川　同　六月雨　三熊野　久すこ

松ゝ　七ての白浪

同川

妹背山　同

おとくら　初秋雨　人倉　衣

袂の風　みちく　ちぐりつゝ

中川のみ　名のみ澄へうき　閏

生松原　伊勢

イキノヘツハラ　筑前

祈り　今　忘れ

君ゝまつ　袂の風

岩代

いるこ野　播广位吉の里の松笠　日笠の浦

尾花　女郎花　るこ入　麻

巌湾　安藝　浪のめれ衣　麻　平家　灯篭

はま　わらの浦　夏の巣　腰細　わら　夷　青海苔　山城の濱　舌嵜　市　藪湾　弁才天　みくり井

入間　武蔵　川　みくり　里　田面の戸　狐

風呂　萩原氏　夜のみざ　がんとりふの枕子

一ノ谷　摂津　内裏　鹿　平家の城　生田の森　てつかいの家　熊谷平山ら先陣

合戦　次ノ一の上矢

和泉　畿内　吉兄の里　横笛の堤　酢　ゐ師　濱　吹飯浦　信太杜

○泉ノ所ニ同ー

伊賀　東海道　土焼物　目茶　家里　真嶋　栗

紅花　笠置山　誰其森　柏野　良文の森

伊勢　同

木綿　白粉　蛎蛤蛸　若和布　青苔　白魚　鹿尾藻　荒和布

編笠　鯢　海老　山田扇　貝扱子　踊

踊哥人三節義盛　仁木義長　大神宮

山秘　天目　拐鉢　狩の使　女の墨　ゐろ

武者　楚　暦　椿　鯉　濱荻　苅

鈴廟　五十鈴川　清さゐざさ　わの山

明星ら茶屋　山田の原　二見の浦　濱鯵

一志の浦　並木　生の浦なー

月讀　秋ら山　文川　出嘗濯川

伊豆　同　縮砂　修善寺紙　八丈紬　頼朝配流

大嶋　蛭小嶋　栖川酒　三嶋暦　赤鮑

箱根路　文学ら配流

呂

櫓 ロウ　簾垂れ　鐘のもの　漕ぐ　浪　山々の景　南の風　雲なども

門寺　額　月見　花見

秋風辞　泛楼船兮汾河之中　漢帝の詞。酒幔高楼二百家　楼船を作る。往唐朝　鼓楼　黄別行の船さし下ろす　行楼　とも付けて行くなり　行楼　てやけさう

艫 ロウ　大艫　氣遠の　易作　説法　風

観音経　公治長　興　文覚

白河法皇のおぼしめしまゐらせ　竜の住所　竜よ入るる　北面　耶蘇宗門　禁獄　祇王が父

右　井杜　鯛　奥小路

因幡 イナハ　山陰道　海索麺　蠣　蕨　木　細川梅

木地出の木地　引田鼻紙　茶所　男女の松　杜の田　高丁麻　みのかさ　入道の姫栗　同白蜜　防風　檜柱　銀　錫　鉱　金山　淀田のわさび　みる塩

石見 イヨ　南海道　一ノ津　基名　人丸　日ノ上山　こるる山

伊豫 イヨ　南海道　一ノ津米　索麺　松平紙　嶋後酒　帯　温湯　宇和嶋駅　簾　豆府　関豆　松山　風早の浦　名越山

伊キ イキ　西海道　綾布　宇佐　鯔　判官知康

出雲 イツモ　山陰道　大社　神有月　神子　八雲垣　大蛇　ろろ　関　その江の系　神門の浦

壱岐 イキ　海松布の浦　川狭　茶

壱波 イヨ　山陰道十六嶋苔　松江の鯔　隼

炉（ロ） 老人 香 衣比 喉の腫物 病人
厂業の陽 料理（レウリ） 舟 墓所（ダイトコロ）
源氏物語 すゝ火炉 そ。金炉香炷（ソヘテロ）漏声殘 の都より 多炉（アタ） こゝら 盃酒 なん
のつゝなん

跪（ロギ） 笠げさ 雪踏（セキダ） 椎木 栗石（クリイシ） 湯風呂 隴堺（トリデ）
容（キヤウ） 白牛
古路比 細谷比 門路比 道路比 ともに
路あるをまつ や。町屋（トヤ） 大名 陸堺（クガ）の差。
のつゝ 路比なり

路次（ロシ） 雪霜 馬牛（ウシ） 車 乗出 風 船
破草寝（ヤレサヽリ） 捨（ステ）つゝ
浦八 松 山（カケ） 海 て
人 て 須磨（スマ）

六道 三界 地獄 餓鬼 畜生 修羅 人間 天上
小地（ヂ）獄 堂（ダウ）
桂離宮（カツラリキウ） 建仁寺
凡 六 のつゝ に 宮（ミヤ）
て 宮（ミヤ）の 守（モリ） ね 六（ロク）
辻 三界六道（サンガイロクダウ）
つゝ

六親 父（チヽ） 母（ハヽ） 兄（アニ） 弟（オトヽ） 妻（ツマ） 子（コ）
霊祭（タママツリ） 廻向（エカウ） 石塔 卒都婆（ソトバ）
奉加帳 文選（モンゼン）の註 施餓鬼（セガキ） 女院
老子経 云六親不和有孝慈 云六親 父子兄弟夫婦 を 云 二人の父母の二
教 を 云 と そ

六齋（サイ） 念佛（ネンブツ） 太鼓 葬礼（サウレイ）の場
在（ザイ）つゝ ほつ（ホツ）ゝ寺 市（イチ）
名合（メアヒ）表 る（ム）の年 忌
地獄系
優婆塞（ウバソク） 優婆夷（ウバイ）のいむこと うけて 月（ツキ）

に六度をこのみなるを今ハみひまあるとや法のあるとや
わふるものを六詠と云ふ
ふ吊うも葬礼うも大数達を出て六詠
念仏と云ふもほとけのこころや

六時

念佛 勤行 鐘 礼讃 書院

庐山の慧遠法師の蓮社うちなひて
六時勤行とうかがふ。雑記に人ハ二季のあるを
ふ人ハ二季のあるを

六角

仏ごと 亀の甲 花瓶 聖法大子
勝鬘院ハ山伏のつくりなり 鷲丸 東漸院
亟ぞう。 海若 祇園会の風

六尺

屏風下帯四季の雪 擬宝珠
棒 酒桶 大男 矢竹 鐘の紘
曽子曰可以託六尺之孤のあをかくものを
六尺とふるつゝ家うち寺うち醫者の娌入等に
云ふて大名ふ出ごのものとこそ

轆轤

傘 釣瓶 頸 角細工 湯屋 木地
大石引 毎の帆柱うつ
越女携瓶下金索暁天初放轆轤壱ト作
当うつ。針金ものゝ用も轆轤へすへるものて
ものするもろくうつとふのつきうち

論議

論 章 尺八法事 工事場
所化 御齊會
使ひまふ樂府の如論義の番よめされて
七徳の舞を二の云れうとうち。仏たう堂
密家ものつくうつとそ

緑青

胡 叢 奈良 多田 狗張 猿
白銀

高楽風をむさぼりて緑青のごくなるをいふ
もてうの神前仏前のの鰐口塔の九輪宝鐸
やうのものゝ緑青を用ゐるをいふ
ばくちのよくふけあるをいふ

病人

病人　牀の虫　蚤蝨

羽目絵　病人の命あてなるをいふ
人そこもうつるなどと詠ず。病人極て寒がる故
つとこもうつふ。我もまもるよをぬぐとこもり
もあり

名所

六條

息布　この出汁にて煮る　漆扣　乙場
煎餅　灯籠細工　佛具　梅の煮汁
小座敷　干豆腐　祠の院　四町つゞき
稲荷祭　傾城町

六波羅

観音　地蔵順礼　空也　清盛　清水
鳥辺山やけ野　蚕行　入宋沙門

花

當蝶　花すゝき　酩酊　撰ぶ　かたくりの粉
麻麹　紙　團子　黄豆　鰹節　九重の内　勅諚
漆塗　盃　車輪遣　かつぎ　高盃　波
紙の芝居　灯籠　造
説法の舎座　焼香　一夏　芭蕉　機嗣
連句　七夕　神前の湯　来迎　法事
千生　墓参　墓のね　打童　双炭
猪　萵苣　毛氈　十夜　釈迦堂
海棠を花とよび。牡丹を花とよぶ。西のなり
そーとうや。平ね姫と云。花をうるて数ど。長

安王士安春時園花戴揷以奇花多者爲勝
皆用千金市名花月の桂のむやさゝんとも
もぞ花竹秀而野ともぢうの十三旬めい菊の
常産たゝつ。西行の庵室よい菊のおんとをゝ
それ出さう。大系野の花おんとをゝ人
前ーさんくよ切合うれい社壇よう神体
あるそれおゆひ一枝ゆるし治あと曼陀と
云飯よあるつう。櫻町中納言い花をおこて
太山府君の祭りとりおこなわれそうな。
うの紀紀紀ふうまそてもむさーをそゝな
ゝとは源氏の葛つがよ心とうをゝもー吋
ぞ。感時花濺涙惜別鳥驚心よい杜子美う。
比丘尼ハ花の帽子をさ。飢ふ人ハ目皇の紀の
ちぬとゝや

椙

佐保山 石田 小野 岩根 寺

秋風 庵 岩垣の暗 月

山城國泉川のわゝまよ杉の表を。松乃
紀ふいうもゝ紀るまよ杉ともせてもむとそ。紀
本なもゝ杉小うとそ飯とうさ炭う焼
紀ゝ苦紙よせてゝ物そ。遠たもの堂高い唐土
ふまそて古ゝの女ゝよゝそゝ杉ともそ。

帷木

その糸 伏屋の蚊帳

源氏の巻
木賊刈の菊う伏屋をそゝてゝあふそうゝや
中川の宿ゝそゝまもめゝ消うゝあゝ
うみゝハ春し

林

片山 もの林ぐう 緑のも 紙の入滅

祇園 酒旗 酒とあゝしる 雑 鹿

花の林竹の林。星の林。等の林
いつまも文さ紙ゝやゝゝ。但雪の林ハ雪
林院よりハわう。又六角堂紙雪林もよふ。
自古雲林遠市朝ともも

萩

ハギ

萩落 鹿の声 鳴鹿 鹿見草

赤田面 霧 古枝 鹿の色 垣 露 鹿毛

春野 伊吉原 遠里小野 附もかね足

也門 薬碗 大名の粗云 久米の仙人
団条 むづき餅
萩咲ハみ紅ゆるやうにもミぢ
ちりぬの紅しるきもの秋風よ萩さく
もやあめのそり
いもばう赤メをやめ
ハ禁中つきそ。萩糸花ともの花園花を
ア

芭蕉 秋風

古寺の庭 文社 宮の井 猪
女布 懐素 秋 独寝 猪者
欲題名字和相訪又恐芭蕉不耐秋又
耳なくして雷
色なるはのをしへふいかりまれかうどん
げの花もちえてうとわる神ハほうどんげ
ともいやしそれ柿
久方の蓮 沈み 華厳の蒙 蜘
うきも 漏風 蚤 人 猪

蓮

弘壇 蛙 灵祭 仙人 眼 周茂叔 窗下
周茂叔ハ愛蓮の説を作りて。ま文ま蓮を君
子よめてり。中れ姫ハ曼多羅をり説
ア。玄宗ハ華の蓮をとれても貴妃ハ
いくそさんとの
て車の輪のこと。南方もの種ハ蓮の名の咲
ともものちいりうこん八のごくの池ふく
の蓮さま沢光ふ。ひまこの池いれる
蓮なりふひあ名ごと

蓮の葉

こん飯 鯖 わさび 聖灵 笠 味噌 蛙 石亀
万葉ま蓮のまかくこそもをまち
うへなる物いもものちふわ。三死ま荷
葉の一名。九葉ま荷葉の葱湯を用る
ものとぞ

鳩

山里 猿の声木 入日さし 古畑 松

毎年山村芝居未ほさゝ杖
古文豆腐秤 酒 行林 堂塔
川除 八幡
舜耕歴山見鴈子毎飛鳴相哺益以感思
乃作歌楊聖俞詩ゟ楚人因此ニ上ス張晴陰
逐晴陴テ無定声と作つゝ鴈い毎ゟれは
りんそ絃をひくれいふめなれかるゝ彩
朝杤木ゟ陽ゟ出ゟてやう紀令のびゝゝ
る氏のほくゝゝゝ上洛の時船の屋形の上ゟ
山鴈のうめて哀と織ハ陸奥名の羽ゟてや絲
ほふくハ日向なゝ殺羽ゟゝそゝそ
こゝまゝも羽そゝゝゝゝ

初春

源氏の巻 名香 萬の調 小松ゝ
彩花 なまめ振宿 市乃相撲

鶏 雉子 鴨 鶴 縄 蝶 蛙 蜻蛉 蠅 幕 紗
めづゝゝれいみ紙と添せてれゝ友初春の
俤ゟとゟ俤ゟゝゝゝひゟの初春ゟゝゝ
ゝゝ源氏ゟゝゝ

蠅

塵塚 宮腰 大師講 伊勢参
犬 奥狗 天狗 遣棚 鏑矢
糞 目わゝゝ 昼寝 飯粒 乃中
ゝんゝわゝ 笹の葛 蜘蛛 好人
欧陽公ゟゝゝ文挙ゟれゟゟもいゝん
之魂 佞人之魄と張復之も詠しゝゝ白さ
初ゟゝゝさ糞とゝゝさ初ゟゝゝ白さ糞と云
くゟ改よ蠅と読入よゝゝゝ毛詩よもゟ
ゝゝ糞ゝゝ屋よ分てゟ里をゝゝゝも
どゟ大師講の粥とゝゝゝゝゝゝ蠅すゝゝ

蜂

花園 蜂の巣 蜜 鹿の角蜂
ねゝゝ 雀蜂 雲雀 雄子
源氏よゝゝゝくゝゝゝゝ涅槃

の龜よ亀よ〳〵さう肉よ蝮蠆〳〵云ハ蜂のう
とぞ。紛々蜉蝣莫レ教知と梅の詩ある

蛤蜊 ハマグリ 同茅 碁石 雀 エ 絵の具 維 キレ
伯吉の浦 来名の海 三月汐干
二月

景行天皇巡狩東国 供献大蛤于時天皇喜
其奇美賜姓膳臣也。蛤ハ一腹より一つの身とも
となり。蛤貝とりて海幾くほうさんとふるか
さるゝ〳〵隋煬帝蛤を好きゝ蛤の肉よ
一仏二菩薩のごとくやゝひらびとゝや

鉢和 ハチタキ 暁の月 彼岸 葬礼の場 茶筅 サウレイ センヽ
三昧 わゝ 甲斐治 畑枝 山 カヒヽカギ

王祭
弥月十三日より両隣して四十八夜の勤行大
勝日より廻向をもつとゝ。昼不空夕夜不茵東
西南北自由身。飄蓬拍羅有何益花発十
方浄土春と一休和尚も讃美せられしもの。
空也上人そゝくの徳をほめたゝえて

博士 ハカセ 醫師 太刀わ〳〵ぐわ〳〵 法陽
暗き星 詩賦 禁中 壱州 祖
暦

漢王の劔吉兵伐そうとて儒士とゝめる。
幕末よな〳〵のごとくなん仰〳〵とも
口わるくなんぐうくすゝくとも

伯樂 ハクラク 宝町 織多 伯吉ノ郡 蔵園ノ山
長恨ノ 唐帝

伯樂ハ天の星のごとく古文注ゆいおくり。夫遇
伯樂則千載無一驥ともいう。足下有意ニ
為臣伯樂ともあり

祝子 ハフリコ むこ〳〵葵 汚まりを 桑の袖 ミコ
梓弦 訟 訪 桑

と羽ごろもハ木芙蓉のさう
ゆうれるわゝともか。又はそのごとく
袍をゝしゝともあり

肌

竿ぐるひ　小袖　綿子　具足
護磚　釜　刀の鍛　湯わき　臼
紙　墜扣　武文　河勝
茶入　鞍馬　掃除　楽者　陰居　髭所
荒ら宿　五條の内裏　大寒の夜　蝙も
孤狸　傾城　下戸　墓参　要
秋の夕　松虫　錦木　呉服の里
天照神　弓の本　忘の内　二星
耕作の　西陣　彩五家
楽羊子の妻　断て　学問をつさめる。
藕糸　内妻機をおとすと
うやつ　河内の国まで
小袖　綿子　具足
紙のうらうち　すまふ
乳香子　鞍馬の　擬
謀る人の徒黨　ふるまひ
よ入も肌ぐるひ　接木　肌合す
せん人肌をぬぐ。　悪口の　厭ぐち
白子菩薩　餓鬼　風呂
生子　人形　土のやわらかなるうち　金

肌とあいの風

紙　墜扣　武文　河勝
旅人の肌と金張を　小袖　綿子　具足
美金の肌とは　刀の鍛　湯わき　臼
当用もぐるぺ。　そぐはたをまで　同まぐろ
ハ勇士のみまひぞ

裸

行人　すまふ
刀の刃　虫火事よあみ　川ごし
白子菩薩　餓鬼　たゝりめ　炎天
生子　人形　土のやわらかなるうち　金

盜人ゟ
諸賣ひ〻ものゝ名を捨られ〻ゑん紀の
みな裸ゟなりて蚊ゟ吳ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ吳ゟ〻ゟ吳ゟ

腹

指 病人 疲病 針 侍 懐妊
魚 布袋 鰹ぶし 山
腹の便々ゟ〻ゟ〻ゟ五経の教ゟ〻ゟ〻ゟ七タ〻ゟ書と
ゟ〻ゟ〻ゟ腹と見せ〻ゟ〻ゟ。仏も腹をゟ〻ゟ。
大ゟも蚤の腹ゟ〻ゟ〻ゟ

腹巴

山の枝 卅亀の甲 鍼 碁 象戯
異見 約束ちがふ 事ゟ人弱 二妻和
和田義
逆鱗ゟ〻ゟ〻ゟ帝の腹巴ゟ〻ゟ〻ゟ。相
撲ゟまけて腹巴ゟ〻ゟ。ゟんきゟ〻ゟ人ゟ〻ゟそ
むく如ゟ不孝の子皆腹巴のゟ〻ゟ

腹巻

軍陣 いそ〻ゟ早業 山の麓
指の疵 鯨汁 鮭塩引 積聚持

諸職ゟ〻ゟ〻ゟ姉沢隊の腹巻ゟ〻ゟ〻ゟ
ゟ〻ゟ茄子の腹巻ゟ〻ゟ〻ゟ山王祭
祇園ゟ中ゟゟ師ゟ〻ゟ腹ゟ〻ゟて祈ゟ〻

腹帯

地券 馬 懐妊 ゟや事 唐人
乙巳第 山深の雪 雲魂の屑
産後の一七三七枚のほうそも苦ゟと大す
ゟ〻ゟ〻ゟ〻

父母と云もわり。

くゝむ　稲落　鯉　鯽　連ぎの句

石垣　月よむ　くゝび　国幸

茅花

灸餅　猫牛　鹿葦津姫　皇孫と一夜の契ありて三子を生り。内大后ゑ夜ハ心利のやうにて一夜の契ありて居給ひしとぞ

鼻

岩象　天狗　鼻尺八　葉

猪　香　縁先　會釈　馬　女

女

文安れくむ　夫と　女の初恋　牛

眼鏡　堅　咳氣　仏経ゟ女

鼻ハ面の山なりとぞ　ひくいのなど鼻よ

なりてと云まくまよわり。こゝのゝくゝ

おごめ給ふくゝなひと幕末の詞なり。

膏薬　綿の粗ゑい鼻とくゝかさ

つ。秋声　酸我鼻ニともわり立刑の一ゑ鼻切

る。鼻ゟり相撲乃粗言ハみるもおくし　癪

毒乃わるくひいゝとぬ　きゝめぐ

歯

金鋸　楊枝　太刀　鎌　馬の歯

木履　茶研　舎利　灰ゑ色

疱丁　魚ノ骨

長孫夫人ハ歯なくして乳を呑しめて孝

を尽せり。背の杜后ハひくくなりものみまで

歯なくゝゝゝゝねよ一夜ふとゑくとて歯

もちて舌をとゞめをくもの。謝鯤ハ二ゑ

姫ゑたゝれて歯をおゝはれくる。東海黒歯国ゟ

目なのるゝや　歯黒付ル国をゟ

針

蜂　蝮　馬

腫物　病人　松衣　畳　刑　柚

唐紅　おごゝろ　釈穀　魚住ゟ　墓

五加　言葉　茄子　漆　成敗着　紺衣裳

帥近　羅漢　玉の井　荷作　姉ゑ路

沈の川　大象　七宝　生姜　葬　人心

古へは灸針ありて病を治しくゝゝ。帥ハ

針のごくゝゝゝゝ。磁石

庖丁（ハウチヤウ）　たごこ　華細工（カザイク）　馬の爪（ツメ）　祝（イハヒ）

十九年牛を屠（ホフ）りて刀を庖丁（カタナ）と云（いう）てより。園別（ソノワカ）ち尚入（なほいり）こうな紀庖丁者（ホウチヤウとせるまでくまでよりわり。弓鞠庖丁（キウマリホウチヤウ）碁双六（ごすごろく）もの。碁（ご）を碁石（ごいし）を乃（すなわち）ものひとつや

鋏（ハサミ）　髪（かみ）　作（つくる）事（こと）　木器（コキ）　文（もん）　蟹（かに）　虫（むし）

絹（きぬ）のもの　縫（ぬひ）　屋（や）　地獄（ぢごく）の責（せめ）　外科（げくわ）

針（はり）　箸（はし）　看（かん）　打扱（うちこき）

足（あし）　耳（みみ）　掻（かき）

きんちやくを神（かみ）らの盗人（ぬすびと）いる狭（せま）ところ。不狭（せまからず）長（ながく）不狭（せまからず）貴（たふと）といふをおとす教（をしへ）る乃（すなわち）髪（かみ）は狭（せま）ところへ指（ゆびさし）の梅（うめ）いが行（ゆく）のようなどで

秤（ハカリ）　綿（わた）　鯨（くじら）　地獄（ぢごく）　糸（いと）

年貢（ねんぐ）　支稽（しけい）　市人（いちびと）　大象（ぞう）

割半（わりなか）折衝（せつしやう）而民（しかうして）不争（あらそはず）とは荘子（さうし）の心（こころ）。民（たみ）の

よ稲（いね）おきめ子（こ）ろいおろ（ころ）てろ（ころ）ん。祇（ぎ）もろ（ころ）かみ（ころ）

の秤（はかり）のおりさう（ころ）ゆ。病人（びやうにん）に食（しよく）を秤（はかり）そ

うりて出（いだ）をするし。大象（ぞう）のおりさい毎（ごと）よ

のせてろ（ころ）わろ（ころ）。たろ（ころ）の石居（ずえ）をおゆ（ころ）ろ（ころ）

となげーろ（ころ）をの秤（はかり）ろ（ころ）

手水（てうづ）　後（のち）　形（かた）

鉢（はち）

膳（ぜん）　石高（こくだか）　阿羅漢（あらかん）

葬礼（そうれい）　施餓鬼（せがき）　漆（うるし）　賓頭盧（びんづる）

食（しよく）　看（かん）　頭（かしら）　摺餌（すりえ）　律儀（りつぎ）　法（ほう）の場（ば）　甲（かう）

鯨（くじら）　呑（のむ）　洗鉢（せんぱち）　水屋（みづや）　觸（ふれ）　点燈（てんとう）　船（ふね）　行（ゆく）　元（もと）の姫（ひめ）が

神（かみ）ぶひーい仏（ほとけ）のおろひーい神（かみ）ろ（ころ）

ろ（ころ）ろ（ころ）をおせろ（ころ）羅漢（らかん）ろ（ころ）

おそ（ころ）衣（ころも）神（かみ）をさぶけ（ころ）らまろ（ころ）

箸 鬱苗 舛 胯 香炉 炭 施餓鬼の食
稲こく 鍛冶 露
元食い箸 折りて初穂ひろう。白骨を納る
ハ行と木の箸とやや艱るまでして白
箸をひろへい初穂ひろうとや。麻ごうを箸よ
そい香奠をまいるし。四月の雑煮いろ
いろと箸をとりら

箒 星 佛壇 遠棚 天水桶 産婆
火用心 竈の前 宮詣 屋神ふさ
ほうき 白砂 未熟 琴 祇園
大宗良 高砂の松 炭 炉 寒山
盤特 花 清まり たごこ会
初みのそふの玉箒 奉帚平
明金殿開 也 掛物 面 鼓 一順
ひれのほうりをいろいろ
箱 柳文 視 料紙 浅金経
級の棟 鯖

屏風 刀 菓 白粉 鳶帽子 多 階子
劍 荷荷の使 琵琶 琴 也移麻 樋
番近 古今の俤 吏 浦嶋 蟹 香炉
蓑 蕪の指富

雲州の大社へ金の約よ小弥と入て毎年
さゝけやと祝よりり。戒定恵の三学の約
と納しゆへ約束よい云。蟹よ多きと云。
よそこをるを

袴 稗 土筆 鳶 鳶 鞠 略
女 産 ひいる 子 宮
狂云 訴訟 俚云 町 根葉 給仕人
小野の宮 使者 的場
八丁堀 放下師 舞入 行堂 礼者
葬礼 祭 お通場 料理人
三門よな袴よ 出袴 袴のこと
源氏之袴のそこ 引 引
ほうといふ。袴たそ

脛巾（ハバキ） 刀わきざし 小高旅癆（カサ）

栗田口の狩人 狩人（カリウド）

そぐひり二三すくりろびてくれ時家ゐます

ぞ。あいざうこてもそのそぐれ紙をさそう

ゐのとうや

羽刀（ハガタナ） 陣立 具足 医者 歩行（カチ）

武者 番所（バンドコロ） 船 普請（フシン）をする上

弓鉄炮（テッポウ）の着場数（カズ）

廿ヵ。そか警固辻固中みも南世夏

そそうちいひくうてさ

旗（ハタ） 雲霧礼 軍法事 施餓鬼（セガキ）

俗名 酒盃 朝鮮人 布 狩場

普請場（フシンバ） 狩（カリ）宮人 落（スキ）る 棲 錦塚（ニキツカ）

千戸万戸 旭の峯 宇治川 案の内

熊野詣

旌旗日暖竜蛇動と杜工部が詩よ誦ら。

白衣（シラエ） 婦人 葬礼（サウ） 文人

上臈（ラウ） 月代（サカヤキ）

生子（ウブコ） 灰吹（ハイフキ）

後漢の鄭均（テイキン）といふ白衣尚書（シラギヌノナホノツカサ）とのみ。ろうさ

初仕（ハジメツカ）へさうに白衣（シラギヌ）を用て炭俵（スミダハラ）ぐと

なり

酔酒（スイシュ） そひもの 還俗（ゲンゾク）

秋鬢（シュウビン） いとよ之の家 の袖 民のさへ

いとよなさ祝りこのひよ紙ちさろ

ないむもびこあけやぱ。ば逃ーよこむさ

さの々ーもせびいこそぱ。そのちの繋よも

ようち名服のそそ

白髪（シラガ） 雪の柳（サよモリ） 人丸（ヒトマロ） 柳の糸（ヤナギ）

ささ之宮人 額（ガクノウカ）の人 天邪

花のそのいま 世名公道 顔回（ガンクワイ）

高山よかくれー四人八皆白髪となり老ひ
白首まで生れのやくそく髭拳手三十又喪
髪頭髪致白ふ年つれバわれバわろうろうも白川の
清宮と白髪天皇ふ
そろ白髪 ふの舎 美の湯当
初雪
笑和のおの死 冨士の 布留祓枚
鷲野
後先もよう初雪のあしさ枝を扉ようけて
中門よりふるまひて美みきうのやをてさ
ひて雪よ添とつまびとるさ初雪白しとうの
屋の松ともあり。横山十郎うなりひ人八孫
舎兎う舌よるしー初雪しー投女なり
濱
ふる松 萩 菊田露 吉砂
貝拾ふ 海士 苔やの石 綱引
海松川ほそ舟こぎ漕しき浜
浦まの月 塩屋の煙 伊勢海 難波
恒うの海 鯛 基 柳 汐風
橋
寺の門 村の平道 恵寄 家の戸
川ぞの里 雪の暮 原しき水
ふまぐの海 宇治川 虹 鵲 極楽
泉水 千人切うつしし紙の林 文軍
屋形 文 文殊の浄土 幸祝婆
酒の酸 城塚 数冬 位わび向 弁当
張良 東岸居士 佐野の渡し 鞭田
名橋 民をめぐむ
枚舎の橋よりかかるものせるとともり。さしふ
のくりてよろもり岩ふ天のうき
そめくん。女神男神ふ危就橋女とふ渓
くのしとうや。無ふ
張橋ういさめなり。秦ノ始皇海中ふ石ぜ橋

を造海神を祭うことあり。又花と云ふ時と云ふ時と薬塩
茅のあるもの。猿園の柔れしの四條ようり
楊梅ん。楠ノ茅城よりけうとーとー家ー
叩くも焼きてくるくさくさわくわ。蘇の太子冊ブ
くあよ亀わりまもそ楠くなり。伝濃の話
ワ行の池い氷で楊ようわくとぞ

階子（ハシゴ）

放下師 火ようあ夷 る薬ル
駒 酒桶 井戸端 角のみさ
桟敷 秀
蝸牛 ろい駒よ蓬蒿（ヨモギ）蒲ふくとそのほり。
蛞蝓（ナメクジ）の楊の楊をとる用ふこれあし。大私の座
へ階子のそて安人ん。茅我の本作ある階子
なくてはなりあるう。曽我（ソガ）の雪楊（ハシゴ）しらも
うやうろおうや

桓

象鼻（ゾウビ）楊 糸の帆（ホ）塔 毛幷
蛤雉（コウジ）子（ナブ）番 経（ヘ）掛物 暦（コヨミ）
読谷 掲灯籠（アンドウロ） 囲炉裏（イロリ） 床（トコ） 杉（スギ）汗（アセ）
雨の赤小豆（アヅキ）の粥（カユ） 掛行灯（アンドウ） 蜆（シジミ）
門土塀 相撲の場 蜂（ハチ）蜂（ハチ）蚊（カ）
蜻蛉（トンボ） 大仏（ダイブツ） いもり

毒の桓（ヘビ）よう亜（ア）紙（ガミ）
わり亜（ア）なうずや。蜻蛉の釈迦堂（シャカドウ）
を桓（ヘビ）松（マツ）ようやのかばら
めう人やわうかよ（ヨ）ひ（ヒ）ようそのう。夏侯玄賞倚（イ）荘（ショウ）讀
書時暴雨霹靂（ヘキレキ）破所（トコロ）倚荘（イショウ）と支文（シブン）数（カズ）
よあうち

畑（ハタケ）

山賊（サンゾク） 胡（コ）麻（ゴマ） 麻（アサ） 蕎（ソバ）
菴（イホリ）の煙（ケムリ） 岩根（イワネ） 麦（ムギ） わらび
土佐

豆兎 落（オチ）栗（グリ） 土佐
芸薯よ立まうと海い綾うやく畑のう
つとうやうちうくに片山畑くもつけち。
やよよいこう畑わり。畑えぐわり。あ山や片
楠わ畑わり

畠（ハタケ）

花菊 胄（カブト）戸 影のうこぐ
芋 茄子（ナスビ） 凧 蝶 うくうち

下屋敷 某侯 藍
請学寮(ガクリョウ)圃 曰吾不如老圃(ロホ)とそ。陰陽呼有家り兼好をいふ。
のるとそ。陰陽呼有家り兼好をいふ。
もことわそ。ニつ四よ仰るあめともよめり

旅籠屋(ハタゴヤ)

傾城(ケイセイ) 灵山 園山 嘯哦(ウソブク)
札のはし 雛(ヒナ)
家もひろ家の松よ家ゐ 壇風 三蔓 彩酒
暁の鐘のまとひくくるうまとうわと
のくるとへいまるてなろう
いの里めう三うんとおもふ。まとめ乳こ
とにわられなるいる野ひりとよ宿ろかか
とうこ

早松

嵐の木の葉 壇風 三蔓 彩酒
風雲の月 一の谷の落足 山川

作ふ娘り松浦潟
生魚の荷い附刻うつまばめうとく
ゆぐんとせぬるとそ。ぬうくいはくく
うりのがるとう乳れ七落うとく落られ一附
もうや私とそ。人の私のようのみよ私の

馬場

柳樽 古文 城 綿帽子
夢業 寺まり 笑者 野
甲冑とそしてまいハ油粉(アブラコ)のの世
てまいハ油粉(アブラコ)のの世 絵(エ)そ云
灵のる場ろ。城下面多(ヅラ)ぐうに必ろぐう

鹿

兵法 懲勉 そよう
酒の酔 四(シ)
まの岡そのみるまひまとそぐうな面おくこ。
人をぐうふするぐうつくとも云。春の趙(チョウ)う
ろるとこ仰うぐうつくとも云。春の趙(チョウ)う
で人をまうくぐうすると云明とも化(バケ)

放下(ハウカ)

親の献討(ケンタウ) 禅法(センホウ) 犬猿 狩事
猴闘(サルヒキ)えの鉢
夏長竿鋼々多く仰うとも放下し四条河原
い事乃るん。云日本山王(サンワウ)まよ法師ぐうれう
わるも放下かるへ一

灰(ハイ)

紺屋(コンヤ) 酒 葬礼(サウレイ) 猫ノ毛(ケ) 石(イシ)
墨(スミ) 素湯 田螺(タニシ) 衣洗(キヌアラヒ) 槌(ツチ) 田螺(タニシ)煮

洪水やむ　白骨　左義長　冨士　落城の絵
宇治　多波利　護摩　祇洹
畑成中より蜷生ずる　淮南子　五穀
水戻りくるまあり　ひねもす　白銀の如きを戻りづき
と云　白鑞ハ名戻りそめりくや

箔

扇骨　奈良　玉ゆらく
盛物　生著
仏像の杉うるに箔をそそぐ
者となりもの多し　大敵　箔入蓋も
ち箔と切てうつくの織物とするに箔入蓋も
初のかれ魚うるも皆箔張ゆえ
雛　沈香　たそこ　婦入　四季

張子

姫治茶
常ゝも幼女のもてあそぶ
めいりのわらべうたげ
連とたがのくげうやう

棒

喧嘩　火事　一向　薩摩
雑文子路　麹町　荷持　狩宗　杉
縛者　熱坂　酒典童子　春文　寺
傘袴　梅ゆり　尺生の狂言　梅を和てあり
きうの狂言も梅を和てあり
るる。根本のもの　腕おり
とくや　梅ゆり　典のごとく
馬追　傾城

惚奏人

転ずる　神事
市ノ場　金山
右衛門　ゆきされさう三郎にわらるゝ
くやうそうてんのおつうとうの。
奥村八奥八よもしうちのとうの。
治る連ゐてうち酒の酔うち
楊　菓子袋　絵　菓敷　菓子　占
嵐戸　城のお入　徒党の組　賣買抱
判　傳馬　材木　外　分銅　練絹　舎

所借銀 ㊀合 紀傳文 紀伝

紙袍の袴乙具ハ綿もねるゝ桟木もぬるゝ井
して割符とるゝみそ奈良濕ハ米をとるゝ節を
ゐん金沢の文庫の古籍ゝ

番

辻 火用心門 ㊀合 死 門番 城民 弁 仏畠
醫師 論議 ㊀事 能役者 ㊀家 武家 ゐる
お墓 忍ハ 奏者 長 供 茶 坂落 碁
ゐる社の灯明ゝとり ㊀残と集会ゝくゝのまゝき
ゐ禁中ハ祈ゝくのつゝいて ㊀ゝ。俗中の
役ゝゝ ㊀ゝゝゝ

生月(イキツキ)ちう　埃(ホコリ)　四方の敵(テキ)

祢社は系譜の明(アキ)ハ校(カンガ)へる事なるが祖父(ソフ)も多(オホ)く
のくに父(チヽ)ハ川(カハ)まく校(カンガ)へるそこに。欽王となりなの姫(ヒメ)
校(カンガ)へのふねの化(ケ)ようなるうつくしのみやや
蘭亭(ランテイ)記(キ)も己(オノ)れ自(ミヅカ)のうつくしの義(ギ)ごが

八幡(ハチマン)

弓矢(キウシ)　宇佐(ウサ)　石清水(イハシミズ)　鎌倉(カマクラ)　源氏(ゲンジ)　平家
諸聖経(シヨシヤウギヤウ)　近江(アフミ)　大石(オホイシ)の社(ヤシロ)云(イヘ)　著家
誓願(セイグワン)云(イヘ)　地獄

もろ民(タミ)ハ死(シ)を納(ヲサ)へハ冊列(サクレツ)篠村(シノムラ)とや。木曽(キソ)ハ陸
退治(タイヂ)の時(トキ)ハ神(カミ)ハ降(クダ)り給(タマ)ふひゝ給(タマ)ふ事(コト)のれりまし
うつくしう称(ホメ)もかうしひ白(シラ)ふ
ハ字(アザ)作(ツク)ハ幡(ハタ)そのあと

春風(ハルカゼ)

桃李(トウリ)の咲(サク)酔(ヱヒ)とすむ
庭(ニハ)うく氷(コホリ)とく面(オモテ)　学(マナ)の者(モノ)のゐ　吉野(ヨシノ)の
滝(タキ)　千家(センケ)の私(ワタクシ)　宗匠(ソウシヤウ)子(コ)　梅宮(ウメノミヤ)
うつくしう光(ヒカリ)のうつくしハ春風(ハルカゼ)そと。いふれりうう
童(ワラハ)部(ベ)そとふひゝ。春風(ハルカゼ)の妻(メ)の衣(キヌ)かこ
ろひてぬくうくしうう山(ヤマ)さうくしふもうう花瓣(クワベン)如(ジヨ)
錦(ニシキ)幾霞(イクカスミ)社織(ヤシロヲリ)者春風未置箱(ハルカゼイマダオカバコ)とも又春風(ハルカゼ)

一時素(イツトキモト)とう

春雨(ハルサメ)

柳(ヤナギ)　宮沼(ミヤヌマ)

燕(ツバメ)　咲花(サクハナ)　なく　蛙(カハツ)　鶯(ウグヒス)　川(カハ)
花散(ハナチル)　我(ワガ)のもじ
み空(ソラ)のやくう
春雨(ハルサメ)のうつくしう　つゆ
てみうやうう羅笠(ラセツ)門(モン)　汲(クム)　多(オホ)の繰(クリ)
春雨(ハルサメ)のうつくしう　太(フト)の十七(トヲカ)ケ
情(ナサケ)の雪(ユキ)　連(レン)句(ク)　新里(ニヒサト)　寺内(ジナイ)　城下(ジヤウカ)　市町(イチマチ)

法度(ハツト)

陣(ヂン)　普請場(フシンバ)
松茸山(マツタケヤマ)　ふる子
金山(カナヤマ)
舟(フナ)着(ツキ)
一町(イツチヤウ)の内(ウチ)ハ私(ワタクシ)の定(サダ)例(レイ)ふる。弥(イヨ)の孫句(ソンク)の席(セキ)。祢
社(ヤシロ)の山林竹木(サンリンチクボク)伐(キ)る者(モノ)ハ　太(フト)の十七(トヲカ)ケ
條(デウ)こそ法度(ハツト)の楷興(ケンヨ)うれ
市(イチ)　団子(ダンゴ)　ふる業(ワザ)

花見(ハナミ)

嵐(アラシ)　祢(ネ)の宮(ミヤ)　月(ツキ)　生(イキ)ふる業(ワザ)
半女(ハンヂヨ)条(デウ)　九月(クガツ)　利条(リデウ)　九月(クガツ)　清(キヨ)条(デウ)　二月(ニグワツ)
杜(ボタン)丹(ニ)　鞍(クラ)ふる　行(ユク)　六月(ロクグワツ)　恵比須講(エビスカウ)　九月(クガツ)

八幡花の八 九月 旅東祭 天王寺 彼岸 濃頂
寂寥 忌日 廿日 廿四日 廿九日 廿日 廿四日 廿九日
くとも。 九月廿日の
八百 随求 厂 蓼 蕃
周 武王 八百余 厂 蓼 蕃
なり。二十 八百 八百
八簾 布 北良嶽 奥山 祇園 奈良
布 陣 志波の浦
謀 米商 酒 奢侈 年貢 関の鶏
軍 衆生 若 楠氏
臨事而懼好謀而成者也
出良 麻
田單 牛 火軍 江道
八幡 敵 下 営
吐
姓 枯 木 老人 生 子 伽
鉄砲 小刀
連歌
旧友 息
古 雨
ぐるぐる
木蔦 蔦 詠 蔦
やぶ 扇 敗軍 小 麻子
さざんか 茶 茶
嵐 乱 茶
時雨 山 草木 山
八 面代 庵 雨乞 祝
躍 大石川 芭蕉 神

え

海老 蝦 鰕 **絵師** 繪工 畫工 畫師 **絵具** 繪具 **絵図** 繪圖 **絵巻** 繪卷 **絵本** 繪本 **絵馬** 繪馬 **絵筆** 畫筆 **絵草紙** 繪草紙 **絵双紙** 繪雙紙 **絵解** 繪解 **絵入** 繪入 **絵模様** 繪模樣 **絵合** 繪合 **絵空事** 繪空事 **絵日傘** 繪日傘 **絵日記** 繪日記 **絵団扇** 繪團扇 **絵半切** 繪半切 **絵双六** 繪雙六 **絵暦** 繪曆 **絵文字** 繪文字 **絵巻物** 繪卷物 **絵入本** 繪入本 **絵入紙** 繪入紙 **絵入新聞** 繪入新聞 **絵入狂言** 繪入狂言 **絵入浄瑠璃** 繪入淨瑠璃 **絵入読本** 繪入讀本 **絵入小説** 繪入小說 **絵入文庫** 繪入文庫 **絵入双紙** 繪入雙紙 **絵入番附** 繪入番附 **絵入暦** 繪入曆 **絵入外題** 繪入外題 **絵入表紙** 繪入表紙 **絵入広告** 繪入廣告 **絵入引札** 繪入引札 **絵入名刺** 繪入名刺 **絵入封筒** 繪入封筒 **絵入便箋** 繪入便箋 **絵入葉書** 繪入葉書 **絵入切手** 繪入切手 **絵入印紙** 繪入印紙 **絵入証書** 繪入證書 **絵入免状** 繪入免狀 **絵入許可状** 繪入許可狀 **絵入届書** 繪入届書 **絵入願書** 繪入願書 **絵入申請書** 繪入申請書 **絵入報告書** 繪入報告書 **絵入通知書** 繪入通知書 **絵入案内書** 繪入案内書 **絵入説明書** 繪入説明書 **絵入目録** 繪入目録 **絵入索引** 繪入索引 **絵入凡例** 繪入凡例 **絵入序文** 繪入序文 **絵入跋文** 繪入跋文 **絵入奥書** 繪入奥書 **絵入識語** 繪入識語 **絵入題辞** 繪入題辞 **絵入賛** 繪入賛 **絵入銘** 繪入銘 **絵入碑文** 繪入碑文 **絵入墓誌** 繪入墓誌 **絵入行状** 繪入行状 **絵入伝記** 繪入伝記 **絵入年譜** 繪入年譜 **絵入系図** 繪入系図 **絵入家譜** 繪入家譜 **絵入族譜** 繪入族譜 **絵入宗譜** 繪入宗譜 **絵入戸籍** 繪入戸籍 **絵入住民票** 繪入住民票 **絵入印鑑** 繪入印鑑 **絵入署名** 繪入署名 **絵入拇印** 繪入拇印 **絵入指紋** 繪入指紋 **絵入掌紋** 繪入掌紋 **絵入足紋** 繪入足紋 **絵入声紋** 繪入声紋 **絵入筆跡** 繪入筆跡 **絵入文体** 繪入文体 **絵入修辞** 繪入修辞 **絵入比喩** 繪入比喩 **絵入隠喩** 繪入隠喩 **絵入直喩** 繪入直喩 **絵入換喩** 繪入換喩 **絵入提喩** 繪入提喩 **絵入諷喩** 繪入諷喩 **絵入寓喩** 繪入寓喩 **絵入象徴** 繪入象徴 **絵入暗示** 繪入暗示 **絵入連想** 繪入連想 **絵入対比** 繪入対比 **絵入類比** 繪入類比 **絵入相似** 繪入相似 **絵入相違** 繪入相違 **絵入矛盾** 繪入矛盾 **絵入逆説** 繪入逆説 **絵入反語** 繪入反語 **絵入皮肉** 繪入皮肉 **絵入風刺** 繪入風刺 **絵入滑稽** 繪入滑稽 **絵入諧謔** 繪入諧謔 **絵入機知** 繪入機知 **絵入頓智** 繪入頓智 **絵入警句** 繪入警句 **絵入格言** 繪入格言 **絵入諺** 繪入諺 **絵入俚諺** 繪入俚諺 **絵入金言** 繪入金言 **絵入名言** 繪入名言 **絵入箴言** 繪入箴言 **絵入教訓** 繪入教訓 **絵入戒律** 繪入戒律 **絵入掟** 繪入掟 **絵入法律** 繪入法律 **絵入条例** 繪入条例 **絵入規則** 繪入規則 **絵入細則** 繪入細則 **絵入附則** 繪入附則 **絵入罰則** 繪入罰則 **絵入刑法** 繪入刑法 **絵入民法** 繪入民法 **絵入商法** 繪入商法 **絵入訴訟法** 繪入訴訟法 **絵入裁判** 繪入裁判 **絵入判決** 繪入判決 **絵入判例** 繪入判例 **絵入弁護** 繪入弁護 **絵入証言** 繪入証言 **絵入証拠** 繪入証拠 **絵入証人** 繪入証人 **絵入被告** 繪入被告 **絵入原告** 繪入原告 **絵入検事** 繪入検事 **絵入弁護士** 繪入弁護士 **絵入裁判官** 繪入裁判官 **絵入陪審** 繪入陪審 **絵入陪審員** 繪入陪審員 **絵入傍聴** 繪入傍聴 **絵入傍聴人** 繪入傍聴人 **絵入証人** 繪入証人 **絵入鑑定** 繪入鑑定 **絵入鑑定人** 繪入鑑定人 **絵入通訳** 繪入通訳 **絵入翻訳** 繪入翻訳 **絵入速記** 繪入速記 **絵入速記者** 繪入速記者 **絵入書記** 繪入書記 **絵入書記官** 繪入書記官 **絵入廷吏** 繪入廷吏 **絵入看守** 繪入看守 **絵入囚人** 繪入囚人 **絵入死刑囚** 繪入死刑囚 **絵入無期囚** 繪入無期囚 **絵入有期囚** 繪入有期囚 **絵入懲役囚** 繪入懲役囚 **絵入禁錮囚** 繪入禁錮囚 **絵入拘留囚** 繪入拘留囚 **絵入科料囚** 繪入科料囚 **絵入執行** 繪入執行 **絵入執行官** 繪入執行官 **絵入執行吏** 繪入執行吏 **絵入執行人** 繪入執行人 **絵入執行令** 繪入執行令 **絵入執行命令** 繪入執行命令 **絵入執行処分** 繪入執行処分 **絵入執行猶予** 繪入執行猶予 **絵入仮釈放** 繪入仮釈放 **絵入釈放** 繪入釈放 **絵入恩赦** 繪入恩赦 **絵入減刑** 繪入減刑 **絵入復権** 繪入復権 **絵入名誉回復** 繪入名誉回復 **絵入刑罰** 繪入刑罰 **絵入死刑** 繪入死刑 **絵入絞首刑** 繪入絞首刑 **絵入銃殺刑** 繪入銃殺刑 **絵入斬首刑** 繪入斬首刑 **絵入電気椅子** 繪入電気椅子 **絵入毒ガス室** 繪入毒ガス室 **絵入無期懲役** 繪入無期懲役 **絵入有期懲役** 繪入有期懲役 **絵入禁錮** 繪入禁錮 **絵入拘留** 繪入拘留 **絵入科料** 繪入科料 **絵入没収** 繪入没収 **絵入追徴** 繪入追徴 **絵入罰金** 繪入罰金 **絵入過料** 繪入過料 **絵入贖罪金** 繪入贖罪金 **絵入賠償金** 繪入賠償金 **絵入慰謝料** 繪入慰謝料 **絵入損害賠償** 繪入損害賠償 **絵入補償** 繪入補償 **絵入弁償** 繪入弁償 **絵入返還** 繪入返還 **絵入引渡** 繪入引渡 **絵入譲渡** 繪入譲渡 **絵入売買** 繪入売買 **絵入交換** 繪入交換 **絵入賃貸借** 繪入賃貸借 **絵入賃借** 繪入賃借 **絵入賃貸** 繪入賃貸 **絵入賃金** 繪入賃金 **絵入給料** 繪入給料 **絵入俸給** 繪入俸給 **絵入報酬** 繪入報酬 **絵入謝礼** 繪入謝礼 **絵入礼金** 繪入礼金 **絵入祝儀** 繪入祝儀 **絵入不祝儀** 繪入不祝儀 **絵入香典** 繪入香典 **絵入供物** 繪入供物 **絵入献金** 繪入献金 **絵入寄付** 繪入寄付 **絵入募金** 繪入募金 **絵入義捐金** 繪入義捐金 **絵入救援金** 繪入救援金 **絵入見舞金** 繪入見舞金 **絵入餞別** 繪入餞別 **絵入手当** 繪入手当 **絵入賞与** 繪入賞与 **絵入賞金** 繪入賞金 **絵入賞品** 繪入賞品 **絵入賞状** 繪入賞状 **絵入賞牌** 繪入賞牌 **絵入賞杯** 繪入賞杯 **絵入賞旗** 繪入賞旗 **絵入賞章** 繪入賞章 **絵入勲章** 繪入勲章 **絵入徽章** 繪入徽章 **絵入記章** 繪入記章 **絵入標章** 繪入標章 **絵入商標** 繪入商標 **絵入意匠** 繪入意匠 **絵入図案** 繪入図案 **絵入模様** 繪入模様 **絵入柄** 繪入柄 **絵入色** 繪入色 **絵入彩色** 繪入彩色 **絵入着色** 繪入着色 **絵入染色** 繪入染色 **絵入捺染** 繪入捺染 **絵入印刷** 繪入印刷 **絵入製本** 繪入製本 **絵入装丁** 繪入装丁 **絵入表装** 繪入表装 **絵入裏打** 繪入裏打 **絵入折本** 繪入折本 **絵入巻子本** 繪入巻子本 **絵入冊子** 繪入冊子 **絵入綴本** 繪入綴本 **絵入袋綴** 繪入袋綴 **絵入糸綴** 繪入糸綴 **絵入針綴** 繪入針綴 **絵入留** 繪入留 **絵入製** 繪入製 **絵入作** 繪入作 **絵入造** 繪入造 **絵入成** 繪入成 **絵入出来** 繪入出来 **絵入完成** 繪入完成 **絵入未完** 繪入未完 **絵入途中** 繪入途中 **絵入中絶** 繪入中絶 **絵入休刊** 繪入休刊 **絵入廃刊** 繪入廃刊 **絵入終刊** 繪入終刊 **絵入創刊** 繪入創刊 **絵入発刊** 繪入発刊 **絵入刊行** 繪入刊行 **絵入出版** 繪入出版 **絵入発行** 繪入発行 **絵入販売** 繪入販売 **絵入配布** 繪入配布 **絵入配達** 繪入配達 **絵入郵送** 繪入郵送 **絵入運送** 繪入運送 **絵入輸送** 繪入輸送 **絵入運搬** 繪入運搬 **絵入荷造** 繪入荷造 **絵入包装** 繪入包装 **絵入梱包** 繪入梱包 **絵入荷札** 繪入荷札 **絵入送状** 繪入送状 **絵入受取** 繪入受取 **絵入領収書** 繪入領収書 **絵入請求書** 繪入請求書 **絵入見積書** 繪入見積書 **絵入注文書** 繪入注文書 **絵入契約書** 繪入契約書 **絵入覚書** 繪入覚書 **絵入念書** 繪入念書 **絵入誓約書** 繪入誓約書 **絵入始末書** 繪入始末書 **絵入顛末書** 繪入顛末書 **絵入報告書** 繪入報告書 **絵入届書** 繪入届書 **絵入願書** 繪入願書 **絵入申請書** 繪入申請書 **絵入通知書** 繪入通知書 **絵入案内書** 繪入案内書 **絵入説明書** 繪入説明書 **絵入目録** 繪入目録 **絵入索引** 繪入索引 **絵入凡例** 繪入凡例 **絵入序文** 繪入序文 **絵入跋文** 繪入跋文 **絵入奥書** 繪入奥書 **絵入識語** 繪入識語 **絵入題辞** 繪入題辞 **絵入賛** 繪入賛 **絵入銘** 繪入銘 **絵入碑文** 繪入碑文 **絵入墓誌** 繪入墓誌 **絵入行状** 繪入行状 **絵入伝記** 繪入伝記 **絵入年譜** 繪入年譜 **絵入系図** 繪入系図 **絵入家譜** 繪入家譜 **絵入族譜** 繪入族譜 **絵入宗譜** 繪入宗譜 **絵入戸籍** 繪入戸籍 **絵入住民票** 繪入住民票 **絵入印鑑** 繪入印鑑 **絵入署名** 繪入署名 **絵入拇印** 繪入拇印 **絵入指紋** 繪入指紋 **絵入掌紋** 繪入掌紋 **絵入足紋** 繪入足紋 **絵入声紋** 繪入声紋 **絵入筆跡** 繪入筆跡 **絵入文体** 繪入文体 **絵入修辞** 繪入修辞 **絵入比喩** 繪入比喩 **絵入隠喩** 繪入隠喩 **絵入直喩** 繪入直喩 **絵入換喩** 繪入換喩 **絵入提喩** 繪入提喩 **絵入諷喩** 繪入諷喩 **絵入寓喩** 繪入寓喩 **絵入象徴** 繪入象徴 **絵入暗示** 繪入暗示 **絵入連想** 繪入連想 **絵入対比** 繪入対比 **絵入類比** 繪入類比 **絵入相似** 繪入相似 **絵入相違** 繪入相違 **絵入矛盾** 繪入矛盾 **絵入逆説** 繪入逆説 **絵入反語** 繪入反語 **絵入皮肉** 繪入皮肉 **絵入風刺** 繪入風刺 **絵入滑稽** 繪入滑稽 **絵入諧謔** 繪入諧謔 **絵入機知** 繪入機知 **絵入頓智** 繪入頓智 **絵入警句** 繪入警句 **絵入格言** 繪入格言 **絵入諺** 繪入諺 **絵入俚諺** 繪入俚諺 **絵入金言** 繪入金言 **絵入名言** 繪入名言 **絵入箴言** 繪入箴言 **絵入教訓** 繪入教訓 **絵入戒律** 繪入戒律 **絵入掟** 繪入掟 **絵入法律** 繪入法律 **絵入条例** 繪入条例 **絵入規則** 繪入規則 **絵入細則** 繪入細則 **絵入附則** 繪入附則 **絵入罰則** 繪入罰則 **絵入刑法** 繪入刑法 **絵入民法** 繪入民法 **絵入商法** 繪入商法 **絵入訴訟法** 繪入訴訟法 **絵入裁判** 繪入裁判 **絵入判決** 繪入判決 **絵入判例** 繪入判例 **絵入弁護** 繪入弁護 **絵入証言** 繪入証言 **絵入証拠** 繪入証拠 **絵入証人** 繪入証人 **絵入被告** 繪入被告 **絵入原告** 繪入原告 **絵入検事** 繪入検事 **絵入弁護士** 繪入弁護士 **絵入裁判官** 繪入裁判官 **絵入陪審** 繪入陪審 **絵入陪審員** 繪入陪審員 **絵入傍聴** 繪入傍聴 **絵入傍聴人** 繪入傍聴人 **絵入証人** 繪入証人 **絵入鑑定** 繪入鑑定 **絵入鑑定人** 繪入鑑定人 **絵入通訳** 繪入通訳 **絵入翻訳** 繪入翻訳 **絵入速記** 繪入速記 **絵入速記者** 繪入速記者 **絵入書記** 繪入書記 **絵入書記官** 繪入書記官 **絵入廷吏** 繪入廷吏 **絵入看守** 繪入看守 **絵入囚人** 繪入囚人 **絵入死刑囚** 繪入死刑囚 **絵入無期囚** 繪入無期囚 **絵入有期囚** 繪入有期囚 **絵入懲役囚** 繪入懲役囚 **絵入禁錮囚** 繪入禁錮囚 **絵入拘留囚** 繪入拘留囚 **絵入科料囚** 繪入科料囚 **絵入執行** 繪入執行 **絵入執行官** 繪入執行官 **絵入執行吏** 繪入執行吏 **絵入執行人** 繪入執行人 **絵入執行令** 繪入執行令 **絵入執行命令** 繪入執行命令 **絵入執行処分** 繪入執行処分 **絵入執行猶予** 繪入執行猶予 **絵入仮釈放** 繪入仮釈放 **絵入釈放** 繪入釈放 **絵入恩赦** 繪入恩赦 **絵入減刑** 繪入減刑 **絵入復権** 繪入復権 **絵入名誉回復** 繪入名誉回復 **絵入刑罰** 繪入刑罰 **絵入死刑** 繪入死刑 **絵入絞首刑** 繪入絞首刑 **絵入銃殺刑** 繪入銃殺刑 **絵入斬首刑** 繪入斬首刑 **絵入電気椅子** 繪入電気椅子 **絵入毒ガス室** 繪入毒ガス室 **絵入無期懲役** 繪入無期懲役 **絵入有期懲役** 繪入有期懲役 **絵入禁錮** 繪入禁錮 **絵入拘留** 繪入拘留 **絵入科料** 繪入科料 **絵入没収** 繪入没収 **絵入追徴** 繪入追徴 **絵入罰金** 繪入罰金 **絵入過料** 繪入過料 **絵入贖罪金** 繪入贖罪金 **絵入賠償金** 繪入賠償金 **絵入慰謝料** 繪入慰謝料 **絵入損害賠償** 繪入損害賠償 **絵入補償** 繪入補償 **絵入弁償** 繪入弁償 **絵入返還** 繪入返還 **絵入引渡** 繪入引渡 **絵入譲渡** 繪入譲渡 **絵入売買** 繪入売買 **絵入交換** 繪入交換 **絵入賃貸借** 繪入賃貸借 **絵入賃借** 繪入賃借 **絵入賃貸** 繪入賃貸 **絵入賃金** 繪入賃金 **絵入給料** 繪入給料 **絵入俸給** 繪入俸給 **絵入報酬** 繪入報酬 **絵入謝礼** 繪入謝礼 **絵入礼金** 繪入礼金 **絵入祝儀** 繪入祝儀 **絵入不祝儀** 繪入不祝儀 **絵入香典** 繪入香典 **絵入供物** 繪入供物 **絵入献金** 繪入献金 **絵入寄付** 繪入寄付 **絵入募金** 繪入募金 **絵入義捐金** 繪入義捐金 **絵入救援金** 繪入救援金 **絵入見舞金** 繪入見舞金 **絵入餞別** 繪入餞別 **絵入手当** 繪入手当 **絵入賞与** 繪入賞与 **絵入賞金** 繪入賞金 **絵入賞品** 繪入賞品 **絵入賞状** 繪入賞状 **絵入賞牌** 繪入賞牌 **絵入賞杯** 繪入賞杯 **絵入賞旗** 繪入賞旗 **絵入賞章** 繪入賞章 **絵入勲章** 繪入勲章 **絵入徽章** 繪入徽章 **絵入記章** 繪入記章 **絵入標章** 繪入標章 **絵入商標** 繪入商標 **絵入意匠** 繪入意匠 **絵入図案** 繪入図案 **絵入模様** 繪入模様 **絵入柄** 繪入柄 **絵入色** 繪入色 **絵入彩色** 繪入彩色 **絵入着色** 繪入着色 **絵入染色** 繪入染色 **絵入捺染** 繪入捺染 **絵入印刷** 繪入印刷 **絵入製本** 繪入製本 **絵入装丁** 繪入装丁 **絵入表装** 繪入表装 **絵入裏打** 繪入裏打 **絵入折本** 繪入折本 **絵入巻子本** 繪入巻子本 **絵入冊子** 繪入冊子 **絵入綴本** 繪入綴本 **絵入袋綴** 繪入袋綴 **絵入糸綴** 繪入糸綴 **絵入針綴** 繪入針綴 **絵入留** 繪入留 **絵入製** 繪入製 **絵入作** 繪入作 **絵入造** 繪入造 **絵入成** 繪入成 **絵入出来** 繪入出来 **絵入完成** 繪入完成 **絵入未完** 繪入未完 **絵入途中** 繪入途中 **絵入中絶** 繪入中絶 **絵入休刊** 繪入休刊 **絵入廃刊** 繪入廃刊 **絵入終刊** 繪入終刊 **絵入創刊** 繪入創刊 **絵入発刊** 繪入発刊 **絵入刊行** 繪入刊行 **絵入出版** 繪入出版 **絵入発行** 繪入発行 **絵入販売** 繪入販売 **絵入配布** 繪入配布 **絵入配達** 繪入配達 **絵入郵送** 繪入郵送 **絵入運送** 繪入運送 **絵入輸送** 繪入輸送 **絵入運搬** 繪入運搬 **絵入荷造** 繪入荷造 **絵入包装** 繪入包装 **絵入梱包** 繪入梱包 **絵入荷札** 繪入荷札 **絵入送状** 繪入送状 **絵入受取** 繪入受取 **絵入領収書** 繪入領収書 **絵入請求書** 繪入請求書 **絵入見積書** 繪入見積書 **絵入注文書** 繪入注文書 **絵入契約書** 繪入契約書 **絵入覚書** 繪入覚書 **絵入念書** 繪入念書 **絵入誓約書** 繪入誓約書 **絵入始末書** 繪入始末書 **絵入顛末書** 繪入顛末書

そく

詩作 賦詩 **囲炉** 井口 **霍乱** 痧 **漆** 髹 **紅** 紅粉 **履** 屐

善を等大師ハ三号るを泣て病生をためー。薬巴ハ酒をそ欠く失火をやめそう。痛そのの病ハ症そこれおとや。吐数もハにより数をそれ

そや

弥曜 盗人 **賢者** 賢哲 **当世** 逸物の馬 **軟毛** 頃城 **職人** 工匠 **疫病** 時疫 **今様**

いもそう

敷の 川 **池** 海 **漆** 谷 **北欧** 雪 **もろ** 雨 **雲** 雪 **寝** 月 **星** 天 **不審** 訝 **安**

遠流とりくれいぶいくこと。宝荷をとりそへ肩でむ
るまぐるまへのる病やくそくれし。行雁俗記
いえのわる病やくそくれし
芝 秤 病のくすり 舟 芥子灸 痔
紀氏 家礼 梁の乱 鱰 馬半たゝく
犬狐 早使 鼻血 童祝 玉 漱の石
茶係 犯人 刀のさや 小鮓 焼蛤
抱書 科人
紙のくくりのまろさいと雪とや。自面
の死いそうくりのり。初秋の猶いそうと猫と
又手のひら小疱うわまぶは筆紙いそうとし
約根のよいそうと湯わり
這 蟹 石竜田 蚯蚓 虱
蛛蛛 むくみ
飛ける つくみ
蚕繭 今ふの絃 犬
猪代米に甸頭辺
張 弟蚕 牡蛎 宿 助六のつくみ
木の目弓 助六のつくみ 腎 銃
表補綸 も 盗 宿札 牛王 膏
灯芯 蚤の巣 天井板 箱 団 鈴
腰板
罰 太鼓 琵琶 仏 主 釈 天
守をう亡びし 利生 改 堅 詞 不孝 かさ 着 盃
しいその亡び。耶蘇うくしの将。
しくひとよ

恥

令ㇾ負ㇾ荊相樓 負之 人井下ル 藝 ㇾ妻子 入ㇾ室

浪人 夫婦いさゝか

初鹽

ㇾ親の旨ㇾ 教訓 河原院 一段 伍子胥ガ霊魂 八月十九日 風雨を ㇾ云 出ㇾ来ㇾ ㇾ時や。皇のきさき ㇾ ㇾ事ならん ㇾ ㇾ ㇾ的 ㇾ市 相樓 普請 軍 陣 扣ㇾ

場

大津 種田 下人 ㇾ云ㇾ ㇾ場 物躍 ㇾ事 ㇾ

町

拾芥ニ云 神泉苑 二条南大宮西八町 ㇾ云 二条ㇾ四条 五

大内裏の南ㇾ ㇾ ㇾ大仏八町 東福寺八町 稲荷八町 ㇾ ㇾ ㇾ

八十

老子 難経 ㇾ ㇾ 川漬 鴻 ㇾ ㇾ 曲礼ニ八十九十曰ㇾ老毛。三体詩ニ南朝四百八十寺ㇾ。如来八十ㇾ ㇾ入滅 ㇾ ㇾ 太公望 ㇾ ㇾ 八十ㇾ ㇾ ㇾ

羽賀山（ハガヤマ）大和 きくひかさ 花火の景 ゐつし まの文 姉家

泊瀬（ハツセ）冂 小初瀬（ハツセ）小野。檜原 二本杉 いの泉 みつつの云 六代

伹京の姫よ遊 名この清 三輪

右のの〳〵 蜜小糸 こりこ 貴小糸 渡

賊のすゞ 小糸 渡

さゝ原 伏見の里 萩原 詩仙堂

弓槻（ユツキアダチ）嶽 弓張（ユミハリ）嶽 天香 ゐ氏神 ゐ氏滝

花園山（ハナゾノ）三川 筆の庭 ゐその氷

細川 北蔵の鍋

濱名（ハマナ）遠江 橋 納豆（ナツトウ） 夕汐（ユフシホ） 海士小糸 渡（ワタリ）

たゝり小糸 ゐ師山 榛（ハン） 引馬

ゐ汲の実 杜の秋の月 糸路 下荻水

箱根 相模 山号足柄 往還 北徹

さゐの湯の沢 三時 竹の下 ゐ

湯の沢（ユノサハ） 三子山（ミコヤマ） 東福寺（トウフクジ） 奥の池 卯木（ウツギ） 小田原 湖（ミナト）

曽我の五郎（ソガ） ゐ

走井（ハシリヰ）近江 滝 駿河 伊豆の海 東ぐり

催馬楽（サイバラ） 算の数（カズ） 逢坂（アフサカ） もち月の弥

箱崎（ハコサキ）筑前 浦 神。千歳の松

唐船（タウセン） かーね

ハカタ 冂 ゐにし私

博多 館の菊 織物（オリモノ） ゐくその山 かく〳〵 製（ツクル）

播磨（ハリマ） 杉原紙（スギハラガミ） 鍋（ナベ） 蛸壺（タコツボ） 紺染（コンゾメ） ゐ局のかん

室（ムロ）ノ津（ツ）皮（カハ） 漆田穂（ウルシダホ）蓼（タデ） 小塩（コシホ） 鏡（カヾミ） 伊古垣（イコガキ）

明石（アカシ）の赤目張（アカメバル） 東條（トウデウ）鞍（クラ） 詩 舟 禾 下南（シタミナミ）

野中の清水（シミヅ） ゐ秘の松 字の河 ゐる

伯耆（ハウキ） 鉄（カネ） くまの 大山（ダイセン） 名皮茸（カハタケ） 天狗

若和長年（ワカナガトシ）

仁

鶏　異名八声の鳥　夕附鳥　庭鳥

くぐつ　孤雲の床　波の上　孤雲　孤客　孤枕　孤舟　孤村　孤城　孤灯　孤屋　孤宿　孤松　孤峰　孤鴈　孤鶴　孤鳥　孤猿　孤狸　孤狐　孤月　孤星　孤雪　孤雲　孤客　孤枕　孤舟　孤村　孤城　孤灯　孤屋　孤宿　孤松　孤峰　孤鴈　孤鶴　孤鳥　孤猿　孤狸　孤狐　孤月　孤星　孤雪

うに別　孫子の床　波の上　孫子　尾花　孫子　孤客　孤枕　孤舟　孤村　孤城　孤灯　孤屋　孤宿　孤松　孤峰　孤鴈　孤鶴　孤鳥　孤猿　孤狸　孤狐　孤月　孤星　孤雪

冥　詩曰　三鴉　夜の袴　旅宿　秋和　孤

諫鼓　庚申　洋の鞘　三日の客句　聟入

うたた寝　祇園会の鉾　磨ぐ　唐人

死骸　ぐめる　暁　七かまち　大　並木雀

泉水鴛鴦　暗　待秋

万象ふ逸つ　ちりけのさ

ねもおもはえねぬ　ここ世のもの　天岩戸　啼

ちりぐ白米にからして

ふくる　礼記内則　鶏初鳴　咸興　漱　殻鶏

為粢而食之　とい子路　とりてかへ

鳥

入江　芦原　真砂地　永入　砂　おも

芦鶴の彩　沖中門　湖　杜

氷のひま

ふとおもふ　のうれ　すそ　それ

やみくれ　ね　ふ　の

ちりぐ　ふ　ぐ　も　詠

虹

雲のほ　々の空　山の端　入日　海影

雲　川上　もし

時雨　額　掛物　賦物　辱　侍

蛇の息　名家　業

白虹　貫　日　史記　虹　貫岩　晴

虹貫　夜窓　虹　貫

してのさくわ　ぐ　の山

錦

旅人　神の古里　秋の美　錦の袖

行幸　花盛　さを鹿の袖　秋山

仙人の宿　秋田川の紅葉　秋の野　戸帳

錦の縁　萩　山花　袋　華

廻文の袴　小路　恋無　美禄　旗

ちん

唐中は男よりおんなその袖のふるをとらざる藩
法ゆゑよろこび衣錦尚絅(ケイ)と中庸(ちうよう)もいへり詩(し)如
霊運錐鋪錦賦似相如不直金(あたひきんなし)とこたへ
もおそらんものゆゑなり
らんもの袖さへふりてもつかざるものゆゑなり
ものゆゑもつかざるものゆゑなり

匂袋(にほひぶくろ)

敷帳(しきちやう) 臭橘(はなたちばな) 茶(ちや) 尺八(しやくはち) 鼓(つづみ)
花のつゆこ 柚(ゆず) 橘(たちばな) 捐(すて) 酒(さけ)
煮茶の釜と共にざこ
つうずや風呂の内よ
ふるそうじや異(こと)
遍照(へんぜう)の姫(ひめ)の髪(かみ)とこそ

新枕(にひまくら)

三年(みとせ)の後(のち)の契(ちぎり) 寝(ね)る 食(しよく)
いとけなき弟(おとうと)
ひさごの大(おほ)きなるのうち
汝(なんぢ)ら
遍照(へんぜう)の姫(ひめ)の髪(かみ)とこそ

燎(かがり)

こづ堰の内 歌酒(かしゆ) 舷(ふなばた)
聖霊祭(しやうりやうさい) 湯立(ゆだて)
聖人の跡(あと) 猴酒(さるざけ)

贄(にへ)

腹赤(はらか)の魚(うを) 神前(しんぜん) 宗廟(そうべう) 菓金(くわきん) 湯
刀(かたな) 沈(ちん) 祭(まつり) 巫(かんなぎ) 神楽(かぐら)
子貢(しこう)欲去告朔之餼羊(こくさくのきやうを)といへり。祝詞(のりと)の社(やしろ)よ
廉(かど)とそ知(しる)へ
日の社(やしろ)よ雑兎(きじうさぎ)とそ

入道(にふだう)

蛸(たこ) 去目(さりめ)の名(な) 法性(ほつしやう) 陽唇(いんきよ)
流人(るにん) 清盛(きよもり) 鎌倉(かまくら)
入(いり)こ 梵字(ぼんじ)
つ 髪(かみ)の姿(すがた)
す 牢人(らうにん)の一(ひとつ)

ともろ〳〵の人道ども

人間

八苦　天上　塞翁が馬　五十年
天地　南にのぞみて人君の位あり
畜生も仏法をまなびて人界に生れ
ふやう〳〵妃い上界の福徳あるもの
なり。偶然為客落人間と
操　芭蕉の甲　筆　山田　灯篭
絵巻紙　楊　糖賣　灸針の圖　疱瘡

人形

祇園会の山鉾　筆架　軍の謀　灸針の圖　疱瘡
絵巻紙　楊　糖賣　文王城の猶と
犯軍塚に土人形を埋て王城の猶と
硯よ人形のもと。周の穆王よ優師うたを
ハうこい縁よりひまはそのふおうじとうや。
もと板にさいもの。扉風よ
ぐりとも婢子人形とうや雛も人形の
数なるべし

似ざる物

兄弟　三百羅漢　鏡
条巻が絵　画の枝
形なのみとうり子　せ
三冊の萱系　子と
松の家士　琵琶の海　松の絵
柄の柿も傷の屍もわ
まのやめとうそわづ
こ夫子のうち陽虎に似
つる。文王既没文不在茲乎とおけさのう。
女ふうくなまう陽虎に似うとも女に似うとも
似ざる姿　王昭君の絵　画仏中
下もの仏師　こね米粉
徒子　指子の絵　古
老てうる鏡　古
屠うろこ汁鍋もうづんだとりひ作うち。
右のの今の折古句につ
見のくめとこ句ごとものまま
ひとうなまうち。指のまま
ざう事ありも云ん

似也拍　古学　今俗ほとんど

鮠（テン）　魚の名　雷魚　雷綿　雷の下より似ものの魚を産ずるゆえの名

連頌新式より波の字を一用いるずつ。

肉（ニク）　菜食（クヒモノ）　文字　切疵（キズ）　菜ごらへ

蔦豹（トビカラス）　眼（マナコ）　脛（ハギ）　竜眼（リュウガン）　菓肉（クダモノ）

唐帝の美人のこのやうなるを作り肉と服してい神社参詣忌ぞ。文字に肉刀（ニクづき）とかくもおかしうなるをおくけかたこと

似合　妻夫（メオト）　為（ナス）　蓋

天下の人の生国ごとにそれぞれ皆と作り合すれば皆ともに足ざるをもも足なもそれくらゐ員

桶　古盛（フルモリ）　鑓子（ヤリガンナ）

驟雨　花の萼　納涼　三輪が浦　辻堂

秦始皇（シンノシクワウ）　躍（オドリ）　風のお家

子規（ホトヽギス）　おその場　山科の鴉　栃ごろも

乱成（ミダレナリ）　の旅　杉風　頂上

虹影侵階驟雨餘声々新鴈度雲衢と述こう。次広のりくの例も倣ふてそれに和るおそ

四弦を弾ぜり一曲の妙変をつくすふりをしてこうこうの

俄（ニハカ）　客人の風　喧呪（ケンク）　火事場

紙鳴（イカノボリ）　花の萼　納涼　三輪が浦　辻堂

[illegible]ねと帝本ゆゑ蒜をうくとれハ嫁か
[illegible]こそ道ゆゐいむしるそ
濁酒（ニゴリ） 冬季 甥（ヒゲ）河豚汁（フクトウ） 扁舟ノ虹（ヘンシウ） 次ノ（ツイ）陶淵明（タウエンメイ）
[illegible]ひあれ[illegible]
[illegible]酒よ[illegible]
[illegible]酒や[illegible]
なるべし。唐[illegible]
酌ハ閑[illegible]

二伍 枕[illegible]（ソバ） 枕読後 五条の[illegible] 禄尼
天台坊[illegible] 平家の母 源
[illegible]
[illegible]

二階（カイ） 義[illegible]（ヨシ） 桂（ヅラ） 苟菜 向屋
[illegible]の宿 月見 納涼 拝殿（ハイデン）
門（モン） 女[illegible]すい 庄家

祇園会の[illegible]

二月

叡岳堂の牛[illegible] 石塔（シヤクトウ） 一谷合戦
六時堂の[illegible] [illegible]会人のお替（テカヘリ） 吉日祭
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

西

三月

平家 波天（ハテン） 唐紅（カラクレナヰ） 初虹 秋風
大威徳（イタク） さが 法輪寺 古京 [illegible]
松尾 賀茂 九条 七条 張子厚（チヤウシコウ）銘
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あと添てとるぶ句ごてんに有のとゝもに
手おほをあハ除秋とゝさ

庭

花 紅葉 松柳 菊 萩 宿芭蕉(ヤドキ)
池水 真砂(マサゴ) 鞠(マリ) もの一ぶ 初もみぢ
寒菊 九重 湯屋の油 虫の声 車
胡蝶 文書 馬糞(マグソ) 相撲(スマフ) 寺 法事
踊(オドリ) 浅黄 竈(カマド) 着 芸者 籠者 猿ぶ
極ぶ 鏡山(カヾミヤマ) 合戦 神ぶ 薬法論
左義長 市 講堂 石 幕 狩
洛外よりまた洛内へ入こゝろ 地獄 苦 極楽
とぬこのゝ 路 地獄 苦 極楽 西 浄土 のつく
つるのふとん 山科 落 こゝろ 仏 ゝ
のごとや 禁中 仙洞院 御所(クニノツボネ) 女院の坪(ツボ)わい入 公家にくじ
日中(ニホン) 天津神 地津神(クニツ) 天の岩戸
武士 私の門 松 扇(オウギ) 数珠(ジュ)
腰の刀 鉄の笠 ゝ 道中
居風呂 右 敵のごとく

日本曽(ソ)根東業(ゴウ)禅師と云注ゝ日本也とある。
宇府三千里一夜飛香渡海雲ハ天狗の
賛こゝ元初の軍勢日中(ニチチウ)とうわまりて来ん
とそゝるもの

荷拵

同屋の亟 婦入(ヨメイリ)必易(カタ)こゝ
有る 公事 常ゝ 道中

車 荷

濁(ニゴル)

久字 滄浪(サウラウ)の ゝ 酒 事の代 詞
江 白魚(コウナイ) 足わ ふ 酩 眼 油
蓮 魚 濃の ゝ 諺(コトワザ)人の ゝ 許訳人
芙河 湯
紅緋に五濁と云ふ。八幡の放生川ハいつも
すまびさ ゝ ふ 井戸ハ ゝ ゝ ゝ 海
人の ゝ いさ ゝ ゝ ゝ 大な
ふ ゝ ゝ ゝ ゝ

わくむ

柄鮫 童 絏子 世上人 二ヒ
うわなり 喧嘩 不動 袖が嵐
酒典童子 絏子 喧嘩 不動 袖が嵐
竜とたのこ娚とわくそのまんとすう
いわくこわの影 地獄のもとは敷ちがふ
らひ。ろくさすろうとくわくむ。嫁ハ姑よ
ろ小姑うわくむ基のもとをこ
わくむ

絏子 絏女 嵐 蠅 げりく
さくれ女 嵐 蠅 げりく
相蠏の文衣 おとくろ人 なりとりの
梅系 ももの 朱とうがふ こう人
利根右 相商 人指宵の犬
佛右ハ儒右そそーもっ。法花宗ハ浄土宗とあ
ざをり。姑ハ嫁とわくむ。呂后の威夫人をわくこ
わのわいてうとをりろくくのおそちいすこのあ
るとわくこのふ。時陽ろがろが蠅をわくこ法が納
ろが蚊のがそこわかなくとわくむわわくの
うかもるとは 市の棚 金山 山のゆうこ木 注師

辰

門松 酒盛 上戸の強 死の盛
ベン 糸着談義 名作のる 神すす 初え
婦うり 改去 佛の冏帳 入部
虹の湊入 勝軍 鯢突浦 亟大
おとくの門 煙之民の竈
流中いいたものうなる玉こもとわくるまいか
ものの山 郭借 ろいい 祝いいたものの千月ま
いりをハ都 ろいいものの十番そそー。後漢公超り
うほうとうろ有うの宇の者当そうして市をう
ろ。ばいたそー一万日の廻向

抱

弓 墨 焼飯 強飯 楊弓 矢の柄
箕 太鼓の撥 刀の柄 わくび 赤子
属託
口ふ窮右香をわくこ。ろいいの
まもろ職ろ。ろ作ハ掃ふをおきろ。ろ作ハ
ろろひて砂を投ぶそわくろ
ろくおろ

二月

敷妙の戸 蜉蝣 鼻ぐれ
わせ刀のそぐに白粉をみるも 堤員のまわりも
水は鳥羽水 くづの葛の葉やある。
葛の葉の眼をとこひて渡羅門の跡みるも。

三月

薪 頭の辻 男桶 茶屋 婦人
亀と千鳥の石 都打る砧

四月

閼伽の水
易曰六三師輿尸 考ふる報をあるひて枠
て御ら附き孫のいさめにしたがひてみるもの
ふ。年の数つまんとするもの。
ところもそへかんへうふるもあるひ
してあるごうにそへうれ

二八月

朝顔 奏 宴 竹
切をそ
先聖をまつる面のいさ人物 指病なる
ぜ。攫い書物して秋紀
[illegible]

廿一月

内宴 二月 仁
物つて詩を作て
るそうろうや
天主の聖霊会 二月
法条 九月 大師堂 六月 大坂

廿二月

月待 春社祭 仁明
九月

廿三月

わこご千日参 六月 地蔵祭 七月
仁徳の夫祭 十月 赤儀祭 九月
廉谷祭 月
遅桜祭 大師講 十二

廿四月

法忌 二月
祇園祭 六月 天神 祇園 六月
天満 灌流る 九月
小山祭 九月 二月

廿五月

伊村祭 九月 法祭 十一月
住吉の浜田 五月 おぐらさ 十月
山田法田扇 月 稲荷祭 九月
鳴滝祭 月 虎ノ御の祭 五月 お仏事 十二月

名所

二條 山城

西川

丹生

西京

錦浦

湖海 近江

保

郭公

暑 踏代る 冥途の雲 下如海

田おろす 杜鵑 くぐつ 四よのたもき 蜀魂

田長鳥 雲雀 鳥 鳥

槽鳥 百歟鳥 勧農鳥 いとも也

○村雨 峯の雲 薮花 牧村 早苗 橋

関の戸 狭衣 山路 旅人 新芝の枕

鳥羽 こすの和山 卯の花

柞子 彩樹 檪 萩 弓張月 宵曙

藤の花 あやめ草 鶯 死ぬの山

石倉 片栗のさりあすの杜 山吹茶

渡のわたり 高舟山 石上寺 老木の杜

鴨石のうへ 伽羅

杜甫詩ニ西川ニ有杜鵑東川ニ無杜鵑。六月今始

やあの神と何ものぞ　てと新古今の句にも橋の林をうたへる
うつくしみまでするわらひ　初鳴先聴其声者主吉凶　祇田家候其声則卜農事　杜宇初啼
時漁人海蝦曰謝豹蝦云　れ故うた歌をもよめり　郭公なくころ

鳳凰　桐　竹　松　棊の駒　海棠　聚花

平等院　蜘蛛の網　仙興

百鳥や桐の梢ふすむ　もゝそしで金泰和四年集　滋州の武安縣石壁
墓三日乃去　拙其下得金剱馬　鳳凰翔于千仞ところハ屈原をよめり

蛍

夜の雨竹　夏草　夏月　沢蛍

網涼　草のひの神　川涼　そよろ川
夕敷　蚤狂ふ　風和　燕の巣　屋
蓬ヶ杣　源氏の巻　永川　宇治　螢由

かりやの里　野もる　車のうち　大井川
かさゝぎの神　狂波江　蛍
堀川百首　砂ふまし　金とそ乞ると諺也
つゝ　ものをもふ女に祝ぜられてとぶくらし
おそろしや蛍も前生のもの　ろくさうち。
腐草化して蛍となるといふ　蛍火のかゝやくハ狂代の物語。
朽て蛍も色くさるといふ　蛍となるといふ聖経の句。蒲
のうらめれ。

蜘蛛　陣布　山伏　餅　祭　湯屋

酒盛　沢蟹　釈迦のかう
三つの年の功をつて　山をおて海へ入といふ
こゝろ。俳諧を吹ふ　帰るくもの巣。
そこかしこの巣　伏の巣

蚌　桑　祇園会　我慢　初幸　多つ

弓　旗　章駄天　修羅　地獄　杖

入日ま

拜をさせて入時を賦ひ
ものしたりんかのかうかりし
のるの。數も拜もうかがひ

守宮

古る 護広堂 郭公 護
都宮 七月～ 八卦
若我先生り信しハ不動ゆやなるの栗
に招梗をうれしハ延暦るの産をそろし。
金堂のやまるハ阿閦宝性弥陀釈迦とは
ちゆく

佛

摘花 焼檜 二月 行の神 宮
月 指のり 宮 痛さ ありの焼
白拍子 蛤 神社 誰生人 石山 さるも
年越の星 人形の顔 具合の銅 雛
浄土双六

漢の明帝の時天竺よりわたり。欽明天皇の時
宇佐大唐よりわたり。仏骨表白佛者夷狄
仏もそなたより。仏ものの神社
ぬりの名ちをうるにつもそてもよりうり
ものの名ちをうるにつもそてもよりうり

菩薩

むくの雲 星 仏 米 封ず文 戒律
女の像 涅槃像 誰生 苔菜 仏基
八幡 日蓮 誓願 額
大会の風小菩薩香会
九衆多羅小文
唐人著私の何りさまつ
都下の絵仕者の仮名
医者 牛玉のれ 源氏供養

法師

柳亦に強盗法師と号すも仏もとも。円大
納会法師の名つひ乙鶏丸とたにつ
出くまにおつり。病人とお祈しとそろ
おこのふりの話法師そ
古眼

医師 年号 世の乱 三位卒落
亦仏者なれ仏師なるの任そるさまわんこ。

自余の法藏人もてごさ御るるとぞ速水
師紹巴も法眼とぞや

法師 武者 亦仙 児 田系 ㋕馬
人數 ㋕家 ㋕ 根来
猿倉の執権

法師が母とゝ相云ふもの方夢よ法師ら歟
のそりくるふるまひくそ法師
ゐるくるふとゝあり。新のくるみ
みゝ宮居の法師も淨土宗にそぢずとゝへ
ゐも法師ぐ

法界 ㋕ 利益をくる矢 垂縁
旅籠鬼 ㋕ 向 廻向 垂
蘭盆供養
円頓者曰繋縁法界 二念法界 皆成神記
ゐ法界も縁の衣生ぐとゝ
ぐとゝや。唯跡陀ぐ法界 我心即是法界
なりと釈文ゐるとゝて

法樂 奉納 淨土
業平ゐの法樂ゐ
かなぐーとや。茶をぼぐに守をさぐる
も法ゐふとゝ

法華經 うくひす 狂言 壇 扇の化
物鋼の石 つき落 名香
なぜ女の 門の海
久ぐかの宿 若寝の山住 房時代定
七面の神 瘧 ㋕ 帷子 ㋕月
法花懺悔の功つもりて
ぐ智覚禅師ゐ法花を通
るぼ花経をひぐゐーとゝ

盆 菓の湯 ㋕ 石 ざのもり
毛那 ㋕ 菓子 帷子 ㋕月
十六日遊び 材木 會津
表門 ㋕ 捨 禁中
菓人ゐ花させるつる
し入てびゐーのがんするぐ
とゝみーゐ行ゐのゐ
ら入て七月十五日ゐほん

星

わうつさタ　かの元　冬の灯　螢
　冬の夜　雁　菊　時雨　初雪　霰
　冬の暁　霜枯　凩　水涸　神無月
月甲仏的秤　藤の花　針の雪　納豆病
象の疱瘡　名下　針の雪　納豆病
ふるふるとして星となるといふ唐詩に詠せり。流
星　月光ひかりくらき夜　幼の口
星二つ　星月夜　星祭　星すだく
すさまじ　星月夜　星祭　星すだく
初めて　星の名。犂星　星の林の数も
初めて　星の名。犂星　星の林の数も
ホクト
北斗　張屋　小野
唐紙

布袋

香炉　掛物　弥勒　禅寺
若い祇園会よ布袋山　布袋の出像をおして
の出いでの出像をおして
呼なるを　今絵ふ云本
写してそびやのやう
異名　二十日草　名うまま　冨貴草
ホテイ　鞦　大黒　恵比酒　図の絵　吾

牡丹

ぼたん　夏の月　胡蝶　猫　花火　てるわ
牛　獅子　白拍子　宝剣　連舞師
　獅子舞
　かしら　装束
牡丹赤者如醒　白者如月淡者如霧　殷者盛
折者如語　含者如俯　俯者如愁　仰者如醒　名
ふるふるとして星となるといふ唐詩に詠せり。流
星　月光ひかりくらき夜　幼の口
星二つ　星月夜　星祭　星すだく
すさまじ　星月夜　星祭　星すだく
初めて　星の名。犂星　星の林の数も
初めて　星の名。犂星　星の林の数も
ホクト
北斗　張屋　小野
唐紙

河わらそ。楊妃嬌舞、態西子巧笑痕とも
作也。牡丹芍薬徳山臨済と画花のおもり
桃灯（ホウブキ）　盃の臺つく杖

山茨菰（ホウブキ）

姫女苑
昔よりありつゝめとまてこれうくわさまぢかやうつさのはなるよ
そやうくうしをれりてくやすまくと冊波
もまあかやうつさろちくこれつべ。
なり。脇（ワキ）よくさ面まそれをみけい曲のくまり。
くくへ服のいてこを治ひとやうみけい蛇
ると云なくへはせわ蛙のはそのゆくり

穂（ホ）

芦（ヨシ）　稲（イネ）　粟（アハ）　黍（キビ）　稗（ヒエ）　粳（ウルチ）　糯（モチ）　蕎麦（ソバ）　蕎麦切（ソバキリ）　神楽（カグラ）

糸筵（イトムシロ）　わくまほくまつまぬとこ。
世話よ高い死ぬ並てくさくまもいれも思くよ
ひて流種ひろてくさくまもいれも思くよ
ゆう雨初秋（ハツアキ）雲峰のおくにほく。
ほふそれしと吹とくや。橋梵波提（ケウカンハダイ）ハ茅世よ栗（アハ）の
穂をむしりとる雀めてそ百生の同牛と

母衣（ホロ）

袋（フクロ）　樊噲（ハンクワイ）　敦盛（アツモリ）　亀井　伯高　杉板

端午

塀川　五月幟（ノボリ）　鯉（コイ）　武者　雛（ヒナ）の節句
ろやんとうとうひしつつさし
町の雛人形の前仗（ツヱ）うもろ
も母袋（ホロ）をさして
源氏ハ狩衣（カリギヌ）とも。平家ハ直垂（ヒタヽレ）
と云。橋氏の人ハ錦衣（ニシキホロ）とも。教経ハ母衣（ホロ）
と云伝へり

幟子（ボウシ）

刀　麻子　早わらび　踊（オドリ）
日蓮の伝記
煤掃（スヽハキ）　宝暦（ホウレキ）　月　入棺（ニフクワン）
晋の仲祖ハ家（イヘ）をおして帽子（ボウシ）敗（ヤブ）れて。小冠（コカン）纔（ワヅカ）乃
ちぐわつらぐしとやんらてごうふ伝のか
ぶるまうすと云。官人のうへハえぼしと云
細布（ホソヌノ）

くさの那（ナラ）　結（ユフ）う　塗（ヌル）の花
賤の女　宇治　布（ヌノ）　著市　高丈
越後

第市よりすべて三里いなるところをいふ
うへさうりをはやうかくてよしさゆゑぞ

蛇穴（ヘビノアナ）

三河の里二 擬 根 丸木橋 萩の下
宇津の山 擬 矢作川 旅人も手を折
杖木の穴をゆく蟻いと多し 細石一のこと
をもわかりかねたるにをへぞ
ことわざに いわを紀多方
この島小松の二本と多
ほりの 谷貝 天狗 衣手
洞 熊 岩山 樵門
塀

城蛙（シロガエル）

信濃 陣場 野菟 山芋 疫芋
金山 鉗取 土砂 刀の樋 赤楊 椒
水判 小刀の柄 目貫 狩木の釘 額
勺作 土の塀 の撰 數生もり 杵捨
すべて城下に場といふ 江戸大坂等にも
なり。江戸大坂等にも皆これのごとし。場代り
さうもあれ結て強歌とふ也。くし。數のおとし。先
とりふも場と活外の数場に用るのみともなる
ぞ。数城の仕ぐわよ地とかりてよすること

厠神（カハヤガミ）

唐門 蟹の穴 井戸 蕨餅 狼
京都 香盒 刀 鍬 鐘の銘
碑銘 鍔

墨汁（ボクジュウ）

目黄 鍛冶 いろふ及び
の方先。調子。五倫よ
入院 秉拂 方丈 彼岸 金貝のかぐら 佛
二枚屏風 床 岡山忌 茶栽 仏語
の湯の中 ごのうふいふ 教室 屋 お生 卓

梵字（ボンジ）

真言　刀服招　石塔　辛夷婆　西域（サイキ）　天竺　護（マモリ）　御守（マモリ）　経木　宿（ヤド）の木　伏拝（フシオガミ）　陀羅尼　種子（シュジ）　梨漆（ナシウルシ）　ここに大日の梵字をかくや　仏のほか光仏の代小梵字をかくそうろうそうろう　羅漢（ラカン）よ　手一経文に梵字をかくそうろうと　漢土（カラ）にて翻訳（ホンヤク）せしとそ

又故（ホウゴ）

屏風　腰張　禅録（ゼンロク）　彼（ヒシ）つら　狩の男の又故（ホウゴ）ともに　子のなさぬなかさらさらさんざんのなさぬ仲　係り延年の時いろいろ　ふるべしよかまり詞と　ふるかせどともいう

眠（ねむる）

二八月　軍の物　縁起　四季　弐家　義公　病上り　界（さかい）　世帯（しょたい）やぶり　墓（はか）　松山浪江と約束せしかうそうそうも　松山浪江と約束せしかうそうそうも

小面（こおもて）

寒の物　不潔　隠し河豚　皆下　竹田不動　侍　弘法大師　西行　兼好　勅書（ちょくしょ）　天下一藝（ゲイ）　弐色　能大夫　天下一藝（ゲイ）　名人　名字　名前　何人

廉義（ホウビ）

名字　訴人　名字　名前　何人　不化の法問　廉義（ホウビ）　入院（ニュウイン）　書（かく）　作（つく）　甲貴（コウキ）　大般若（ダイハンニャ）　百部（ヒャクブ）　百部（ヒャクブ）　廉義（ホウビ）

發句（ホック）

人　月見　花見　前途（カトテ）　客人　元日　夢想（ムソウ）　連客（レンキャク）　そのほか　小野（オノ）　陣場（ジンバ）　張行（チョウコウ）　新宅（シンタク）　祝儀（シュウギ）　発句（ホック）

蓬萊（ホウライ）　霄　楊貴妃　不死の薬　漢の武帝　姑射　藐姑射の山　除魅　蓬萊の仙薬　辻風　天井　緣の下　人魂集　同軟集　本綿　杓　茶筌　行灯　挑灯　灯籠　障子　扇　蚊帳　蚊遣　屠蘇　喉　鼠　猫柴　犬　墓　骨　灰寄　海月　字形　犬猫　男女　恩愛　紀念　骨壺　天狗　咸陽宮　雷　地獄　不動　天狗　浄土　浄海の宮後　乃至　後生　業　餓鬼　日本武尊　劔　鬼卒　餓鬼　上戸　笑ひ茸　月花　落　疱瘡　瘢痕

塚　辻風　おこり　人魂集　同軟集　本綿　杓　茶筌　行灯　挑灯　灯籠　障子　扇　蚊帳　蚊遣　屠蘇　喉　鼠　猫柴　犬　墓　骨　灰寄　海月　字形　犬猫　男女　恩愛　紀念　骨壺　天狗　咸陽宮　雷　地獄　不動　天狗　浄土　浄海の宮後　乃至　後生　業　餓鬼　日本武尊　劔　鬼卒　餓鬼　上戸　笑ひ茸　月花　落　疱瘡　瘢痕

骨　行灯　挑灯　灯籠　障子　扇　蚊帳　蚊遣　屠蘇　喉　鼠　猫柴　犬　墓　灰寄　海月　字形　犬猫　男女　恩愛　紀念　骨壺　天狗　咸陽宮　雷　地獄　不動　天狗　浄土　浄海の宮後　乃至　後生　業　餓鬼　日本武尊　劔　鬼卒　餓鬼　上戸　笑ひ茸　月花　落　疱瘡　瘢痕

猫　地獄　不動　天狗　咸陽宮　雷　浄土　浄海の宮後　乃至　後生　業　餓鬼　日本武尊　劔　鬼卒　餓鬼　上戸　笑ひ茸　月花　落　疱瘡　瘢痕

なめく　上戸　笑ひ茸　月花　落　疱瘡　瘢痕

ケンゾク
眷属のおちぶれとなるとや

名所 城 末代 上 戻橋 城下 勇
姫の 池小路 称念寺 秋 百首
秋 結界 院 洞亀 侍従 琴の上もと
ホシ ホトリノハヘ 伊勢
星合濱 伊勢乃海 源松 方
ふく秋
ホソルメニ
細谷川 摂津 丸本橋 高名 根の恋
紀伊
義心門 非のちひ 絵
ホリ カチノ井 武蔵
堀兼井 雑波 掛ます 歌 屋
姫江 按津 鴨 芦辺 五月雨 大江人
松浦み 東あ
ヒヘ ダル 拭もめ
あまも
ヘウ タン
瓢箪 酒 山椒 水游 頬冠 炭 山ぶし
ヘイゴ
靴子 清盥 川越 宇佐美の役
ムナアテ
胸当 伊勢

ベニ
紅粉 水仙 唇 雲 結髪子 香炉の口
夕日の雲 皿 琴 絵 紙づゝみ 陰のとりめ
クモガクレ
雲隠の光 紅粉 葦 指 人の厩
カクレミノ
隠蓑 鬼打 豆
疱瘡
雲隠の光ハ紅粉ニてうじたる人の厩ニ業
とぞ云伝ふ。女帳ニ
ヘダル テスノカン
お妾も拭もめるさまそ女のかざりなれ
ヘウ タン
瓢箪 酒 山椒 水游 頬冠 炭 山ぶし
ヘイゴ
靴子 清盥 川越 宇佐美の役
ムナアテ
胸当 伊勢

のそこもとそのお志をうけとるよ
とそこそこり

ヘンド
勉　里子　わらべや　浪人　牛
王　草堂　六歌仙　風俗
多き玉を虫と栖としてとうとき賢人の居給ふ所多き玉虫と藤人のわらはこそこそこそと蜂
丸てこそこそ。何ぐるひもきる玉ハやこそこそこそれ
ども天きるの舞ふのこそぐこそや

ヘヤ
勅屋　蜾蠃　化　祖母　供　着る
牛　酒味噌　味噌　病人
別当　門　子　扈従　侍
なる屋　社　接非遣使　義根
義池　義盛

ヘイケ
平家　上巻　物語　庄久　源氏　石塔　漢文
源氏別当　平家の氏神　門　義盛　伊勢　かぶ
附録の平家の氏神とや。字治に向ひ
平家物語

ヘンナ
変化　狐狸　猫また　化物
土蜘蛛　紀貫之　鬼神　鐘馗　源田森林　七人
七十二候の変ずる所くこそ名をかへて羊にのり
一紀貫之。紀貫之にて新
になる。荒和布ず野にもなるとや。学変化為龍
とも作る

ヘイ
普法　天狗　宰人　麻酒　学問
鞍馬の奥　去物のり　太公望
漢の祖
七書にわるの和訓古の普法とや。項羽必学

數日餘二人敵不足學乃学万人と云迄も兵法そ。雑久しい無沙汰もつてそれぢし。兎兵法とい盖なさたとへをいふそうや

へた下手

拙劣 長技 わるさ

ふしぎの下手人どころすゐの下手人をいふぞ。碁打ふ下手とこゐり

舌

弁舌

説法 弁士 雄弁 子貢 滑稽

返言

法問 目業 木乃 寐云 軍

礼 矢文 陳里 ぐでこそう

まに言わず於ふ考ふ新めなるもわりまこんぢ編につまわうも笑止とこそ。

鬼

驚 胡盆 粘 陰陽 刀 鋤 鍬

産 石 膏 茉 封 大皆者 永 檜

冬天ふ紙ぎとつるとわるくいく。外科ハ膏茉をつくる用ふ入てとけハ方の用ふろうの如

毎蒔

竜野 野菜 物之 植栽 芝居

旗 花の陰 普請場 物場

物洒もをとをくれい場ぐに退るりうそ於ふもてくるなあるそよ

腑

非時 土器 竈 鍋 釜 竿

肥ろくハ脇内と古書に如ろ。脇に土を塗て暑気を療する大成論に如ろ

屁ひり

老人 飽食 下冷 馬 麦飯 芋

蛇

鼈 虫 狐

室ごろ婦人屁ふを生ぢろ

蛇

盲 者の巣 鮭 蛙 蓋子 矢 天

堤 鶴 蛤 蝓 社 草村石垣人宛

銀杏木（イチヤウ）　山椒木　科人（クワニン）貴　雉（キヂ）　塚（ツカ）　杉木

彼岸（ヒガン）　萩　橘　魚山虎　狗衣の油

牧念　古文　茅花　紀ち草

いさすで魚うのず蛇とありて行とうや常陸（ヒタチ）産

鴻（コウ）　雁（ガン）　行生鴻（コウ）　雁（ガン）　のうそ赤ハ蛇酒

とて害生のあふ呑とうや洪水（コウズイ）の河ハ赤このね

にまひてある物とそ

魚名天

鱶（タヅ）　白蛇　平家　江魚　箕面（ミノヲ）

吉野堂の稲荷（イナリ）　巌流（ガンリウ）　稲荷（イナリ）　天川

鴻（コウ）に猪（ヰ）　目（モク）　立て必ず

額（ガク）

篠（ササ）　屏風　表具　田畑

装束（シヤウゾク）

窠（ミ）　造

翠簾（スダレ）

褥（シトネ）

頭巾（ヅキン）

表裏（ヘウリ）

侍　詩の家抱　縁尺

表裏（ヘウリ）

檜物師（ヒモノシ）

魚ぐ

魚ぐそ

魚ぐそ

魚ぐそ

忠臣の名八人同じ名ハ
葬の中八罪の軽重自
ことも也。神仏の在生ましまわれこなるも。又仏も外垣
あってもなくとハ弥ふたにくふ

土

トリ井

華表

ホ塩 枚村 湖水 私 古文 竜
織物 読巻 八丁ノ 火食 典でも文
天秤 かる孫四五 八橋じこの狂言 露
蛭 西の湖神八名所のうち石にくれのみとそ。幸
湊のうち名所石流絵るかしてなるこ。稲荷古
名所古狐こゆるとうやせこの石ハ宮
ろうづ

名

甲貝 肌 帯 苑木 廃沈 私
弥興 樹木 暁 関 栗畑 仮の首
名の弘ことそ文字を使ひ仏作り仏 計
いまのかりそめの名ハ。人生過
ぬくもり。又ハ名所の名ハ二字を
申の春とも作也

名乗

名のごとく
名乗人 入おのく

名乗草

すもみ 市 名所
早苗秋 浅倉人 関神
物沈花 二子産
数珠の梶 二子産 物沈花
葬礼の場に泣吟のめんく
非人を施行するもの
とり葬狩りの事
ここハつのつる

名の子

紙 餅ちぎる 赤飯 表紙
宮参 平砂 名所 越前

屏風ト册子ノ事ヲ書ントテハ越前ノ上ニ越前ノ上ニ
ふるそ鈔ノ図ヲ云ヒ。ソノ図ヲ云ヒ。
諸ノ懐紙ヲ汚クハ書ノミ云ヒ。天川ノ書ノミ
書ヲキタナクトゾ

巣 スス

稗屋 巣籠 椎込 風ヲ引ク 蛇

南枝 外ノ濱 伽藍 佛ノ肩

鷦鷯巣深林ニ不過一枝ト荘子ニアリ。コウコウツバ
卒粗ナ。鳥ノ巣ニ巣ツクル。土蜂ノ類ノ蜂ノ巣ノ
塔ノ鳩ノ鵲ノ巣ヲ始メ。鷲ノ巣ヨハ時ヲ
魚ヲ云ヒ。ソノ巣ヲ云ヒ。
巣ニアヤスノ員ヲ云ヒ。燕ノ巣ヨハ時ヲ
トリアハセ

鶏合 モヽ

桃ノ節供 くさ茶 お閑ヲ乞ヒ 相撲

うつ〳〵 鶏 雪隠

上ノ町ト下ノ町ノソノ三合ハ云ヒ。唐帝ノ
鶏ヨリ甲冑ヲ出シテ云ヒ。上巳ノ日ハ禁中他
洞ヨリ申ヲ出シテ庸後ヲ云ヒ

鯉 トヒ

辻風 嵐 鵜飼 鵜ノ鮎 焼亡 日和

雪 大舎人ノ棟 寝殿ノ縄 天狗 ひこ

虎

竹ノ林 うつき 狼 猫 ほのう

大磯 敵ノ七ツ時 敵ノ首 敵ノ名乗 敵ノ弓

雨 藪 捨子 玉 詩 風吹 石ノ矢

豊干 茶呑 津ノ鞘 鞍おかひ 悪鬼

敵 老行 弟中 石

ソヲ来ル虎ノヨリフルヤトコヘテ敵ヨリ
こんつるぎ大刀もう。改たしりそれ荒川ヲ越テ
去ーし虎トノコリソヲ来レ敵ノ名乗ヲ
わかう世ノ平。人ノヨリヒ
もの〳〵ろ〳〵なるらん。

わらこ〳〵ノヨリヒ
戸ハ成ノ餌トヨリ
トンボソ

蜻蛉

日本ノ国ヲ秋ノ
蚤ノ作ル蛇 弓ノ上ヨリ 際 金物

喉痺 鼻毛

蜻蛉 敷立 釣絲頭トヨリ 氷 蜻蛉 飛ヽ

にけろ〳〵ヨリ

らんたるものの。単騎、似虎柱杖、如竜。礼記苛政猛
於虎也とそ。蝮と虎とをたくらひ、虎の負て死る
といふもの是
ドブねずみ 溝川 田汁 鼠 猫 水口 狐
池
鰌 ふな 亀 うなぎ 鮒 鯉 鮠 鯰 鯔 鯊 鯒 鯉 鯰 鯔 鯊 鯒
ドブがめ
溷亀 たなご 暁月 沢辺 瓜雛 松尾
焼米 蓮池
城の堀 神田 蛍 蛇 鼈 河豚 酒
高瀬 ニコモ 菰のあるところにそ
のおとなひ
ドブ
毒 夷が矢 大蛇 竜 懐胎
如 茸 タケノコ 川ふち 石臼 蜥蜴 蛸 蝮
川ふちに毒をぶるといへども奥そこ
のひかるうを毒をふくんで死せり。趙王ふ
うを毒をふくんで死せり。趙王ふ
こられしとそ。病人に毒ざらう肝要
のよし毒虫あり

友

夜の雨 文の道 詩 碁 月 名花
旅のそ 書 竹林 蓮社
舟 後夜の鐘 女 郎 灯火 こね代の人 医者
管鮑がまじき附の交とのひ やうなき縁
とそ。女とするにたらさるの思ひ悪ねたみ
ありて。友義とふ我とえよりの齢ふたつ
にもあり。交其徳ふ盃をの如し。商の友蔵の友そ
同の友。晋の巨伯ふ友人のやまひをすくひて賊の世
めうにひとりあるとそ。山里にうき世やうんなも
うるやくるしきそうん

伽

トギ
産 病人 猫 猿 月 名香 たそこ
サンジョ
白衣 そうそ 猫
美旅人 遊女 焼火 焼 灸 わきは
刀 をそ 火箱
美松のうれ 神ふとひ さおそ
そのおくそのおくのおくにつ
ほまれも伽のて

さうくしうんぜんぜんぜ

そうじ又ふくさ 無房ふさ
袱の短根もとよりわにくるりてそもありぴ大公望八十あ
ーてう今日かわり後成ハ九十の例えそのかとそ

年の数

とひ 歳の大豆 九果 松葉
麻の毛先 百の歯うら 鍼灸
焼のすゝこ 如来の法 人とのふ 代物
うさぎの尻の穴 年の数 人の名 行燈
長命の符名 里子 学問
男女の和性ハ年とまりてそ 修験の天の岩戸の
灯明をもるゝハ年の数とそうろう 礼記ハ杖とひく
とのさまひ 酒肴もの 物にかりて 差うひと
附うさ 仁義をわ 酒のまの
ことわりそ

灯

トモシビ

吉日 神社 法行 学の文
聖灵棚 人物神や 月待猿 賞
さゝの花 もゝの乱基 狗私 狗侍 花
源氏の月 夜の虫 鰡狗 鰡狗 狐格子

業平 藤の浪 源氏 行燈

芭蕉 岩の浦 あ母の捨子 涙の橋
白髭明神 山嶋 猟人 峯嵐
忠次 郭公 野寺 追儺
吟対 長安雪夜灯 挑尽長安半夜灯
にくゝあら祇園のひろめ
とうや禁中の女御い火とう
とういうりとうとう。刀の
みそもろも火にすうすそ疱瘡
灯籠 炉路 春景 送葬
大津の浦 辻 遊廓
小松のかく 門松 高野山 高野
淀の橋 北野堂 中山の宿 踊の場 春日
社 手水鉢
出の舞園のかぐらの灯籠
お祓ハよ 灯籠とうろ
どもの 提灯 ぶら灯籠
満まつりよ 灯籠

灯心（トウシン）

こまろう 目うつ（まもる）の名 ねりね
切疵（きず） 抹茶（まっちゃ） 近江の八景 茶系

竹の根

人の長数小灯心（ひとのながさをおもうとうしんの）
ほそきよとそんじて縄（なわ）とこらゆる

木賊（とくさ）

そのそく山 秋の秋の月 狩衣（かりぎぬ）の名
根（ネ）をえの山 猪（いのしし） 楊弓（ようきゅう）の矢 的（まと）
釈迦（しゃか）のあしあと 抹香（まっこう） 沈香（じんこう）の名
唐木細工（からきざいく）もくそく ぞう 楊（やなぎ）のいろのもみぐらぎ
し。 ものもみぐれおし 月こそ秋の名所（めいしょ）
よろ秋の色ふうゆるる

床（とこ）

かくそく枕 ひとりね 家（いえ）もち月
おなり小町 そひ川 琴（こと） 月堂（げつどう）
さうす 萩（はぎ）の名 草（くさ）の名 早（さう） 久保（くぼ） すこ
久井（ひさい）野 ねぎ 柔（やわ）つが 麦 ねぎ ろうづく
ヒバリ雲雀 当（とう）麻 寺院 赤米 茶
カミユイ髪結 旅の荷造 男根 網代（あじろ）すき 巻
着（き）いる や 笠（かさ）死 掛（かけ）物 盃（さかずき） 出初（でぞめ） 箸（はし）

祝儀（しゅうぎ）
初（はつ）あめの家（いえ）は本名（ほんみょう）にもみそ
り若（わか）の祝（いわい）会（かい）ーみそ。
ぬく宝来（ほうらい）の神（かみ）」もふ。
宝（たから）づくの船（ふね）に乗（のり）こむ。
中（なか）ともあり。振（ふり）袖（そで）屋（や）

隣（となり）

タクなの宿（やど） まちうき 町（まち）うび 科人（とがにん）
頃（ころ）三（さん）月（がつ） 火（ひ）うそ 孟母（もうぼ） 風呂（ふろ） ととい 親子（おやこ）
南（みなみ）のうらぶ 棟梁（とうりょう） 山（やま）うす 笛（ふえ） 姑（しゅうとめ）
おてもり 人（ひと）をころ（ひとをころ）ん ころ（ころ）ぬ
ひるね。風（かぜ）をひく 隣（となり）の寡婦（やもめ） 戸（と）をたて（とをたて）入（い）ざ
ーい古の賢人（けんじん）。 ころり（ころり）客人（きゃくじん）のもとて 酒の上
に酒肴（さけさかな）をほい 朋友（ほうゆう）のおとずれ。 ぬすびと
ーとをとって（ひとをとって）ーつ（ひとつ）ーつ（ひとつ）の名（な）ーそかこうじ。里人（さとびと）の
ねとをつて（ねとをつて）ーつ（ひとつ）ーつ（ひとつ）の名（な）ーそかこうじ。
ねとをつて位置（いち）いろ（いろ）ーそこ（ここ）ーそこ（ここ）ころ（ころ）うえ（うえ）られ

問屋（とんや）

市（いち） 赤（あか）ひと条（じょう） 馬（うま）
唐松（からまつ）の入津（にゅうしん）よ 表墨（おもてすみ）

ぞ。[illegible]の岡屋にまくひの素をうることやする
野びるよも岡屋村すると。二階より岡屋よがさり
うるものり

常圓 トコヤミ

岩戸のひしを拂ひ地獄
圓の灯滅り くすき量 盲目
ふを
夏山の木の下闇のめもるくに蓑もわひぬ鳴蝉の
まねか月夜に拂ひびうずや。俄羅ハ日月をめぐ
つて圓となすとや

巴 トモエ

彰の尾カラ 太皷 木葉のあひの 紋示
宇津のや 宇佐ウサミ 俤義 三笑圖 波
三河の柏カハ 未色刀
肩間ケンカン尺の首と釜ふ入て蓑さる巴のてくまわさ
おしてそ水成巴字ウヅ初三月ともり人のひなるさ
ふ巴江ハカウのふ巴のなものでくうづのまくとや

壺山 トウ

菊 旗 海鼠 春 武義智 紀の海
鷽スミ 松 森の巻 名寄 亭 宗

山遠雲埋行客路と顔淚ふるそ遠景金貨神ノ
富トミともとうつるにまうろうわそりたいきふ山をふ山
とあり壺山に近くなりてふ山にたくうり

卜山 ボク

栗ぬりづくり
楊 約ヤク 籠 宗鑑 昭潤
冬ふく雪ふりにわりにわりなる伊吹のとふ山
雪ふりぬしのふもわれもふるにまうろうわそりたいきふ山をふ山
卜山よ家ふるふ山のふもとふ山にたくうり

遠乃

友のまろ 莫臥の旗 入唐
わりぬ中 極樂 鉄炮テツポウ 淀大
礼ふぬく 借る 満汐ミツホ 日暮 船腳
惜サリにくき 磐田の橋 山坂
氣凄千里蝿附驥と山谷にまもをふこ。遠上ふ
寒山ニ石徑斜ナナメと絶句にのつ。ふをこ約うちや
めり旅人の袂も拂ひとふ。ふ川百首ふ
泊トマリ

泊 トマリ

泉 田舎客人 宿札 濡 懐妊
延士小泉 下り坂 鈴田川の秋 鞘

紀氏ぎく 病病 泪 漬物の桶
木末 こずえ 焼亡 流木 鶺鴒
乃中大兄 傾城狂ひ 梢の名
連歌 夕鶴 竹のすだれ
旅籠屋 せめ合仏 梢のすだれ むに蝶
釈迦 ものもうや 漆 ものもうや
尊のそえもの 生ぎもの 傾城
晩 ものもうや 漆 ものもうや
いそぬよ ものもうや 漆 ものもうや
いそぬよ 博奕のつりあとや

戸

座の名 まろうどの宿 人物 波斯奈 国 茅葺 谷棚 鳥居 菊風 義会
刀 剃刀 泥厨子 巻 三年物 関所
仏壇

鯨波

鶺鴒 梢子木 太鼓 叩く 謎
切らの経 沈没の酒 松の秋風
焼亡 消す 修羅 鐘 撞鐘
辻相撲

狩場のせこの山ともろいな
歌 けもの 大敵の落城 万歳 ものもうや
虹梁 とよんでいさおしてい
いうこともものもうや

花火

尝 表具屋 太刀打合 笑
栗のまる焼 ぶち ぶち
しもうそそ 塩硝 義 ものもうや
つきそそ。帝釈 隋兵の
とも。 御 ぬむ
とぶべやいべん

草（トチ） 猿涙木 屋根ふく

蘚（コケ） みそこな かこい蘚 甘酒 女三人 山路 女三人 蘚汁ハ蘚よく蘚ハ蘚ハ蘚ハ

う羽二重をもてるあいねこのそこにうをかふ飲食もすくまねばいろわりくるぞ

元治 トリサタメ　百性のあ絡　七十六日　娌入　お樸の約束　盗人こうの君軍塚の鳴うごくときそこそこくさ星やうのおわるく〳〵時人このおりてなきふもあらず。成人のその性のよろこもろもろさい教えとんぞしやきおのなりよるもろもろ人にあわれ

時ちくぬ 寝　亜咲の花　俗の都会　みづの香　謎　詩に未明先見海底月　良久遠難方報農　と。又寒岩四月始知春と俗もうも時ちくぬ公のしかしぬ時ちくぬ人。未練の立ち　なるべー

元る 連方　主の系　訴訟　蝙蝠　似銀　炎魔の聴　猟師　堺目　人妻ノ　科　不孝　悔改　謀判　杖不　云なる　科　殺生　盗人　ふる場　科というやうのひとそれくらいの若うんと　ちるれちる時に拒そのひとそれくらいの若うんと　ひまつく人のろのうぞやちるあわ活如。

徳 トク　南暮　改名　初の上ま　おほくる　仁義　変人　恩　業　酒　私の　価のるさうつわいは活し山ろも近さとろわちろ　いはし入れ善悪いわやうきおぞ有陰徳陽報ともいう

どろぼう 里のの犬　関不　書不　稼り者　落人　盗人　朴　文和　表這

松茸山　花打　城の門
[illegible]
[illegible]
[illegible]

前路と閉ぢもてきり

こひろ

鞆口 客 そこぢや 名 鞘
豹にあるみ わく源の私 旅人
滝川 もやる もる屋ね 開本 自害
服中 疫の血
後漢侯覇 ところんとて百性老ル車轍よふ
ふるいろふなん。嵐の穴ふるけばとまれた酒
めでとうるうは名誉 とうせなそし 漬経は磬 とうてくるっと
ふりの 矢数 射数 達 矢数
惟ての汗 人 初商 心中の程 念力
倫 偏 河の辺大臣 覚 喉
ふりの 名月まめ 経一部
の矢わつさの塩うに。 矢の根のみてくにろくくく

飛入（トビイリ）　桜（サクラ）　酒士　狂雅満　庵の花の神
集錦根葉　名の綱　春の霞（カスミ）
数枝の中へ飛入てから笠人の飛入を。歎かずして飛入るもの飛入てるあり

十日

雪代の頃　やまとひ花　三月　町汁
鶴川（ツルガワ）　初桜の市　八月　江戸（エド）之条　九月
下名羽　九月　維丁舎　十月　此の歌の經
清水の日条　七月
六月より九条八十日のうち七月十月清水のみ月
条又古今のごとひ後とて条々ぞ月の十日ぐ
くのごとく　十日わすれ月ぬり　とて表仮日記
にもあり

名所（ナドコロ）
泊瀬（トセ）　城川（キノ）　滝岸。　姥松　紀条

みよし野　嶺（ミネ）　月（ツキ）　雪

名羽

同山田法里　難波　堺
伊勢浦　大江山　厩（ウマヤ）　橋（ハシ）　淀の渡り
やまとぞと　丹波
わやめ　河内　宮治　早苗　四條（シジョウ）
高濱（タカハマ）　住吉　こいづの橋　作者
名経院　横大路　竹田　車借（クルマガリ）
糸井の古名　松　恵（エ）良（ラ）　ひぐらし（キリ）
雀　鶯　いもま　初雪　麻菴院
城南寺（ジョウナンジ）

常名

同山杜里　梅　松
紀条　麻　楓（モミジ）　萩（ハギ）　牛（ウシ）
あの条　小山　仁和寺
妙名　落（オチ）葉　落葉の舞べ　軽蜑　桂
萩（ハギ）　柳　萩（ハギ）の大和山ふもと　心

葛城井の姫君心
トリへ 日山野 鶯の
多武峰 乙女 すゝ虫 萬のうら葉 神の末
戸をわくその犬 猿 墓原 大石 清み
狂りも 八坂 ちゝろ 大仏
梅尾 日 某 春日の社 ねぐら
月の陰 梅が 梢 土砂
東寺 日 尼寺 羅生門 二王門 片陰 着
多羅 蜜 傍 三月廿一日 夜叉神 八幡 羊
いかりの神 蓼葉 太和 野原 杜 野守
飛火 晴蛉 菫 蕨 萩 卯の花 梅
鷹狩 雲雀 螢 奈良 春もう 郭公
多武峰 羽買山 雪の下 葉 雉子 嘗 初
衣手の雪 わくごの れ 童のうづくまり
紫のかげ

十津川 にうの 滝の渕 芋の蔕
芸坂 大塔のそら 熊野 春加茂 湯滝
豊浦 日 うづくまり 秋の月 花
禁の紀念 尾 紀念 ひゞり
紫のかげの 初の夏 浦
竹 若 ちりぢ 池
十市 トヲチ 日 里村山 歌 衣うつ 月 白菊
象山 萩 天のうら山 大和川
花ちりぢか 掛いる 雁 屑
みちの縄 みちの 入日の影 敷妙
駅
富小川 トミノヲ 河内今ハ大和 某代 雁
ワゞ大若 竜田のもみぢ
紀の国 法 ふもと 猿人 ほのぐらの
みよせ 法の海

遠里小野（トヲサトヲノ）　扶桑（フサウ）

（リウノ）　松　ささげ　朴　麻　花の白き　房り

花すゝき　檳榔（ビラウ）　花すゝ衣　蜜　出

子育すゝれ　ろくび

敏馬（トビ）　下同　崎　磯　冨嶋（トモ云）　舟

寄　名（ナ）藻刈（カル）　野鳴りさゝき　わが衣

風ふく　妹（モ）　洞（アナ）　宍（シヽ）　峽　多き　詣

鳥養（トリカヒ）　下同　ふみ

鈴の音　ねき

名（ナ）兒（コ）の海　近江　床山（トモ云）一説二奥列

名（ナ）兒山（コヤマ）　大上（オホカミ）　名取川　いさや川

外（フス井）猪　岩つゝ花　鶏鳴　業（ワザ）ある　春

旅寝（タビネ）する　松　多き月　なく　氷（コホリ）　橋

わたの原　漕出る舟　跡

常盤橋（トキハ）　下同　一説奥列　萩原　神名月

名ある人の家　松

利根川（トネ）　上野　苅　石ひし　鯉

武蔵別当実永会者共（アハセ）の次第

瀬死　記井の十郎　陸奥　浦　すゞこ　鴨のうぶ毛

十府（トフ）　陸奥（ムツ）　浦　裏（ウラ）　多き　浜　田

秋のくれの月

鞆浦（トモノウラ）　絶ね　わたる　ます　わたらう　妹

わたる雲の月　松のま　浜の松　海士（アマ）小舟

遠江（トホタフミ）　名の根　浜松（ハママツ）宰相（ミヤウカン）　掛川（カケガハ）葛布（クズ）

揚和布（カヂメ）　西坂（ニシサカ）葛餅　菊川酒

荒井鹽　浜名納豆　天の根　作手中山

濱名の橋　名師山　久波　枕名古屋　名越山　漫遊　家戸　日記　業波

太作

狗猿　鰹　材木　一のそ　大栄餅　猿貫　畑　海轟　汐ら萩

知

千代

古々　その日　松　寝覚　契歌　そ初ふ　花　さし名　いそ物去　ちく枝　そ代まで　そ代もめ　の山ゐ巳の風　ともよめり

多易

チ　イロ　海　秋の末　花　竹縄　切疵　伊勢の濱　濱

我門ゟ　伊勢物語　ともよめり　ともよめり　ともよめり

田舎ともいえそうにもないそうかといえばそうでもない
その花さえ咲いてくれればの意
の花さえ咲いてくれればの意

千里

限なき空 月 虎 紀行の涙
千里鳴 大江氏 一歩
石をめぐる 恵

千里をのぐも親なき子もなし 風も表
千里をゆくもとどまるもとの意
千里のかまでおびやかすもとの意

千話

述文 傾城 酒盛

秘の奥
それの話 二神合巡 國柱同會 一面
阿呆まわり 花 巫山の神女長生秘
のさまざまの話 たくひぞ。そこらの
お安のようせられとも
千早振 神楽の鈴 白木綿

千年

松露 松の葉
兎糸 別 汲ゆく袂

千鳥

入江の月 霜夜 芦の中
姉うの通 芦田鶴 泊り舟 居るの一糸
橋立 小海 大井川 井堤の湊 吹上の浜
玉川 鳴海潟 うらまち袖 浦波 松風
すまの関 天の川 宇治川 湊鶴浮
酔ひわりく 屏風の裏 岩の洞
鳴 毛衣 松島

万葉にちどり神のいくまもおしけつ
ふとまものんびちどりの里に
雪中深し 松のそよぎ

於内裏関千ちよ云遊中
まつ一文の関よりみる時ハ
の文ゆけい松もつらなりさ
ありつゝの海々をくらくもり
門よりみる志びのく、もきよく
きよ方余ゆるり 異名 雲雀

鋤鍬 細工 多賀 結構 鞋 四の橋
多賀 結構 多賀

畜生 十界の畜
頃城屋

地獄 浄土双六 耳なりら 乱おく
残夢 宝山 地獄絵図

地震 浄法 雑 義の中 庵原
方丈の記 汽の行幸 改行の

月連 結城入乃 七月十六日 有るの名

地獄 第三云
気地より入て動ずるとの事。
もるて勝くるり。永行の法師
ゐく死せりとそ年代記ニ
う云ふ安元ニ京中に
地獄 畔 畝 溝 双 疱瘡 竹垣
生垣 土竜 礎 山田 畠 塀 松
洋中とり舟もこハ行のつゝ

のわざとしぞ。約基菩薩も此この場から礼ぞ。
味をもくちうつる易牙がのこりとの里い義農と近ばの場とうや。行いを
のうらの裏に乱碁小田のやちう徹謡
比論
絹染百性川うけ堤
城塚とう面へ矢の称をみござ茶をたくちゆ
もえ来比をわくそうるぐ村う里く
新そ陸も仇のくそうやや。
うひなめをひ人の塚をつ比も比を論
う
比義
壬生わござ老の仮園
かだせん菩薩沈山科伏見多羽
常栗五七日おう
比義込めて藁をする砂石集にそそう。
和仮名の娩が比義を伝向一名れ歌のうに田
菜
元月仏茶初がつ 秋名矢面
新の日彼岸月さう酢さう
漆久弱う鯉なさ祖母素うござ
食は魚ねみさ
枸杞大事ら梅の尾趙州毋波宇治
茶能散闷とうみもくまそうひ嫂そそ仏わざか
ぬうや陸羽とえ人いくそ茶と飲うをうゆよ
茶をひそく茶の形を作りて参じとぞ。東坡
煎茶歌蟹眼已過魚眼生鰓々欲作松風鳴
と作り。陸羽の茶経わり。盧仝が茶歌わり。娩
祖父いく飲めくまのの者茶をのうばうけふ
なうとうひ作くう
菜屋
松法作法焼豆腐祇園小野わござ
焼豆腐うれめわござ
渡茶の通称仏のえん月

清澈　伊勢の明星野　四条河原
夜の納涼　下座敷　縁の盆休
のがり坂に息をきらして　海を前にひかえてうるわしの
会仏寺　浄福寺　極楽寺　祇園祭
庵室　ひのくるま　神輿の人を追ぞろ　湯尾峠の茶
屋　疱瘡の札　もし宮の茶屋に鞋を買
ひろへ

茶筅　センカミ

極楽　結髪　鉢扣　大津松
畑枝

茶碗　ワン

茶業　仏棚　墓原　公家
手厳　う馨　伊万里　長崎　瀬戸
放下師　湯漬食

挑灯　チン

天満祭　夜ぐ　送葬　月代　袴着　躍
強盗　盂蘭盆　おづく骨　津嶋祭
大晦の夜　茶屋履

老者　おいぼれ

茶子の調　月盃　舎僧坊　三宝供養
門前の乞人　墓　宮　三条通
上京の長者町　東寺　山寺
屋一の乞食　下宿の亭　寺の坊
人の家の柱にも者ぐらとかき。
うの長者の智恵にならんと鼻ひるる附中
うや者尚いわんや

父母

那波波流多の奇　死の後
さのの尾ま　吊ら　墓
顔後ろ父母のみ守をうて支ひをさそう菩提
悉い父も母もかくとやや。浄飯王や文比摩
耶夫人を母として救迦も。乾為父坤為母とい
周易の語へやそのうれるぬくみのあうけいなり
とぞるふ母うぞわふ。

勅使

教を退治
法社のなる幣　入院　伊勢九迁会
祈り　堂塔の供養　王伯うと　天佛
昊社　因幡堂額　虚山大会　小野治
養老の滝　白鷺の祥　小碁　文妾の母
名僧賢人　霊芝の瑞　楊貴妃の死所
うや姫のうえ内をはじてえせのひもも出門
ろぞじ。きりつめのお衣の母のうえのきう
姫まうろりまのい出ふうの切りわりまや衣口の
衣の勅使としてすうびうの冠とゆうとうとう
御方り

児

桜満山寺　文殊　紙園うの鉾
乙家　門跡　ひえの山　三井寺
仁和る　天王うの舞
長老　老て母
ち院の法事堂塔の供養
人の供をするうち。桂戒律師のおまひ
物うとうや。老母子ら嬰児のたつれ二歳ふ
ひをなくふしし

中間

二仏　耳かう
人足　塀
出番待の時石をうのまま
うち物場みくせこりさけぶ俗うや。
お陣たびよびこわ時ふうさうけて傘わや
し。系勅の上下うい荷わをもし

力

佛弟の加護　車弓
二王　仏法　象　川童　桐模　風
るてこ　病人　ち息　紙ひ
牛の角を按ふ　盂貴こ。千鈞ふく固い夏月

とうや。山を按んとの比、項羽門をやぶり、樊噲(ハイ)が止もいまず、して天地を動(ウゴ)かすとも、和(ヤハ)らげ治(ヲサ)むるは伯王のわざ。南府の蜴速(クエヤ)野見宿禰(ノミノスクネ)那都羅善雄(ナツラヨシヲ)が古の大刀(タチ)ぶりも新(アラ)たがうぞことのやう前(マエ)のやうに思(オモ)ふなかれ。ぐり纏(マト)のまゝすわりたちも思(オモ)ふなかれ。よ。牛の力が貴(タフト)ぢやと云(イフ)。鼻(ハナ)の力が貴(タフト)ぢやと云(イフ)。猫(ネコ)の力が貴(タフト)ぢやと云(イフ)。をぢめ、力つうとも云(イフ)。鼻(ハナ)の力(チカラ)も貴(タフト)ぢやと云(イフ)。つうくゝ

智恵(チエ)

文殊(モンジユ)　舎利弗(シヤリホツ)　客(キヤク)　下主(ゲス)　女(ヲンナ)

日本(ニホン)　外(ホカ)　道(ドウ)　筆(サン)　非(ヒ)　猿(サル)

年(トシ)寄(ヨリ)　鼻(ハナ)の先(サキ)

猿(サル)の智恵(チエ)も貴(タフト)ぢやの。福徳智恵男(フクトクチエヲ)もそうぢやの。弁(ベン)才(サイ)天(テン)も弘法弥陀(コウボウベンダ)のその号(ナ)へ。智恵(チエ)ひのでゝ(イヅ)ゝ偈(ゲ)もそうぢやの。

沈香(ぢんかう)

拵(コシラ)へ　打(ウ)ち　入院(ニユウヰン)　名(ナ)ら(ノ)夫(ソレ)　雷(カミナリ)

仏(ホトケ)前(マヘ)の沈香(ぢんかう)の薫(カホリ)の事(こと)。

しくる。隋主(ズイシユ)ハ除夜(ジヨヤ)の統香数車(スヂヤ)をたくとや。わらひ草(グサ)に焼(タキ)ぬ。ぬくしき衣裳(イシヤウ)のけうらし。一性(ヒトヘ)烟中得意九衢塵裡(クヂ)倫閑と山谷にいでゝ。

丁子(チヤウジ)

灯(トモシ)　練(ネリ)　薬(ヤク)　漆物(ヌリモノ)　双(ヤマヒ)　枕(マクラ)

風呂(フロ)　行(ユク)

くゝひらにもぐりこむ。

へゝや。奈良の人(ヒト)は口合(クチアヒ)雑古香(ザツコカウ)手握蘭(テニギラン)と職原抄(シキノミナモト)にあるの。鼻紙(ハナ)も拭(フ)よなうなりうそや

帳(とばり)

勅(チヨクニン)を　惟子(カムヒラ)　軍場(イクサバ)　市棚(イチダナ)　向屋(ムカヒヤ)　名(ナ)乗(ノリ)

桑句(ソウク)　番(バン)　礼者(レイヤ)　初寅(ハツトラ)　乳母子(メノトゴ)　念仏講(ネンブツカウ)

伊勢講(イセカウ)　祖師(ソシ)　開魔(カイマ)　普請場(フシンバ)　蚊(カ)

商人(アキンド)のこゝろもちでござる。

此(コノ)ものゝそうそうしさ。梅花帳(バイクワチヤウ)芙蓉帳(フヨウチヤウ)

とゝろ。山中鶴帳依然在(ヤマノナカツルノトバリイゼンアリ)天下(テンカ)の無双(ムソウ)何無(イカンゾナキ)とも。

そうぢや。改(アラタ)めて科人(トガニン)とゝろ。

知音（イン）

琴を彈（ダン）傾城（ケイセイ）を云（イフ）

契（チギリ）

乳（チ）

血

血をかけると盃子注にそそぐ。坤卦上六龍戰于野其血玄黃云々大指之意熊野俗をたとりものがたりにそのことを

粽

肉裏 わすご 端午 おやの趣

有智山

有原 のかりに角の風

かさちまきをこしらへてくふ。ぞうすいにたきこみてくふ。ぞうすいにたきこみてくふ。ぞうすいにたきこみ

かり後の山そして亭とわげてをきたのもめ
ひなへのる樓とらへ和のうくひなるべー

塵

琥珀 ほせ紙 充安 赤花 趣
炉海 桂 圊浮 溝 お蜈 罪
市場 常夏 大海 えひ私 笹ふくへ
砚 形の指 四辻 ちびひ みびひう巻
塀川 細工 形のわくべ うふの私れ本屋
系栽 焼茶 綿 体 方 穴 あげ
えび代いる伐ふてこひかうちものの白えう海山と
なるまで。そのとの紀うごのこのこにかるちものと同ふ
えそこう世とふうらやお今の序にえることもまち。若中有道隅ノ
このちのひうちふうとうえ塵埃ともいうぱ盗ハ二
塵埃とも。孔盃盗跖倶塵
武家の塵芥ニ

ちらめく

風ふのえの天 覚天 多趣
同分のお 毕の書 名紙
箔 笹尺 蜻蛉 えのの分 幕 簾

らずぱうそうえう。小紙よらくめし。ふ事もう天
のみぢちうう八十八夜のまのいふ事のえちぢし。ぞ。
蛸ハ蛇にわのてありし。蛇ハ蛞蝓
蛸ハ煮てちぢし。脂病りのいふうぶちしえ

ちぢむ

髪 編 布 もむ 蛭ふ塩
炎天の筆 裙 わくひ 皺
毛縄 華

えうのうえうえふ事のみぢくふ。かのり馬械ふ
くふえうえう八十八夜のまのいふ事のえちぢし。ぞ。
蛸ハ蛇にわのてありし。蛇ハ蛞蝓
蛸ハ煮てちぢし。脂病りのいふうぶちしえ

ちびる

筆 雲 続 もり わらだ 梓
趣 楊枝 砥石 錐のさき
概 ごうつく 杖 鋤 鍬 くるつさ

羽衣とりてなづる石ちびひうなるべー。服治の
殺虫も幸久しくれいちびうぞ。木挺のえも安く
うえうれいちびうしぷえをえ擂掉も力車の指
年月とふうえうみぷ寸の鉄れ石ありてうえ
ち安えうれば

遠（ナガ）し　和気業勇　棚元　約束

門も閇（ト）ぢ　目前（マヘ）　天地　奥深（ヒンフク）に

雪絖（キセン）　尺とつゞめ　善女　学法　栃久

文字　目利（メキ）　夏冬　中有（チウ）の

川漿（コノリ）　紛（マガ）ひ

中有の闇の長き旅路とひとしうして　寒うひ

ねもすとぢこもりてあるこそ　すさのをのみことの

うらさびしとなげきたまひし　ことのこゝろを

ゑとくべき　人のうまれ　死（シ）し　釈迦（シヤカ）　脱（ダツ）た

近（チカ）き　つらね

連（レン）ねたる　合（ガツ）　あの月　火（ヒ）う

極楽

薄尺も淡雪も塀（ヘイ）のうへ　耳（ミヽ）

ひとつのこせりぴつらぢ　おりいをりて

富士のふもとのゆるぎの　ゆりの　ゐ

にちそれ　ぢ　宮殿（キウデン）のそこ

りひとしき上人（シヤウニン）　陸（クガ）の

ふにゃふにゃしたる

花宴　家の

散（チル）　おんの松　埃（ホコリ）　焼火　雲

風（ソヨ）　曜（ヒカリ）　蜂の子

金殿（コン）の松かぜ　ねむ　扉（トビラ）風　屏（ヒヤウ）

うたゝねの　茶　灰紙　駕籠（ノリモノ）　退（ヒ）足

こゝろうきまゝにうそぶく　柏（カシハ）木ちらほら

さくなんどもあり

和（ヤハ）らぎ

わらび　移香（ウツリガ）

あまのうこびすらん　情（ナサケ）の袖　交（カハ）

ふたゝびかへりてこゝろ　ゆるぎ　鼻（ハナ）

くれども　鼻（ハナ）　ゆるぎ

近（チカ）づき

わづらふ人　極（キハ）まり

そろふ　役

近之則不孫（シタシ）遠之則怨（ウラム）

人の交は醴（アマザケ）のごとしとぞ

ナムとハ二なびくものなり
名所

小代右道 城
さゞの山 若草 芹川
松 名句

小夜松原 近江
五代 花八十ノ石 若ノ代 百ノ也 露
伊勢ニ紀ノ二 契 日ナ武ラ 玉ハ
岩根に訓ル神 まさゝ 松

小夜濱 紀ノ海
その海 貝ひろふ

小夜ノ中山 丹波
丹波ニ若ノ代 榊葉 神ノ代
岩根に訓ル神 まさゝ 松

竹生島 チクブ 近江 或ハ筑夫嶋 みうとも
弁財天 志賀 白蛇 ヒゲ
仲算ノ祀ル 紅蛇 クジャ 紅童 赤色ノ女ノ心
三ノ世界ハ眼のわたり 十二因縁ハ心の表
入江 秋 わたり 信濃 又在常陸 さゝれ石
名ゆけのふ 葦ハ葦ノ 蓑ひす岩
城のふもと 合戦のふ 岩ノ苔
六条河原院

筑摩川 チクマ 信濃
入江 秋 わたり 十二因縁ハ心の表
名ゆけのふ 葦ハ葦ノ 蓑ひす岩
城のふもと 合戦のふ 岩ノ苔
六条河原院

千鳥ヶ塩竈 陸奥 或血腥 略
千鳥 肥前 或筑紫ト云 鳴
みちのく 名所

龍

駒灯　象戯　昇　杖　岩魚
蛸　流砂川　猿沢の池　狐
神泉苑　河内　天のかご　羅漢
仏の弟子　勝四郎

利

一夜川　三池紙　洪武銭　三条鯉
三池紙多　海苔　塩鴨
一夜川　連尺の里

龍

駒灯　象戯　昇　杖　岩魚
蛸　流砂川　猿沢の池　狐
神泉苑　河内　天のかご　羅漢
仏の弟子　勝四郎

利

一夜川　三池紙　洪武銭　三条鯉
三池紙多　海苔　塩鴨
一夜川　連尺の里

龍

駒灯　象戯　昇　杖　岩魚
蛸　流砂川　猿沢の池　狐
神泉苑　河内　天のかご　羅漢
仏の弟子　勝四郎

利

一夜川　三池紙　洪武銭　三条鯉
三池紙多　海苔　塩鴨
一夜川　連尺の里

龍

駒灯　象戯　昇　杖　岩魚
蛸　流砂川　猿沢の池　狐
神泉苑　河内　天のかご　羅漢
仏の弟子　勝四郎

利

一夜川　三池紙　洪武銭　三条鯉
三池紙多　海苔　塩鴨
一夜川　連尺の里

八珍之のたぐひぞ

利根 リコン 猿 猴 キツネ ひとり子 参也 魯カロ 魯カロ 魯カロ

不言而信不花而行くいひ〳〵世人今の孫後句ろ
べーぺの畔をあるそひて間田うしろ数もあるべ
ろ也ぺ賣買の市人も律儀なるに法師さへや
鈴（リン）　**花**（クワ）**稗目**（ケカリ）　**敬行**（キヤウギヤウ）　**歩の者**
釜の湯　**讀經**（ドクキヤウ）
葬（サウ）礼の飯経は法事のあと廻向し坐人の
とゝりとすゝむる時耳のそこにせてあるくす。壇
をかざり護摩（ゴマ）を修するの祈禱（キガウ）鬼行（キギヤウ）を
の場にうちのし行ろ
利口　南人　**邦家**（ホウカ）をうのくす　**狂女**
后妃（コウヒ）　**盗人**　**讀経**（トクキヤウ）
入札の法（ホフ）ろ番（バン）待をか加かるとき利口ありて
いろものぺ。平花の法門自安出元取取るこ
おちのそ利口のそ。亜聖（アセイ）の矢をこのまれ
うもつゝゝもぺうもぺ。　**車場**（クルマバ）　**名僧**
臨終（リンジウ）　**老**（ラウ）　**軍**（イクサ）　**高城**（タカギ）
鳳雷電（ホウライデン）人のうのほう
往生もふの初よりへ毎日の勤行をさのつけ
霊山（リヤウゼン）　佛の說法（セツポフ）　そこ　岡の上人
曼佛（マンブツ）　ひゝや　**黄楊**（ツゲ）　**寂寺**
法（ホフ）ろ　三年坂　八坂
仔猫（コネコ）をそんとそこへ必ずて岡（コヲカ）阿の法（ホフ）教を雑
しのぐ秋ぐらしぐく。**天狗**（テング）を**集**（アツ）り同（オナ）じ**報恩**（ホウオン）そ
ぺ。芸（ゲイ）の山も**霊山**（リヤウゼン）の神を敬（ウヤマ）ひてあきる
名所　**経**（ヘ）ろうて祖（ソ）ろ必ろ
琉球（リウキウ）　りろつ　**三味線**（シヤミセン）　あかりを
藤木　**鉄**　**薩摩**　を**ど**
もろじ
詩門（リウモン）　**大和**　**山姫**　**布**（ヌノ）ろす　**仙人**　**鯉**
ろぬぐまぬ　**芦田**（アシダ）**鶴**　**桃**（モヽ）の花
琴（コト）　**常盤**（トキハ）**御前**

奴

川名 黒の頭根 渋沫 幕
西宇記 垢 めの印也 宇治
玉川の黒 泰良 冊波 近江 越な
多久 陰師 縄 動 腐 玉石
多巾 テイゴヒ 男の縁 ダミ 着の縁 ダミ 袴 衣
新社 ニイタシ 着 ニイタシ 服 ニイタシ 麁
布 ニイタシ 社 ニイタシ 狭布 ケフ の宮 ケフ 衣 ケフ
又 綾の めうちぢ ケフ 布のめさにうつ
の毛の布 ケフ のせそさよく
の紙 ケフ うりき物 ケフ ぺらぬなさ
と 伊 の布 ケフ すん ケフ 今 ケフ 世 ケフ
くめ ケフ ちいら ケフ 也 ケフ 奥列 ケフ の ケフ 李白詩 ケフ 日照 ケフ 香灯 ケフ 生 ケフ 紫烟 ケフ 遥 ケフ 看
瀑布掛 ケフ 長川 ケフ 飛流直下三千尺 ケフ 疑 ケフ 是 ケフ 銀河 ケフ 落 ケフ
九天 ケフ

濡衣

汗る 舟 ヌレ 幕 ヌレ 袖の洞 ヌレ 蛇 ヌレ
風流 ヌレ 濡 ヌレ 紙 ヌレ 母 ヌレ
真 ヌレ 嫌 ヌレ 襟上 斑 ヌレ 色是 ヌレ 妾 ヌレ 灯前 ヌレ 滴 ヌレ 涙 ヌレ 縫 ヌレ
もの ヌレ 袂 ヌレ 筑 ヌレ の 袂 ヌレ 笑止 ヌレ 方 ヌレ 袂 ヌレ 己 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ
の 袂 ヌレ 布 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ
ふ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ 袂 ヌレ
仏房

麻苧

折 サ 関守 文人 川 サ 紀 サ
多 サ 西 サ 花 サ 筍途 カドデ 経 サ 幕 サ
秋 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ
袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ
袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ
袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ 袂 サ

主（ヌシ）

古沈 歌の初 ゐる名 神末 家 塚（ヅカ）の末 ゐる真 盗（ヌスミ）も 城 人魂（ダマシヒ）

守佛 荷物 あいなう 小さい 人 ゐる 世話 よいから 主 ゐぬ しもつ 主 ある 主 ゐる 社 の 神主 ゐる 家 ける ふちど 面 ある 家 ゐる 海 の 主 ゐる 主 ゐる 家 ゐる 主 ゐる 家 ゐる 主 ゐる 家

糟 星 ねずみ もち 汁 あつもの
味噌 小海老 赤の焼物 作り
土産 蜂 敷物
醬油の事 糟 酒 酢 醬油 糟漬
[illegible] 醬油 糟漬 世俗よりの
[illegible] 醬油 糟漬
沼 [illegible] 蒲 [illegible] 蓴菜 [illegible]
田螺 蛍 蛙 蚯蚓 蓮
[illegible] 城の堀 蓴菜
[illegible] 荒 [illegible]
蓑 泥亀
[illegible]
[illegible] 堀の一方より [illegible]
[illegible] 鰐 [illegible]

滑者 油垢 山の苺 [illegible] 汁 鰡
鮫 柿漆 泥 傾城町 繻子
ぬめり 氷 苔の [illegible]
水垢 [illegible]
[illegible] 油ひ [illegible]
[illegible] [illegible] 裏 [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible]

蚕士の種紙　蟲蚕　尺八
笛　蓮実　銃　城責　石臼　螺貝
耳　巣
禁中に穴門を蜂ハ巣の穴ありこにすむ虫食紙　嵐
てわりことしとくなれとまつぐるとゝもりり君子
不實と家語ことわざにいふ
とれなおごとふるきの入ことこと
ちろうねのねけものとこと
鵜
三条の家の稍　悩　黒雲　穀
祖　うぐいす　わしの雀　天のあ
ほとゝぎすにうぐいすこまにしきの拾芥よ鶏鳴河の舟と
なつとりとも鳴ぬ蛙とりこに鳴ゆくた
まくらし万葉集ところをもえことりた
泳ぐりつよくとたりれともえことりのこと
げことろうくんことろ神中おこと
繪
絵　小袖　箱　たりわ　幡　遠口
袈裟　衣　紙帳子　足袋　くつの先

鵜の目
論語。摂齊升堂鞠躬如也注齊衣下縫也百
官人繪裳ありこ。礼記古者冠者縮縫今也衲縫ことり
ほうたり修りこと
そのこと
脱
蛇の衣　笠　鳶帽子　甲　具足
衣類　若行の時　頬巾　肌　肩
面　足皮　草履　草鞋
経文の解脱ことけくハ慈業煩悩ことにこと
かことと脱ことなや蝉よも皮ぬりことおー蟬
のかけくハ綿よなこと
ことれおりものこと
貫　竹の子　衣の油　人の胃　歯杭
南　刀　服指　数のも　額　腰
鉄炮　矢　落城　筧竹　伽　鍬　鋤
矢の処ことたれハ鉄よなこと。人の胃と
もと函り。小田のこと

右枝末の打ハ初にうるさくそうけ迄
名所

布引滝

摂津 生田 天の河 七夕
雲のそこそこ 猴(ミヽキ)酒 天津(アマツ)乙女(ヲトメ) 夏衣 山姫 白雲 有馬山
いくこの山 草履の里 雑波 尾上 松
花 梅 梅 紅葉 小野 萩 尾花 森
三ツ(ミツ)の白糸(シライト) 綿(ワタ) 吉行 葛城 ふもとの里 住吉
号 小柳子 夏のおもひで 名所

遊女

流人(るにん)

とゞき 西海 波の谷や 芦辺(アシベ)
かぢく一つく人 浦(ウラ)
いちこやさせ 古佗(コワビ)の畑(ハタ) 大浦 陽炭(ヲキ)の浦
鬼界(キカイ)が島 作後(サクゴ)の浦 三穂崎(ミホノサキ) 松風(マツカゼ)
紅葉(モミヂ)の後の秋 須磨 須磨の浦 須磨の秋風
須磨の月 須磨の浦風 須磨の秋山 須磨の秋
須磨の浦 須磨の秋

寡夫　同人なわらん　城　大なる事勿
嫠の黒服　火の用心
偶語　せうこにかたらひ合ふこと
ざろう。女院　上の山ざろうこ
ざろう。女院　上の山ざろうこ
ざろう。女院　上の山ざろうこ

鬼

ひぢの宮　貴船の社　野老　檜の木　わざくれ　桂子　百合草　石蕗　蜻蛉　栗の皮　女　紅葉がり　大江山　羅生門　隆国の家　ひぢぎ　宝屋　戸ぐち山　地獄　罪人　西行歌　わさびの　りだ　鞍馬山　狩衣　泊瀬　薩池　面　鳴岡　人の公　宝山　大峯　くろの肉の女　ひぢぎ　宝屋　古今序　よめかた　ことば　男女　紙大名　衣の下　いづく　鬼の人と接する　ことばつまく　ことばにて　そのかわり　女のかわり　をそのが　ことばに仕事のやう　ことばに　ことばに　ことばに

田人　生死　吉野の
秋のつまでありそ生ひたまつ
天津女のところもよる初の
まとを拍松浦れ
めうもみとうのおとめくら
ゆをれいるところをもとも

乙訓寺（ヲトゴデラ）

釜　粉拍（ハリウ）拍　釜の神りの
おやくつくやまと刻（きざ）てとそ
のうらうら色（ヲモテ）のそともわるぬやや。塩（ブン）深乃
臼頭深月のうらも乙訓寺のう

踊（ヲドリ）

馬崔　腦（なづき）豚　毒の頭　あを　文字
酒（ワイ）の魚　鵜（カラス）　猿（サル）　畢一の卦　小さ
こそれなる小刀　紅玄の出（ヲハニ）抜　何家の会
松の後　布袋（ホテイ）　洋子（ホコ）児　花園（ハナゾノ）　乱（みだ）杜　牛の子
山王祭（まつり）の神輿舟（ミコシ）というて　帰（かへ）りくる大勢（タイセイ）や
これをどうぞ　酒宴（シュエン）に呼（よ）ーをそうそ
隣のあるそれう泥鰌（ドジョウ）石薬（ヤク）のや　薬（ヤク）をそうそう

通円（ツウエン）

粉（こな）ぐ　泊（とま）ぬ　多武峯（とうのみね）　花の前　墓の花
小向（こむき）坂居　ほくしぐ
おげるて　狂言（きょうげん）　くえけまつ
より川とのがう舟の息（いき）もつぐ
然（しか）よ　まいなるくおてそいなる
おのびうかうわいの　そうぐず

鷺（サギ）

池の　芦へ　の水面　をの月
岩根の　山川　お藻（モ）　裏枯（うらがれ）　尾（カハラ）
こやの　泥（エ）　絵　養（やしな）　も
池のをの翔（つばさ）でそ
しきぎーも　ぬ　ま
なのこにいそそれ
分いうまれと後成恩寺（ごせいおんじ）の百首にあり

小督（ヲダキ）

農人のひまくようこ集
心陰居のなぐち
めうらきまをとけのそ

巻

後の女　三隅の里　焼（タク）の嶽
萬代　りく
布（なら）そうの常
娘（こ）の紙屋（かみや）紙（かみ）そうん
のそそをそれねわぐと

小車 ネコ荒 綿ひく わたの場
ねぐるま 々家の前
約幸作なるものこれにてぐるぐるまわりて綿をとるひきうすかたの条に打くゝみたるまの名居おほ坂のわたりとうたひたるいわれ知べし
集く海をうんとせいたる時にてわたりてわりてわりてわ

控（ヨキテ）　貸　美男　石ころ　石礼　彰里

市の場　寺社　岡郡（クニコホリ）　武家ざ

玄人（ヨウ）　町問　ようさ碁

秦始皇の三千の法制も漢るい呂三カ条にて治ち

也（ナリ）。葛天氏（カツ）時ハ不言而信（イワ）不化而行（オコナ）といえり。

砲陣（ホウヂン）の時ハ左こ右こに司（ツカサ）どうハり寺こ宮この

先例をもらいむるもの

押（ヲス）　下判　絵人群集（グンジュ）　門戸の礼

私の禮（レイ）　納（オサ）ざ　糊（ノリ）、灸穴（キュウケツ）　鄭（スエ）

酒弓　針立（ハリ）　行列（ギョウレツ）も猟（カリ）　上も藝

勇　月白　物その場　腕（ウデ）の力　ようす家

勇（イサ）ミ立ちこころのすゝめ　餅（モチ）のうへの餡（アン）

三月のもゝひな、餅をそなへ陸（クガ）つ亦をそすゝ

大力のわざをそなへたくをを備（ソナ）へ賞（ホメ）ら

ざるなり

後（ヨクレ）　弓製　双六　旅人　お私　釈迦（シャカ）

軍　占人　馬車の事　をとの事（ニンギョウ）

管の先　足

後の花のごとくなれバ

取後（トリアト）也馬不進也ともの

ゑの事のまさゝ

ませてをくなり。

遅（ヨクレ）　狼　田虫　疱瘡（ホウソウ）の事　風の事

聖霊（シャウリョウ）　敷（ツボ）のも　文字　官位　娌（ヨメ）

先法　年月　進め　後のもわざ

お墓のも　玄関（ゲンクワン）　なをり　歌を

旅　経　名所

旅合（タビアイ）ハ死（シ）敵（カタキ）と心をゆるして同宿（ドウジュク）

いて朋友（ホウユウ）となるをいふ

旅路にへの害人をふせぐ

とゞめるをもえぐ（ヨク）し。陽貨（ヨウカ）ハ豚ををくり虜（トラ）

ハ筆を送（オク）るをり

毛氈（モウセン）　松風　笠縫　尺八の云　なくさ

陸（クガ）らの褥（シトネ）　裁（タチ）もの石

おもてをつゝむをもうつくしき一筆啓上せしのと

い勝る山の花をんそ。おのづからの人備（ソナ）とをる

山もものうつくしきものの一つなり。うるはしきものの一つなり。親の方へ行くものの一つなり。親のかたへ行くものの一つなり。

盛 さかん

多 麻 猿 童 犬 異

佛法さかんなり 異足 雅面と口伝

醫者

鬼の面をきて仏母をつゞく。酒をのむ。鬼の面をきて酒をのむ。

病をおもひておこたるもの。鬼の鐘鬼の鞄のごとし。癘

るもの。妖怪獣 於船首 以懼江神 と書にみえたり

碁 ご

碁のこと 碁の和 図所

囲の探頭 布穀 紹益の首

座敷の右の棚のうへに書籍の古紙のごとくつみかさねたる 碁盤

ものゝ。そうけんしたるもの。安宅の用のごとくなるもの。

追 おい

花の嵐 落人 帰洛 山路

馬 時鳥

追 おい

蠅 蚊 蜘蛛の巣 蚊帳

碁のこと 蚊帳 彩

追尖 おいさき

暁の鐘 乳のみ子 房 扇

ふるき人 盗人犬 乳母の業

麻 時 鶏 鳴 敲 犬

猫 蚊帳 蚊遣

嵐 ふるき猫 ねこ 竹 蚊帳のまわりの綱

とぶ 蚊帳 蚊遣 蚊帳の綱 ふるき猫 蚊帳の綱

とぶ 蚊帳 蚊遣 蚊帳の綱 ふるき猫 蚊帳の綱

仔細あり

恩 父母 主君 師 友人 天地

報恩

私の仮のの恩重重なるとも

ふ尽くしがたし

ひとたび三世の報や三世の恩と称義軽しと諷詠めるも恩賜

いと心為恩使命に依義軽しと諷詠めるも恩賜

御衣今在此捧持毎日拝餘香となほ野の如

とうや

名所

音羽 山城 山里 川 滝 柳 橋 雪

かくとだに

いかで思ひの幸 名所 音羽 山 滝 清水

志賀 ひえの山 蛙 名所 廣沢 清水

醍醐 山科 清閑寺 名松 花 紅葉

お阪の関 大津の浦 名所 音羽 山 滝 清水 松虫 白川の関

京の中山 京の町 古人 焼物

嵐山 吉野山 紅葉 行幸 大井川 梅

小倉 嵯峨 紅葉 行幸 大井川 梅

二尊院 戸無瀬 大堰 名所 紅葉 嵯峨の盆

百人一首 名家 山庄 名所 音羽 嵯峨 葉のある

新緑の松 わらび 歌舞伎堂 椎葉 唐

花盛 糟出 屏 雪 蜉蝣 蜆 蛍 鈴虫

捨衣 照射

小野 円山里 岩 滝 古道 細石 氷室の梅

炭竈 古道 細石 氷室の梅

清茅生 醍醐 小町 梅 梅桜 紅葉 唐

雪あり 清水の文 乃風 小町 梅 雪 大原

維盛のみこ 法華 雪 大原 村

鉄 薪 仔細 京 梅 梅桜 紅葉 唐

卯花 附子 高雪 八瀬 氷室

唐 紅葉川 法華の別 すもも

小塩山 大原 小松原 榛 神代のヨ
雑子 水葦 綾 村 うつくしく
なる 炭竈 豊臣殿 紀家 康
墨染 酒 ほそく うねの 松の一もと 松
近江 枕 豆腐 あをく
小比叡 弥垣 峯 榛川 秋 波 海山
信濃 更科 賢 嶋 飛 翡翠
伯母峯山 松
陸奥或雄嶋 磯 崎 塩 漁 浦
小嶋 ほそく せとの塩合 わかの浦
赤の泥枕 月 夜あこぐ 真の 釣糸
伊勢 浦 海 河漾 檜 麻 浦色
生 妹 下級 ありそ海 いその浦
若の代 そこ 里のさゝやの橋
甲斐 名 仕 逃 牧
小笠原 義豊 牧
尾張 南海 千 根 藍玉 綿 南方 鎮
松風の里 星 崎 敷田の 八洲
陰岐 海嶋 和布 串 鮑 嶋 桐 海
栗枝 竹 松 小嶋 後 羽院
彩嶋

和

若菜（ワカナ）

山蔭の垣ね（ガキ）　生田（イクタ）　みどりの
初衣（ハツキヌ）　衣のめの君　求婚（モトメカカ）　源氏の君
始元服　澤
若ごめ衣のすそをぬらしつゝ春の野わかむ袖（ソデ）とぞ思ふ
めづらかにそこそこいふ事わろきの痛（イタキ）ところ
うつゝねの宗貞（ムネサダ）そのかの御ぞ（ゴ）讃（ホメ）たるなり
わらはべのそらつぼねも春はいとかなしきものなり
ぬき山の関のとすらにとざすらむ仁和帝（ニンワテイ）をふもれりしこと
仁和帝をふもれりしこと
そらごとにてそこそこいふ事わろきの痛ところ

巌（ワラビ）

宇治山　世と捨人（ステビト）　春日野（カスガノ）　武蔵野（ムサシノ）
片山畑（カタヤマバタ）　糸山（イトヤマ）　笹（ササ）　春の野（ノ）　山蔭（ヤマカゲ）
繰巻（クリマキ）　縄（ナハ）　筵（ムシロ）　幕（マク）　祓（ハラヘ）　興（コシ）　幸（ミユキ）
餅（モチヒ）　新坂（ニヒサカ）　葬（ハフリ）礼の法　無常（ムジヤウ）の風（カゼ）

蕨（ワラビ）

四皓（シカウ）食芝（シバ）而毒斉（ドクセイ）食蕨而夭（ワカジニス）
めづらかにそこそこいふ事わろきの痛ところ
うつゝねのそうつぼねも春はいとかなしきものなり
それはそうやありけん神よりしものゝのわらび
片山蔭のわらびなるべし

蓼（タデ）

懐紙　蓼（タデ）の葉（ハ）　箕（ミ）　習（ナラヒ）　造（ツクリ）
すゝきおばなのみだれほ（ホ）のむすびたるもの
のむすび流（ナガレ）りえもいはぬ
それはそうやありけん神よりしものゝのわらび
片山蔭のわらびなるべし

蕗（フキ）

蓼（タデ）の根（ネ）　幕（マク）　海苔（ノリ）　産（ウブ）不孫（ソンセン）晨（アシタ）
幸姫（サキ）の餅（モチヒ）　衣（キヌ）　沈（シヅ）
あぶりもち焼て灰（ハヒ）となすとも表（オモテ）うらのそぶり
蕗（フキ）の葉（ハ）とをりてそうらへ

若和布 ワカメ 酒 仔勢采女の心 樂なふの和云 切疵 昔の趣

若狭 彩美の心 悟乱 嗚淚

ゐ和布刈るてふ 海底の岩ほの根ざしてそ 周詩馬得萱草言樹之背 今ワスレグサ

綿 ワタ 君 人公 鞘 蛇 帽子 菊 陰抱 石

きぬめひのつくしの綿 大和河内摂津の綿を出す 近江美濃尾張 瞼 方氣 孟子 疏奇 薄人のかさ 陸奥わらの 苧の類

孫ともわかぬ綿とのがすなり 紙園女の山よ綿もとしもとも

若元 ワカモト 酒盛の勿 古今 万葉 寺 多賀 代参 踊 楊枝 歌舞妓 ひげ 紀の国人 雑 サンキン 村祭 小袖 ふとん

るいもうとの子 養孔の例も娌入の形も
門出そそくさするまでこまごまこしらへ嫁をとるこそ
ものごふことぞ

蓁耳 ヨメナ 菴古 多治 蒿 多古 燕の巣 網なる 流人
菜湯女の摘込 ひとしほ 奥ふかの
うつろひ中くらゐ 和漢 松蕈 松茸
の例ならん 後よわり 屋 つくつめまれ
のさあらや 秋の田うも 鳥うもわくらや
つらふらもわくらや

忘草 紙 萱草 ワスレグサ 後漢敏のこゝ母 ワスレガヒ
後書 ワスレシヨ

さんのこうがなもわすれがひのみそか
そいつこゝせこうりくれば 行路 ワスレグサ
周詩馬得萱草言樹之背 今ワスレグサ

王

基（ギ）　獅子（エンヂ）　唐土　牡丹　花

魔（マ）　冥途（メイド）　佛法　天竺　耶邪教（カタヤウ）

吉弥奥　釋（シヤク）

和漢

年代記　御（ギヨ）　朗詠集　掛（カケ）物　墨（スミ）絵

土（ド）焼（ヤキ）物　木（キ）菜（ナ）　詩（シ）奇

和歌

辞（ジ）　枕（マクラ）　冠（カムリ）　言（コト）　神（カミ）　発（ホツ）句（ク）

連（レン）歌（カ）　七夕祭（タナバタマツリ）　梅（ウメ）

移（ウツシ）徙（ウツリ）

紙（カミ）　衣（キヌ）　染（ソメ）物（モノ）　浄（ジヤウ）瑠璃（ルリ）　連（レン）奇（キ）

絵（エ）　筆（フデ）　墨（スミ）　硯（スヅリ）　筆（フデ）の軸（ジク）

出迎受(ウケ)ることし。往来(ユキキ)隣居(リンキョ)して入院(ニフヰン)ある時(トキ)は大(オホ)うさに及(オヨ)て立(タチ)のきをうるさくぞ。彩絵(サイヱ)を作(ツク)りて安堵(アンド)せしめ給(タマ)ふ絵(エ)師(シ)あり

脇 ワキ 徒(カチ)連(レン)の立(タチ)ならぶを相撲(スマヒ)大刀(タチ)汗(アセ)

湯(ユ)三幅一対(ミツワイツツイ)

阿弥陀(アミダ)の三尊(サンソン)を絵(エ)書(カク)賢(ケン)き人(ヒト)の脇(ワキ)侍(ジ)の如(ゴト)く文殊(モンジュ)普賢(フゲン)左右(サユウ)に立(タツ)のみ。勢至(セイシ)像(ゾウ)ある観音(クワンオン)を割(ワリ)て生(ウマ)るゝ子(コ)を胎内(タイナイ)に入(イル)る。仏(ホトケ)も胎下(タイカ)より生(ウマ)れ給(タマ)ふとぞ。仏(ホトケ)も才一歳(サイイッサイ)までは立(タチ)さうもなくよちよちしていぬぞ

脇指 ワキサシ 舟(フネ)の梺(スカ)章門(ショウモン)の釘(クギ)垂(タル)の傍(ソバ)

鞍(クラ)釜(カマ)小神(コガミ)の尺(シャク)軒(ノキ)動(ユル)を

狭板 ヒサイタ 立花(リッカ)のあしらひ。お墓(ハカ)の助(スケ)云

猪(イノシシ)の時(トキ)は数(カズ)枚(マイ)重(カサ)ねし一(ヒト)枚(マイ)板(イタ)にて通(トヲ)し一(ヒト)つ刺(サス)こと

うらへ二(ニ)穿(ウガ)つ。武士(ブシ)も陣屋(ジンヤ)にありて禁中(キンチウ)の如(ゴト)く

なり。数多(アマタ)の役(ヤク)人(ニン)あるうへの地(ヂ)

鉄(テツ)砲(ポウ)玉(タマ)なども入(イル)ゝ事(コト)なし。

狭(セバ)き所(トコロ)にて鉄砲(テツポウ)の打(ウチ)合(アヒ)などする

時(トキ)は弾丸(タマ)の当(アタ)らぬ様(ヤウ)に皆(ミナ)

狭板(サイタ)を持(モチ)て楯(タテ)とす。

二廿二

脇 ワキ 根(ネ)ある草(クサ)の名(ナ)

麻(アサ)猿(サル)澤(サハ)山(ヤマ)信(シン)濃(ノ)山(ヤマ)

脇根 ワキネ 矢(ヤ)の幕(マク)

東千鳥(アヅマチドリ) 沼(ヌマ)地(チ)の二上山(ニジョウザン) 平(ヒラ)安(ヤス)

脇差 ワキザシ 武士(ブシ)の二(フタ)腰(コシ)の外(ホカ)に添(ソヘ)て差(サス)小刀(コガタナ)。又(マタ)は

脇(ワキ)に差(サス)ゆゑ名(ナ)とす。

惟喬 コレタカ 関所(セキショ)盗人(ヌスビト)縁人(エンジン)偽(イツハ)り免(メン)許(キョ)

家(イヘ)襲(ヲソ)ひ。待(マチ)ぶせ。

悟(サト)り性(シヤウ)之(ノ)不(フ)諫(イサメ)知(シ)来者(キタルモノ)之可追(オフベシ)と告諸性而知来者(シヨセイニシテキタルモノヲシルハ) 亀(カメ)卦(ケ)鳳(ホウ)雛(スウ)

元舟古(ゲンシウコ)八(ハチ)幡(マン)の上(カミ)と仕(ツカ)まつり。松人(マツビト)山(ヤマ)路(ヂ)と詠(エイ)まする。

陳(チン)ぜられし出来(シュツライ)の狂歌(キョウカ)あり

鯢 ワニ 魚(ウヲ)名(メイ)

鯢 ワニ 鯨(クジラ)魚(ウヲ)名(メイ)

老(オイ)たる娘(ムスメ)。鯢(ワニ)と書(カク)ゝまり。韓愈(カンユ)条(ジョウ)魑(チ)魅(ミ)魚(ウヲ)文(ブン)あり。約束(ヤクソク)魃(バツ)鰐(ガク)如駆羊(ヒツジヲカルガゴトシ)と東坡(トウバ)のつゝしみ。鰐只(ワニタヾ)仏(ホトケ)の弟子(デシ)のみ。

も絶てわりそう

破子 奥の野 線路 児というもの
我とてもものもやうくてそうちなるわり 雪吹棚 野陣
こなるらん又土佐日記よりこおせて来る人
わりこめん多人数なるもの来るけるみこいう
そうやうみこて

籠 天水 川除 井関 地つき石つき
三条五条の橋の安石は籠とたくわとせちり沖
吹奈の出絆はひとりそうこに機屋のいる
ふ麻苧をうこそわ 魚をうこそう
そうちうこそうこそおそひくれ

輪 月輪 架裟 車 山桜 鞍
敷馬 咽喉 取蔦やね 掛金
猿沢 炭 山崖 竜 艶 菱筵 的
犬ぞうくつの入て帰らくら人男のちうこう帰
ようりてくうの入て帰らくらく人男のちうこう帰

羅漢の耳 帰るぞ以其耳漫無輪故号曰耳
とい老子のう

茅輪 旅 帰る舟 仁王門田 山形
砂川 幼子 葬礼 月儒

百姓い農のひまをぬくて作る中死人
川狩ふ網つふよいまお籠のくて片そうくれ
ねこうやういのまんちい八幡の蓮花をふ
まくうりともぞ甲男と着ていぬりちも

私 公出 奴 主
押領 公

礼記曰ク女婦無私貨無私蓄無私器不敢私
假不敢私與ラこいさうこいわうこうりのふうく
しつこのもうこうりとい源氏のう
なりぞつこう検ともうこうぞ大明無私と古文

猫 猫の好 舌 乃
ねこの場 天

列女傳曰仁除百禍ぞ。中庸生乎今之世反
古之道如此者災及其身者也。陰陽吓の荒
祢そゝ暗日そゝ山吓の祭文ぞ禍をのぞく
とぞ。吳竹ぞ白衣の形を絵よ当てわさくひを
さくとゝや

別

三月の月　余の際　春人送る　楼雪
暁　二月の仏　四月　川のあれ
庭子鳥　わかれの実　苔の緑　花
おぼつかなしなどゝいふ仮名ことばのうたかるた。
いつゝ列ねさゝ余ありとゝ枕つゞの文表大
内裏あ一時ありとゝや。李の陵い蘇武よりうた対
詩仙作ぞ約半ば程小別吓ぞとゝぬ。清
宝ぞ表盃ば禍余そわれ。ろくれとあなも
かりゝゝしさそんさんなれ行うかあゝさ
と伊勢のごう海せーい幸ぞの後のわりねのん
ばとうけゞ

笑

花　鶏小かる人のうさ　中風
和云　下ゝ癪　たる縄　腸義の伝
生子　心臭

楼西月向楼東笑ゝ云何わり舜肩而諂笑ゝ
もいつり。買笑未知誰是主万人心逐二人移ゝ
余女をゝ詩ぐ大陵云大ぐ
ひてゝゝゝぐそのゆいはゝゝちぐ人いはゝ
いひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いひゝゝぞ

見めよさけぬ

村猿　康将　悪る豹
門弟の非人　偽狂乞
上戸の老婆　軍場　地ごく　ゝゝら
敷火ぐす　舟の
丈婦いぐひい隣わぐりもぐぐりもぐぐりもぐぐり人
も卒とゝやゝ群集の在いぜぐりの踊

のらずまでるいみさがし。強盗の入ると附いわるよ
うにおもはるゝ。

割 ワル　算用　荒濤の飛　食安　卵石
　　渡の舟　竹　茶碗　薪　蚕陣
　　学ひ　瓜

甕 とりて、嬰児をそだてゝ形ちと
　　ちがひのざとけづりつぐ　子供　井田　ハえ
　　枕とろいおめんどのふくさや。井田ハえ
　　ろり分ん。二十五絃の琴をとりて二人の石よわる
渡 ワタル　舟　橋　世　進物　金沼　沈藏　屠
　　鐘子期が琴をわるくいふ　科人　なま　燕
　　不帯　有形す　普請　基のよ
業 仏経　神　祇園会の山鉾　住持　拂子　小間
　　一の谷小こう〳〵そ四国よりそ〳〵年ぬの一門と。
　　天の川ハ年ぬ一度星のわたりをのり鵲ハ巣をとりてわたる。蜘ハ巣をとりてわたる。
　　渡得ハ花の文。元徳ハ花の文。元徳後のものにてもいと儚かり。

蜻 ワダカマル　詐　蛇　苞　櫛　人丸　川の流
　　蛾の虫　風よ　旗
　　桃の花のそびろうると蜻蛉と云。蚯蚓もいう
　　まりて土よすめりでこのようにまるくなる。
分 ル　初九　潜竜と易にいう　蜻まりてもかなり
　　奇の外いろ〳〵　陽炎ハ春の世
　　若鰹　菊花ル　苗　世ハ花落
　　旅人の雑おいん〳〵とてとろ〳〵不合手ハ飯
　　とりくろ。初ハまりと云。海ハ入江とろる。海の端ハ沙基菩薩のごとく
　　ひ若鳥籠の車ハ海のごとくにて。厚の角ハ海のごとくにて
　　とろ〳〵ふとろや
種生 ワウ　恵心の書籍　乾　坎のる
　　熊谷　ごとくひくもの　永行の妻
　　聖衆のごとく

未往生申伝ふるやいなやぢ
すめる者ハ往生の瑞ありうんぬん齢(よわい)ハ世の半ばぢ永観律師ハ往生の
十因とありて

涌(わく)

泉酒湯(いずみさかゆ)　蚤(のみ)　虱(しらみ)　蜻蛉(とんぼ)出
雖(どぶろく)場の魚
火中に出ずり。湯の中ゝ魚生ずる。法苑珠林ニ同有
無量十方億菩薩摩訶薩同時涌出ゝ従
ゝ涌ゝり。ゝゝ涌ゝ出ゝ
ゝの文ゝゝゝゝゝゝ

名所

若菜山(わかなやま)

大和　春日野　ゝゝす
うらひす

忘(わすれ)

播广ニ大和ニ摂津ニ同名あり　浅沢沼(あさかぬま)
昭ゝゝ沢　紅若　ゝ月ゝ
ゝ野　末の下略

淪田(わた)

摂津　義盛(よしもり)　酒ゝ入江ゝ
ありとの松　ゝゝ

車私　半宮(なかのみや)　吾庫(わくら)　演广　笠松　紀業
警(わび)　ゝる孫臣帝綸旨を討ゝ海士の釣舟
八十嶋ゝけてゝゝ

渡(わたら)

日　大和の巻　伊勢山　郷子　統渕ハ
ゝ原作　船ゝ

慶舎(わたらへ)

伊勢　ゝゝの文　神風　宇川
大河ゝ　若ゝ代

我(わが)妻松(つまのまつ)

近江　すゝ浦の神　仏ゝ三の巻
警(わび)ゝの山　松の門　業の大ゝ
千ゝ代の坂　若ゝ代初　ひゝ松　付ゝ
松の葉の月　庵　湖海(うみ)　緑の洞

若潮(わかしほ)

紀伊　遠満(とおみつ)　京ゝ　田舎　海雲(みるめ)
片ゝ浜ゝ　松の緑(はいろ)新ゝ月

わなの約言 くわれさ山 月のおし汐
麻尾藻 みくさのわくら葉の別称
吹上 玉津嶋 おもだかの名 濱ぐり
往古 入江のあり 松毛 えび花 えび
なつぐれむし 蒲公英 ハハコグサ 濱木綿 浜萩 浜菊
多る なのりそ 忘貝

わ

わさ 稲

ワカサ 招履 小濱酒 鼻打小鯛
尺八鳥賊 若和布 荒和布
五碁石 名画乾紙 黄ごん茸 椎
鮭 耳塩の貝 彼姥 筆 千歳山
三笠山 三笠の酒

か

異名 二季子 秋の季 冬の季 月 秋風

かり 雁

吹雪 磯山 沢の水 紀氏が萩の露 文
衣捨 こずのわ山 芦をべ 穂武 雷
三ツ物地 名月の日 五章 咸陽宮の門
越路 蒼 葬礼 小斗星 袋入 白き
かりそめ くわえ 仮の矢 くわえ
も振 れや 仮 ハなり 園の菊小水会 居王
ろくんの 居王 松五葉 大原 さ
平物 そうそう 落雁 鴈南帰 漢武帝の詠
小山入 湯殿の上の 棚 庵の
のわさ ひさご 瓢 ゆく
るのこと 雁 切 昆布の切目

鴨（カモ）

異名 かもれ むれ

入江の真菰 大井川 香炉（カウロ） 鐘 車 沓（クツ） 水 なろ川
沼水 富の沖（カツヂ） 群 島 俗人 芦原
初雁（ハツカリ）の 沖つ白波 あとの浦 波風 苫舟
かくそ思ひし 沖津舟 荻の浦 秤（カリ） 初雁
低翔（ソバサラ）へ 汀（ミギハ）の 名 雁
もつくわり 潮落（シホオチ）て 暁 至今（イマニ）白路（シラヂ）に 背（セナ）に飛（ト）ぐ

鴉（カラス）

非垢（アカ）ず 垢（アカ）の 駅 市 堤 村 月夜 瓜
鳥 蛇 財（タカラ） 場 蛸 大井川 物（ウ）
警（イマシ）め 帽子 死骸（シガイ） 国 別 還幸 絵 屏
文（フミ）ぬ 風（カゼ）の 沼（ヌマ） 山 ものう 古文 牛王 日暮（ニチボン） 府（フ）
兵（ツハモノ） 慈烏（ジウ） 復（マタ） 慈烏（ジウ） 烏（カラス） 中（ウチ）の 群（ムラガリ）参（マヰ）り 鳥（カラス）
已（スデ）に 半（ナカバ）る 天（アマ）つ 月（ツキ）
しぐれ 関（セキ）の 人（ヒト）の 死骸（シガイ） 人（ヒト）
なり 山鴉（ヤマガラス） 飛（トビ）尽（ツク）す 水（ミヅ） 悠（ユウ）
鴉飛散下堂鐘（カラスとびちるげどうのかね） 仰（アフ）ぎ 北人（ホクジン） 喜（ヨロコ）鵲声（カチヤウセイ） 而悪（ニアシ）
鵲声（カチヤウセイ）

蛙（カハヅ）

小田（ヲダ）の 代（シロ） 沈（シヅ）む 井（ヰ）の
古沼（フルヌマ） 萍（ウキクサ） 妻（メ） 数々（ヤマヤマ） 川
作（ツク）り 沈（シヅ）む 神（カミ）の川 俣（マタ）
答（コタ）へ 声（コヱ）の 沈（シヅ）む あさびわる江（エ）
行（ユ）て 行（ユ）き 梯（カケハシ）江（エ） 梅（ウメ）の 縄（ナハ）と 詠（ヨム）

荷の葉 仙人すむ 蛇 蜒

延暦三年九月七日畦三万ばかり集りて三町許つらなりて雉ばかり天王のまつりのさと水焼にもゆるがごとくなりしかばこのわたりなく田うねどもあれはてて妻うむ蛙こゑをあげて鳴者為官乎為私乎或對曰在官地為官在私地為私こゑごゑにて鳴ぬ

蚊

蚤蚋 蠛蠓 山雨 荒行 指ぶし

雲の如十市の里のうら夫は櫛うるとよなるなりうら無数蚊虻之利觜と憎蒼蠅賊よさも焦螟とうの虫ハ蚊の睫よ巣をうふとうの吐蚊をうらふる尺蠖ごにうの蚊を吐かけるやうの

蜻蛉

日なのめ 衰のすゞさ

うげろふハのちりけるやうなるなよやかなるのにそちこそあれうふのつまのの月ともつゞけしこゝそ

蜘蛛

竜車 紙閑子の山

茅刈 蜘

蟷螂當轍特長臂月演雅詩よさゝ人のゝ見ハ疲をゑさゝにくそひろくうのうちのつうなるとひろくうのうち

貝

山川 乱酒のさゝろさ 雪をわ汐

軍陣時 狩り茅 貝茅 荷後

叙とうぐうの 枚子 湯巻 婦入 祭

砂涙 はゝ俊活 絵の鳥 碁石 律儀

蛎 カキ
胡粉 ゴフン 牡 ボ 貝
蛎汗 カキアセ 楽名 ハナ 懸厂
胡粉の粉と蛎に必ずあるを一ツ魚毒とのぞくなり。浜石に蛎のなるや海中に有て立像の釈迦よ蛎ガラ

甲 カウ
鼈 スッポン 亀 カメ 蟹 カニ 名 海扇 ウミオウギ 是 コレ 蟲 ムシ 也 ナリ
甲物如扇其文如銭瑠惟三月三月潮尽乃出先甲三日後甲三日とき

蟹 カニ
うら〳〵 谷川 岸伏 磯邊
むまれてよこばひ芦のねのごとくなれどもいそぎくるひてはやくはしる。

出谷持二穂一とりつきて蛇のくちをひらかせてその蛇を殺すと雌雄と転ずと

亀 カメ
八卦 石 芝蘭 寿 盛汗の癒治
立花 天王寺 燕卅大子
松尾 岩穴の敵 舞堂 腹のやまひ
蓮池 浮木 三具足 祝の器屋
亀無雌子蛇交匹して而脱難と放生の文にかけて浦嶋うみの亀と約束。筏果くれどもかへらず。門ごとのその四中の夕やこになるまでかへらず。

鰹 カツヲ
社頭の棟木 猫 軍の首途 雑煮
相撲とり 鎌倉の海 蕎切 浦嶋
土佐 紀伊
生ぶ魚ん幷ふぐ魚のうつぼ
つくれば必なくそこそ伊勢の海の名伝の鰹
妙を造る。江戸は夏むさこそ美敷すると

秋

白ゆふ　社　名井　朱の玉垣　条
瑞籬（ミヅガキ）　注連（シメ）　秡（ミソギ）　祈（イノリ）
燎火（ニハビ）　仏　えた方　軍　湯立　巫女の頭（カウベ）
疫病（ヤカリ）　竈（カマト）　雪隠（セフチン）　貧報（ビンホウ）　福　乱
山　賀茂　三輪　大原　春日　日吉
出雲

秋風

秋垣

秋楽

秋代

望の松茶　みそのまくぞひ　清汤酒

天地の祭礼

孔老釈の三賢いあせせくれ

白蛇の命祢宜ーらのみも草月不合そのいくやや

祢武天皇日向のうくや軍を始のいーも祢

代なり。仏法いそいそ流布せ給の代乃八

坂の里とくみちいあらくやもくそもり

祢喜

加茂　三十三間堂　法花経　久立

さすらへ人　やの古塚　香焼

豆冬の大豆　数のーあ　葉み　次まの酒

ちくさ山　死人の骨ゆくさ　紙帳あつ風

千手の廿八部の一なり。易曰雷震驚三百里とも

祢ふのくすん。雷添たり哭雷

とけんせーい祢ふよ。笑雷

ふくやーい祢ふよ。雷夢又祢

公とくら祢ふり。禁中うちあり。ふくや祢

うらーくいあ天雷まりくそ

やまとみ須ふる

甲

四天王　伶人　撥牛の子供　皿

貝山　瘡　陣　奈良

京清　蟹　虫　小田原

刀

女房のいくや　鞘　菖蒲　旅陣　奈良

地獄　科人　備前　肥前

祢喜の祝明の刀と稼くめくやいあ稼多代

とくや祢ふの供いよ下とふ多てカをさみそ火

ふの内ハ町人の刀といまめ。数多座の間ハカ

をいすて入し

鎧

猪　鯨　大工　蜘蛛　草　栄　火用心あげ

くやぶさ　農人

仁中の療治の穂ふこ。矢芸又くやいあ

くり。とくふ祢のやねへ壁ふ祢の時なくてくやの

くさ・和布刈の腰ごゑ・蛇ハ蝮
貢をのみうりのこえの世の業刈女
ねうえこせおこえあの方いのこけうやくり

刀（カミソリ）

化粧（ケサウ）下しもの表具 燒鮒
ころ飛 閑
法師ハなくてそうおうおうの始のまるそ
もうおくさうおうの所
村をおおれいそ稽古をいるくハ
常のうち

鉋（カンナ）

大工 拵（コシラヘ）師 そろは 魚形（ウヲナリ）
木屑屋 鼓の筒
さ一ぬやと楯（ジュン）ふくハ劣（オト）るくのわきこ仏師ハ
人な善搓（ホタイ）ねをこそ手うそやはぶかそ少げのうう
ぐうもさうおうとうもこ
堰本のわくれさうんおなくうに

釜（カマ）

出湯（ユタテ）立 地獄 炭焰 風呂
糸 鬼 鯉（コイ） 鰡（クバギウ）半
釜の湯 月秋 子を埋

かゞみ川の下に釜うおおりの
もろ師も五の機おり
八塩ろ魚とうせり

鏡（カヾミ）

澄涙（スムナミダ）
女ごろの按（サセン）遷 行徳塩浜
奮発 餅 沖月 山名氏尾 金鈴山
松の山家 孝姫のおやこ 楊（ヤナギ）
般鑑不遠夏后の世にうこくの河を百錬（ヒヤクレン）
すまの別 浦風 なうに江南の母
二見の浦 歌枕
夜有鬼而与二鏡也（クレリ）径三尺也有病人以窓（マド）病人
之腸（ハラワタ）六府五蔵（ゾウ）皆見（アラハ）和病在所（アルトコロ）也（ナリ）鯉得鏡（カヾミ）
もろ明星（ケイセイ）熒々（エイ〳〵）用（モチヰ）雑鏡也と阿房官賦にも
ろ高祖八三の鑑（カヾミ）とおのふらまもろ

錙（カギ）

巌（そこ）　雲義　比丘尼（ビクニ）　門

盗人（ヌスビト）　秤（カリ）　商（アキナヒ）　筏（イカダ）　数（カズ）　座

釣金（ツリガネ）　縛縄（シバリナハ）　轡馬（クツハミ）の福　簾（スダレ）　杣木

偖（さて）も大師（ダイシ）は錙（カギ）をもて経巻（キヤウクワン）をひちらひ、弄（もてあそ）び天の招（まね）よる二天像（ニテンザウ）の出（イデ）給（タマ）ふ厨子（ヅシ）にこもしの扉（トビラ）を閉（とぢ）給（タマ）ひ、然（しか）る後（のち）花（ハナ）は錙（カギ）と捨（すて）て遁（にげ）くさて生（いき）ん分（ぶん）ろ

鐘（カネ）

遠山寺　尾上　行（ユク）ひ　松（まつ）の奥

わろさうさうに別（わか）れまし

衒（てら）ざめ　曇（くも）り日（ひ）　萱（かや）葺（ふき）　家（いへ）　泊（とまり）

狂（くる）ひ　軍（いくさ）　踊（おどり）　猿人（さるひと）　念仏（ねんぶつ）　聖（ひじり）

番匠（バンジヤウ）　村猿（むらざる）　刀（かたな）　尖（とがり）　事（こと）　誇（ほこり）　三年（さんねん）

祇園精舎（ギヲンシヤウジヤ）　平等院（ビヤウドウヰン）　清水寺（きよみづでら）　名（な）　感（かん）

遺愛寺（イアイジ）　鐘（かね）　欹（そばだつ）

善待問者（ぜんたいもんしや）如（ごと）撞鐘（つくかね）叩（たたく）之（これ）以（もつて）小（ちひさき）者（もの）則（すなはち）小鳴（ちひさくなる）叩（たたく）之（これ）以（もつて）大（おほき）者（もの）則（すなはち）大鳴（おほくなる）云々（うんぬん）兵（へい）以（もつて）詐（いつはり）立（たち）以（もつて）変（へん）動（うごき）以（もつて）利（り）而（しかして）後（のち）動（うごく）孫子（そんし）

人（ひと）の鐘（かね）つくのうらやましさ

祇園精舎（ギヲンシヤウジヤ）の鐘（かね）の声（こゑ）諸行無常（しよぎやうむじやう）の響（ひびき）あり

娑羅双樹（しやらさうじゆ）の花（はな）の色（いろ）盛者必衰（じやうしやひつすい）の理（ことわり）をあらはす

驕（おごれ）る人（ひと）も久（ひさ）しからず唯（ただ）春（はる）の夜（よ）の夢（ゆめ）のごとし

猛（たけき）者（もの）も遂（つひ）に滅（ほろび）ぬ偏（ひとへ）に風（かぜ）の前（まへ）の塵（ちり）に同（おなじ）

祇園精舎（ギヲンシヤウジヤ）の鐘（かね）の声（こゑ）諸行無常（しよぎやうむじやう）の響（ひびき）あり

娑羅双樹（しやらさうじゆ）の花（はな）の色（いろ）盛者必衰（じやうしやひつすい）の理（ことわり）をあらはす

驕（おごれ）る人（ひと）も久（ひさ）しからず唯（ただ）春（はる）の夜（よ）の夢（ゆめ）のごとし

猛（たけき）者（もの）も遂（つひ）に滅（ほろび）ぬ偏（ひとへ）に風（かぜ）の前（まへ）の塵（ちり）に同（おなじ）

祇園精舎（ギヲンシヤウジヤ）の鐘（かね）の声（こゑ）諸行無常（しよぎやうむじやう）の響（ひびき）あり

娑羅双樹（しやらさうじゆ）の花（はな）の色（いろ）盛者必衰（じやうしやひつすい）の理（ことわり）をあらはす

驕（おごれ）る人（ひと）も久（ひさ）しからず唯（ただ）春（はる）の夜（よ）の夢（ゆめ）のごとし

猛（たけき）者（もの）も遂（つひ）に滅（ほろび）ぬ偏（ひとへ）に風（かぜ）の前（まへ）の塵（ちり）に同（おなじ）

祇園精舎（ギヲンシヤウジヤ）の鐘（かね）の声（こゑ）諸行無常（しよぎやうむじやう）の響（ひびき）あり

娑羅双樹（しやらさうじゆ）の花（はな）の色（いろ）盛者必衰（じやうしやひつすい）の理（ことわり）をあらはす

驕（おごれ）る人（ひと）も久（ひさ）しからず唯（ただ）春（はる）の夜（よ）の夢（ゆめ）のごとし

猛（たけき）者（もの）も遂（つひ）に滅（ほろび）ぬ偏（ひとへ）に風（かぜ）の前（まへ）の塵（ちり）に同（おなじ）

祇園精舎（ギヲンシヤウジヤ）の鐘（かね）の声（こゑ）諸行無常（しよぎやうむじやう）の響（ひびき）あり

娑羅双樹（しやらさうじゆ）の花（はな）の色（いろ）盛者必衰（じやうしやひつすい）の理（ことわり）をあらはす

驕（おごれ）る人（ひと）も久（ひさ）しからず唯（ただ）春（はる）の夜（よ）の夢（ゆめ）のごとし

猛（たけき）者（もの）も遂（つひ）に滅（ほろび）ぬ偏（ひとへ）に風（かぜ）の前（まへ）の塵（ちり）に同（おなじ）

祇園精舎（ギヲンシヤウジヤ）の鐘（かね）の声（こゑ）諸行無常（しよぎやうむじやう）の響（ひびき）あり

娑羅双樹（しやらさうじゆ）の花（はな）の色（いろ）盛者必衰（じやうしやひつすい）の理（ことわり）をあらはす

驕（おごれ）る人（ひと）も久（ひさ）しからず唯（ただ）春（はる）の夜（よ）の夢（ゆめ）のごとし

猛（たけき）者（もの）も遂（つひ）に滅（ほろび）ぬ偏（ひとへ）に風（かぜ）の前（まへ）の塵（ちり）に同（おなじ）

毛（カウ）

紅毛（こうまう）　行人（こうじん）の臂（ひぢ）　風（かぜ）あざり

床（とこ）　美（よき）の湯　る産（うぶ）神　客（きやく）殺

神（かみ）無（なし）月（づき）　萱（かや）　満坐（まんざ）連（つれ）立（だち）　著（きる）ころ

入院（にふゐん）　施餓鬼（せがき）　坐禅（ざぜん）　墓所（はかしよ）　柘（つげ）のくし

古人（こじん）云（いふ）

みわたせば安（やす）もさやかに月（つき）見（み）れど

袈裟（けさ）のわろきぞ悲（かなし）かりける

一炷烟中得意（いつしゆえんちうとくい）九衢塵裏偷閑（きうくじんりとうかん）と山谷（さんこく）舎鶏（しやけい）舌握蘭（ぜつあくらん）と泰後（たいこう）の職（しよく）なり、禅（ぜん）の心（こころ）なれども祇堂（ぎだう）の往（わう）の香（かう）をたくに霧（きり）不（ず）断（だん）の香（かう）をたくに同（おなじ）詩（し）

笠（カサ）

旅人　狩人　武士　舟長　早乙女
ますらを　山賤（ヤマガツ）　武城（ムシロ）　月
梅の花　絳（ホコ）　鈴木三郎　東坡　山甘
落人　踊（オドリ）　虚無僧（コモソウ）　餅喰（モチ）　乞食
乞食　車　宇人（ウヅ）　かぶ〳〵　中陰　脇
目安く　石灯籠　松茸　唐人　行燈
法皇　雅波女（ミヤビメ）　五器　拳　暑き日
女

近江　市女
謝霊運　好（コノ）み戴（イタダ）く　曲柄笠（エガサ）　とろやつれ
房なるかのわらとひろせて　面（オモテ）　こそゆけ　袈裟
安宅の笠　うく　勧進（カンジン）を張（ハ）りとみ〳〵　対（ツイ）もくらし
ての笠をさゝう　昼不著笠（ヒルキズカサ）　夜不箇（ヨルヨトモ）　とぶれ
のくらし　笠（カサ）とあつけう　向（ムカ）し　あの傍の猟師あり　越人
蓑（ミノ）笠（カサ）　結交盟曰（ムスビカタメテイハク）　無車我戴笠（クルマナケレバワレカサヲイタダク）　他日相逢下車（タジツアヒアハバクルマヲオリ）
揖（ユウ）之（ス）　狄（テキ）の妻（メ）　笠甲（カサカブト）　こゝ

傘（カラカサ）

沈約　傘下侍　郎李南（ロウリナン）　曜（カガヤ）
入院　寺ひらく　松ぐり　繍（ヌイ）　松ぐり

かさをさゝぬなり　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

八冠なり。論語に服(ニ)周之冕(ノ)と見(ヘ)たり

狩衣

行平陰洛　葉娘　蘩(カルカ)　茅(チガヤ)
やまとの花　稲豆　柱(ハシラ)の祝
白梅子　蛇
狩衣のすそをくゝりて水ばくりきそや帰(ユキ)さの
狩(カリ)衣の袖口の袋(フクロ)に供(トモ)ばこのうりさねとうくたら
ずとゝゝみ入れ更衣(ころもがへ)をまつ井川の切幕
にもりつゝとゝめの役よりおくれ八人きそうめそ
と俗(ゾク)ごゝり

帷子

金　かたびら子　昇足　入棺(ニウクワン)　号
湯　風呂　菖蒲の茎(クキ)　几帳
乗海老
わらびてゝ
よ帷子を着(キ)けるとゝりけを帷子布のり
おもり分(ブン)とくすさやゝ
つゝ着初て八月晦日まで五月五日よ
まの中帷子浴衣(ユカタ)ばかり着(キ)て居(ヲ)るゝ
なり。鄭(ヂヤウ)玄(ゲン)薫篇(クンペン)に曰(イハク)暑(ショ)熱(ネツ)衫(サン)絺(チ)絡(ラク)必表而出之と

紙袍

夜具(ヤグ)　衾(フスマ)　褥(シトネ)　枕(マクラ)　被(ヲヒ)　衿(エリ)　袖(ソデ)　後人(ノチノヒト)　寧人(ヤスキヒト)　貧僧(ヒンソウ)
清水坂　さゝら漆　松永通
水川　仙蓼　竜舎(ロウシヤ)　乞食
歳列座(ザ)ゝまゝゝゝゝそ
人(ヒト)衣数(キヌノカズ)ゝもゝ色(イロ)ゝそ
多(オホ)衣(キヌ)ハ并(アハセ)もゝず物(モノ)ゝゝ

扇衣

いとゝの座(ザ)　夜(ヨ)のめ　門(カド)徒(ト)宗(シウ)
ゝゝす人　葬礼
出(イヅ)風(カゼ)の呵責(カシヤク)ゝ大小ゝの扇衣とう
ゝゝゝゝゝ・衿(コロモ)襞の付(ツ)ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

扇

ゝんずく　ゝゝ　菜入　人形(ニンギヤウ)　ゝ(テ)扇(アフギ)
やまとを着(キ)　ゝゝ
強(シヒ)ゝゝ骨(ホネ)の人扇と入(イ)ゝゝ
扇ゝの骨(ホネ)ゝゝゝ大(オホ)ゝの扇とこ手をゝゝ
ゝゝ水練(スイレン)のとゞさなり。上戸(ジヤウゴ)ハ扇をこ手(テ)ゝの
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

肩脱（カタヌギ）

着ながら頭漢（カシラ）後羅の飯（モノ）を食ひ
衣（きぬ）かろん（テラ）ぶ氷（こほり）菩薩（サツ）わつきれ
男女の子ども
四老廟詩南軍不相（ハなさず）左辺袖（そで）四老安劉（リウ）是滅
劉と作（なり）王孫賈（シ）ハ閔（ビン）王の傅（フ）と報（むく）ぜんとて市
中にて殺（ころ）せん者（もの）ハ右（みぎ）の肩（かた）をぬぐ
とて殺（ころ）せり
これバそれまでの四百人ゝ二人男を
ひくりかへすぐぬぎ」ともいふ。孟軻（カ）素（もと）を肩（かた）ん
ぬぎ」ともいふ

垣間見（カイマミ）

狩（かり）の間（あひだ）
わざれぬ人（ひと）
衣（きぬ）の里（さと）
碁（ゴ）
紫（むらさき）の戸（と）
行（ゆき）のくる姫（ひめ）
つゝ陽（よう）の射（さし）
まりさゝめく・深閨（シンケイ）
ぬぎ

垣（かき）

檜（ひのき）皮（かは）葺（ふき）
こぼれ小男（こをとこ）の庵（いほ）里（さと）のわらべ
宿（やど）家居（いへゐ）樺（カバ）縁（ふち）
家（いへ）雀（すゞめ）廉（レン）社（やしろ）神木（しんぼく）田畑
栃木（とちのき）木槿（むくげ）
垣間（かきま）蚊帳（かや）釣（つり）
多居（たゐ）三界（さんがい）
鞠（まり）紺屋（こんや）
尤（もつとも）の髪（かみ）青（あを）
尤の傍（かたはら）近（ちか）の檜（ひのき）
芝居（しばゐ）垣（かき）
るも表（おもて）なるべし・山洋（ヤマヒツジ）
垣（かき）
垣（かき）
垣（かき）

門（カド）

たゞすむ神（かみ）
馬車（むまぐるま）

姉（あね）
妹（いもうと）
家（いへ）
門（かど）
田（た）
藩（ハン）
饒（ゆたか）

礼名大 乞食 芭蕉 凌波 眩麗
垢離 抛ツ

ものづくし 杵 砧 ひとつもの 門松 ワラ 門
すごせ わらべ 約束 ふたもの ひとつもの 門
よ 市 朝 去而晩 来則吾倚門而望と
そいふをもつて

門立

按女 辻占 乞食 市 夕涼
松ざり 酒やー みむ眼

わらべ

旅立人のうハ川 せて 雁 稚子 候門
陶去来の辞 門 門 門
ハいと行とる。 綯 の門 門

門守

旅軍 雁 秋 私物 物揃
せをいふ 雁 寺のつき
雁 梅 おて 軍の門 門
裏や 六角堂 て 手 れバ一年中 門
ハ門 とつまで。 久 門 門

尾

家祝 鶏 鶏冠 櫛 尭 大仏 海老 大阪
欵冬 忌 祠 寺 称 尾 蔓月 鶺鴒 鶺鴒尾
冷 霜 花 重 竹樓記 竹土破之 割
去 其節 用 代 陶尾 尾
尾 尾 尾 今

土器

池大 皇居 風炉 墓
黒焼 宋女 狩衣 わらひ茸

旅立 仏 り
わこと系 源氏 細枝 源頼
四月一日 生 衣 四月 四月
衣 池 ひ 仏 参 松の枝 仝
池 ひ 尾 ひ

鞍

花酒 酢 藍水
司馬温公 薬 参 鯨

の如くなるもの。胡蝶のごとき。

のおもかげなどいふ。

漢陰ニ有叟君知否抱甕區々亦未貪

掛金

花入 瓶 天秤 軟毛ふで 棚

なぐい 竹製

魚のうろこ 竹の節 ささくれ いかけ

とうけみゆくそのうろこ色くさやり盛

人ハだのそれ分の持

なり。後世の名僧ハ

けてをくめぐり

額

文寺 華表 教室 庭 亭

風呂 古師 古院 田舎

漢字の額 篆経 蘭戸 蓬莱宮

なるにあらず。楷書と天王寺ハ

向の称ハ風流成る

して額よりハ活字

樂

詩所 作者 演奏 行幸 賀

学蝗 万戸ノ軍 伯古 奏ス 奈良

大井川 宇治川 寂庵丁 天人 孔雀

張文成ノ地家ニ入ル時も樂ヲ奏シ劉晨阮肇二人天台山ニ迷ヒ仙女ノ琴ヲ聞キ王ノ樂ヲ奏シ玄宗皇帝ノ霓裳ノ樂ヲ奏シ等ハ樂ヲ奏スル時ノ事ナリ

壁

いろそまる 蜘蛛 巣 掛物 達磨 所沢

きりぐす

耳 豆腐 落書 儒士 陸

壁ごしの人のこゑ 月 談詩論盃酔

のこゑやう風秋の

あり青壁 無粋閑村 鶺鴒 山谷

竈

いとぐち 蟋蟀 蠅 空梅

年始の餅 仏壇

二月の廻
民の竈 こくひふるうのおろし引鶴護
冊竈聽松操古琴 作名乃竈将軍 乳随老と
いつぞ
格子 カウシ
堂宮 竈 破風 天井
格のおろし 傾城 窓
みつ
まつ
碓 カラウス
タタキ 地
今 碓 餅屋
竈 カマド
花 毋衣 丹実 川除 茅葺 魚
白 多出 茅擣 耳 詰
掛物 カケモノ
床 出陣 連歌 やれ小袖
歌 氏 家相 斗
日月 竈中鳥
碁 打碁 将棋 編
卓香炉 額

頭（カシラ）

太鼓つき浪ひざ羊（イモ）山
地獄（ヂゴク）楽（ラク）刀の柄（ツカ）釘（クギ）炭
若分の鬮（クジ）獅子蜘蛛（クモ）尖（サキ）出旗
御寺（オテラ）元風（フウ）五人組魚（サカナ）抗（アラガ）日傭
なくてもよいものらしくなりてもよいもの
けやまあるんぐるのうらせんなりて施主のぶ
ぶおわりのうらせんなりて朝の尾ろう
けてもいものうらせんなり。出門（カド）掻（カキ）自首（カシラ）苦夏（クゲ）平生
志と杜詩の旅せり。掻首（カキクビ）十季（クセ）支と東坡よ
もとえそうり

顔（カホ）

ひいか人形姫風月病人
新子兄弟（シンテイ）脇立（ワキタテ）疱瘡（ホウソウ）絵
三十二相八十種好八仏の出様（デヨウ）ぐるみの地義（ヂギ）不
かつよ村の閻魔（エンマ）鬼（オニ）息（イキ）やく仏仏師の魚の卸
ようかひさいくらいろ弥（イヨ）ぐるみの
ろうもいろ

髪（カミ）

ものけるー仏御（ホトケ）の縁（エン）
ひいかるうろあるもめくれそうそして凍（こご）まうと
夕色のなくいのとのひー叶（かな）そ髪長僧尼（ニ）醜（みにく）と
る湯王遇（アテ）草剪（キリ）八髪（ガミ）以自為（ヰ）犠牲（ニエ）禱（イノリ）於桑林（ソウリン）
雨大至（イタ）と六帖（ロクデウ）けつ老（オイ）の生（ハ）えるくる髪（かみ）ろ
ろー顔回（ガンクワイ）ろうとして髪白ー神功皇后仏（ホトケ）浦よ
てぬーとのそして抜（ヌ）
くうのろくいの女の髪（かみ）そうやや

髪（かみ）おろし

誓言（セイゴン）うる君（キミ）よ

髪（かみ）すき

源吾（ゲンゴ）牧人（ボクジン）
親よ不孝（フカウ）のうる別（ベツ）
ろうもう熊谷（クマガヒ）の敦盛（アツモリ）のくあ。女（ヲナ）ごのい極（キハ）まの
あ。往古（わうこ）の姫（ヒメ）の髪（かみ）ろうろうろう尼（あま）ろうに
ろうゆくろ祇王（ギワウ）ろう

髪（かみ）結（ゆい）

能（ノウ）家（や）ろうろうろう
梳（すき）櫛（くし）ろう
結（ゆい）ろう女（をんな）

曼多羅（マンダラ）

髪（かみ）

太鼓つき浪ひざ羊（イモ）山
地獄（ヂゴク）楽（ラク）刀の柄（ツカ）釘（クギ）炭
若分の鬮（クジ）獅子蜘蛛（クモ）尖（サキ）出旗
御寺（オテラ）元風（フウ）五人組魚（サカナ）抗（アラガ）日傭
なくてもよいものらしくなりてもよいもの
けやまあるんぐるのうらせんなりて施主のぶ
ぶおわりのうらせんなりて朝の尾ろう
けてもいものうらせんなり。出門（カド）掻（カキ）自首（カシラ）苦夏（クゲ）平生
志と杜詩の旅せり。掻首（カキクビ）十季（クセ）支と東坡よ
もとえそうり

顔（カホ）

ひいか人形姫風月病人
新子兄弟（シンテイ）脇立（ワキタテ）疱瘡（ホウソウ）絵
三十二相八十種好八仏の出様（デヨウ）ぐるみの地義（ヂギ）不
かつよ村の閻魔（エンマ）鬼（オニ）息（イキ）やく仏仏師の魚の卸
ようかひさいくらいろ弥（イヨ）ぐるみの
ろうもいろ

髪（カミ）

ものけるー仏御（ホトケ）の縁（エン）

まんりのあるの一のみてくそうにおぞ
らせりくにた今くいひ
なりおのなしのそよ
そ申そもおのしくそ

像 カタチ

炎紀 及魂香 仏のの懺 石落
辛夷 沈 婆娑 絵 佛 もなく
髪 もの

郊原 これうの骨 蝉も蛇も像ば
うとおせり 吳山 演説 の石 師 もうくろを他
てくて今もおとくいたなしし 時 のくろに海
あ波 ようし 秋 落 もの風 神 もくくろうし
破爪 の像 とおたなの十七のかすくくろう
せうをいふとや

脱 カイナ

及すのふ 弓射 毛筆 心中立
酒 もと ちくわざ 松 数珠
為 羽 入 かろ

かいのくたくんのくりくれとうり扇と
りくまの面かくくのかを物よてとくを弁の名
なうくうの中 指 有て本うし 接 修

風とうくんのくりくくく

花月　長老　三番目

五山叢林よりも尚甚敷とうけ給わり候上座よりは月花に思ひて詩歌句の興も生ぜず交て勤行の外は無念の事のみ候ものを其中に長松寺の三門方丈のみ立ならび候ぞ

餓鬼（ガキ）　非人　盂蘭盆（ウラボン）　小栗殿（オグリ）　目連（モクレン）の母

うらぼん後寛保の頃　人数

千部念仏壬生念仏など比類の物と申候ぞ

罪人も和らぎ、辛労の一門迄海よりもひろく山よりも高くとひろめ候ハ、この女餓鬼中さへ去事のなきたとわりてそのまゝ

麻布（アサ）　寺の名　多し

小笠原　本多　何さま　何の何

麻衣（アサコロモ）　武家出家　小袖　百合若

素衣　麤衣（カラコロモ）と論語におせり　小庵（コアン）後の衣歟のはなるべし　姫君様のうへ

彼のそこなき中よりかのこのまーりうちいでしこそ

さりくるほどに　鞠は麻の皮にてつゝみたるや

強盗（ガウタウ）　法令　赤坂の宿

乱世　焼亡　饑饉（キキン）

もや町ぐるみ二人三人まで打殺され強盗のうめ

ふめし唐鄭義宗（テイキソウ）の妻ハ強盗の入来りし処へ姫のあ

にあせてそこなれてしまひぬ

希代（キタイ）荘蹻為盗於境内而吏不能禁（ソウキヤウ）と韓非

子にあり

敲（カタタキ）

職人　碁　美女　煩悩（ボンノウ）　正伝

妻をあすび　虎の尾　石沙

や月　竜城　犬と猿　妬妻（ウハナリ）　のろひ釘（クギ）

恐霊　放下僧　古宿　童形の将

作法の事

宣也上人にあひまみえて說の数をうけそこなひ

をあらそひ申ぬるいかにおぼしめすよふ

ありし　豫譲（ヨジヤウ）が衣（キヌ）を撃（ウツ）こと三たび　謀（ハカリコト）よりも

るに籠（コモ）の門より兵二人ゆて通（カヨ）ひ

殺（コロ）さんと追（オヒ）へしてくり（ハヒ）

猟人（カリヒド）

天河 片恥 冢士 赤沢山（アカヤマ）栄
稲荷 賀玉 松葉 紅葉
楠 教ら 一の谷
日本武尊（ヤマトタケル）猟（カリ）のひ小夏（ナツ）もゆるもりくの火を
つけ吹（フ）きたてひらのふもとさしもくともりあるこそ
みうりせてやまめやいと王（ニウ）の渭須（イスノ）よりて大公望
よき逸（イツ）話（ワ）大正（タイシヤウ）の猟（カリ）公（コウ）科（クワ）の狩（カリ）よ妻（メ）をまうけ
ぬひ〳〵と

鍛冶（カギ）

番匠 普請 私 初化祈
桑田口 三条 一条院 後冷
三原 鎌倉（カマクラ） 大和 後白河院 稲荷（イナリ）
濃列の関（セキ）ゐ打（ウ）ち名剣造（ツク）りそあるれ。楚王の夫人
鉄堀（カナホリ）をうこ造（ツク）りて干将（カンシヤウ）莫耶（バクヤ）
然西洞院（モリノキ）森木町（モリノキマチ）

紙（カミ）

表具 羊（ヒツジ） 筥（ハコ） 厠（カハヤ） 幸子
灯籠（トウロウ） 陸奥（ミチノク） 弥（イヨ） 懐（フトコロ）紙（ガミ） 守札 絵
製（セイ）

紙袋（カミブクロ）

木業 干飯（ホシイヒ） 麦粉 菓子 菓
塗箱 出火（シユツクワ） 紙（カミ）袋（ブクロ）
麦粉も糠米も紙袋（カミブクロ）に十両の金（カネ）
の量（カサ）もあり。これそ紙袋（カミブクロ）の名（ナ）
これらのうちさあ紙（カミ）袋（ブクロ）
てのこと。

柏（カシハ）

雲（クモ） 柏（カシハ）餅（モチ） 赤飯（セキハン） 飯（メシ）
あり坂（サカ） 鶏（ニハトリ）の毛 立（タチ） 鶏子（ニハトリ）の庵（イホ）
餅 山王の西供
むかしより葉（ハ）なのたてるにのそうそ
その上に葉（ハ）のこうふりものかれりのかへ
わりとられなくに庭前柏樹子（ニハノカシハノキ）禄（ロク）命（メイ）の歳（トシ）
然後知松柏之後凋也（シハノカシハノノチニシボムヤ）と夫子（フウシ）詞（コトバ）

柿（カキ）

衣 帷子 山伏 ㇾ 着 目白 鴉（カラス） 茶入の袋 猿 山科 醍醐（ダイゴ） 信濃 蓑 漆 册（サツ）波 国（クニ）府 紙 帷子 蚊帳 蚊屋 蓙 蒲団 蒲鉾 蒲萄 蒲焼 蒲柳 蒲公英 蒲葵 蒲桃 蒲団 蒲鉾 蒲萄 蒲焼 蒲柳 蒲公英 蒲葵 蒲桃

樋（カヤ）

芝生芽 觸ル 油 風呂 碁盤（ゴバン） 酒 仏像 塑（ソ）り 吉野 册（サツ）波 五穀 三宝（サンボウ）山 ㇾ 立 世 人 ㇾ 着 ㇾ 物 ㇾ 着 ㇾ 物 ㇾ 着 ㇾ 物

楚辺枝日恨海棠無香と云海棠雖好無悪
者正自悲啼病橋詩宮女院よ一株の海棠あ
りとも云ふことあるもこれとは反もあることけ
もそこら

楓

うつの山 箱根 廿六の下 すゝ
車 柳 桜 松 鞠場 いわの山
あの雲

楓の紅葉のいと面白くなりて女のもとへ云遣
たとかいふ枝にまきりつゝそ秋のもみちにし
それ外月そうつのわの楓もまた遥天橋の楓い
風山窓よりの紅葉もせり

刈萱

カルカヤ

鶉 勝のまち 奥州 女郎花
伊勢の造宮 道忠 関 小野
桔梗

萱

カヤ

おのこ草刈萱の刈萱かやうにみだれ伏ても
とろにとゝまりて対面のかなはぬ間しくるゝ
りつゝもとゝんまのけきの月 秋の花風よ礼もそそ
萱

鶉 勝の月 奥州 伏拝の原
伏井 造営の者

杜若

カキツバタ

號巻我屋上三重敷布と杜子義よる
八橋 沼 池 沢 薄 水鏡 宿
沢 沼 伝吉 鳴者 伏見

芸

カブラ

天王寺 近江 蚫の切絵
矢 ひら

飯

カテイ

仏の 朝の供 旅人 八橋のり
篭城 軍場 小町

禁中の物餉間のこと
あむすびつくるまのひのつとをとりそおとりそ
の松をまつるくるまの数をかぞふるみの松餉
さんぞろあるれ

粥 カユ

病人 大阿縁 同十五日 連歌
時令 ビサイ
天寒く衆飢疲異上言豆粥明旦光武曰非得公粥
豆粥飢寒倶に解と後漢馬異がもとへ豆粥
人のひのの七日の七くさがゆ
とゝみ〳〵生菜の七日めの粥と・喪服の人も
粥と食するものとや・牧人のもの
用うそ

糟 カス

馬の毛 漬物 油 麦 紅粉
清 酢 あま酒 牛 醪汁
何不舗其糟而歠其醨と漁父辞なり・生魚
のめくさの糟のそへてなりがこ・聖人糟糠と
いう句あり

糀 カウジ

病気 湯豆腐 酢 索麺
山椒 胡椒

懐妊の人ひとり秀てこまかくつくりたるを
茎のこまかくつくりたるを
カウノモノ

香物

羽茶守 奈良茶
配膳の附も生姜 醤 山椒 おろし 湯漬の附
いとこまかくつくりたるを
ミソそう

名

菜名の生れ付美用なるのこと
秀て
菜名の生れ付美用なるのこと
法師人の中よりすぐれて上手あり法師の達者
あり・芸のの秀逸あり学法門の先陣笠置城
のの事なりしべし

怪我 ケガ 加羅 カサギ

瘡 カサ

痩子 子指 蛭 ヒル 蚊のこと
始皇至驪山下神女遊神女嘯之 生瘡と長恨
歌に唐のくにの楊貴妃 湯の山
唐うさとうや・禁獄の者ハ篭瘡をこ瘡うさ
ハ疫病とうつるびし

膏薬
雍州ノ門 清見寺 下京ノ尉子

肩見
鏡 ひんの髪 葉の記 みどり子
花摘 冠り衣 茱萸
肌の守 笋 袴着 菊さすころ
藻塩草 狩衣 菊
寺の前 虹 渚のあつらゆる

材
木曽の奥 木曽 小倉 厩
亭 軍 卒都婆 私
分輸天下之巧士作雲梯之械設以攻宋ト淮
南子ニ魯ノ班キ輸ノ城ヘヨセテモ攻ルコトヲ得ズ。若墨子ノ材ヲ持ラ待ト云ヘリ。雲梯楼
紆登 敵閣 トモ恨 所ニ泳ぎ 指ぞ冬の山路 ろくろ
のけもうろうして 柴胡 そこ 芋 馬の毛 蓬
せきまいい 井 虻 夏そこへ 穢多
塩が肉 保元の軍 尻大夫 賀茂 茶巻
納涼 ぶさ わやたり 組つひ
平の宗盛清あの花そよ 死罪 びくわり 祇園乃
とりて六條河原にて 神輿 みこし 念仏あり 川の河原 あり
うばそくろうろうと云 桶ゆひ 太鼓 鼓 あら鳴
樽を押 あ鞨のあく

狩

紅葉　楸　庵　蔓　岸　松茸　雉子
衣川　初東　冨　軍　吉日　交趾
宇多野　奥野

魯西狩ニ獲麟ヲ時なくす　庵うたそわ月
田畠のみるとうや民とうにん田獵しるくと孟
子も斉王といさめるこう宮活へるにいくと
の給ひくる過事よみりすうちこの春よ
つと独つめるそやびーうりくと大和物語
よかりかりハ初んころもせて酒のこやまや
ふうくくと惟喬なり市邊皇子狩場
して射ころれう

狩の使

驛路　馬の上　治る國
藤袴　駆酒　詠え
蕪夫

風

雲　雪　高く　秋
芙蓉　寒江　夢
氷解　こがらし　雁　雁
満汐　わら沼　初しぐれ　馬の耳
たつみ風　敗毒散　虎　扇　舟　豚
立秋　みそさざい　柳　暑日　天狗　無常
君子の徳　巽の卦　埃　火の用心

馬ぐさ
永の病ひ癒え年く四月八日より風を吹
てくれますやまたというや・橘姫の海よ入りひ
て風のやうにハ日本武尊の命よかろうぞや・列
しそ・菊紙・雲よりつ色いわやうくぞや・列
子ハ風仙のりあるより・風とおのいるるまで
なり・風よ報分をなさげ
よめつく入べきりの代

風雅

秤目（カリ）　朔（ソ）　蚤（ノミ）の巣（ス）　帚（ホウキ）　産屋（ウブヤ）　竜胆（リンダウ）　衾（フスマ）　菊枕（キクマクラ）　綿帽子（ワタボウシ）　火桶（ヒオケ）　落花（ラッカ）　蚊帳（カヤ）　蚊遣火（カヤリビ）　庭火（ニハビ）　蚊柱（カバシラ）　蚊遣（カヤリ）　蚊帳（カヤ）　蚊遣火（カヤリ

られ下に上にかひさてと等木の河べ所悪於
上毎以使下とく大学の図べ日本記神代のか
このまゝなりのまゝとてとありとゝや

捕員 軍 すまふ 司合 碁 碁打
公るす 鶏合 的矢 惜哭
克己復礼と仁道のすゝめなり破軍星の方
くんぐ行かハ軍法のたゝ商賈の方も侍る
員ゝ空海ハ守敏よりおくれしかおくれ
ゝゝ

歩 武者 落人 君をかりふ 軍 碁
荷掛 ゝるす 司合 ゝゝのしか
ゝても修行の旅ゝれいのりのゝゝもゝゝめと
ゝゝらゝゝゝ

海道

旅篭屋　遊女　初つ雪　花
鎌倉　辻堂　乞食　捨子ども
町　飛脚　一里塚　馬借　並木松　橋
汽船　東国　西国
旅人　さざえ　なべ　つぼ　笠屋　海ろぐさ
よろづ〳〵　名ぶつの海ろぐさ
津海道　伏見海道　荷車　ふし
なのり　松並木　日数　旅籠　飯盛　女郎

霞

花の雲　久の空　こずえ　春野
山々　絶ゆる青霞　静なる海辺　開
天の橋立　仙人　うつし　山　盃　焼山
細字　目　絵の書
洞霞　離素練　仙人　うつし　絵　山
とうや。私のよい春日　ゆるく　初なれ
ちへ　ゆうべ　ゆうべ　霞　光明
後殿於火　泳せり。かすみ
沖　ゆうべ　ゆうべ　霞　松浦の
ゆうべ　ゆうべ　霞　その春秋

寒中

寒晴　寒暖　寒風　寒雨　寒雷　寒月　寒星　寒灯　寒夜　寒水　寒山　寒林　寒鳥　寒雀　寒烏　寒鴉　寒鯉　寒鮒　寒鰤　寒鯛　寒鰯　寒蜆　寒蜆汁　寒卵　寒餅　寒酒　寒造　紅粉
門松　離　刀磨　餅　早梅
水仙　茶うら
宇の中　卯　小宇　此　氷大宇ふ　初うら　春
寒の巌　四月始知春　ふ山中　近　ゆ　とあり。
とさえうとうや　病　宇ふ小　綿
ふ　ゆうべ　ゆうべ　霞　松浦の

酒家

落人　盗人　出入　奥　市の中
嵐　浄土　梅うら　絵
仙女
貧うらふうらくれ　ゆうべ　ゆうべ　霞　松浦の　ゆうべ　ゆうべ　霞　松浦の　ゆうべ　ゆうべ　霞　松浦の

目茶繰手　護幡　天蓋　華鬘
二道　謎　額　ふさけうり　母衣
勅勘の不孝　輙　屍の髪　見
徐君　玄賓僧都の衣　杉　かわらけ。
珊瑚珠　鉄網　まうけ　国幡　茅原　石橋　うつぎ　花
まふ。日月　天　ふく　見。

假　カザル

佛前　神輿　ふみ　商の垂　文法
山許太刀　茶具　うづら　棚

あの多　錦　成　宵　書院　床

舟　高座　金物　人道具　左義長
子夏　白小人之過也必文　とり。能使西施掩面百
遁　焼粧　仙女　聖天の棚　とうさう
亡者　楊国忠　氷　そわそわ　ひ
なごり　玄　娘　ひ　ふく

掲　カゝグル

下人　お
腫痛　抱子
ふにつく　ぐれ　ぐ　嫁の女
ぶく　笑

足　より　られて　運　ひっさう　籠　城　ぢ
乗　ぱっく　張　り。簇人　ぢ
こ　ひっく　ぬ　ける　ぬ

かゞひ

腰　ひざ　指　落人　科人　くぐ　ぬ
脚　の　熟　約束　字薄　の魚
信於　屈之中而用於既足之後　蕘軒　を
孟。言右指　人　ひ　ぬ千里　ね　手
とっ　ぬ　ね　孟軻　もいまゐ　裏　ぬ　朽
木　の中　大塔　宮　ハ絶　ぬ　蛇　よ　ら　ぬ　ら　ぬ　滝
の下　よ　かっ　う　ん

斧　カゲ

主　恩　親　慈悲　月日　師匠　陵
雪残　雪　ま　ま　ま　ね　風　ッ　義
給像　炎天　刀　利刀
明月　ま　ま　ま　と　鬼　と　ぬ　ぬ
気　と　う　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ひ　と　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ら　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
な　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

假初（カリソメ）　秋の田一夜妻　叶ふあだの契　芳志のかりそめの露　旅人宿

かりそめのまろみ一にそひてさそ死なん　村雨のやどり　一句片言のちぎり　生死の海をこえ　あひもやそ　陳勝うそぶく（ウソブク）　伏義（フツキ）一畫を作（ヅ）りて天下の理を通せり

狗（ル）　鳫（かりがね）　浪花物種（ナニハモノダネ）　年　舟　升のみ　文字

讀物　葛の葉　古今　花八根　弓

五斗の米のために屈せず　相如（シヤウジヨ）なく但馬（タヂマ）どうじ　橋柱（ケウチウ）

ちうそ神じ　よそ一ハ相如（シヤウジヨ）なく但馬（タヂマ）どうじ　橋柱（ケウチウ）

なんてもの　河内（カハチ）のまろび　九年（クネン）の面壁（メンペキ）　燕丹（エンタン）

太子（タイシ）の神（カミ）りし　鞠（マリ）の水（ミヅ）　九年（クネン）の面壁（メンペキ）　燕丹（エンタン）

ちうそ藤武（フヂタケ）うぢ　ちうそ　九年（クネン）の面壁（メンペキ）　燕丹（エンタン）

よわり

替（カハル）　いろは　声　歯　雲霧（クモキリ）の袖　川の瀬　舟の水

有る川の瀬瀬（ナヰ）　人の身　もの毛　家（ヤ）

借屋

来の世も住（すま）ばそうろうずとそうろうまなくいよ

そうにそうろう西行（サイギヤウ）のうた　ゆく末（すゑ）は　遍鶴（ヘンジヤク）

う醫療（イレウ）八圖にうてかわり　絶信（タエマ）の命（メイ）

よかそうろう　紀信（キシン）が忠（チウ）　秦（シン）の命（メイ）にうそうろう　福寿（フクジユ）

新（あら）たそうろう　平安城（へいあんじやう）のうぬいうそうろう

かく

瘡（ハヂ）　耻　双六の賽（サイ）　琴　落葉（おちば）　風（かぜ）

納豆（ナツトウ）　醤油（シヤウユ）作（ヅ）り　てんぐう　衆物

鱠（ナマス）　経（キヤウ）　壁（カベ）　机（つくえ）

猿（さる）　肌帯（ハダヲビ）　鍋（なべ）　炭（すみ）　すのこ　猫（ねこ）　数珠（ずず）

内則（ナイソク）　疾痛苛癢（シツツウカヤウ）而敬（ケイ）　掻（カク）　撥之（ハツシ）　善（よき）

し。親（おや）と送（おく）る時（とき）　興（きやう）　風呂（ふろ）の間（あひだ）　は

垢（あか）とる　数（かず）のうひ　珠（たま）　耳（みみ）　塀（へい）の

まわるうらうら

詰（ル）　浄瑠璃（ジヤウルリ）　梓神子（アヅサミコ）　盗人（ぬすびと）　遊女（ゆうじよ）　夜長（よなが）

縁（エン）辺（ベン）　一向宗

所旧跡ハ亦の老ふる人ふるくも至りて世このまを
かるゝいふ為大綾指綾なり。両様の異仏を
縁起とゝれり。商人ふるくも船入ふるくも有てこそ。船入ハ
浦山をゝゝなり

かぐら面

師ゝ舞 雉 中風やみ 童 いうのかり あ汾
ほろもちふる 合 鶏
又兼嵐注掉頭者於筆不可之状荘子掉頭帰去
日吾弗知也。商抱の移ごんのなゝねゝ
るゝ。仲人口のふゝ
ふゝごや

鶲

カゲ 茶 彩茶 鶯 犬 伽羅 墨
梅 生魚 猫
談の理非と大象ふかゝそ紀ふゝ芝東な
さゝゝ。獨倚寒村ニ鶲野梅ニ依ふり。麝
香の山ふゝを猟人ふゝそ紀ふゝ。鹿茸を裏

唐

猫ふゝ鶲絵図
木茶 破風 紙 古の筷掛 茶漆
門 納豆 山椒 参
胡蝶ふ鶲頭鶲首ふゝ
ふゝひてふぐふゝふゝ
ゆひそとかゝふ。筆道ふ
ふゝ名ふゝ。ふゝめ紀ふ
ぬゝふゝふゝふゝ
カウライ

高麗

慈 参のふり 茶碗 人参
胡桃 鶯 桐人 法利
ツレ 鶲ふふ鶲首ふゝて
山の硯学の役ふり。豆腐ふゝふゝふゝ
ふゝふぐふゝふゝや。ふ鶲
明の始なり

金山

傾城 佐渡 のへさゝふゝ
感陽宮 市 祭
吉野の中山嶽ふ金ふゝふゝ
山ふゝ木ふゝそふゝ拘ふゝ
ふゝそぐふゝふゝ。前漢の鄧通ふ銅山を

下されて錢を持てとありし。銀山鉄壁八禅話の詩なり

名所

神山　嵯峨（サガ）　榊（サカキ）　菱草（ヒシ）

みわ山　卯の花　擣（ウツ）の衣　梢　ひけのこづち　乙女子（オトメコ）　小松原　こよろぎ　三の位　天の岩戸　小松原　こよろぎ　花の盛　二葉（フタバ）の松　菊の下水　松虫　鶯　玉椿（ツバキ）　松のこげ木　老せぬ秋　みとし川　森の下草　岩ねのひづく　玉の砂の月　こころさし　みつくさ　秋の夜の月　こころさし　みつくさ

同社　神川　河原　祭　四月中の酉（トリ）

賀茂

競馬（クラベバ）八月五日　足揃（アシゾロヘ）　五月五日　足揃

だんのつぼ　車坂　念佛躍（オドリ）　一言の祢宜

大通る　松の陰　歌（イヒキ）の杜（モリ）　大宮のやしろ

鴨川　同（カモ）　水底の月　つづら　鮎　千鳥

水底（ミナソコ）の月　つづら　鮎　千鳥

夕しぐれ　ゑもいわぬ　わさのゆふで　山わらび　代　大宮

六條　いづる　六條　いづる

片岡　カタヲカ　同　杜（モリ）

みとし川　夕ぐれの空　雪雀（ヒバリ）

松の村立　かすみ　神山　紅（クレナヰ）

なごし　岩ねの苔路（コケヂ）　祢宜　三昧（ザンマイ）経（キヤウ）

蝉 木綿だすき 早苗 櫛の上ぶさ
櫻 わりか
大和国 片岡山 若菜 紀家 初の糸 鴈
雄子 麻 旅人 達磨 餓死 人
鏡山 同 山ゐ 大文人
近江国 同名り峯野 うつの多 紀家
天つ女也 老 神の社家 みそぎ海
河泉 こよのわりいくさ 志ぶこる
郭公 月 わさもこ志の衣
笠取山 同 紅葉 附会 岩 漁の夜
桂 同 河渡里文 大井川 饗祭
狩飼舟 紅葉 月の輪 花の匂ひ
炭竈 山科 酔醒
久々の月 難波 伊勢 嵐山 沖津祭
天の浮橋 小督の局 梅の宮 梅津 向の岡 祢宜
小督の橋 梅の宮 天の浮橋 清原 亀山
松の尾 西方寺 糖 照月 蛍 西院
山の内
亀山 同 滝 峯 亀の尾の山下モ 岩根の松
滝茶 滝の白糸 古代松 子日
大井川 柳葉 清滝 宿の池 万代
すその 衣 霧の毛衣 秋の夜の月
みその 洞 桜 霧の林 花の宴木
毋波 伊勢 院 華木
廉峯山 同 泉川 みその原 ますお 掌
郭公 独の洞 相坂 河風 笠
紙屋川 同 我黒髪 鏡の影 澄み水
野辺 西の京 続名 字橋
春日 大和 山野 原杜里 古郷 神嶺
社 祭 八 二月上ノ申ノ日
十月廿七日

秋火の燃る 若菜 ゝみくさ 摘 作り伝
うるまくら山 春日山 わまつこゝね 大和 奈良
薪の能 菊の花 氏 羽買山 猿沢の池
南圓堂 東大寺 興福寺 法華会
明恵 上人 栂尾 裏の橋 佐保川 雁鳴
誓願寺 水仙 都の南 少の萩浪 時雨
釈迦如来 浮雲の文 柏木の杜 三笠山
葉守の垣内見 若菜 君が御幸 君
埋水 萩 栗蒔 春駒 女郎花 若菜山
同 山嶺 付高嶺 石橋 神寺 谷川
葛城 久米路の橋 天狗 岩屋 役の行者
雲の白雲 雪 雪の柳 紅葉 ちりぬる
うるま山 梅 ちりぬる寺 二上山 菜つみ
龍田 わたの川 滝 みちり 夜のちぎり
菊のうきそこ 野 かきねの小雨
うるまくらの小雨

神南備 神 三諸山 同 山岳 河瀬 作滝 里杜
竜田 三垣山 白妙の岸 岩根の森
名清き 林業 雪 雪の木 常盤木
鮭 山吹 時雨
交野 河内 山野 鷹 小野 原里 天の川
雄子 うづら 稲つり 鹿 鈴虫
名取川 いな葉の嵐 渚の橋 ちぢみ
鷹の鈴 ちりぬる尾の雪 紅葉 叢雪
みちり 淀

甲斐嶺 白嶺 尾 さやの中山 蘇の民
白雪 雪 君 神奈川 外山
山梨の雲

鎌倉 相摸 山里 霧る雲 名文八幡
雪の下 山の門 小袋坂 建長寺
寒明寺 参覚寺 梅ヶ谷 假粧坂 鰹 奥

扇ヶ谷　極楽寺　切通　鉢の井
星月夜　篠目谷　稲瀬川　大佛　腰越
月影ヶ谷　於の口　唐ヶ原　日蓮の乞水
殊勝ケ松　由井濱　法花堂　大倉ヶ谷
二階堂ヶ谷　柳栖の天神　板本教寺
姿ヶ谷　金沢村　六田濱　筆捨松　立山
南人山　実の文　柏立鳥　業朝　紅葉

霞関

鹿濱　常陸　宮神崎　浦浮　筑摩の祢

哀うさえ人　常　かんどりの石
鎌足の宮　隈川　小町ヶ淵　筑波山　兵法者
武蔵野　雲の絶間　月
夜の雨　一松　鶯の声　石のかず
幸濱　近江　夜の雨　一松　鶯の声　石のかず

堅田　漁火　千鳥　鷺　芦　落鴈

波の花　濱合戦　山王祭　大津　三輪祢宜
浦濱　沖　浪　網引　比良小松
ゆまの捨舟　沖津浪　網引　比良小松
和尓　ゆまのうけ縄　小糸鮒　す
ゆまの捨舟　沖津浪　網引　比良小松
和尓　ゆまのうけ縄　小糸鮒　す

糸道山　伊勢　岩戸　内外の文　杉

いせ川　法輪　すう川　泊瀬川　歌文
初桜の文　竹の杖　度会　榊葉　夏枝の杜
文川　月夜の文　紀伊　妹う濱　名所　露
もろ杜　藻塩草　浪枕　雲の居所

多摩の川 初月 十八日 月 十八日 行人

河野 同 聖 順礼墓 油煙の墨 蒜 来門 菩提子 六十の老 かつろの宿 茗荷 栖 白骨 そり 髪 潜口入 大塔のえん 初ごろし

△狂言 大和 みやこの 暁 紀の川上 法のこり火

金剛嶽 大和 みやこの 暁 紀の川上 法のこり火

えんのひびき

多摩 筵茶 宮沢 浮波 りんやく

多摩 いさり火 油士 出萩 依保姫

河内 木綿 神織 摂津 絹 神代 五五さしげ 金剛砂 うまやの里 交趾

河内 木綿 神織 摂津 絹 神代 五五さしげ 金剛砂 うまやの里 交趾

河内 寅の小川 村鈴 秋篠 金剛山

上総 駅 判金 題目石 源氏 勿延山 生沢川 白蘭 鶏の郡 義豆ノ牧 鞠 紅花 朔 蛤貝 蟹蛤 鈴 目ざし

上野 駅 縞 漆 盆山の名 利根川鯉 碓氷山 くろ岩山

加賀 依井 多楊 堂 常世の宿 板 相原 縮 胆 衣 縞 撰糸 鼓の皮 羨餅 菊酒 白山 竹の浦 越 ねの根 篠

俳諧類柧集巻二十二

与

ふゆ

みなし山 狭山 その関 山中 吉野山 奥

招魂の社 ふく風 なくしひの葉

小萩 野 ていしゅの赤れ 野 ふるさと 雨

なくしし。ろくと 狩場 山 ふたわ

それとそなくぴ 雨 ふうこと 雪の松

と斗 あていふの雪 ふるさと

婦

秋のすび 遠め 空の内 鷹

佐 家居月

ひん田のくさくさの若苗 ふんぼりそばりそうへ

うわ今ろ婦 よりそうの若苗 ふるようのと 很可。婦 支 貫 姑

契 交 妻 内 則の法 雨 にうあ姑 よろ

これハ人も絶よりそなくさ

蕭生 ヨモギフ　荻の声　蛛ーさメ　やもめ住

虫ノ名　親のゑ　哀慕　さすが　老木のも

荒ル宿　深夜の更　常陸のそ

横笛の笛絃をへて送り給ふこれも又ん由とハ

ろ紙ともつてくりつく空をハ

ちゝも哀れのふぶうこれ

ゝ由衛ふ玄奏ハれ泊ろ

宿と学のせくくなくや

蒿 ヨモ　花火　吹茶　ゑ

垣　簾　壁土　蛇　崔　土位　蟄

入江伏ス

近江の海ゑこもろ

やうに芦刈まろ。蒿ハ

蓬 ヨモギ　草　祭　馬　四天王　ゑ毛

雑　人形　杜卅

敷ル義ノ八まりの灘辻風

ゝ灘ハ二人のうよ

ゝ灘ハ飛井よろ

てこゝろの矢塔の坐主の宮よ

ゐ者ゝ也ゑ卯老をゝ

てゝ悩殺ゝゝろ灘直糸ろ色

萩討 ヨウチ　首分の大豆　天狗礫　月ニ

灯のゝげの暮　丑の時の大鼓

首我兄弟　城川の流れ　佐渡ゑ落　鎌飯

すや風ゝやはろ絵置の皇居とやゞり　比翼

働かり。田草八牛ゝゝろ

首ろ謀ようくやり。保え

も和対ようゝ仕ゝ

萩と家

月ノ矢数　キセルさゝへ

尺八　火吹竹　覚の水

早使　いそぐ

信心の念仏ハ晨朝まで

ゐり。大坂下の川ゑハ常

務ゐせでゝゝろそ早駄の

すゝ。祇ゑハ和ゐまて菱すりゝ七日の言ゑ十六日

の音をいふ 又

夜這（ヨバヒ） 星私出竹の垣 狂歌師

添りの中迄の帰りやれ行ぞ 女のえう

通夜（ツヤ） 月待 番所 狭径 会仏 踊

通夜（ヨモスガラ） 産所の伽 学問 物変

私窩子 揚屋 冬牡丹 編笠 髪附油 麻衣 売女の下庵

延（コダシ） 牛 中風やみ 昼寝 うれしうり

酒屋の門外 尺八 童老人

寒門（ヨステイト） 君子 別宅中 法体入神

小舟 奥 嗟歎の奥 吉野山 高野山

花山 桜川 二妻荘 男女

竹の杖つえ

方丈 ふつゝかなれども山ずまひ 伯夷叔

齊の首陽山は入ってらざれども 陶朱公

小船 午 さゝやかなれども 扁舟

囲炉のみぞじ 釈の勤行 ハあゝれんぼう

世の中　笛　尺八　火ふき竹　竹樋　百姓

家内寺ノ百首

世界にさへとりさげられざる古今序。

うにとそでひろうてうつる世界とまろりこちろくさ

うう称ひと皇帝木よりをうり、座ろうをうりてて

世界のうわとをろしめんとぞ

宵のうち　三ケ月　媒　酒　君待　明星

私の川柳　茶師来

あぶないうちハ人のもぐくてゐやすくふも学来色。

だらしの勝負ハ宵のうちに負ろて。盗人ハ月のう

ろにえつろひ出そよ。夜の私なぎ宵のうち

あるとをのぶこに月やとるんともあり

四辻　占馬　犬番屋　公家　捨子　塵塚　すまふ　うれ　振舞

名松ハをくれなさう四辻よおり。なのそ紀彩う

らうまめうしさ狆をけさうしくなりさいわゆ。酒

の酔ハ四辻へ退出ー仇う。闇牛喧嘩ハ町中そ

ハなりうう。十字街頭とふも四辻のとく。四ろ

用心　病者の食　風吹　関　被名

富士見ぐ江待ハうち近来立　鏡　ふをあらはれむ

ろうこうれう城ハ公づうのなくてなるわ。添寝ハ

ーのうろ姫君ハのうとうろうーわう。

てそ連歌よくにへとすくまりせられなか

そも用心。金銀の入

齢　竹　亦木立　鏡　ふをあらはれむ

よはひ

よの仕やもう　任生　冨貴

煙火のと　イキコモ

う籠る宿

須弥山の西ハよそろひ甲ひそこう移うまれ

茅生茅ち陰ー。竹内宿称う齢ハ稀なうぞ。大僧忌

頃そも三倍後成も九十の賀を祝しの酒のうち祝着

辺なし。荊子訓ハ二百余年顔色おとろうとところ

欲　慾　熱気　堀　姫　乱　目方　ふの海

曲礼よ敖不可長欲不可従とおり。大賓ハ蔵曰縦。

欲成火とハ誠がうろう世の人のむまうのにうろ欲よ

そうぞうて云り。欲ろ力にかろと俗言あるも

贖 哥紀 倫語 殘かる 文字
機 入数 勘を怠 其分の天皇
六疋の馬を献そ かぞへるハ詳なり名こそや。
三倍のつぐなひをとらし給ふ勅使こそその官人
きゃうよむ 官方倍利と王荊公が勧学文よりハ人のまつ
けをよむとそ

呼 淀舟 女房 絶死 おさな名 客人 亡者の廻向 沙士女
墓頭有酒賞呼客と朗詠なみこそ。商賈人の
町をわりくいなびてうる 人のもの 近武者をうぶ
應と云ふ 酔翁亭ノ記なり。韻鏡うら字の声紋
うぶこう

もむ 水船 馬 双六ノ賽
月水
山川と風のまをうろ
うろとめぐり行の節
みわり風ゆくに

善悪 難波入ハ 崔 眉間 錢
金 世の中 伊勢の濱荻
弱 碁 碁打 運 病人心力 落絞
射次 法問 古家 息 すまふ やせ馬
秤目 酒もり 荷持棒
祖も老女の数ハうら
文の奇もれとハ小町
つくりぞうてもや
てあり秋の雪ぬ
つくこりぞうてもや

悦 三番叟 狩 狩人 秋の始 にぐさ
まこびとのべ
にのてまこぶをし
彩と悦びとそ

らめさうされどもよにかなはぬものにてそのうちゆ
くなつうそうそう。一向宗のさんぐうの時よろこべ
れよとぞ

魚

鯵 浪年 船 刺の魚 糸腰

酢貝 友多 棟木のもの 背 ゆるやかなる
動を おしの城責 一門の骨根葉
梓弓ひきどひくもの ハもにもにけめ
と。儀あるべきためのもの 炎天のまま 丈夫
寝やすべきもの ふるゆるくくく

岑の白雲　白雪の行華　百首の哥

乙女子　天津乙女　八十氏人

わの山　雲をのみ　塩竈の浦　田面ノ

横河　近江　八景　三雲　秋　雲井の月

雲漂の袖　伺の夜　世捨人　僧

閼伽　僧都　小聖　常行堂　九十天帥

急指私の舞　同入江浦　内海　乙女子

余吾海　天の羽衣　伊吹の嶽　比良の

太

与謝　丹後　海　入海　浦　濱　礒濱

天の橋立　いねの浦　ふる

湊　こもこと葉　汐干　閑雅

廉　海士　遊浦堂　雁　稼員

鷹　帥　入部　行幸　百首の哥

菱　雪　茶　秤　侍　鶴　八幡

弦　一の名字　百合若大臣　富士　高麗

松茸　芹川　交野　大原　狛　犬

陰奥　いその郡　ふる　ま　同法　ふるさと

こうそれ　ほ　ひ　ふる　ひ　ふる

ほ　こと　それ　ま　ほ　ひて　ふる

ひて　それ　鶴　舎の里　ひも　ふる

くに　舞　ひて　そ　そ　く　ぞ

やこ　ふる　ふる　ふる　巣　ふん　ふる

百首　哥　牧　ふる　供　ふる

お　ほ　ふる　平　ふる　ふる　ふる

ふる　や　ぞ　ふる　ほ　風　葦

ふる　ひ　ふる　ふる　ふる　ふる

てや　こそ　ふる　ふん　ふる

ふる　方　ふる　ふる　ふる　太子

ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる

ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる

田鶏（メツ）

大臣（ツイトノ）　苣（ヂシャ）

吹飯（スイハン）の浦

宇治殿（ウヂドノ）と申（マヲ）しける人（ヒト）の子（コ）の五（イツ）つばかりなりけるが一男（ヒトヲ）に問（トヒ）給（タマヒ）けるは、「大饗（オホアヘ）の後（ノチ）の折敷（ヲシキ）に、ものの多（オホ）かりけるを、いかにぞ」と仰（オホセ）られければ、「ものの多（オホ）かりけるは、いとよし。少（スコシ）なかりけるこそ、いとわろけれ」と申（マヲ）しけるこそ、をさなけれども、いとかしこけれ。

鯛（タイ）

恵美酒（エビス）殿　奥津（オキツ）　肴（サカナ）の鯛（タヒ）

明石　年魚（トシヲ）市潟（イチガタ）　阿古木浦（アコギガウラ）　紀（キ）の海

うるさきものの一（ヒト）つに、狩鯛（カリダヒ）といふものありて、火火出見尊（ホホデミノミコト）の鉤（ハリ）などのこと、赤女（アカメ）といふ魚（ウヲ）の名（ナ）なり。堺浦（サカヒノウラ）の鯛（タヒ）は、鼻折鯛（ハナヲレダヒ）とて、鼻（ハナ）折（ヲレ）たるなり。

田螺（タニシ）

鴉（カラス）　鶴（ツル）　澤（サハ）　沼（ヌマ）　池（イケ）　小俣通（コマガヨヒ）

蛎殻（カラスガキ）のごとくまろくうるさきものなり。

みの毒（ドク）　濱川（ミヅカハ）

蜻

播磨（ハリマ）

赤蜻蛉（アカトンボ）のごとくにて、田舎（イナカ）の人（ヒト）いたこのかわと云（イフ）とや。捺津紀（ナヅキ）の肉（シシ）よりおいしきものなりと。

龍（タツ）

舩（フネ）　天井（テンジヤウ）　蒔絵（マキヱ）　幡頭（バンドウ）　雨乞（アマごひ）

野（ノ）　目貫（メヌキ）　説法の舎（エ）る座（ザ）　廣池（ヒロイケ）

四（ヨ）つ時（ドキ）　水（ミヅ）をそそぐ

詩の文（ブン）をこのこういふやうや姫（ヒメ）とやらんやうやら井（イ）かれもむろもおりみ人（ビト）のみ分（ワカ）てくる物ぞうるさき。

詩よりおこりて、そのあらそふ物ぞうるさき。

なかにも、乾卦（ケンクワ）は六爻（リクカウ）ともに竜（リウ）よりぞ比（タト）へたり。

狸（メヌキ）

昆鈞汁（コンタンジル）　筆（フデ）　帋（カミ）　吸筒（スヒヅツ）　卓（タク）

墓原（ハカハラ）　木（キ）の実（ミ）　狢（ムジナ）の入（イリ）

よそやこのまん弥陀の本迹をして狸の人ぶりあざむくとうそのこと。騏驥驊騮一日に千里捕鼠不如貍と荘子よみてくるり

竹

川岸 堤 柵 垂の柳 みの蓑

野のこえ蛍 窓 秋 称ぐるの香

田面 蓑 砌 里 伏見の里 こうく寺

伊予の山 虎 桶 自在釜 茗荷 格子

紺屋の門 壺木 とりぶき屋根 鉄炮

針 銭 杖 年始の餞 賢人 書初

神代巻 取 嚢中玄櫛 投地則化成五百箇竹林

七賢 不負朝廷 柿 竹再生 宋冠準

竹杖の竜よりも 仙術 以涙染竹 竹尺成疎

とう城皇女英なり。思竹種 見思山異名成

竹の家 竹樹紀 竹の秋 竹の夜

竹の筒

香水 のぞきー 花 蛭

油 犬川 おこり 火おこし

星とも房

竹の子

笠 孟宗 女三の宮 茗荷

窓の蜘蛛 祇園會山

冷泉院へたりんなもせ 竹のそよぎ

もなき竹のそよぎうんぬん 竹をなろうと花山院乃

出家 坡翁冬生筍 松原夏健人と作り。

三体詩の竹筍初生黄犢角と山谷の詩にあり

竹の皮

羽箒 草履 笠 地黄煎

膏薬 多宿 がーき也

伽羅 接木

離棚は竹を入てそくたてこしたる戸也

むしろあみ名和尚の業 松ハ分ざまりよき也。

焼とぎうみ銀ハ竹の筒よ入而 若ゆでうみ

石場の者よまきこうしてあてれかうり

たりんをのそをおとこのそをびとに入てめがかう
をそちこををせげ良おうめてと大後にき。大
葉ハ行はそまくぞう。校木ハ行のはそをう
ぞし。木履のそをめ調宝し

蓼

鮒 冷汁 松茸 糠味噌 ひしこ
洞亀 酢 川ホ 鱠

いまも祭ハ同ーうるんぐら猴園をよくミ代の
御菜になりおうめて奔走をろるう。紀州大
納言四季ともに猶わりてそ。ろ川のまひう
の毒とけもおとろやとり

大根

雑煮 筑ぐまの
鰯 香の物 きんぴら 山城 伏見
伊吹 木曽 尾張 山城 伏見

物語の巻ハ又ハ接木の猶ハ大根よさして送う
し。さうにまの井ともそ死うこと
そのつかに二月よ大内よ解の上よそく大根
なわうと藻塩まにおくり

田

茨 出 螺 鰍 鯰 鴨 雉 鴛鴦 鶴の谷 笞の水

覧千鳥 鹿沢集う 五月雨
柳 竹すの影 岩落 萩 翌色
山際の里 村竜

秋の田よ紀葉苅々ハ山里ハ
々ろ小。婆羅門のつくれる小田とそむ稲まのづく
そしてそうそれおう。猶石田無所用注。石田不
可耕と史記よみえうう見竜
乾卦の九二なり。燕ハ田の五りて巣をつくり。ふたの
糞とそこのそりとの田へうえとそとろや。有田不耕倉
廩虚と楽天もうまり

田面

鳴 さう北 鹿のつの
鷺 八朔 伏見

名物田のおもとうあり。つ三山松の後ろり足後せ尺
的う田面よ牡鳳そつく。刈ろうう田面いおうろうのま
まや。稲のおうのりのうをしてとろぞろ
ど田冬面ろハ晩のそこをうそ

多波粉

傾城 馬主 寝起
切痲 清茶 丹波 喜雨
長崎 物見の芝居

旅人のる上に初しものさぎしてうけてとるや。こゝやすこゝ佐のをゝ物ゝよなくさゝみそ豆のそゝをゝそゝる
ゝゝゝゝし日傭船以前掲おそうのちかき年間そゝゝ
ぬいなゝ

橘 タチバナ

九月廿 河内 九月閑 夜の月 をゝ
苔の宿 うゝゝゝねの巻 初花の花
彩の下風 蓬ヨモギの鴛 常緑木 とこ世
小ゝ四う湯 伝階ニハシのもと 大内の途 民ミ蛇ヘビ
蓬葉 餅ヲ 彩葉ノキバ 諸兄モロエ 楠 木の丸殿
葛城カツラギの大君 茶 鍬子ヒラコ 時ぢう娘ゝとうふ
冠のゝちり橘を伝ゝそゝるまゝそゝ。橘の梅とうふ
ゝ祝つゝゝゝまゝて伝わうゝ〇ともゝあり。陸續
ぐふとゝろよ入一ハ母にをゝくゝらんとゝ。三皇五帝之礼
義法度其猶相梨橘柚耶と荘子に云り。左馬ニハキ
洞庭橘右擯彭蠡魚とハうゝの使のけゝなりのゝ
いうゝゝゝけゝゝそゝりゝのゝの神のうそするとずしけ
ゝと。遺常世国求香菓今謂橘と。垂仁天皇の御宇、
云うゝをゝゝ伝ゝゝゝの巻吹る事のゝ今のなゝ

薪 タキヽ

奈良の後 一休和尚 海士 供養
橘つゝひ はゝの修行 朱買臣ヒバイシン
曽参ソウシン 番衛 黒主クロヌシ
薪ヽ積てやけゝゝゝんと云ゝ時ゝ夫ゝゝうゝ 早
の時ゝゝや。採薪汲水とハ純文ゝ折薪柮笑と
周詩ゝゝゝ古墓墾為田松栢摧為薪とあり。
伝神木の時ハ清古の俊ゝそゝゝをゝうゝのゝゝ。
神おゝ湯とゝうゝすゝハ法運ゝ釜をゝくゝ湯
なゝ。以薪草膏油灌其中とハ赤壁の戦ゝ

續松 タイマツ

夜討ヨウチ 強盗 夜川 引導ヒキドウ
葬礼サウレイ 二月堂 金山 冨士の入定
傘カサ 夜宮 愛宕 千日参リ
伝ゝゝゝの子ゝにてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝそ阿房宮を焼ゝ楚人一炬とゝゝたゝま
つのゝゝゝ聖霊をゝくゝとゝゝゝ麻ゞゞの松明ゝて
ゝゝゝゝゝゝ夜深ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

焼火 タキビ

海士 佐野の雁 寒垢離 生壁
軍の相場 番衛 神おの夜

俗語 浦私芦のや 胸のおりひ
夜相撲
衣もわらも灰汁にて焼てこらゆがきのもひさ
てもの灰とふるもの。通盛の歯矢芦火燵て炊粥代
触中せり。伴のこや汁ごはんこれ次もろくとけとろり。豆
りのふ下あつめ仕ろりその火まつくけ妻ろん
と捨まつるも

薫物 タキモノ

木樵夫 薪薫 飛騨 物簀
風呂 衣裳 寝まの衣 昔おこ
公家 香 ちりばめこふ 旅
手執 周易一巻 焚香黙坐 玉之巵 ちんぬ
こにあるのつまろろまろまろま

棚

市年使 南紅 菊葉 閼伽桶 魚屋 有
蒲萄 袋 膳 佛 ひす 大正
聖灵祭 教室 生贄 だい 美人
祇園会の粋 八百屋 蜑
国々の姫下にて々の貢物あり。旋柿 松枝 作棚とも松の枝をそのまゝ花 筏 材
よ棚へありてそのまゝそ。

滝

岩根 高 青葉川 白川
流れ 紀 松法
神の御 納涼 布留の山 産 瀬川 そば 捨山 箕面
那智 青羽 水 瀧 大なる 不動
観音 鯉 鮎 酒の曲のこ 作こと山
荒行 善 多 大神

谷

賢人 桃 山 谷根 埋木 苔 蔦
物 紅葉 世捨人 山 筏 月 死
うと紅葉 死 平家の軍勢 入 谷
小倉山 屋ね 出 菊水 名 つく
杣 洞 杉
樵谷 園 揮 介 と云 平家の軍勢 入 谷
にありて。 伏 柴 にてありそのこと
こまでありそのことをよく法氏の云
りてなし。八五八谷之間 ひわり と蛇の大
るをを杣人 巻 谷行 まこと
そ不思 れ。谷 こと
よこと

油

松 茅屋 秋の月 入日 庵侍

湯尾 日の雲 箱根 舁 入舎

子安の松 老松の昨日 三代将軍

八若浦の景 軍配 将 箱根

敵 六月 暑 なり 六月八暑なりけり

嶽

富士 伊勢山 伊吹 吉野

如意越 天狗

弥勒の岳 天狗

閻魔

平将門 実朝 閻魔 八鬼 福永 一の谷 吉野の奥

閻魔職 人肉裏 受領

大史

松 忠臣 竹 狂言 藪者 関舟

歌舞妓 傾城 伊勢 舞

大名

竹 狂言

奇の野

太子

中将基 文選 仙人 法師

天王寺 屋 守屋 片岡山 桃 俗の作

一向宗の伝教 太子の絵像

太子堂ともいふ。奏よろしからず。勘
の高名八太子よ絶えうちなれバ天子のおぼ
て科となぐめられ
太子のおぼし不用にそ
ほそびらうしごといでんとも申よ捨しかど太子
いたくがなくもまねせり

大活 イクワツ

伊勢 賀茂の祢宜の服 房崎の浦 鐘礎

平治の時阿波大臣と云ハ阿波より参らせ
れバ天子のおぼ
わろびと野馬臺の詩をよみて吉備あがり。菱
上いたく大臣の女とやいふ。道鏡法師と大臣ほどき
きこえ

大立 オホタチ

清水坂 桶結 連行 勘当 大仮
僧おぼしそこなひ勘当のおぼしとけなくそハ
乃ち比。破扶のおぼし
河土日小野の御領
弁桓公猟して一の
三分の人おぼり。大小の弁紙もおぼ
足小智わり

大小 ダイセウ

刀服ぐ 暦 狂云 祭
一本の内ぐあるよ回 学よ向 仰ぎ跡絶 相子
めり。神異経よ西北海外ニ有ル長二千里ところ。
弁桓公猟して一の鵠ところ嗉中よ長三寸
足小智わり

大刀 タチ

馬代 法師武者 山伏 祭
魚 狂云 仰ぎ跡絶 相子 湯府
剣太刀刃よろそのぐあるよ回西ニうつくそひとうら
そよわそんさめ。もろ〳〵の回歌の太刀をさげ
もろ〳〵のおとをふにうれのさとも
太刀をうけそりとよにハ季の礼ぐもりなるべ
松のおそのぐ根よおぼり。太刀とうさ
将ぐるおとや

太鼓 タイコ

右ぐ 古寺 道場 入院
上総類同 雷 六欲念仏 踊
嵐戸 新発意 篭の内

勧進帳　弥不軍
股修羅ヲ　陣ヲ立ル　城ハ四
術の場　吐　富士ノ形ヲ　糸行ヒもろ〳〵
傾城　戯法
千本　壬生　嵯峨　三ケ和の念仏も狂言の内ヨ〳〵
もぞ〳〵ぬぐ〳〵れ村〳〵ハ洪水の時人ヲ集めんとそう
川すそ　天王寺　太鼓の上手ヲ　獅子
森もちにけてたゝくぞし　城のうち番ヲ
太鼓ヲお湯なり

大日

富士山　行人　真言宗　高野山
清水坂　弘法大師　湯殿山　塔
伊勢の外宮ハ金剛界の大日と沙石集にさ
乙ハ卦の坤ハ大日となり。ほ七日の伝修法ハ
界の曼多羅ハ胎蔵界の大日と大海の底ヨ大日の
父母ヲ　ほよ大日本国とハ
大黒　柱　丁銀　嵐　銭　法
寺　時　甲子　布袋　恵美酒

達磨

片岡山　西京の刀　掛絵
師の例とそ十二年ヨ一度十一月子の日開帳。
祇園の末社ヨ大黒まします
いろ〳〵やとその小川のさゞれ石ハ大きの五ヶ
わるれめとゝにとぞ。十月五日ハ達磨忌とるり。
阿弥陀経下方世界の中ヨ達磨仏とそ。淵明之
詩ヨ有二達磨骨髄一と錦綾段序ヘ

大師

山門　三井寺　高野　いろ〳〵
法花ヨ　元三の勅書　仏の作
東寺　額の業
法花ヨ　智者大師とそや。観経の跋ヲ
ヨ作られしハ善導大師。性霊集ハ弘法大師ノ
著述とそり。伝教大師ハ根本中堂ヨて慈眼
大師ハ東叡山ヨ寛永寺ヲ作ヒタりげ〳〵ろ
そ句ヨ法花ヨて一ハ叡山なり。うのなこ風ヨなり
めでたき讃ヲ列なり。片岡山のひようへとそ
磨のうなり

寶 タカラ

市発 芳分の如 古寺 仁臣
土用干 賀茂の祢子 唐松
山寺の寺 源里 麗居士 極楽の池
鬼滝 往言
風月千金宝とやらん。えんよまでありし死宝となる物
仏とみがくこそよけれ。なまじひに。ぬすまんのたくみ
すくみんのたくみとの名をとるばかりなり。左傳云宋人或得玉献
之子罕罕不受曰尓以宝為宝我以不貪為宝
とそ。大学楚国無以為宝惟善以為宝とやらん。仁
義者帝王之宝也ともえ。太平宝君臣薬ともかや。
仏法僧の三の宝と

玉 ギョク

露 堀江 渉 簾 味噌 馬蚤
大施太子 志波の浦 月 君が代 汝の満干 貝
墓の月
双 汗 火 蔵 眼 牛 舟 竜
冠 掛 柳 藻 釣針 五月 卞和
輿 こんろ〳〵 鶏 鉄炮 城通

玉の如くかゞやきぬおとそ。堀雅云竜珠、在鯛蛟珠
在皮蛇珠、在口鼈龍珠、在頂蛟珠
とへ息童於珠玉と文選うもつ。地をうがちてとら
出〳〵ろ〳〵よ天下太平の宝ものと用元遺事
にをりゝ。そをやうくうがちとらんとりろ〳〵のむろ
むをてくす月ゝけ。雞伯八宝をうゝて妻を求
うり千金のたまも玉人よみがくすと孟子の語
玉祭 神の寝酒 古寺の秋 うき雲のも 月の光
ふりのべ 万よ入 壺渡の浦 大晦日
みそそぎ 蓮の飯 瓜茄子
中〳〵なる仏なくば古ゆゝしかりなんあはれなるかのタ
芳もと配布うその心のとなりぬ。公家の年のおそろよ
なりにゝりとよみしもゝぬりすれど
瘧病平愈をとそいひなしをせりとよみしをも
もおまりのうたそ

玉の輿 コシ

氏なき女 玉のような美
葬礼 婦入 祢宜

幸(カウ)ひ給(タマ)ひ

孔雀(クジャク)

玉の緒(ヲ)

玉のをかことにうちそへてひさしくやもわするる
いにしへのしづのをだまきくりかへしむかしを
今にいふ

玉章(タマヅサ)

鴈(カリ)

燒鮒(ヤキブナ)

玉まのそこ
ひくゆるかりがねのおつるこゑのみと
小町(コマチ)
くれうるうゑのそらのうらのそよ
く秋うらみしかぜのうたたねとみし

生性(シャウジャウ)

魂(コン)

臨邛(リンキョウ)道士鴻都(コウト)客能(ノウ)以(ヲ)精神(セイシン)致(イタ)魂魄(コンパク)
李妃(リヒ)のすがた。魂帰(コンキ)来(ライ)兮(ケイ)蓬萊(ホウライ)山(サン)
いざ給(タマ)へ一(イチ)枝(シ)の梅(ウメ)
久(ヒサ)のつまとくべきのりの
こゑのり

目(マナコ)

出(イダ)す

達者(タッシャ)

物書(モノカキ)

武略(ブリャク)

年寄(トシヨリ)

老(オイ)

物(モノ)

旅(タビ)のつかれ

物(モノ)

旅(タビ)

会(アヒ)て久(ヒサ)しく候(ソウラ)へ共(トモ)先達(センダツ)去(サ)なる
こそめでたけれ病(ヤマヒ)あがりなればとて
たべそれよりわりくいうれしくぞんじ
そうそうきうくきハるきのこまりぞと
よ確(カウ)ふうもあれ

旅(タビ)

関(セキ)をこす駒(コマ)もとゞろに名(ナ)の残(ノコ)る
ものゝ哀(アハレ)馬(ウマ)の餞(ハナムケ)

服落(フラク)

硯

刀 カタナ 鞘を越く 乞ふ野山 原のこゝろ
月の下部 下ベ 柳を折 笹枕 笹路
やけく袖 お枕 淀川 驛路 ムマヤヂ
なでしこ 一夜妻 ひとよづま 芭蕉の葉 ハセヲ
馴小袖 ナレコソデ 衾うける 衣興 ミノカサ 蓑笠
茶山法堂の仏供 ハギ
つくばうくうやすらん 良利 ヨシトキ
冥途 メイド 艶 エン
ひとおもそひ
たゞの時 かけそひ
のそひに
俵 タハラ
大黒 ダイコク 恵比須 エビス 米一石料 ヨネイチコクリョウ
庇 ヒサシ 小袋 コブクロ 灰 ハイ 炭 スミ 塩
雛 ヒナ 菓子 カシ 堤築 ツミツキ 宇治
菩提 ボダイ 茶 チャ 風呂 フロ 油 アブラ 思 オモヒ 矢 ヤ 葉 ハ 瓜 ウリ 豆 マメ
はつげ 初午 ハツウマ 物笑 モノワラヒ 質 シチ
伊勢詣 イセマウデ 出 デ 精進 ショウジン 魚 サカナ 鷺 サギ 石
題 ダイ 接木 ツギキ 論語 ロンゴ 花瓶 クワビン 鉄炮 テッポウ 香 カウ 石塔
橋 城郭 ジョウクワク

越岐ぐ孟子よ序として題辞とうれ
うりとぞ行幸御賀月見花んの遊興よ詩
ふりてあそろくい時遷にうりてうく神さ
まふうけお業入まあの遍興よも居和尚
うらのお祝ありてこそ

短冊 紙の枝 双屏風 風鈴
伊勢の海二見の太刀の忠度 昆布さざし 忠度 尤も
とうや。投扇の能く伝 幕引まうくうわうくま
あの下法よの遣 台所 の物なる事
の様よ分て遣向して風流られ

屏風 扇 石 萩 波 芝居 様さ
燈 桃灯 古家こだち 床 数寄屋
宿ぐへ石 具足
半人ハうそひそそくしてまう向ふ立ぐ
太刀ハ剣そそ三そうくわもの様まで
こうり付うり。そたにつくと云ふ病人七業
品の五合のそのの間とうぞのほうや御客様

檔 聲入 才子又入 礼者 変番る油
渋 雛遊 祝云 年尚 花の下
従言数徒 そうの河ハそくさ中より遣れる。
檔前勧酔 長風とも汚くやう。檔ニ乃
なざりよろくのわる中まも檔わり。檔行器
くもひたくけうり。擔幼入堂有酒盃樽と
渕的ぐ頃

足袋 数寄屋 葬礼 礼者 病人
旅
その女ハそのねおとうや
う病長湯ハりくん
略よる。装履ろく
まびくびなくていい
ふすま 田う人 釜うく 物うひ 頬
礼のま 湯立 ぐり 文字
沐浴 庵 下女 煤掃
とびせ 沐
酒桶 とわらう酒ら
鶏鳴う門児のそ

師走そろそろおもくのさうぢしておさばゝ

多向 タムケ

花 みす 詩行 紀氏をめさ
茶湯 ナリヒラ 供 紀 山
な女人のこゝめ經多羅尼ととゝの人ゝ言會仏紙
ゝ人等ゝこのとゝこ詩つゝる文ともゝ向
向ぞ旅の首途 カドデ 向ゝのゝごりすぐゝもこゝな
ゝ向ゝこゝゝゝん神ゝゝ
ゝゝ姉ゝゝたゝ
ゝゝゝゝゝゝ

多花 タメ

かいなくゝ小舟
人ゝゝゝゝのゝんゝひゝゝゝたん名 百舟のゝ
さにゝゝおゝゝゝゝ氣ゝてゝ歌のゝを
枝とせり。曲肱 ヒヂ 為枕 十
思ゝし。扇をとゝまゝ向
とゝゝを 乍 モ 井 有のゝとゝ
ゝ松のゝれゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

菊庵 メウザ

詩 哥 ロ論 褒美 ホウビ
川 仲人 ナカウド 佐向

詩ゝ菊ゝの句づひゞ天ゝのおゝやゞゝ
の殘ゝのびくゝゝゝ

題目 メイモク

猪飼 カヒ のゝ名 佐波の海 セキ 石橋
松ゝ後の踊 ヲドリ 平都婆 トヽ 鴛
ゝ雁ゝゝゝゝゝゝ ヤマタ 幡よ
ゝゝゝゝゝゝ

代稽（ダイカハリ）古今接木（ツギキ）文法（ブンポウ）寺囲（ジイ）官位（クヰ）陣（ジン）

三皇五帝夏殷周（カインシウ）よつぐ紀（キ）して二十一史（シ）の歴然（レキゼン）たり。天神地神と始（ハジ）まり神武（ジンム）より以来（イライ）百王（ヒヤクワウ）あまり連綿（レンメン）として長久（チヤウキウ）に治（ヲサ）まれる国（クニ）ぶりを尚（タフト）ぶべし。寧（ネイ）ろ猥（ミダ）りに改（アラタ）めて乱（ミダ）れんことを慮（オモンパカ）りて門（モン）の手（テ）あり。ふるきを温（タヅ）ねて新（アタラ）しきを知（シ）るべきなり。王質（オウシツ）が七世の孫（マゴ）よあひしてもあれなど。

泰平（タイヘイ）銭（ゼニ）楽（ガク）軍記（グンキ）年号（ネンガウ）

天下泰平国土安穏（アンヲン）とうたふ。太平の年号（ネンガウ）西晋（セイシン）恵帝（ケイテイ）位（クラヰ）よつきさる二年（ニネン）めあり。太平天子朝（テンシテウ）元日（ガンジツ）とハ玄宗（ゲンソウ）をいふやうや。まに天下太平の文字（モジ）ぬきにも明皇（メイクワウ）の御（ミ）心（ココロ）。昔（ムカシ）の風（フウ）十日の雨（アメ）ゆくりのいろをゆづり耕（タガヤ）す者（モノ）ハ畔（アゼ）をゆづるの時（トキ）なり。太平宇宙（ウチウ）干戈（カンクワ）敗（ヤブ）るともいふ。なげしや天下太平の字（ジ）ぬきにも。

伊達（ダテ）踊子（オドリコ）傾城（ケイセイ）若衆（ワカシユ）小唄（コウタ）後（ノチ）の扇（オウギ）

深物（フカモノ）陸奥（ムツ）帯（オビ）蚤蚊（ノミカ）

囲碁（ダンゴ）

うたのや　彼岸（ヒガン）　墓参（ハカマヰリ）　寒食（カンジキ）　卯月（ウヅキ）八日　釈迦（シヤカ）誕生（タンジヤウ）　灌仏（クワンブツ）　四月八日　花祭（ハナマツリ）　五月（サツキ）六日　三井寺（ミヰデラ）の鬼子母神（キシボジン）とやらん　群集（グンシフ）　卯月（ウヅキ）十六日　三井寺の鬼子母神の開帳（カイチヤウ）　小舟（コブネ）の七夕（タナバタ）　家蚤（イヘノミ）　犬蚤（イヌノミ）　猫蚤（ネコノミ）　蚊（カ）　蠅（ハヘ）　蜂（ハチ）　蚋（ブヨ）　蚤（ノミ）　虱（シラミ）　南蛮（ナンバン）菓子（クワシ）　膏薬（カウヤク）　貝焼（カヒヤキ）　酒（サケ）　蛇（ヘビ）　南蛮（ナンバン）　蛾（ガ）　蜘蛛（クモ）

囲子（ダンゴ）

うたのや　彼岸（ヒガン）　墓参（ハカマヰリ）　寒食（カンジキ）　卯月（ウヅキ）八日　釈迦（シヤカ）誕生（タンジヤウ）　灌仏（クワンブツ）　四月八日　花祭（ハナマツリ）　五月（サツキ）六日　三井寺（ミヰデラ）の鬼子母神（キシボジン）とやらん　群集（グンシフ）　卯月（ウヅキ）十六日　三井寺の鬼子母神の開帳（カイチヤウ）　小舟（コブネ）の七夕（タナバタ）　家蚤（イヘノミ）　犬蚤（イヌノミ）　猫蚤（ネコノミ）　蚊（カ）　蠅（ハヘ）　蜂（ハチ）　蚋（ブヨ）　蚤（ノミ）　虱（シラミ）　南蛮（ナンバン）菓子（クワシ）　膏薬（カウヤク）　貝焼（カヒヤキ）　酒（サケ）　蛇（ヘビ）　南蛮（ナンバン）　蛾（ガ）　蜘蛛（クモ）

混池鶏子（コンチケイシ）のごとし

世のそしりもの。又（マタ）ハ成（ナリ）こそ損（ソン）じそこなひもの。又ハ成こそ損じそこなひ者（モノ）。

団子（ダンゴ）

…ること多き百首に学道漏如鳥之驚卵暫有…
間断永劫不成云々切疵の療治をもてとめること

盥

タライ

生子 頭そゆる 星祭
女のもわらのをもて手をもてたらひのうへ…
けよとてくるとてうらく我びりおもてもみ…
わらじどおりぼのの下にもてもろ飛のうへ…
星をそうひうら疱瘡のうへさいろこびそうし…
子どもらの瘡のうへ紙いうこうに礼記沃盥と…
わうもたらひの云云

壇

ダン

織物 蹲踞 装束 異護ノ調伏
小鍛冶の雨敷を手しぼりたらひのこと…
院内裏を呪咀志多門 長門浦 作文
う五色の幣帛をそ…ふうぎのつげう保元の…
いうう。弁慶も上壇のうわり

七夕

タナバタ

聖灵祭 楊妃の契 市女笠
呉服 歌 鞠 風 立花

…家の…七夕の…
…もあ…こそ張文潜が七夕歌をゝ七月七日風うて吹て赤…
院うと七夕祭のうへこそ捨送の祝ちゝゝそうかそうる…
をゝ七夕ふゝ…やうつうひるうひうへ…
ようつうりをゝ王階夜色涼梁昭明牽牛織女…
星と云云詩云

立関

タチキ

薫物 糖 辻占 夜盗 銭別のう…
左右そのひめさこにわ…
をもにうゆうめそう…
しゝ…て…天徒のう…
りうのの…の一枚…
ぐ不町ぐうをもしこゝ…
男うさてゝ…

例

レイ

氷 刀 臭芝 若人 代 位者の杜 沈
分銅 弁 鉄砲
世のたうゝもうわぬ…
壷にをうぐゝ…

里こも告いそ（のたなし）とたつ（ともとやふ日
をかのへよふ松のなりせんたいのほとゝぎ
ひきま

たつか

花針　柱　佐牌　佛　流まの女　誓言　発
門松　門戸　法傍余行　礼　機
橋杭　そとも　石塔　詰人　帆
旗　法度　年　矢名　煙　蠟燭
線香　坐禅の时　紙燈　詰作の迷にさ
埃　詣胃　後見　證拠
倒　魏武い銅雀臺　多汗　柱　古家　酒の飯　員
屏風　商人　川沿　古家長　雪

れてもそもそも脳の对し元のみふくのたれ
ともこ神ともうけき羅漢のこれいてもと。
いろくもてもこ子ふあだとそ。そ後さとやみさ
ともふふ元あり。鹿谷の酒もに敗ず御名
扣

多鶏　針口　戸　願　納豆　七種
蒲洋　垂もる　猿ともさ　後
なるあ　あれ　みづく　ふ

月下の門　なし
徒子
豕ハこけ成也もろとそたくさ。戸わけるへ
とたくさけまでわけでもをあんとこそのビこうを
ふわふのそのこのこせをおくそこでこひそ
あるもふてこれて。日高丈五騎正濃軍将扣門
驚周公と靈全く。ハ沿いとたくなり
持

ほ　戒　弓　百姓　古家の修祀
味ひ　後

ふるえ死をするをなくてもよし。発於持満之未と稼説の詞なりおぢえつゝ死人の耳たゝちそゝみるとき紙小なのわたりもなりなり

漫 タレリ 子岩みなとを 雲 漾 ル 未の杖 壑 壑のちりハ多くてもそそぐ事もたゆるそ味うるりの

軟む 中ごろ 待文のこと 占方 ちひさ ちひさ 人 ハロよたまりぬる上 寺 住人 役 鳴 八朔 本の下 寺 住人 軍勢 弁仏 主 執 史 家 医師 侘云 そよつ

わるき君ハまいくへ。みどり 枕のそそ 多 岡ハこのこひなゝ 楠ハこのこひなゝ

ふびく 花雲 光明 ふミ 猫

次ての廻事のはやくふりぬ風ふミなりぬ

たなよるの月まり其清陽者薄靡而為天と

ハひゆのもめそ天雲そのびとやうのそよ雲

なるの月ハふそ死生人とそ。ねるふミやまず

ふるの月前田山無せん日ハれんうそよう

万ぶのふう

うる タカキ 位 人のさへ 変和 名勢 ソ 慎 よ

山 教 壁 イ わらぐ 花

百人竿頭 裏々身いわやうし 在生不驕高而不

名と孝経で不盈豊高不臨深と曲礼の文ニ紙

周公の洋いるし。演孫ハるけまとゝもかうち

梵天より盤石ゝなせハ三年ゟよ下界へおつそ。山不在高有僊則

鼻ハ面の山ゟれおこそ。名と劉禹錫ゟもゝり。山高数不貴とハ

ひかゝるべし天物の鼻ハるさゟれぐ

一揆詞

そくひ
巧笑倩兮
之巧と孟子のいへる。我塲
貨狄うるしの木のくきの刀の利をみよせて
つくり出せしと。常木ようやく
其躰近俗如賈人之着鮮衣と古今序にいでし
深省

高根
きて愛りの
高根より出るの雲路の鴈
にわかねよう。愛宕のよりの妹
みつの業師と安置せわ。
ぐれ出ようぐら岡牧のうりびと江灯のおもあ
是一本の松にこもありてそ

臺和
荷着馬
和奇の表
猫
掌駄天
舟
門
餅つきいれそし
夜風樂しめ

便
風の告信
中宿
駅鈴
文
使わらは
侯
妻のうひ
秋
樂
淨土
陋巷
花のる
上戸
昼寝
樂
莫樂
新相知
有終身之樂と
名所
乱
山城
杜
宮
河
時るうづこ
君を祈る
朱の玉垣
みそさ

梅小路（タケノナノ）　同

山吹の花　岩松　八十氏人
夜まの浦　宇治川
梅雨　朝日山　平等院（ヒラウドウ）　山吹の花
扇の要　釣殿（ツリドノ）

玉多　同

山吹　雪立わらう　弁る　大雪路（ヤマトヂ）
山吹　施子（タチコ）　なま下常　駒　弁る　岩木橋
岩多（タカ）

玉川　同岸里

衣うつなり　武蔵ニ奥州ニ同名アリ　紀伊ニ同名アリ
水鶏　伏見　九条　高野口　玉塚　氷柱　鮭
小枝の橋　秋の山　若塚　城南寺（ジョウナンジ）

竹田　同原里　北

水鶏　伏見　九条　高野口　玉塚
小枝の橋　秋の山　若塚　城南寺（ジョウナンジ）
車借（クルマカリ）　牛黄（ゴワウ）　高野

高雄（タカヲ）　同山　愛岩（アタゴ）　清滝（キヨタキ）　月瀬

紙（カミ）　祝石　文覚（モンガク）　神護寺（ジンゴジ）

比叡院　櫓（ヤグラ）が原　越路（コシヂ）　鹿背山
紅葉（モミヂ）　松の下（マツノシタ）　松の下
酩酊（メイテイ）　同　桑八九月九日　笠取山　天皇
牛の尾山　一云（イフ）　後京坊（ゴキヤウバウ）　蒸竹（ムシタケ）
鳶口布（トビクチ）　松茸
味（アヂ）　竹谷
高天（タカアマ）　大和　山峯
天津乙女（アマツヲトメ）　白雲　葛城（カツラギ）　高田の奥　山尾　桜
紅葉（モミヂ）　荒和（ナゴシ）　秋　山もめの尾　桜
三室（ミムロ）　嵐（アラシ）　裾野　河辺（カハベ）　河原　社宮寺
紙羽（カミハ）　三垣（ミカキ）山　吉野　嶺　八重桜
紅葉　小椋（ヲグラ）の嶺　小椋の杜　岩瀬の杜
嵐　錦　織　盗人　高天（タカアマ）　ふもと
岸　道社　里　尾上　桑八四月四日
龍田　同　山付　奥　禁　鹿　裾野　河辺河原

紅葉の錦（ニシキ）　鹿　唐錦　秋代　鳰

秋の泊（トマリ）　秋吉川（ミノギ）　夕附る　山姫

宮安（タカヤス）の里　ほくじ　朝霞　まつら

柳原　唐衣（カラコロモ）　うつろひ　れる

うす氷　やまぶきの

宮園（タカゾノ）

鳰　弓張月　籠（コモ）　照射（トモシ）　尾花

まそほ　袖つき　衣　濱菜（ハマナ）赤　麻

雉子（キヽス）鳴　石上布（イソノカミ）　袖の社　もとつこと

玉田野　女郎花　滝（タキ）津瀬

向山（ムカヒヤマ）

同　峯　秋　紅葉の錦　宮姫

さくら花　なつこそ花　露のまくら

宮のゆふ　男鹿の角（ツノ）

龍市（タツノイチ）

同　安濃の道　大和（ヤマト）

宇治（ウヂ）川　清水（キヨミヅ）　行末　みな民

久迩（クニ）の都　新人　花

同里　立田山　二見かくる　宮の

宮安（タカヤス）

貴船の相場（サガバ）　われもうつ

けごのそる

田蓑島（タミノシマ）

指津　鳰

同　越前ニ同名アリ　芦　三鳴　鵆

青柳　江枝（エダ）　菊　雲　衣うつ　仮民

玉江

花ぐもそれ松　あそ刈（カリ）糸

蛍　五月雨　玄鶴　芦刈小糸　鳰

まそでくみ

宮師山（タカシヤマ）

遠江　鹿　浦の松原　濱名の橋

蛬の声　東路　宮の横ぐも

麓（フモト）の波　奥津風（オキツ）　真砂　義士　宮ぢ

駿河　天し女（アマヲトメ）　管屋形　義士

田篭浦（タゴ）

雪　ふとす河　山ぢの村　光の別（ワカレ）

宸わ（高山 清見潟
多古浦 越中ニアリ
竹下（タケノ） 相模 足柄山 一夜宿りの 箱根
花の名 武蔵 狩倉 合戦（カッセン）
立野 君ぞこひしき 花落 まくず
播广
高鴻 近江 山河浦 粟本（アワモト） 陸地（カチ）
萌（カトリ）もろの浦 照月
三尾の中山 肥前 松山 鹿も啼
同山 杣山 河芦の苫や 篝火（カガリ） 多
田上（タナカミ） 鹿の名 網代の氷魚（アジロ ヒヲ） 比の木 八橋
三尾山 校倉山 黒津の里 さゝの山
養濃 大垣 柳上 桜の名 ひとり来
蛍井（ホタル井） ふたの浜 墓（ハカ） 赤坂（アカサカ） 年をとる

高砂 播磨 湊川（ミナトガワ） 尾上 鶴 里浦 濱
松 昔の友 小男鹿（サヲシカ） 神の宿 梅
築紫 緑の名 露 催る楽（サイバラ） 遥 紙 明石
何の次广 樟（クスノキ）が原 浅香潟（アサカガタ） 飯蛸（イヒダコ） 唐土（モロコシ）
玉津嶋 紀伊 入江 岸 宮 神 小松原
和田の浦 和田の系 岸うつ浪
この外道（イツテ） 五（イツ）の松 吹上 蛎 葉草（ハツクサ）の露
高野山（タカノヤマ） 同 三世の佛 暁を待 吉野（ヨシノ）の滝
山幸（ヤマサチ）法の名 肥前 鯨 松浦 あの後
風流嶋（フリウ） 同 七郎（シチラウ）の滝（タキ） 乙女（オトメ）の袖 柳陰（ヤナギカゲ）
南广（ミナミ） 大和 寺 梯 二上山（フタカミ） 蓮池 曼多羅（マンダラ）
中将姫 雲雀山（ヒバリ） 経供養（キヤウ） 住（ヤリ）

丹波 山陰道 多紀粉 麦の表 布

栢原墨 猿楽 栗 九太 苧 筆柿 大江山 富の緒山
弥南俊山 常盤山 生野 雲田村
亀山 子安の比売 医師 鮎綿

丹後 同 紬 糀 精好 老海鼠 撰糸

鄭 鰯 煮海鼠 伊祢の浦
与謝の海 九瀬戸の文珠 天の橋立
和布 成相の観音 九月の会供

梶鳴 浦嶋

但馬 同 出石絹 諸磯砥 柳箱 履 綿

苧 朝倉山椒 車牛 二見の浦
結浦 五師の里 入佐の山 玄の白濱 朝来山

礼

蓮華 佛壇 胸脇の勝の像 経

大知車輪と阿弥陀経よ説くり。往昔吳山称レ南
無佛ト竜知テ佛子ヲ敬之縁ニ蓮華ヲ献レ之免レ罪
ニ法花估ニありとく。拠行上人の持蓮花ハ昼
夜下よりくるやぬよろや。阿弥陀十二礼曰ク両
目浄若二青蓮華一ごとく。ぴ。うまくの池ハ我ぐ
ちすなりとうつさぐひげをれぐとうまく
の池ハ奈良とく

蓮歌 爰想 祈祷 移徙 死のけ

追善 陣処 狂言 月のとく

小野 清水 初茗荷 弥勒寺 三月
うひ々向大のうつけまでめ
たとありひて小川へころひ入ーハ何のあるこふとも
云ーくく砂石集云鎌倉の極楽寺よりの傍
若人ニ向文殊連ありしく
堂の連ありとも。宇都宮ぬ
傍の連ありも。南都興福寺にて常に連句
あーとすりとも。酒のこ連ありてくやーばの

ろ人の死をとりつ

連判 謀叛（ムホン）又 借銀 起請 法令の觸

兵法の才子 遺言（ユイゴン） 訴訟（ソショウ）

結び普請（フシン）ハ互にたのしくずへなるもの 罷城

の時一味同心の者連判をなしてそよ。家の町ハ

勿論在（ザイ）〻不〻まで宗旨（シウシ）わ〻〻めハなくてハ

〻百姓ハうんとうひく後ず由ア〻さんと判紙

ほぐ〻〻

亭午（テイゴ） 市人 合薬 見世棚 看

勧（すゝ）め張（ば）の札場（ふだば）よくハ銭（ぜに）米（こめ）をすてゝ〻そく紙

とりそう。鉄炮（テツポウ）の薬（くすり）さら〻〻作（つく）るよ分量（ブンリヤウ）あり

とぞ。今張（はり）をも色〻て勧（すゝ）め〻（ゆき）をとり。岩（がん）

劔（つるぎ）とらぐ〻ほそく〻よくけてこそ〻〻

霊宝（レイホウ） 社（やしろ）入院（ニユウイン）寺 開帳（カイチヤウ） 開山忌

法皇 叡山（エイザン）ゟ幸の時信西（シンセイ）が供（トモ）して久〻の勧（すゝ）めを

とりヒクバ傳戈（ハウサイ）ハあり〻〻それり。竹生嶋（ちくぶしま）よみこと

りの霊宝ハ後のわひ（ママ）もあり〻それり。光徳院居て

若僧（わかそう）のつとめとり輪馬寺（りんばじ）ゟ奥嶋（おくしま）ゟ東福

寺（とうふくじ）ゟ書物（ほんもつ）あり

療治（レウチ） 牛馬 湯山 陣中 阿蘭多人

鷹（たか） 産後（サンゴ） 南蛮（ナンバン）人

平（ひら）生（せい）盛（もり）ハ吳（くれ）の人の療治（レウチ）をうけられざ〻。黙（もく）

妻ハ糞（ふん）の胡苔（こけ）をなめて北辰を祈（いの）りて官（くわん）よつぐ。蛭（ひる）

伯ハ祖母（そぼ）をとりてそうりて官（くわん）よつぐ。李（り）令

足（あし）ハ右（みぎ）ゟ左（ひだり）ゟ冊漢（さくかん）をなめて。儒学（じゆがく）をすて〻醫師（いし）と

なる足（あし）ハ冊（さく）漢（かん）をなめて。

扁鵲（へんじやく）なり

料理（レウリ） 狗（いぬ）待（まち） 教（をしへ）訓（くん） 弥（いよ）客（きやく） 取（とり）さ〻

旅泊（りよはく）

平生（へいぜい）習気難（しうきかた）し料理（れうり）〻山谷（さんこく）の詩（し）へ〻〻〻〻

〻わされのとて教（をしへ）をとりやまふ〻〻〻〻。

死（し）さうりう山（さん）谷（こく）ハ幕（まく）引（ひき）ハ迷（まよ）ひのづく

亦話（はなし）をもりそうくわざ〻逗留（とうりう）すう舟（ふね）ふ

りつ〻魚（うを）を求（もと）めてつれをなくさひつとや

連尺（レンジヤク） 旅（たび）商人（あきんど） 山伏（やまぶし） 笈（おひ）

名刀うりのぼる魚荷ハ背よりおひてくる。山葉もゆるがせにてくもりでくもりおひてくる。強力が髪絞おひてくる。判官へ。叡と称うやまひつつしんでくるハ順礼ぞ。

礼

他の肥辛頭 果蓏 節供
神前 佛前 鞠場 主の前
番所 叡山 兄弟 頂戴 糸文 医師
楽 なむ 葬送 玄関 茶の湯
的弓 公事の扱
礼与其奢也寧倹と論語。鳩と礼をとく。
ざこれおい礼をもつて。使者ハ自分の礼をぱ入
約束の一回礼をす。家を買求てハ町の作法
あり。まづおのれ礼をつゆく礼をあらそ。
判日十九日ハ礼日なり

伶人

行幸 舞楽 行啓 賀の祝 吊ひ 但吉 天王寺
忌

四月十七日ハ義の庖丁あそこ沙汰 禁制 法度
大極殿延久四年火災 宴会 詩作 会人 楽と
ぶらの延久四年火災 宴会 詩作 会人 楽と
管絃 宮居川の舟

猟師

山海老 外のそ
祝 袈裟
宍也上人ハ猟師をまめうひ。猟師のそぬ。
ふれいの富士ぢうる。警固の十郎ハ一名あら
の猟師とや。湖水 浦 網 子に色 流人赦免
田ハ猟師のおぢさん

雲霓

法を弘ひろ
陰陽の祭 祟廟祭 老わの人
朴社の勅使 崇廟祭 悩姫
通夜する女 妙法 木槵樹
奇人の哭まうひ。木槵樹の
実をとぶつひ。吾主のの教へ。礼をひろ
めハ証誠殿の告ぞ。安楽の物をおりろ
ぬのまに悟なく為人つひ。我常のおひ。
もね物のまに悟なくそ。なりもの多にわ

ま雨となろう死のあるべくもあらじと思うものから
むつまのくれおもう通夜しつつ

忘暮

尺八　又魂も
泪　　もし抱

みろくえみよ紅葉をあびていくつのみちをも。
錦よ週文の詩をあるじはいろ
とありのてやそこをかりてきたにそうかわれ
りひこ柏木の後つかわのてのねよやすひしそく
ちかりり。昔惜身命為報高恩心今儻遺
骨為休戀慕とりひしはい曹公ご文をもりの
しゆて

曽

其暁

行鉢の音　字治山うつの出嶽
別の鶯　張立　形見の肌着
灵夢　入定大師　約束　又寝　起辛天
観念の床　金峯山　三井寺
佛の滅後五十六億七千万歳しゃかんは弥勒
おせるべきしゃかの後のいくらいうし
みろく堂の鉄木をたたび功徳とや今の三井
寺をたたく大方暁のうぐいすかな宵寝
る。竹生嶋も春のおせと行水そ

僧

放下　車　鉢の服　出佛名　出修法
入院　葬礼　修行　迎山　年忌　芋
月下の門扣　傘　暁
蒼苔路滑僧帰寺と朗詠之。鳥宿池中樹僧
敲月下門とも詠せり。土肥次郎実平女房佐殿の
お山よおそーと修をうつくしき袈裟を送るふ
様とあるひわり桶を抱て花うつし行うて送れ
り。仏法僧とそうつ名あり

俗親

山田　三綱の山法　鬼界の嶋
桟川　牟多寺院の法法
源氏小山よりのひーけちそうせー俗
おわり。往生要集と作て会伝とせりいは
ゑ心。俗於進四位殿上人と職原抄をみえ
うりーけのわづ病ーのひーは行雅俗親と
や。羊をこのうーい盛親俗親と

伽西　花山　良峯　堀池　えいざん

鞍馬の谷　わたごの天狗　遍照

桜木　切杭

婆羅門伽西ハ行基菩薩の招請にて。はるばる伽西ハ筑紫の住吉の社迄迎ひ。摧伏永く播州川西の地に第一大伽藍を建立ハ今人皆知る所。又兼て法務聴聞車のうしろ乗ハ誰も伽西と。

祖師　超領　なん来の面目　堂塔建立

海老喰　屏風入唐　渡天尺八

達磨を初祖として禅流三派ハ伽西の事也。

馬鳴ハ浄土八祖の第七。道元ハ洞家の元祖。弘法ハ真言の源と。法然親鸞日蓮ハ皆日本一宗くの開山とや。寺号ハ祖師の掟をもちゐるとよ。

辛都婆　小町　流人　三悪道　地獄

盂蘭盆　多訪寺　下衆　材木　外濠

六体の仏菩薩と彫くだしたるのを。大悲の像と称し。又ハ五輪の塔

杣

建　そだつくる　材木　木曽　飯づくり
堂塔建立　小比え　巻向山　山橘
杣人いそがまりらしわ〻し。太神宮御造営よ山入をすりとりや。大伝教
の假造よ杣千人とそりぬ。ふるさわら三杣よ
そ〻し海陽のごとくにて〻りてそ〻なし

神

香炉　護　鎧　垣　占　双六　雲
塀　渡　浦　うれしさつゝし　尾花
人のかつ〳〵物にくるれい神とゐみくを仮そと
後撰集の詞書し義孝　神　向　ものそるよ
神ととゝそやもしし。内侍の和し神よろり
多ひ〳〵とし。誰神それ　匂ひそ〳〵ゝ神
五度神を過〳〵ハ〳〵しらしのく山の乙女
神〳〵

双六　三味線　傾城　旅籠屋
道連　わこ糸　ちゝね別

跪　東家　描而　摸　其處子　則得妻　神
〳〵なゝ〳〵。小式部内侍

園

胡てふ　菊　梅　桃　菊　呉竹　花
菜　そだち　鹿　くれなゐ

ひ〳〵みの　人の　間や　家　なゝん　そ　ちら　山の　秋の
花園。帰来　池苑皆依旧と作しハ妃のなき
跡へ園日游以流憩しと八晋去来辞へ温公の独楽
園の中に七つ名あり。わさうないそるの花をそうふ
〳〵そうさんの園ふうしもん。耶修多羅の福地の
園よ神ふうそんうのずるあの歌よ

庭

井戸　桶　拾　海池　松　閑谷
立臼　囲炉裏　心　艶経習　箱
巾着　奈落　みづ　海松布　上戸

十五夜の月　竜田川
森のさゝやけ　井の
の滝つぎの　竜宮
庭をそゝぎて　海の
の網〳〵そとれりそ　魚い上ふそ大

さる魚ハ歳ふるもむやとそ。病の床なる松虫の
ソクイ
粔　柱の切口　紙小　紙袋　紙衾　くそび
　　眦　釘　琵琶の柱　禁中　関札
大さかり灸ハそくいてもゆるとも古縄のみ訳
のまくれる巻物のまるめられくみなりるそ俚
しき四舎下の消息ハうくつしべし祈禱乃
れいたるくかりつべし
ソウモン
叢聞　四本のうちめ　清　及第
暦博士　一村　入院　鳥の辻毛
哥撰集　朝敵蜂起
盧生う多中ふ王よなりし夢向して仙家乃
酒をすゝめ色々お家の栄花の名を語る従職人ハ
もあれとさるくそ。四の名を語る従職人ハ
くくそれるそ。楊き妃ハ亜ふ方士ハ小督と
ノトモ
乎面　砌　花の陰　垣ふ　欅　宿
虫の声　萩　すゝき　物

寺社のあるかりハ恒しくかゝる盆会の
物ちにしてもてせうかりつゝ周のようさ
ありひかあるをひろうそふわうれあるそ
まちろうきあるもろうつゝ。かあるまる梢
のそゝあるそ。そをはれりと
ソバ
蕎　山畑　聖灵祭　おそろひの
　　病人の伽　生玉人
五穀を断一行人も蕎ハ用ふとやうくふ
良しもくひけていそそすのふおゆそ。
実ハいつまて蕎のようさ信濃ハとゝ
すゝれうとゝなくそ
ソバ
汰　人数　馬椀　踊子　草履　調子
　　拍子　鼬柏子　髪　根ざり　軍勢
　　お歩れ
亜米のそのそれの延すぎくるいぶそ。戯場
も天先そそろ石川ハ教子をそろくてやろそ
筆のもものそろそぬいまつぶ。ろそろそ
ろそろそぬいそろ。ろそろそぬいそろ
つさり

謗（ソシル） 婦人 当宗の談義 法のいやしめ
細工人 職人 人を
蔑者 鼻ひる
叔孫武叔毀仲尼子貢曰無以為也仲尼不可
毀也。與其誉於前孰若無毀於其後とい
韓退之の金言しかりといへども人ともに
まづしと衆好もまもり。誹謗木をたて堯
代の附そそよ

虚言（ソラコト） 月日星 虹 雨 雪 雲
けいせい 傾城 人 ころ 奢侈
梓弓 そのの
早仲う 洞八好色のあまりう 事の松山ばかり
尚人 たのもしうず。尚人 ともづにてはそら
ごとやふそうしよをおもうをもて
新大納言成親の配所を十三日ぞうもてわと
いひしうすや

空言（ソラゴト） 郭公 雲路の雁 梢の蜂
洋の海 奥の旅

天人の供ふ 人をうの
近い 事やうとうや ひぞり 蒲 編もふ
せて 吹 これを 方 普化の 迂化よ 中に
鈴 なりうとす 月 秋 鴉 鴉の耳をそぐうたい
なくそのね

そねむ 後妻 蛍火の灯 のぞる 伍
職人 妾人 妾 食ひけ
村 垂ふうそう 信頼と 信西そ 合て 世 乱
きそう 上陽人 妃 妃のそ
戚夫人 呂后のそ 殺され
いそ まねうめてトかい
多を投 妻のうざ 伍吉の姫の妹を合せ
ハ純毋のそひぞう

反（ソル） 弓 橋 刀 生魚 枚 表具
指先（ユビサキ） 扇 生木 相撲 びん蝨
髪 唇 腹
向歯 そりて猿眼とい判官のうす 産後の人
のそうハ悪症とうや 椋の木の枝い荷とりてい

上へそろとし。猶ほ普の約の意未のそろ
こそけうもれ

ソダツル 子鞠 狸まく

育 ソタチ

普不合ふるい捨ているわ〳〵を妹の事音せう
もつ〳〵。今尹子文ハ野ゐ捨ろ〳〵を虎うそそ
〳〵ととうゐひあハ行れの箱を教と〳〵。みろう
ハ活氏と教とせわ。栗子とそそ〳〵綿とそろ。
くいあるろとろぞろし

息災 ソクサイ 親 ヲヤ 老人 折後のつぐ

孫未 田舎の文 牛る

犯父祖母のねまうでい孫子をもりのこそぞ。
旅立人と送て伺うるみうれとうとひ懐胎の
そくさかなうハうろことひやとて。ありるの湯そ
人ようりそうるもとよ

名所

園韓神 ソノカラカミ 山城国

ちうこうたうぬれ枝を伺うれ
ひ神とをくろんかのも

永六二月十五日

菌原 ソノハラ 信濃

紀葉うろやや 東路 うつ〳〵鳴

神浦 ソデノ 翁 そ〳〵 汲 ありそ海 海松布

君立人 うれ名そろ

波の松衣うろ 海士人 うれ名そろ

素鵞の原 ソガノ 出雲 まぐ 鳴ぐり

神師浦 ソデノ 同 志摩 同名あり 唐衣 川綱

年 うつ也貝 うつる

むなうろ 筑前 家の衣 倭人

淀川 ソメ

ほくし 文好こ 宿る浪

神湊 ノミナト 同 あうとをぶ 唐糸 波枕

ふとり嘯 秋乃狩ざめ

いとう 芦 雲 松浦ぐち

袖振る　大和　天津風　乙女　雲の袂　白雲や　瑞籬の杜　ゆきずり　昔代　なごりの橋

鶴

芦毛　沢毛　漢田　田面　くり汐

雲井　松　綿　鳴　驚　老松

仙人　古き歌　吹飯浦　若浦　山田系

伯古　雅波　江の濱　田蓑の鴻

亀　孫　栗　鶯　鳧　松前

佐保姫　信ずみ　越後の東谷坊

なごけ　西遠うみ　鶴　不日　浴而白

烏不日黔而黒　荘子　林和靖　霧を衾

鶴帰華表　已千年　人乃仙を学ぶ

とのこのかた　白蛇　阿よごされ　雲井

まてやそうの小和あれ　芦毛のこの

めでたやそうの小和あれ　芦毛のこの

丁大門ようで避有孤鶴横江東来　赤壁賦

林間白塔如孤鶴　東坡作　常恨白鶴来

巣我髪　杜甫　やまうの

まくふうみてうハ　松上鶴　薄　静可　業

迷　山僧慧ハ鶴を飼　さくんハ暮ばくし

燕

去年　ゆうべ　柳　小西の糸　文の門

蘆　すすの戸　舟の帆柱　営　うつぐり

彼岸　養勇　社の祭　飛陵山乃夏石

燕知社日辞巣去　くやも夏やさくれしハ

そのうちの中納言とうや　燕泥時汚太玄経　ろ

燕如談禅鶯演史　二燕自北嶺来投硎而

下一化為青衣童子二化為青衣女子ともろ

つぐめろ付ふなりめ　ろうめハみる里なりハや

かくれなく

露

ゆうべ　露　浪のちる　旁　月萩

袖の露　稲葉　等しき　玉

柳むしの声　庵　秋風ぞ吹く
附会　茅舎　令　装束　腊　羽うち
木の下　わざ　野　小篠　乱芝
ささやぐ　ふわふわと　浅し　活文の　こと　撰集に
野の白露と　消えし　槿の花　ごとく　維摩経　ちり　蟬
得其露滅覚道成　絶　高処飲露不知蟷螂在其後　富貴何草頭
如露　杜甫　銅　楊妃　花の露を吸て宿酒を
さめぜり

氷柱　ツラヽ　氷棚　川岸

月　雁　雲の　為にくむ松　無二の　歌の宮　光う　月　秋

浦半　四石浮　廣沢　桐の葉　星祭
物乏神の　甲の立物　暦　紙閑　の紙
木賊山　私遊　馬の毛　もゝ女　村雲
団扇　額　塩汲　蛤　ゝゝ
南斉江泌少時　力学家負　油不離　常継　毎
夕随　月讀書及月斜　乃升屋　以尽　其餘光
西来祖意月照梅花　ゝ。李白於船中　捉月
溺死　ゝ。楊貴妃帰　唐帝思　李夫人去　漢王
情と作り　八月雨　月　ゝ　壁賦　前後　月
尖一月　ゝ　明州　仲丸　詠　ゝ
ゝ　月の　小野　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
する秋の　月

月夜　桃灯　釜　杓木
鴉　蟹
いつも月　秋　米の　ひと　心　児の

月そしよしとゝみ
ゑおこのみけうあ
をかりとハ方ゐく
ほかうつくしい月夜
春浅しともかりの

月次（ナミ）　連歌　市　たのり　宗傳

月次の管絃ハ仁和寺の御会（ヨリアヒ）　談後
面ふせの月なこそうれしけれ　宗牧
中なりくるもゝ月なこそうれしけれ
家のおもりも皆月なこそうれしけれ　行人　孚女（ムスメ）　旅の袖

月待（マチ）　心海

五月忌　餅屋

ふるの月待宿の独の上尼人くのめなる宵
のいるつまくのそのそわる月ゆりのなぐさ
みに統法一夜のごんとそと自然居士のおはせち
まつくちくびとろくまくと人月待
ゐる社のこのん月統行物んおもうあの
ともなり

月障（サハリ）　底の海松布　池の蒲　山霞

春　村雲　茂（シゲ）る木　林和

ふるくわの夜のなくぬさろくもうけ里
どもろくろ統なりのひわし女ハくなく
ハ住ともやめてこゝろを張ハ多くかくと
のあるれバ伊勢人ハこゝにあるとぞおりくこゝハ
ひさりわまびおり伝ろくや

菊（ワタ）　松の船　まの原　久重　秋風

秋の下露　山路　宇津の山

罌粟（ケシ）　細道（ホソミチ）　古寺　壁（カベ）　石塔　仙家

紋羽（モンハ）　むぐら

おもわひてそひくろとそのうるるや指
のいりせなるくん老木いそれとそしてぐ菊
みづくのこをひろもとゝ油屋の柳をいり。大（ヤハ）こ
木のくのあれしくをぬまでくれる菊ハを
みぢもにきり攀（ヨヂノボ）雞抱子（ワウシ）様（ヨウ）
椿（ツバキ）　谷川　川上　ふせ（ケイ）を　教（ヲシ）来

油　灰

谷ふくさやうの様々秋の竹ねうのれて年
のこるん水流院の客し。遊城の奥亀山の麓
りに様系とうる系様あり。ひわうろ
ようる系八冬もさ紅て水仙梅などくさ〳〵合く
生ひうつくしうふみうるさそてくるる様うけて〳〵
ぬまのそうる

躑躅 つゝじ　素谷合　磯の岩ね　春の夕日
山吹　川岸　三保の浦　皐月　灌佛　白炭　岩根山
鹿　羊　灌仏　白炭　岩根山
風ふそ海のおうとるる程ふ後にくさく
白つじうか。東海のほくじ
うるのすうふみうずかうる。夜遊人欲尋来把
寒食家應折得驚鳥ニ
とまりうけくしげけうこのせそれうくる。
まり

莢楊 つゞけ　擬棒　招暮の駅
市判　灵夢
後のめうかしらけづくそ
らうのなうくむりのやれ
なうこうのそしもそうずうりうつゞけの枝
よもいわとぞ

葽 つゞな　草　芝原　山吹
小野　野系　川岸

あうひうつゞるとめさ系なし〳〵そうりとも的も
うけうつゞめく浅茅うる
うりわりうこふらくいつゞ
ふうともありつくるそくしやうるそくとうやる
いつまでくへこゆうおなう
野を越ひのゆうさに梅の枝よれそくて弁当ふ
分うく

堤 つゝみ　川池柳　竹　川急の里　赤川
私つゝく　豹うふ　蛍　鷺　田鶴
石橋　蛇　中納言　系　文　金銀　袋
綿子　香　人目　新田
ほくこのかくあうくるうりすぐりありていこ
くはのちまびそれそとくは光君久負をそく
ふけくれのうこのく堤風さえて入ふ
なをそく千鳥なくくそ

川をの堤をくりめぐらしぱくみをばそうのるにつくるをもてともつくるなり。柳塘烟起日西斜と隋煬帝の詩を作れり

塚 ツカ

松風　虫の音　生田　冬野　すすき
蛇　狐　狼　苔の袖　草深き道　紅葉　深草
柏原寺　柳　筆　塵刀　女郎花
茶碗　矢　錦木　一里　すぐ川

もゝ塚おもかげ　ゆふぐれ　ふるき墓　ふるき塚　ふるき墓　ふるき塚　ふるき墓　ふるき塚

慶側然則百歳之後化而成生幸ニ取為養実
獲我心ニ云。亦ニ可ニ
なり玉ハゞ
日ゝ我神ひめや君
人の躰の
ハゞ
ちくん

槌 ツチ

大黒 鍛冶 砧 キヌタ 槌 ツチ
針立 梯上 畠 古家こぢ
刻印 石切 敲物師 乱杭 扇の地や
人のせれこぞう
鉄の槌をもて秦王をうたんとせしに張良が
鬼のおうる宝よりおの小槌をもて槌をうて玉連
環と破るをハ奇后の
沼落ハ槌のうちをうつ
鑿をうつ

劍 ツルギ

霜氷冥途の山 蛇 蛩の羽
悪灵 眉間尺 あうこのそ

布袋野 志渡海士
白河の院神泉苑ゝ
でありし御幸なりて物とうたる
義よりのそうや。劍太刀りうそ所かあり
墓の樹よりけうら青蒲如劍満池碧ニ趙文
王喜劍々士夾門而客三千人日夜相撃於前ニ
死傷者歳百餘人と荘子よんでこう。左の
院ハ義の告かよりて劍をうそのゝ劍よ
おそれて
ぬんなり。散山の
なり。あ山の六道ハ
つきなりけり

釣鐘 ツリガネ

羊羹 花 挑灯 天秤 釜 磬 キン
宝鐸 ホウタク 風鈴 フウリン 大佛 祇園精舎

三井寺 道成寺 竜宮
法事のもてなし
まをまねて
し。放参小僧をはらく
ぬんなり。
つきなりけり

皷 春草 瀧 波 時守 判官 鉢 鳴弥 祢樂 万歳樂 踊 狸
軍場 波濤官 考 払 戯法 童の脇
勅命そして 競馬 而
ろ而うの寺のそこ ひとのもやうひさみ
ようらそぶろく ぶなり。皷判官八木考よ
ようけし 皷し若生ふ 館 その葬をそ
めくまれる者し 弁当
やーしろ。る雄るあそ
い死とけくみうなり
八荘周う洞し洞地 井戸ハをとそあま
とやーない仰る希よ縄 火
用心のろし 以玉瓶汲水と祢代巻ようけり。驚
而墜鏡々既破砕不顧とり
壷 酒 茶 やき 土 塙 蛸 腋 灸
醤茶 塞 雅 薫 山緒 水

雪隠 柄 敬 梨 堂 掛金 地刻
屋安の石 鞍 茶师 出湯 俵前
冊波 信示 天ち 油 皿
臺甲天地乾坤外とふ費長房ら仙ま入し
公元の引 臺觴 以自酌とりたいま
のつかはふまとりたいま
りてせいふの伝教へ
ともあり
卓 紙 仏壇 花立 香炉 深物屋
紺屋 校木 彫 野送 墓表
けく忘の酒とありり。内典外典詩哥連句の
すきあの窓よ窓 集て長者とそ。
ふそぐろの児喝食 ま
葛籠 笠 婦入 衆掛馬
山ろ 名古
みうする豹のつまう
しなれ。窓のお
城の伝教 仮名

紙 漉ク民 紙牛馬 紙ノ虎 蓑孔
大名 雲月 虹梁 天神 綱 嵐ノ口
祇園会の鉾 巻ク 鳴子 弁ノ
佛布心 筏 宇治川
月ときそひの綱よりうけておびたゞしく
とゞろくばかりなり 車も弱き綱とおぼしく
のりくゝ小綱をゆひ 大おもりのくゝり
そゆるとぞ
筒 護井 花 鉄炮 芦 油 吹矢
酢 蛭 香水 舟の帆 ゆうそく
頭巾 老人 長老 をとり みだく
足袋 犬 物ノ 奇のごとし
初の梅ハそよ筒とこゝをとゞめ 天文
をうんぬる小星をとゞめる時筒とゞめてするとゝ。
少納言信西を土ま埋て筒とゞめて息を通ー
うり
猫 ねこまたうんぬんとゝりのごとくなり
ゝ信の弟そいふてい先づ逃んとするぞ。途中にてくまのゝ
うそつきなりひ。往言師の末社の神おやしろ
ゝようなるもの
爪 琴 五徳 馬 文字の白点 猫 鶯
鶏 ねぐら 糸 昆布 風呂 橋

丑刁の日
湯王遇旱勤ニ以自身為ニ犠牲一禱ニ於桑林一
雨大至ニ。崇徳院ハ配不ニ能ニ爪ニ。
ゝ一ぜうり。人の疱瘡をるふ爪ゝりてうさ
つゝみゝるゝと用むとる。蚤も風も爪ゝりの
て死をる。爪ゝをもゝたいゝ心中をとゞめんとし。爪ゝとお
ぐなりみゝるゝとゝそ日ゝとうそのれいそふ百ゝ
土佐日記ゝり

妻 衣 若ま 琴 戸猫 七夕
鹿 一夜の宿 松浦弘 簾 硯汁
琴とれいをけさ先さゝて琴のいとひ
む妻やこゝれゝ。ゝゝゝ妻もみとをゝく

ふこんと侍をんんのうみーぃ。要害莫帳無良
媒書中有女顔如玉ぇ。董永よハ星のてうりて
ちぎりおくり。孫嵩厳グ三年そひーハ孤そる
ーとくや

杖突 老人 狩 奉行 旅路 寒頭

せこはぢでうふ 葬礼 賀の祝
普請場 踊 乃字 麻ぐ 荷持
のぎり坂 大立 頬 諫 初卯の日

山焼 うらふ 条礼 おとの場

國阿上人の杖ハ灵山正法寺にあり。五十杖於家
六十杖於鄉。七十杖於國。八十杖於朝と礼記也。
郭休う杖ハ夜行ま十歩とてこすまそあり。杖
欄祇敬之勿敢近と内則よ出てうハ家よつうふ
の杖なりいりめーては世のやことてこそ海そあさ
まの杖なりせいうさうの杖りそれ女の男ーた
ろねとうこと

礫 天狗 卞地 園の夜 雪 文字

犬狐 条礼 婦入 紙子 木実
山城青ろ 京伏の川波

使 文 つろ中 まね夜 旅なる人

居 犬 鳥 軍 荷前 鞍馬 兜盛
咳時の条 諸社のま幣 玄関 狩
朝敵退治

みそこゆくやも使とくハいとうろ
きちーすいとうせこう役を侍と公ともさそ出つ
そしてあのふくふ雉と使ませーハ天雉充の役
三種の神器を役しのとて子家へ仕ーて充方
ハ役方とこ焼ちてーせーわーこ張九齢うかい
鴿ハ父つひしーう

粒 珠数 九条 緒おめ 麦 米 大豆

米子 糊 山桝 食 三月のそね
銭 白浪

(ヲカヤ)岡鮫の白まさ(目貫)をうけころろくいさ。
脇(ワキ)の皿(サラ)ざるとりけころぞ茶やう水精
の塔(タフ)をして舎利(シャリ)を安置(アンヂ)もころこそたてことけき

弦(ツル)

瓜(うり)そらべひょうご荻金山(ヲギ)蒸(ムシ)る
いつまでま丼(ドン)うん多へ梓(アヅサ)鋸(ノコギリ)
栄入

清(きよ)き坂 茶(チャ)
ずいぶんもつころにて
うころのうへの流(ナガレ)そのうへ
脇帯(ハルビ)をもめくろ八字(ハチジ)治川の先陣の図(ヅ)
しぬ花の森をみてくて行垣(ユキガキ)よそひまもひもつ
さえそそのれひとりえこのまやひくけりひろ
ふうらまくひろこそ我君のまれてさ代のもつ
うつのこふこそ成もなりなれ

徒(ツレ)然

双帝(サウテイ)永安(エイアン)日うじ鴨(カモ)
馬牛 洞川(ホラガハ)中陰(チウイン)猫(ネコ)宋(ソウ)朝(テウ)居
枕(まくら)ことつまくなる
ありぞむろにまってくなることもつまくなるもの
おりほくてあるこれて惟(コレタダ)るのるとこ
うろうつまくなる

連(ツレ)

三里廻(めぐ)る 禁(キン)の道 寺参 夫婦
馬(うま)る 牛八牛 旅(たび)の役者 尺八
ふきせん 章

小奇(こぎ)れ
鎧(よろひ)と梶(かぢ)の葉(は)の図(づ)
八えびのめをとるあるこれいつまでもうふう。
えそえまひとりなぐろ縄(なは)一くれ少(すこ)しゆく箱
そなくありつまそうこそそうこうこ
なろ

雑面(ツレナキ)

涙(なみだ)ひまる死 つきね恨(うら) 消(け)ぬ命
果(はて)なきひ 祈(いの)る祈(いの)ひ ひら旅

かへの父 中の関(せき) 契(ちぎ)りぬ郭(くるわ)公
寝(ね)ぬ月 あり千夜の墨 百夜の別
附子(ぶす)にそまねれ松板 老(おい) やりめうす
泣(なき)ぬ宮 うこ
すしなるひこへひとつ
このみそなぞ(俺(おれ)口(くち)を横笛(よこぶえ)がたくきいま
ここにおれこ行(ゆく)とのの姫(ひめ)ごよのの迎(むかえ)い世(よ)のの

そいの袴とのこせり。綿ぬのそこごりせごれものうるごし。ふるぬのとおりなまーふ

罪 ツミ 盗人 ぬごく 物つくひ 不孝人の妻おふく 猟師 罪科 ツミとが 海苔 ウナバラ 海苔おふつまさや 六角のうつぼ ろうごのちこそすれつくとめり 五覇 三王之罪人也 ツミビト

噯 ツバキ 矢をそそぐ 腫物 敵の皮 不字紙 百足 ムカデ 多波粉

私の上ふくく 噯ハ美含くなり。神女がくく 噯ハ癈となりくり。人有噯面潔之而己平師 ニヒツバキメンキヨキこれをおしてのみヘイシガ 曰潔之是違其怒也正使自乾而受之是也 ヒハキヨキこれをたがへそのいかりをいさめ正使ヒトリカハカンじてこれをうけ是ヒトリカハカンじてこれをうけ是

角 ツノ 芦たくい 鹿 牛 さゞい 桶 鬼面 刀鞘 サヤ 竜馬 リウメ 卜判 文字 羊 水牛 竜 菱

一旦素皇馬子角生燕丹烏頭此送二朔郷一之天智天皇ゟ角ゟ白馬をなしく垣とつくく角をとらく牛とゟとや陸放翁虎猶角者。麒麟の角ハ先ゟ肉ありとや物をそこのみまくんとゟり。漢書一帙牛の角の上ふけて続しく随李蜜こ。ゟれもこうゟものいくもの角の松おいほろもあるさん

朔日 ツイタチ 礼者 暦数 賀茂の足柄 松か祭 筑摩祭 吉野の餅 小朔日 院の拝礼 朝賀 四方拝 氷室 神送 屠蘇酒 乙子

吉月必朝服朝庭吉月月朔也さく。八月朔日松尾の社にて六斛念仏をつくゐあるこゟ相撲あり。毎月一日沐浴短命と遺誡註ゟ。祇園社ゟ六月朔日ゟ神輿とお敷ゟ出ーもゟ祇氏子おりくまのりまで。たゐけてれなわゟ西ひもをとうとうゟ。

し初ゟくあーすゐ初洲ゟ初もせずのすハ弥生の朔日ゟ衣の初ゟ。やさ

晦日　つごもり

うけ拂ふ　竈こはり　祇園のお輿おこし　唐滝まつり　追儺　住吉のおそなへ　御田植　住吉の御送り

昔かたゝく家ゝ夜の茶

晦日この日夜そがつくにめれつそわつるとうめ卯月の晦日の日右近の馬場一子襁褓うんとそまりくるに称つくりたれ子親さらぬ中のかうてさうびいさそや帝の御らん。錆和のまくし上ハ晦日。賀茂の神る祓とひろハ六月晦日。過去帳さの秋迎如来晦日。山名奥列ぐ秋く責上ひ一ハ十二月晦日ゝり

釣　つり

太公望　白髭の神　多ひす紗　簾　行自在　鰐口　蚊帳　手菜　蜻蛉　孤系圏　髪結　両替　舟　花生　格子　鐘木　髪魚風鈴　串柿　鉦　女房　灯篭　棚　釜

餌香　釣月　とろ。浦路　釣すれも綱　ぜひとく乳五の誠なら。満干の珠と　釣竿と子陵なのと作。氷鉋　なとといく北甲ふ五色の紙を乱一こう。有明月ゝ。方事無心一鈎竿　鉤ひそて竜ゝりひーしあ一ゝこのなのうにすき狗あゝとみん張りれを

摘　つむ

茶　菜　紅粉の花　楹　綿　生垣　作り木　砂と塔　ゝり油　船荷　雪

葛　俵　石垣　桟木　稲　菊　花皿

三日のゝらねいくそじ。摘鮮造労旋封畏と茶歌ようけ。わかつそ方代といそひ。祢をつそいありいろ。ゝゝとゝゝゝ

すゝ呂氏強梁ニ嗣子ノ桑ノ漢ノ讓伝ノ
つゐるゝと泳ぎりつゝ
小町ノ
水をふせぎ
衣紋
絡
桟嫌 古乃具 伺 白粉 外宇
倭数字の垣壁と石
士の焼物 土の前 古家
古墳ノ跡やゝの祖伝像ニ雑ス
こゝつゝろひゝろ
そのゝゝぬゝのゝろ
繋 牛馬 猿 人ゝる 犬 銭 珠数
衆生煩悩の業苦ゝ
ゝりゐゝ大海の底の針をうゝゝ
ゐるゝ相馬ゝうゝゝ
つゐぎゝゝめり。女の髪飾ゝ
もゝくつゝれゝ
そも論命ゝ江湯不繋船ゝ朗詠ゝ虚舟不
ゝもゝり

仕 兵法 後 弩 小刀 てこ 金銀
軍法 進物 鞭 虎 牛馬 犬
詩の平仄 文字 水 臣下
四十始仕 内則の詞 数 迦 仙人 ゝゝ 范蠡 越
王勾践 ゝゝゝの ゝ者 ゝ 路数のつゝゝ
常盤 盛 問
ゝ吾妻 ゝゝ ゝ
ゝゝ ゝ人 ゝ
ゝ 楊枝 下人 假名

作 詩酒 みそ 酢 醤油 刀 書籍
佛罪 眉 田畑 家 薬 舟
咄 人形 荷物 蜷 十面 似 ゝゝ
男ゝり 着 腐 鮭 脇 さゝこ
多羽の作 ゝ 形 数 そられて なる 多
ゝゝゝ ゝ 着顔 ゝ ゝ 鬼神 ゝ
め容成暦 ゝ
ゝ 初 ゝ 六甲 ゝ
ゝ 花 ゝ

てゐるゝ人君をみろうもろみ

結 ゆ碁 茶 座敷 宿直 理髪 袋
風呂 荷物 笠 竜 鉄砲の薬 刀
服さう 城の兵粮 法問 徒士の足
物見の場 詐詐人
律儀ハ弁ろて又つめもそてめそろみてくろ酒の
楊ハなくぬぐはしとよろ〳〵の紙さずして
細ろかろみろうさし。棺桶を埋うる炭そて
つめろとこ。粟津の汀よ追つめてよる兼平が
宮居の軍なり

積 雪 塵 埃 恨 思 差用 罪科
年の数 物結 木の葉 ゆきの盃
普請の入札

年の数つもりもりて手もろもりぬくいろくろげをこ
ろもそへなんぺのやうごとし恨とかつもりて
やろけんてあつくなりの代くに相撲の実衣
れるく。ろそつろもて閑となろくろ。
学問つろもて、智者ろ

はぐ 脱 雕物 玉子 耳 碁の劫
城責 古ろの道具 服 古家
水のろろき井戸ハ塩てしせんじ。茅ろくわり
ぬ墓ハ田畠よりるぞ。地震の時ハ物の内ろ
ろ。

突 堤 地形 徒杖 米 餅 略鄙 舟
連弩 味噌 ゆ
銭 経木
玉兎搗茶ろく。平相國ハ兵庫より落ろれ入
前栽ろくやと築ゆろ。其築欲蟄入
よろ家駝ゐまを極ろろのをろ。獄卒ハ悪人を
ヒろそつろ。

名所
綴喜郡 岩城 宮里 長月 秋草
久立の宮 木津川 泉川
久迩の都 むろ野

月ノ輪　同　くろくの宿　花山院　御
　清滝　蜘蛛の滝　掬ぐ泉　刀
　栃の尾　柚の尾　禅定殺下もつさ
津守　摂津　浦瀬神　住吉　君ヶ代
　宮井　濱松ヶ枝　遠里小野
　衣掛　たのめそこぬ夜　天隊ヶ神
岸の松風　四夏　雪
月讀　伊勢　神社　警の高麗　度会
　流川　わざをぎうらせ
　相模　松の葉　八幡　鎌倉　五代
鶯宿　雪の下　小袋坂　山の内　柳
　静ヶ峯　公暁実朝ところ
筑波　常陸　山嶺　河神　こかの川
　君ヶ代　陸のひびき
　鹿嶋　ちぎりこのしおりの花
　忘の御　名　岩の橋　連哥　著木
敦賀　越前　濱浦　市　米商　舟
　白ヶ山
筑摩　近江　野江沼　神　祭八四月一日
　軒の玉ノ下　十月夜　難面人　三稜
　鍋の数わやり
敦賀　越前　濱浦　市　米商　舟
　小舟の跡
　越の海　玲瓏
皷湖　肥後　津の国　木牙峠
　みなの川　ありて
　甲斐　君ヶ代　板野
霧郡　白玉松
　何しの押領使　梁川の里の女
筑紫　流人　平家　唐松　安楽寺
　菊崎の松　順礼　松多　松浦ヶ米
　宇佐八幡　大友　菊池

狩馬

西海道 椎茸 こゞ苔 青磁 鄭 熨斗 上方山 紅葉山 浅茅山

祢

猫

鞠の庭 みそはぎ 仔蝶がう
鈎簾のもとにて 真葛原 火燵
柚の木の下 お歯黒 人の腰 人の脊
祖師 女三のみや 胡桃 膳棚 天蓼
千鮭 鮭鰹 雀 竈のあと 根奥山
その葉上の猫 まごく すもゝなろうぬまやつるの
となり いつきそうとそう。藏 経まきの 御まくら
て来りてうめといの 猫 縁 金沢の
猫はすくれて 鮭もしはしなりもはしとやうこと
一ものびやそのう 猫の妻 ひげ
の久多。猫の鼻 八夏至の日一日 晩 隋
大葉の猫 なし 猫

鼠

蒲萄 小社 頼豪 家 苑 火
箪用 早稲 絵筆 戸 天井
舟扇 栗 月日 田 米藏 油 太黒
氏鳶 厠 壁土 双紙 灯臺 鳩
紺色深

拾遺集云ねずみのことのつくりごとを生うるをよ
と寿をつてまうでのことをねをこそ
ることをいひつゝ。陳太とうの者自嵐のう樹の下
をこぐら白金五十鉄をそうとそ。壬周南ホ以
其耳死周南不應鼠還穴ゝ五雑組よりう。
鬼とのこゝらひらわ いと
うの外。まの根をそし嵐とゝ八月日のうこと。
嵐のいまうつゝふひこと
いうのこと

圍

灯月 斑 扇
弓 古つる 麹室
作法の図そ 間 人未識 楊妃
圍へ蛸 深閨

のるをいふ○ぷうらん
国のひまくへつれみうらうら○閨門之内具礼矣
平巖父巖兄妻子臣妾猶百姓徒従之也と
孝経なり

寝 麹 納豆 借銭 酒の酔 雲の行
煩 赤子 家舎の私 猫 みる
牛 風まわす稲 盗人 蝶 蛇 病人
風うてもおそろしうなりうかぬ
神ねつきおれ。森不卿と小学のそこゆりうら
ハおめの語よゆうくとおもひ
まふこれハうくまめくまれてもと先君のおう
りひて。答うた雀柳みの八鷺うねうそ

寐起 子 暁の別 たぬき 茶
稲 竹のあらふいくく論語
やくわづり さざれ繁
急うう病家い医師針立の門のアんをたくくさ
えび。よりあげぐく八年もむすびあれおの。
ら我兄才ぐ敵い神うをおこて行うう木丁
のすぐまめうくれぐうらうさうけくい

寝兗 子 もうろく
徳 義
木ろ路 井石 荒嵐
惟茂ハ神さめ小鬼さたいくげうれくく盧生ハ
神さめ悟道もくう。遺精ハ自さあてそそ
ゆまぷ私とさしき神ざうそなくそひ
もまぷ私とさしき神ざうそなくそひ
山里ハさけの延よ神さめをそする

寐物語 新枕 ろ元 傾城 笛ふさ
敵寸 義濃と近江の境
後醍醐 ごだいご
南のおさば おさるい
後醍醐の代の乱ハ神おくうう病気しう。
林のそれうそ一番うまなせうとも神そそうん
ろもやなうのんなうもう千も神そそうん
ろもうやーき後のあれこふくめさゆせ
ろれうとしーやことしそなうそのもの
ひまそくすなうれうひもうひのけねそ
いひーハタ夜の名そなり

眠（ネムリ）

海棠　胡蝶　猫　寒山　拾得（ジットク）
豊干（ブカン）　虎　馬上　白蛤蜊　老人
座頭　番衆　酒の酔　奉公　月を（モチヅキ）
五十年の栄花　碁（ゴ）　琴（キン）　茶談義（サダンギ）
維茂（コレモチ）　森　夜伽（ヨトギ）
抱月懐中に枕す　眠と仮死と
初夜（ショヤ）の一点（イッテン）　高丈五尺（コウジョウゴシャク）　濃州（ノウシュウ）軍将（グンショウ）
門警（モンケイ）周公（シュウコウ）を夢（ユメ）　童子（ドウジ）　対面（タイメン）　頭（コウベ）而睡（シテスイ）と秋
声賦（アキノコエフ）

子日（ネノヒ）

嵯峨野　行幸（ミユキ）　侍（サブラヒ）　小車（コグルマ）
雲林院（ウンリンイン）　牛房（ゴボウ）　ますみ
みどりこ　摺（スリ）　見（ミ）　大黒祭
三人の姫君　遣（ツカハ）　よめ　車（クルマ）
仮名（カナ）　法（ホフ）　文（フミ）　書（カキ）
神祇（ジンギ）の日（ヒ）　ふみ　ふみ
ともひめこ　松（マツ）　ふみ
松のふみ　ふみ

後成（ゴナリ）の述懐（ジュッカイ）　前（マヘ）　海士（アマ）　海松（ミル）
の中（ウチ）　その日（ヒ）

年号（ネンガウ）

暦（コヨミ）　法（ホフ）　帳（チャウ）　白歯（シラハ）　刀（カタナ）の銘（メイ）
月付（ツキヅケ）　調（トトノ）　誦文（ジュモン）　卒都婆（ソトバ）
橋（ハシ）の銘（メイ）　陳時（チンジ）の老（オイ）

仏（ホトケ）　四（シ）　ゆ　う　ん　必（カナラ）　る　る　ん
あ　や　ー　さ　う　わ　れ　ば　か　る　る　ん　ぞ　う　ん　そ。又（マタ）は飢饉（キキン）疫病（エキビョウ）そ
以（モッテ）名（ナ）其年（ソノトシ）と喜雨亭（キウテイ）記（キ）す　ま　く　り。義浪（ヨシナミ）四曜泉（シヨウセン）
あて養老（ヨウロウ）と年号（ネンガウ）せり。漢（カン）の後（ノチ）代（カハ）れて三
国（サンゴク）よ年号（ネンガウ）あり。ぴ　ぷ　ぺ　ぽ　ん　も吉野（ヨシノ）と永（エイ）と二（ニ）の年
号（ネンガウ）をとられし

念仏（ネンブツ）

すてご川（ガハ）　百万（ヒャクマン）の狂（クルヒ）　養老（ヨウロウ）の酒（サケ）

山住（ヤマズミ）　臨終（リンジュウ）　許（ユル）たくさ
念仏鳥（ネンブツドリ）　静聴林（セイチョウリン）に飛（トブ）
念仏（ネンブツ）鳥（トリ）と作（ナ）りて　念仏（ネンブツ）の間（アヒダ）とハ日蓮（ニチレン）の間（アヒダ）と。
ちゃ　ん　ぬ　ん　ぬ　ん　ぬ

ハ船ゑそまうひ。疫病ヲ念仏ヲて治ヲろ
わろをん

糸豆

糸ろ 糸ヲ 湯立 ひろ〳〵

社領 奈良 伊勢

出ヌ〳〵ハ加茂より。団扇ハ奈良ゟわうら〳〵ゟ。
松尾の池田か茂の水ヲ角なるの籠ヲ桟敷ヲ撰
てもろゐ良こ。うさうの杖ハ糸豆ゟとりそうて
とろゐ。お供田社領ゟ参入ハ糸豆のもろおこ

練物

糸ひ 糸ひ 解 膏薬 宇治

糊 ゑさんごゑ 西 漆 鉄仕ヲ 白龍

分別 行列 菜 船 地黄煎

詩有而練二日練句二日練字三日練意四
曰練格ヲハ王眉の言葉ゟ。きろ公ヲんのれ
ゐろこ。ヲ練ヲて作ヲ物ヲ作ヲ

癖

香合 笛 管 琵琶 弁

柱 生風呂 牛角

わろ〳〵ちんなろうろの肉食ヲて必ゐ有ろ物ろ。
一寸以上曰癖疹一寸以下曰磨癖大成論ゟか
けヲ。温茶幸辣のたろ〳〵ひと服ヲて治ぶろ
ゐわろろ多ヲ

根

富士 筑波 甲斐 矢 岩山 垣

柱 舌 病 腫物 茶種 改髪 耳

笹 牛蒡 鬼灯 意趣 若草 芹

蓮 石垣 城 虫 鳥 鹿 笛 琴 皺

異根不帯塵埃気ろハ菖蒲のろこ。ろ
そんごろて什の物ヲ切ろうろまびわ八番。
根拳而五易ろハ樹のうやうみろぬいぼし
めこ。ろ。そちろめ物ろこ。ろ。ろ。ヲ練し
国ヲ根のゐろこハ朴代の肉こ。ろ。ろ。ヲ練し
こゞひヲろにしの九ヲこ。ろ。ろ。ヲみヒてこそろ。
ハ生ヲ芽ゐゐ

嫉

なま妻 今まうけ みめろ〳〵

桐壺の更衣 徐子

素戔嗚尊 姉 害 姉由 息所の神ろこ

葵上ハちれ夕良ろ。神ろけろ神

まるうたにしくなりてかくけんそうをひきをゆゐかえおきめぬすむ
ひきそくひそ仲一をとるなり

祢らす

鼠狩 的矢 親の敵 盗人
礫 穴一買物 掴弓 鉄炮
又ねこともろともんを祢らす
賭ると祢らす猟師のうさぎなり
魚を祢らす跨い魚の骨と祢らす。蛸蛸蛙蛇
はたごひよ祢らすとぞ

豹

子ガヒ ね生 病中の食 もずの切なし
歩よ牛の鼻 弥ふまふもう神
我ものゆく衣
位やーくれが貴べきうくいやしきすくへ人にちう
へ神んのうそ祢うくいやのおそ
なんともあり。弥陀八四十八教ち星条と片
祢ごひの糸をくくるとそ。中くふへなわう
ずた酒つがよなうそもうて酒よしく
なん

祢ち鬼

畑蟹 上戸 蚤の校 くいる
棒 もんこ ふさり 祝者
釘 炙

高野山よ祢ち名あり。盗人ハ鎖と祢ちきると
あり。らふ花ハ家あり。ふとや祢ちてつくふ祢ち
地ぢ花師ハ祝をとろくふ祢ちてつくふ祢ち

祖父

猫の子 牛の子 羊
地芳 炙 祢ち菓 砂糖 塩 滅

味ハ
ふあやまちの火ての既よ隣の釈へ祢ごりくり
のし祝菓とつさし日や祢ごりー熟ふたもやとふ
しとそ。泰王有病召医破瘍潰痙者得車一乗祝
壽者得車五乗荘子よそふ

名所
子サメ
寝覚里

養濃 秋の夜 人を恋
わさもこ 衣川

子日遊

舟後 油士 海松ル

眠森（ネムリノ）　衣掛　生成（オイナリ）る所

根来（ネゴロ）　椀　法師　る野

覚鑁（カクバン）　粉川

奈

捺子（ナデシコ）　一名　石竹　石の竹とも　萆の条

山賤の姫根（ヤマガツノヒメカキ）　衣野　妹る事

おつさ日　さ百合（ユリ）　ゐ（ヰ）つ（ツ）ね　夕べ歌のこと

罌粟（ケシ）大約言お載つくろ（ロ）ひ　ゑ（エ）ひ（ヒ）草

紅りの捺子（ナデシコ）をり捨ることを

のわらにせさ（サ）ゐ（ヰ）ことはいと

こ捺子（ナデシコ）をついらのよ

うけをろくおろくおろ

つと大徳ふる。絵云おと

ゑおさゆり数のりの名牡

てこぞてこの名をり

のかりまきもの

茄子（ナスヒ）　肖戸畑　歯

聖灵祭　喜見業　わさの事

園の蛍（ホタル）を踏ころ　たる

茄子（ナスビ）なるまでと。疫病（エヤミ）

てうり。ゐる九条いろ

そくして夢殿。山城の瓜や

まのそ丹川のうと

梨（ナシ）　山賤の園　垣内　新墾　生の浦

籾蒔（モミマキ）　垣内　新墾　禁中の垂

梨花一枝春帯雨と小せ妃の姿し梨花白雪香

と云り。張公太谷之梨と文選よりもの伝り八

時雍梨（ときなし）をすゝしるとあり。粉臓迷春。月満枝

誤随秋日。弄芳菲とあり。九月梨の花を詠

楠（ナツ）　外面　氷山　われ山

風そゝなろ小川のそ

る。七夕云ひてゐ

ろのとうじ公奈良の帝のすとそうりてくろの
家うそりみじてとうつけうり風みのいう
のうまそのそあくことのひ会つくいうちあん

棗 ナツメ

茶入 卖茶 仙家

生姜 ショウガ 垣根 カキネ

あちこちへなけきつつめりそと古今物かよよ
めり。北趙雍心之棗と張文成が業し棗の核
食くる嵐うく人をくへ死そろとし王吉が隣
の棗と吾が婦とりてそくひれいま婦をもへ
うらくり鮑焦が山中て棗と水ぬ。みづく梅のよく
汝が植くると逐よ紀て死くり

南天 ナンテン

炉北 ものとあります 強飯 強飯

除救 エキリ 疫病の咒咀 ジュソ 教示

秋つけるまへ虻のわくちめ牧しとそおも
こそめくくれ。水汁のわくちめ牧しとそおも
ろそ紀て追ハうくれ。みづく梅のよく紀て
と同じとくれとも
れうけふくしくる
ゆしハ喉痺とめり

苗代 ナワシロ

沢を 根芹 ドジョウ 洞庭 谷ろ 雀けれ水
えぐの口
谷ろとせてくまろよいう
にくろ。天川苗代まみ
ぬまりる野沢のわろ田ろ
の稗も

波

満汐 ミツシホ 沖漾風 沖つ波へ 池
屋ろ 網代 アジロ 白き尾花 蛙よおる蝸牛 イナバ
花の渚 赤ろむろ赤の松山 海
浦老年 額花 ヌカ 額波
新水波揚 テカリ 耳清し と許田 キヨウ うると仰ぎろ。遠
ろよ波なしとい昼 ヒル 師の法 ノリ とぞろり老翁
のうくなくとよ巳い氷のみつ。しまをたくく
なりとい波風もなしとくくくん阿波の
とわる東坡のみなろ

渚（ナギサ）　水ぎは　澤　海

塩屋　あま　白浜　うら　浦

人くらの家のこゝろなくてさゝやかなるを松（マツ）　海松布（ミル）

といふ。けんかの内裏（ヤシキ）の内裏へそうこんの法（ノリ）をしるしつゝ屋（クヤ）をつくりたるさまをいふ。もろ〳〵

と海せまりよりの流れをせきとめておそ〳〵しき粗朶（ソダ）

のセ張（ハリ）の網（アミ）をよこたへ天竜灘（ナダ）いと東海一の悪（アラ）

灘（ナダ）　塩汲　明石　捨海　芦屋　播丁

きのふまでそよ〳〵吹（フク）風のなぎ（ナギ）たるが今日は灘（ナダ）の

涙（ナミダ）　恨なり　あそこ　ねんさ　うら別

こひまね夜　袂の余波（ナミ）うらすこせ

袂の乱（ミダ）　立名　うと　形見の衣

妻恋　着衣姉（アネ）さ　西の方里　麻

屑罪うら多　なく

墓（ハカ）　鬼　魂　墓（ハカ）れ

むすび　うら　墓雲（バウウンスイ）騅いひざとおりさま　涙（ナミダ）

姓於峴山建碑（タテ）望其碑者莫不流涕（ナミダ）をなが

世俗よ竜を墮涙碑（ダルイ）といひ明妃去時涙（ナミダ）洒向（ソヽグ）枝

上花（ハナ）と海せい昭君うた　王容寂寞涙（ナミダ）欄干

とい貴妃のうるをとり　袖よみそのさくら

とい涙のかゝりさま　うれいひのこよ涙（ナミダ）そてほ

とびよりうといあれ　なくさんてそうけ　なくさ

石塔（セキトウ）　石碑（セキヒ）

わすれ　うら　仮いそけな　一本の契（チギ）り　世よう　こん人

わすれ　うら　古墓の澁（シブ）　錦木（ニシキギ）　伝（ツテ）聞（キヽ）　辛松安

なくし　夜

孝謙帝ハ道鏡法師ヲ深ク寵シ六角堂ノ法師トシテ婦女ヲ近ヅケ給ハズ女院ノ御所ト同私セラレ。或ル人ノ葉草ヲ奉ルニ。中ニ真近ク助ケ給ヘトアルヲ御覧ジテ。藝能不作モ上ヘ参ル人ノ白ヒノクリノトテ。女三ノ宮ハ柏木ニ犯サレ。薫君ヲ産給ヒシ事ノ如シ

名家

カヾミヤケ

木ノ丸殿　関白　判官　刀　相模

迷灵　連哥　短冊　笛　名乗ノ君

楊弓　十柱香

作リ木ニ帝ヨリ綱ヲ引ノ形ヲ彫テ給ハリ。歌ヲ詠ジ奉ルニ。御意ニ叶ヒシ時ハ。御簾ノ内ヨリ。御手ヲ出サセ給フ。其盛ハ御衣ノ袖ヲ。ヒラ〳〵ト翻シ。御扇ヲ開キ給フ。其外ハ御簾ノ内ニテ。

縄

釣縄 注連 帯 縒 指 蜘蛛
舩の杭 牛馬 米俵 ひさご
囚人 荷作 堺目 犬猿 壁の虫
暖簾 簀子 網 地獄 不動 盗人
ろうそく 長年 垣 鼓 舟の碇
蓬窓 高卧 雨蓑 縄と山谷 ひさごに縄
巌縄 そまつ 縄 ひさご 釣瓶 実の火縄
八行東福 もめん 天照太神 軍戸
とおせんぼ 付木 端出之縄 ひさご 釣瓶
灸 縄 結ひ 古し 世 ひさご
うの字 ようかん 火縄 ひさご
のくけてぐわんぜ 縄 民のそ
たくあん 長 ひさご
かりそめ ひさご 縄 ひさご
ながえ

舩

猪 銚子 素肉 煙入 物之
元服 勅を捧 扱 息杖
劉皇王 車の轅 ひさご
ろとおぼえずして再拝 ひさご
らりて陣 ひさご

鍋

筑摩祭 銭 茶 酒 料理
河内 播广
狂言 鶏 報 ひさご
なべ おいて伯 ひさご
いなべ 亡 好 ひさご
いくにのなべの粉 ひさご
ろくろ 大小のおもり。舎後 鍋釜の数
まゝ 中国夫人 ひさご 鼎鑊

長

兎の耳 象の鼻 ひさご
鷺の頸 枕 猿猴の尻
秋の夜 髪文字 下手の談義 煩
苔の花 苔の根
鞆田の橋 栗の花 廊下
蜷の尻 炉 ひさご
徒の柄 裾

三鏡をうる。いうる齢のもの沢人なり。武内宿禰
が生ハ稀なる事なれども。菁不合等の世八十
三万餘年とや。鼻毛のもの八銚なれども。水遠山長愁殺人
の上下いも尽くひとや。水遠山長愁殺人
とて絵ハ有しかハ愁の山もそびえしん
のもの沢いぶくうやうや沢のもハ垂れて蜀先主
身長七尺五寸無手過膝。こ務光ハ耳ハ長七
すもしとと

永日

なかき日 越ゆくく 調べ 機の糸 庚子の軒 待なくに

刀 小田の巻 人皆苦炎熱我愛夏日長と東坡の詞から。
竹院君閑鎖永日と朗詠なりくくもあ
ぬるかなと釈阿を笑しなりへ
とも苔の衣のうらさびつきせさりけりと
ら。若冬寒よりいとおしきものなれバ
これのいとうすきころもきれてうのこしいふ
りとふこころなり

七日

白馬節会 ぬくわい星祭 棄捐川の祓事 吊処
芸術 彼岸 祇園会の山拝 説法
歌こゝろの祓

浦嶋子墓 業平朝臣七日の祓とかりひしりの。
あ六月の晦の為せう二人のみ母のうせて七日を吊ハ
表なり。君ろ八百万代とうもれいうくるふ
を七日七夜をとぶらふ。一行阿闍梨ぐ商定道を
百七夜をとぶらふ

鬚

刀の鞘 地震 人の肌 瓢箪 池
竹生嶋 弁才天

近江の湖よいとに大なる鯰のすめるとや。
泥ふかき塔の底よりおのくすりのぬしの祇泉寺
の池もいと大なるまゝそびえ貝ありて
てとうといひなるまゝそびえ貝ありて
鯰がいまい鯰がいまい

膾

朝日 廿八日 祝言
祭 川狩 芸
膾不厭細と聖人の語也。そぐ紙のなまなまひ
やりとしたる晋張翰う官をとゝてくたつへ海と

しるし尤慈り洞盤ふり魁をふりて勝ち也
ハ仙術なり南孝廉ふり作ふて勝ハ蝴蝶ふり
て祭ふり

ナトウ
納豆　汁　飯　寺の名ふし
サゼン　ヒビ
作善の前非時一山の糸舎ふての汁ハ無遮作
ふてしし浄福寺の納豆ハふくにふしふそ念
仏講やおふふうや類同縁ハふんくのちひく
の信仰なり

ナンニヨ
男女　四条五条の橋の上　賑奇　産屋
ひひみ　うぶすなのかみ
飲食男女人之大欲存焉ふ礼記の語ふ懐胎
の男女を赤法醫ふよりけふ男女尤大のふ
ふて男女をふりふハ脈をふり灸ふとふり何ふ
ふて恩重経ふ説ふり男女
別ふりハ脈をふり灸ふとふり何ふ
不二六十不同居ふ古人の禁言ぞし

ナカダチ
媒　茶湯　舟の帆柱　おの戸　南
ふふひ　育の神　ことづく
左伝食之容以此為活計之媒ふ云ふ

古序ふ聚沙成塔ふ喩ふ無限無量ふ書中ふ有女顔如
玉ふ勧学文ふ心期千年ふ詩ふ柏木ふハ媒ふ心期片月ふ欲為媒ふハ七夕
ふてかふるふいふふ媒ふハ心期ふ媒ふハ七夕
ふふふ

ナルカミ
鳴神　メ立　塚の神　降ふにふつふ風
来ふもいふくく　女をめとし　逸淫を
矢口のわたし　賢女　貴人の妻
なり神ふいふふ　鬼界ふ嶋　海士の海
ふれぬふふや立のふふふ　二人のるふ
ふふふそのけしきやふふ周公ふよふ治定ふ
なふ神のふくなふふ君士のく狩の例ふ
入ふハなふふふふふ　ふふの花八郎ふ
神ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ナサケ
情　親子の中　ふそふ　夫婦のむつま
ふふ　ふそふうれめ　非人
情なふくふふふ　ふふの宿のふふふふふ

梅のこら枝をとい笹おふこ〜ありし〜若の
こ松もの〜れてなろ〜〜まう〜化世よりもみつ〜の西行
なり。歌舞伎をまねけ〜〜八池の尼の悟そ〜とう〜
よ悟なく〜つまもすれさ〜ともそてまのの〜〜ち
えんするとお宝よりあり

余波（ナゴリ）

旅ゝ〜〜神　今その別　月花
連句　地震　漆　八十八夜の雪
石塔（セキタウ）　祭の法
笑のおろりいわ俗し〜うまや。軍の前途（カドデ）を
二度御ろ〜きとなりうぬおろり多し〜りろにし
毋をろ〜ひいさまもの〜大物（ダイモツ）のうろの出毋を
か〜し〜い静出来ぐ〜一秋裏のちろりよ猪なり
多なく〜そつきぬおろりめき

謎々（ナゾ〳〵）

ムそ〜忠も　甲子の夜　日御
大覚もえそ〜ろの結松の手を抽も波ろ
りでとはえそ〜ろの結松の手を抽も波ろ
ろ〜つきと拾遺よりうぞ〜のろ〜井字
を謎よ五八と俗ろハ異国の謎ゝ曹操（サウサク）と揚俗
と碑の背（セカ）よろ八なとそ〜なし〜ゆ〜ろ〜

も謎の公なりゆ〜ろ〜この夜ろものろ〜ひ〜よ
ろ〜ゝ謎の外よりやよろ〜

流（ナガ）し

蛹燭　質物（イモノ）　孟　老足　鞠かろ〜遊。
ろ〜ろバ　松やに　雛頂（ニンボン）　蜜の茶　筏（イカダ）　汗
涎（よだれ）　泪　扇ろ　ろ〜ろ松　夕生　罪わ　舶
ろ〜名　美人の姿　砂の夢　暗わる　ろ〜盃
ろ〜ゝ　やろ〜ろ　ろ田川のろ茶

遠近　昏鴉　莫不二手答一筆鞘如流（ガ）と伝八晋朝
倪（カン）ろ〜月ろ〜になぐろ〜ろひ〜ゆろ〜みの
そろろもろ〜ろろ〜ろ〜ろ〜

こそでのこと さおう

鮓 ナルヽ 旅 味噌 鮒 新松 女房

馬 ナル 男ぶり 詞 ものもらい 乞食 武士のよ
くるるかるれてつぶいふぶ〳〵とうるかるれてくるいふ又ふの男ふ弟よすめいふ弟
るれ 畚 ナカ ものいふ 四合 おとこう おとこう 弟の松蔵
林の香かつてくびうるれ 一枚よりゆるく人 神
耳 こそなれやうしとうあり

かま 冠 カムリ 刀のうへ 冬のうひす 論
モンタウ 疵傷の風呂の接 ツイカウ 武士 讀 トクシ 出家
の疵 タヽ 香いふ こそ ものうし 都 ミヤコ 人 坂 ビンドウ 東 そこいと
いひ もなるわうそうや 町人 弟 そこいよ
せなるり 当なり

蝙蝠 ナビクノ 文のうへ 蝙蝠 風すゝめ 仁政

麻 苧 木 竹 すゝき 柳
おうれうのうへにうなるようなるようなるよう

文字など通ぜざれば訳も詞もあらず。邪法をすてしろとのへば日なの歌ぞと。南蛮鴃舌之人非先王之道と孟子の詞し

南京 ナンキン　紗綾 サヤ　足袋 たび　木綿 モメン　織 おり

漆村の称　舟 ふね　絲 いと

りろにし舟のたやをとろぬるよもの物のこのとりつゝてゐせてこぎ行舟の見ゆるとも

魚好もとり。五ケ所の売買人八舟のあちを定こと再ゝとうくるわざぞうし。舟楫なくてうなゐねおとろや

永代 エイタイ　次ノ代 ヨ　永指 ながさし　蒔絵

猿宿

なが雨ふれまうるれ沈うしつゝ

てと雪帚木 ははきぎ よんでくるり。田子のうりすうとうげて

出るもものがわざし。浦島 うらしま 八姫を恋するもなくてと

ひつまくのおのがめかさうる。洞川 ほらがわ ともよあり。芸苑

よ云ひうくとをくもや七日〜みろ八七夜こゝろや

泳 ながめ　雨 あめ　月 つき　花 はな　法 のり　会 え　宗 しゅう　門 もん　蒔絵

ちらにあこそ物しくれとうあうねとうあうぞあほうとうの歌ぞ

ぬるもの歌ぞの梅よ我と云ふれ。旅立人のをこそ

ぐめやあ人ハ元気のうぐりをするもぐれぬ

秋の月まつ里をありひやう同〜ひやうめせ

歌 うた　独り寝 ひとりね　未摘の花 すえつむはな

どとも未摘の花

歌 うた　世中 よのなか　と角 とかく　散花 ちるはな　紙 かみ　衣 ころも　着 き　人 ひと　乞食 こじき

世中とかうげう〜みさうる花のなかちせばかりうれとありねのうぐひすに物やるあせ

人のうけきろ。ちるもうからぬまちをなげくとうあり。契

漆ぬり。あ秋八月やいあをおのをとうあり。契

それいあけさうぐろとも。つくねうち。撰集 せんしゅう 式 しき 部 ぶ 卿 きょう 親 おや 王 わう

ようけうう〜八皇子。本まま夫人 楊貴妃 ようきひ のうち漢王唐帝八かけき

勲 くん　章 しょう　記念 きねん　舟 ふね　旅 たび　あ宿

庚申

こぬ人をよそてこうう物 ものおもひ なんなのなくさ

めぞなるも。おぐちのうそもなくうくとぞ。

まんなくさゝなくてうくうに灯 ともしび のかげ

とひろけてこねるのくをなくすぞこよみす
なぐさむるさかりとうけつし

名所 山城 山河 山吹 八塩の器 岩倉
岩石 みつこの器 紀家
並器 同 麓(フモト)の寺 ほげ草 刈萱(カルカヤ) 旧堂(ヨムダウ)
仁和寺 さが野 和紀家 大内山
桜の白き 初この月 廣澤(ヒロサハ) 鳴滝
鳴滝(タキ) 同河 祭九月廿日 岩こし波 池鷺(イケサギ)
うづびの器 和川 亀石 砥石(ト)
中川 同 宿 淀八渕 池鷺(イケサギ) 大和
くくぐ、 琴の名 等持院 廣澤 亀安寺
おさえ紀契 光蜂 彩色の器 暗のくらやみ
同 田つくりの名 葉半の紀 星合 基
岩器 同 油煙(ユエン)の器 ちくぐ布 都 付宮 道
奈良(ナラ) 大和 坂里 都 付宮 道

業酒 緑青 暦 團扇 土風炉
刀(タチ)さ 足袋 瓜漬(ウリヅケ) 足灯(アシダウ) 飯鮓 饅頭(マンヂウ)
法論味噌 猿楽(サルガク) 法師 廉 東大寺(トウダイジ)
真福寺 大仏 般若坂(ハンニヤ) 勅(チョク)の旅
二月堂 春日 八重桜(ヤヘザクラ) 三笠山
帝(ミカド)の大鉢(オホバチ) 溜(タマリ)酒 佐保山 水屋(ミヅヤ)の旅 門(モン)前
夏箕(ナツミ)河(ガハ) 同 吉野 鴨 蛍の羽衣 夕月夜
村雨 沖津白波 蜘蛛(クモ)の巣 白木綿花
難波(ナニハ) 摂津 崎津 海漫 漫江入江 堺江 江之浦
梅 この花 芦 おぎの私 漁焼(スナドリ)
網(アミ)引 海士(アマ) 漁火(イサリビ) 菰(コモ) 蛍
芦火 田蓑 芦の丸や すくたく火
波激(ナギサ) 河内 器 森 政所 交野 紀家 梅
梅花 北野(スガカノ) 鴨 花筏(スキ) 旅ね
村雨 沖津白波

芦鴨 大文人 国栖(クニス)の踏 灘(ナダ)の捨糸
児屋(コヤ)の松ぶさの橋 伊津(イツ)の渡 湯
旅 仁徳天皇
長柄(ナガラ) 同 橋 渡 浦 玄 若久代 芦の枯葉
芦屋 難波 住吉の松 さゝれ石 友鶴(チドリ)
○長等(ナガラ)近江 志賀 辛崎 大津里 比良(ヒラ)嶺 雁(カリ)
玄 ありむとぶ 尾上 橋 繁
七社(ナヽツノヤシロ)近江 三津濱 日吉 六道 非恒 三所
永田山 今文 紫野 安居院 砂
非代松 法花 桟 屋 麻 玄
長浜(ナガハマ) 同 沖 浦 時雨 伊駄 住吉 池
鳴尾(ナルヲ) 同 松 芦 細石(サヽレイシ)
松 玄 浦 和田入江(イリエ) 生駒山
泊 玄 鳴海(ナルミ) 鹿 みくり刈 捨衣
名取 陸奥 河 郡 湯 信夫(シノブ)の系 流木
小山田 堤(ツヽミ) 木 玄 蛍 時雨
名古曽(ナコソ)の関 同 ふこそ みくり刈 袂
お夜 野路の玉川 里 ねざめ 時雨
松嶋 箱 東路

濱川(ハマカハ) 伊賀 津 みくり 柵 丸木橋
水串 君が世 君が行末
同 越中二 遠江二同名アリ 非代
長濱(ナガハマ) 君久代 玄種の貝 玄 松の far 傘
尾張 渡 浦 野 海濱 沖海寺
鳴海(ナルミ) 呼續(ヨビツギ)橋 玄 浦 玄 猪 鯛釣(タヒヅル)
濱檜(ハマヒサギ) 塩竈(シホガマ) 乾こひ 空貝(カラガヒ) 蟹 沢蛍
捨衣 玄し刈 上野の名 塩満
名取(ナトリ) 陸奥 河 郡 湯 信夫(シノブ)の系 流木
小山田 堤(ツヽミ) 木 玄 蛍 時雨
奈古曽(ナコソ)の関 同 ふこそ 玄 みくり刈 袂
お夜 野路の玉川 里 ねざめ 時雨
松嶋 箱 東路

ナイ　紀伊　三年紀ニ　三年ノ誤　ナラン

紀智　云根の花ありて　一名筆　花紀ニ　八十の名ありて今名ナクサ　同濱浦山ニアル

名草　名草　夕汝掛　海生

鳴門　ナルト　阿波　浦仲　淡路ガ　那古浦　濱庇ニアル　鳥　蜜　堂の浦　小宰相の局ニアリ

那須　ナス　下野　由利仝　大方紙　与市宗ニアル　温湯　ユノ上ニアリ　那須ノ湯

長湯　肥前　白だこと　思私　未綿　唐絵　絵巻　仲手相　献ずの品ニ

長門　ナガト　銀銅　萩ノ焼物　牛　紫砒　火打鎚　下関ニアリ　捜鮎　三嶌貝　集ノ人ノ神　和布刈　豊浦ノ内ニアリ　門司ノ南ニアリ　赤間

誹諧類舩集第四

良

羅漢　樹木　涅槃像　説法の舎衛　築紫　永福寺

泉涌寺

逢仏　説仏ノ逢祖　説祖逢羅漢　説羅漢ト臨済録ニアリ。羅漢会三義トアリ。奴林のなりさい五十二数も羅漢よりあれど。寺ごとの障子ニ冊青をかくこそふさわしけれ

尤母　もゝ　池田の宿

漢王陵ノ母ハ死シテ二心ヲ表ス。江草ハ老母ヲ比ス。死後ヲ約束ヲ立ルヲ云。池の尼ハ敵の節ヲ立ルヲ云。せり。此名の尼ハ孫トヤウニクシテ福ヲアタフ。官トスルヲ母ヲ名ヲヒシハ朱毒昌ナリ。障子

をけつて倹約をまもるべしといふ時私の母とや
老女（ラウヂョ）　小町（コマチ）　更科山（サラシナ）　幸ひの里
　　檜垣（ヒガキ）　美女の活
頭中将（トウノチウジヤウ）をとゞめんとて優婆夷（ウバイ）う洞とうや。別殿（ベツデン）の行幸うに
昼御座（ヒノオマシ）の御剣をとりて自害せんとするを
内侍のすけとゞめやおうとゞめんとするを松ざうし
ますゝきあやめ
老人（ラウジン）　旭将軍（キヨクシヤウグン）　義経（ヨシツネ）　秋風（アキカゼ）　蛍雪（ケイセツ）　源氏（ゲンジ）　須磨（スマ）　明石（アカシ）
　　鳩の杖（ツエ）　歌病（ヘビキ）　巾（キン）　火燵（コタツ）　独（ヒトリ）
商山の四皓（シカウ）は虫く漢帝（カンテイ）ようくしん。ふう屏（ビヤウ）を
とりてもろ〳〵老人（ラウジン）は一巻の白紙（ハクシ）を披（ヒラ）き。ふう屏（ビヤウ）より。老人
うるさがりそうにくゆる煙（ケムリ）をふうとはきかけ
吐（ハ）き捨（スツ）る木の葉（コノハ）の精（セイ）は姑射（ハコヤ）の上人（シヤウニン）よまうえんそ
老前（ラウゼン）　釣（ツリ）　炭やき　非の化粧（ケシヤウ）　石公（セキコウ）
清見原天王（キヨミハラテンワウ）　鈴鹿山（スヾカヤマ）　行恵（ギヤウエ）　塩木撰（シホギエラ）　行吉の非
とん。湖（ミヅウミ）の七夕（シチセキ）まつりの夜（ヨ）の沈（チン）の面（オモ）のようなまる影（カゲ）の
ようなる月（ツキ）を
宰人（ラウニン）　編笠（アミガサ）　唱僧（ガツソウ）　医師（クスシ）　一揆（イツキ）
　　旅（タビ）　寺（テラ）　敵（カタキ）　す紙（カミコ）小
上（カミ）なき鬼（キ）ぬ藪（ヤブ）をわけて出（イ）でうぬ
うゝ。不（フ）ン。の喧嘩（ケンクワ）は武（ブ）の面目（メンモク）ぞ。作（サク）
のまふうなれ芦（アシ）屋の道（ミチ）ようくれ。附（ツケ）
ぬるなよあるゝず。うぬ。小（コ）ざい。大（タイ）
の左（サ）迚（テ）われバ宰人（ラウニン）あるゝ
郎等（ラウドウ）　軍場（イクサバ）　経（キヤウ）を射（イ）るまうり
　　寶盛（タカモリ）　忠度（タヾノリ）
さうゝさ。普賢（フゲン）の大（タイ）ぬうるのみあるゝ。即（ソク）未
の働（ハタラ）き。死（シ）なゝてハうるのゝにとうや。即（ソク）ち三蔵
ようゝうをあるゝせと猛（タケ）ふう二度（ニド）のうけ
楽玄（ラクガキ）　堂（ダウ）　文（ブン）　人宿り　咋（サク）礼
　　風呂（フロ）　俊乗坊（シユンジヨウバウ）

誰ぐのみともなくてう紀のつらハ榮さよ
してそを固なりしぷ落る三ひげ本をけづりて
二句をそゝる忠ぎの心ぞ。廻廊寂寥ある
居棺の棡千なともけづすハ三十三わの數も
まうでゝ

狼籍 ラウセキ

落花 平家のしみち 乱酒
木曽 土佐 本そこゝ 乱ぶ
野伏 女づま
有核既に尽、杯盤狼籍とゝ坡し。履舄交杯
盤狼籍と史記よりをり。物ゝの場いそ積の
入ことなれバたぐひよびぐことあひ竹。出警而
入闥とハ狼籍をいまゝしうとそ。杜鵑啼処
花狼籍ゝ

乱 ラン

碁盤 碁子 拍子 酒 謡の曲 杭
秋ま 役行者の祈そ乱を物して百日の旱魃
秋ま 役行者の祈そ乱を物して百日の旱魃
となせり。不入危邦、不居乱邦とのこゝ匁。
狗門ハ実ゝ純交ハ西園よ乱をなしうゝ老
なり。兼久のさゝ乱。元弘のみだれともにすべ
のほらそとやう

棡千 カンセン

船橋 二階 堂塔 須弥壇
縁先 神輿 三門 玉の姿の洞
釣殿 そのこの楼すしさえのゝねそ。南殿の
池の上よのそゝる楼すしさえのゝねそ。南殿の
らんんハろもけらぬ。朱雲カ檻をおりし。佞人
とそゝ也ねん。ぬみるの幕ハ者のこくなる
花をゝんうるとやう。極楽の七重欄楯とふも棡
檻のすとんかのうちるおりけのかにみをまれ
上そくうらんをつと野ら寒にき

蠟燭 ラウソク

仏前 葬礼堪 躍場 柔入 舎漢 越後
日暮 漢宮傳蠟燭青烟散入五侯家と絶句ゝ
詠ぬのそゆんとそいとくくりゝ。立
花のねをたもつ蠟燭の火すそこぐとうゝ。
とゝの附ふ池火なわ蠟燭なし

疥瘡 カイサウ

小舌 猿 猫 若盛
おぐく於屋根の煙のかうらやせかろみハ
いとし過房労傷飲食久而成疥瘡之候と医

家にのぞめる傍の一宗の儀をとゝのへんと教名の経論を月数を問ふことなくいふ毎

礼拝 仏祢の前　山門の僚　膝　蝿　若之糸　宗脳　天狗のなせる大会の狩おいハ上人の礼祢をうけてめりぱ問よゝめ〳〵をうけて礼おをてゝらん。夫婦の礼わり。賓主のおわりわ。仏名経乃功徳ハ度大なりとぞ

楽 貪　脇を拡　水のひ　陽居　仏　被面　坊主　寂　卒ら　栄期ハ三楽をうひ〳〵。山谷詩よ無一朝憂而有終身之楽ニ寂滅為楽ハ仏家の妙文。温公独楽園ハ人のもつさうの所。西方浄土を楽邦とつゝ弁をりてのこたゞ〳〵てゝらゝとらひも楽なる世のうそ。葛天氏民無懐氏民ハいへ乃楽なり

悋明 貴面　女房のけ　別者　尚　武事

朗詠 手の番　小野の道風の書を筆突〳〵ろ〳〵ろ〳〵。遠人〳〵大物のうつゝゝ西施の首途よ静ろ舞〳〵。朗詠〳〵扇風よとうろ〳〵紙いつゝ門弘の仙まとうて朗詠おゝ〳〵

乱舞 拍子の殿ハ乱舞ろ上ものうそ〳〵吾光るもその初ろうそ〳〵。徳会ハ通ろうれいほ〳〵とゝやせ〳〵ハ滅上の桐とうやゝる館ゝそハ軍のおこりとて乱舞〳〵。其会の花学ぐられ物ろ〳〵ふ〳〵〳〵乱舞の時〳〵。源平ゝの天狗よゝ〳〵〳〵ゝゝ〳〵なり

武

梅

異名 花の兄 春告草 白ひま 香散見草

この花 好文木

實 寢の甘 青消 賤の姫根 忘れ南

笛の音 夜の月 雅波 初潮 うらぬ山

閨の夜 雲の夜の月 雪間うく 小面

雲と紛う山里 沖の卯花 敷の皮 囚人

盃の曲呑 漆物 天井 生面森 擇食

軒端 実酒 殊報 活ける

魏武帝行兵三軍告道大渇帝曰前有梅

林結子甘酸可以止渇とあり。和漢共に梅

ぐさの物の数に入りて多れりと梅を殺

にも。巻衣の役重ねて

の天井形おくたとけうと

う咲神の物もやさしせハ雅うまろうとよ

みしゆとうや平家一門花人となり安樂る

まくらまうまう梅そそ多れしうハ十二三乃

至廿こ花やかにうふく風よそそれてわし梅

一物のうねと源

有雪無詩俗人 梅

枝は雉を待らくなりひしいなり人

ねてうんとうひしいなり人 林和靖ハ梅を

せしめ。表豊之う六株の梅ハ隣の烟家よやれ

しこと物なれいくもうこれ雪の宿ことく

いくらこんと物とのしうひとのこうふ梅

のうろへさうくのもの附うまひぬ。盃ハ梅も

うけうなりうのそのはうちめうしは

梅干

實酒 うどん 粥 名日 大服

呼ハ醉人 首途 小野のの又司

喉のつかふくめハ必なるめて。煮形

の料理よ入うしれめらそひなろめうる

の風雲の礼よ柱物なくうしれめらそひなろめうる

はうそうからの。陣中なくうしれめらそひなろめうる

とう

棘

念仏 乳母 渋る

営々礼青蝿止干棘と詩経しひそうくちふ

山鵞の姫根 小野のめぐり 葵茶

小田の畔名 わさび

うらうらて家よりそてうらふせりひとを
もとひろ女しのゝ猫や盗人犬のうふかしと
もをむづうてふうくしぴうくうちのむりくゝ刈
そけろくたてんろそようくまれろてつくろと
万葉七月の桂もゝ〳〵ちいむぢろう花の咲ぎ
らひくもぬかとのつせそこにおのかり

埋木

（うもれ）

みなれ川　あふくまの花　伽羅　うつせ私
埋木ハ中古よりいとめれいうちのそくハ色
てゆけ。保三位朝臣辞職ありそめれいふさてくろ
にてゝありぬ。埋木となりそ
しむぐうちもゝ。後成卿述懐の百首うたに
たてゝあうろふろふふ
のそうものれま

笑

（ムシサキ）

芝日野　むさし野　仙家雪　翳　顔　芳
枯（カレ）ふ　蘭（フヂバカマ）　荳（スミレ）　わやめ　衣
ぬゝ祝　苹（カハ）　武ア　苑末の痛　敲（ノミ）調（ヲ）
うゝ枯（カレ）うゝ花（ハナ）りうゝ
ゝあるゝ。

藻

（ムクラ）

荒（アレ）ふ宿　三輪の山路　名所の琴ノ
長恋　鬼のそゞぐ　蓬（ヨモギ）　雪出
刈（カル）萱

藻ふゝゝ宿ゝゝ芳のまゝんゝゝ
ゝをぬひあゝひゝのゝ
さゝのゝ神ゝつゝゝ
ゝゝもゝ月ゝ
らゝゝゝ

虫

文ま　庭の露　芳
古（コヨキ）路　そま松　さが野　伏見野　小倉野（オグラ）
萩（ハギ）園生（ソノフ）　秋風　色の内　蓬生（ヨモギフ）の宿
交野（カタノ）　ゆきゝ野　行（ユク）ゝ
ものゝ月　田（タ）　蓼（タデ）ノ

粟米 ろさざ
うろこ 川淑 楼込 古名 髪綿
物の中 魚ね 胸 糞
わるくともおろさせうひて虫のこともよあう
も也法しくわるくふ虫の類しやうそ川欲
の毒の物の死る毒をそこのろ松虫の類 焦頭
ハ蚊のまつけますとうしも 狗ふハうのさ 歎
虫も脳の中れ虫よ教さうくそでぐわうろ魚
ハ虫よなうくなひさいるおひの疱よ虫うくあ
くし 火の中ふ虫を生うる。今鉄の中ふ生うく
う。石の中うも虫まうくしぐようあうくハ
こんようハ虫よもものめくふ虫ハ百虫整ひて墻壁はうろ
酒のたのくし 冬ハ百虫
もぬハ曹椒とうや

蜈蚣 ムカデ

俵名古

蜈蚣性能制蛇見大蛇縁而噉其脳となす草
におろう。蜈蚣制蛇而畏蚯蚓。蚯蚓のあを焼ハ蜈蚣
ハ福なりくと

腕 ムコ

おりひの火うでの棡さそうやね
名別 箪用 悟通 ゴダウ
独ヤ般の矢胸まあうろ
もものちうさをかもくそやくうさ源の名さ
よふふうのぶう流されるる時名うくあれよ
めり。寒暑戦胸中ふうの山谷しぬうるの竜の中
うそ胸うつとうのわりんりんりんりんりんりん
おりひを死く掏うつと火よふやけ。南斉
宗元卿う祖母やめる時ハいとうそにうそそ元卿
うハうくくくくく

胸の癌 ケウリ

河内 たそこやねの雲 民の竜賑 カミナギ
胸ふ一独ハ活そう実ふれや棡ハなねね日
うなれひの肉なうふうのうふうふうふ棡のふ
そこ癌うくくふうふ胸のふなうくく

弐者

扇 扉風の絵 城 馬わうち
小路 糸 ねセ日乃ねじやと
法師 ア代 字治の納代

南部地震の注記そのほか
帝國
とそ。海辺多くのる武
聟 ムコ
孔云 兵庫 自然居士
森すぐ 播田
強盗十郎治郎 第
武者 ひとり
云病 ムビヤウ
刀の出来 若き
大食 非別
悪業 ワルサ
病 ビヤウキ
長命 道郷
云病 原憲
妄想 モウサウ
連行 蘇通 夜
大豆者 信仰

懐姙 紀家物
物軍 出来 悪
の社 物
妻の若 遠
こと 陸奥
つげ 推状
治殿 車行 陣場 蝿
馬
市 扇屋 旅路
飲青 将基
昼 南 花咲 雪道
蛭 稲荷 木幡の里 塞翁 賀茂
泳ぎ 大津 悪多太子 甲斐 武田 信濃
蝦蟇 夜戸の浦 守治川 花出
物軍 勝 十歳 能 乗馬 橋姫
殿 守屋 弘

てそれを神の大床をのうえをたてそなかり

馬酔木

皇子誕生（ミコウマレマシ）　猿　大豆　旅宿　市

弥布　波大（ハタ）の名　口詩（クチウタ）

旅枕（タビマクラ）くさびき草（クサ）のそめくさ（ソメクサ）のうつろひやすき館（タチ）つゆけき猿楽酒

も。赤松満祐将軍教（ノリ）をそうち殺（シ）のるとうひわかさ

宴（エン）の時厩（ムマヤ）のそとそうち殺（シ）のるとうひわかさ

そ従（シタガ）よ義教（ヨシノリ）公をさ〜こうろ

厩（ムマヤ）れおりて犬追物（イヌオウモノ）はらんわり

馬の尾

蝿（ハエ）　蜘蛛（クモ）　猪（イ）の鞘（サヤ）　まんさ　鼠（ネズミ）の巣（ス）

源仲綱（ミナモトノナカツナ）うまの尾髪を切（キ）

うり、らんだうまの尾（オ）うまの

の蹄（ヒヅメ）はうまの尾うう〜ぞ

駅路（ムマヤヂ）

茅花（ツバナ）　砂糖（サトウ）　粽（チマキ）　指の股（マタ）

一夜妻（ヒトヨヅマ）　白粉（オシロイ）　教ふる旅　決（ケツ）の浦

駅路（ムマヤヂ）の石　鈴麻（スカ）の数とそてゆく

駅路鈴声（ムマヤヂスズノコエ）夜過山（ヨスガヤマ）　なの数とそてゆく

さそ旅いろ人（ビト）もうかとあ

駅路（ムマヤヂ）糸（イト）をくりの窓（マド）をとうしの

籠（ムサシ）

野衾（ノブスマ）　メそれ（ソレ）

松　もさう〜　木菟（ミミヅク）　法（ホウ）　伏（フセ）

森　ますらおの（マスラオ）

むさしあぶみ（ムサシアブミ）　多摩山（タマヤマ）　墓（ハカ）　狩

むさしあぶみ（ムサシアブミ）　多摩山（タマヤマ）　墓（ハカ）　狩

寂光院（ジャクコウイン）そ（ソ）れそれ（ソレ）

室（ムロ）

一夜（ヒトヨ）竈（カマド）る　小野（オノ）

糀（カウジ）　鯵（アジ）　津（ツ）　泊（トマリ）　浦（ウラ）　八幡（ヤハタ）　兵庫

浦（ウラ）る　傾城（ケイセイ）　明弁（ミョウベン）　椎（シイ）　末（スエ）

加茂（カモ）の明弁（ミョウベン）と室（ムロ）の明弁（ミョウベン）は

も念（ネン）ずといふ大（オオ）とくそう

末（スエ）松（マツ）ろそて宿（ヤド）のう

そろ（ソロ）お出（ダ）ろ（ロ）ぞ（ゾ）ぞ（ゾ）ぞ（ゾ）

もろの神（カミ）ろ。法性（ホッショウ）の室（ムロ）戸（ド）

わのなろ（ナロ）風（カゼ）さ（サ）ぬ（ヌ）ろ（ロ）な（ナ）

玄蕃（ゲンバ）

燈籠（トウロウ）　風（カゼ）　猿（サル）の（ノ）

連（レン）の（ノ）　法（ホウ）　名（ナ）　なろ（ナロ）　方（カタ）

玄蕃（ゲンバ）山（ヤマ）　とり（トリ）　色（イロ）　野（ノ）　茶（チャ）

四句の文をゆへく晃へ入〳〵ハ云ま
渕客のゆへそと云ゝ云ゝのまゝハ
むつゝわしますゝやうかと侍
君の云ゝハ旅侶のゆへなりと
よ云常ノ詞なり

昔 ムカシ

云人ゆ〳〵敷 寄うる男 茅庵 掃
子叔 袖の涓 秋も死枝 枯木の秋
白髪 妹う記念 年〳〵幸 昨日
仕へ〳〵君 去年 志賓の契 奈良朝
布衾の都 茅屋 伊尊如語 うゑの松
童ゆへ〳〵 小町ゆへ 果 佐盛ノ
泊 桃李もいはぬ

昔ハ為ニ京洛声花客今ハ作ル江湖潦倒翁ト。昔
の劔今の茱刀ととけて。
中よ住〳〵と武陵のハうゑ
ぞう〳〵。昔聖人之作ル易也幽賛神明而生蓍
と説卦侍し狩の代ハ昔し。花横いもとにて
梅の匂ひのそ昔ひう

睦言 ムツゴト

念佛 和国の雅 物語
もろ〳〵 奥列

六九乃

易ハ一卦六畫し。又陽爻を九
とゝめし。服中よ六脉あり。小
学よ六徳六行をそゝくめ
言六幣をあげていまゝめ

筵 ムシロ

稲苔 法 奇 芝居 絵
酒粉引 私の帆 腰簾 屏風
寝所 琉球 茶もう 緞 弁当
冊波 近江 豊饒
幕ノ天席地ニ。宋韓億と李若谷と二人が
中よ一種一席を出ニ。
しゝそのゝゝのいもめ

もそのやもくらん曽子避席曰参不敏何足
以聖と孝経をさづけのひ〳〵附ク

村 附ク弓 漆ヌル 崔メ人の名 探タグル多 乞食 枚ヒラ 芦
葦 ヨシ 蒹ケン葭ビ 雁ガン 紀ノリ
新田ひら〳〵の無言ヨリ村をうめく
竹の卵 花のひら〳〵さけ 垣根を尽ヤラの
月よ鮫うもも尽ヤラ 岡 ヲカ なかのひら〳〵 柿ノキ
うら 表オモテ 裏ウラ のもひら〳〵

村雨 琴 琵琶ビハ 琴ヲ 琵琶ビハ 女ヲナゴ
なくあた 漁リョウ 清キヨ 水の 死見
庐生う耶蘇ヤソの花ヤ一ハ一村雨 過ギ 童 樹キの蔭
雨ふく 神の村雨 舎ヤドす〳〵
蹴鞠ケマリの庭 雨ふるまぐれ 花咲一ふりとそ
一そのあめ〳〵そ。名人の ふる
あめ〳〵そ。

村雀 雀スズメ 宝鈿ホウデン 附ク 夕立 風ふき ひくたは石
雨 山 路

もやのそもせり雨ふるの鞠りそうれ
り月影。鵜ウ いもひら〳〵そのやう
八ヤを垣つくろそのやうれ
ひら〳〵そ。木村の源五童

鞠 ムチ 鳶トビ 犬 打ウツ
なの 科人 ガ

芫荽 羊而舞 鞠ヲ こ。
信 ヨリ 狗ク 死ル まて 追ヒ〳〵
那ナ ガ ひらをあげてうけ
の時よ。墓ハカをあげていく戸ノ
れ必のなくひら。鞠をりのう
ーいうやくしさうまひら。奉而殿将ニ門策
其馬ヒ非ズ敢後也馬不進也
ムチ

むち 笞 鞭 伊勢講 念仏講 先
糸 縒ヨリ 弟 らん 縄 文字 縄
むちひちぶの外やたくりそんとろろ

みそぬまうめ。むすめ。むすこ。ものの字のにごる。ことばの。結ひ。ゆひ。ゆふ。ゆへ。ゆゑ。ゆゑん。ゆゑに。ゆゑの。ゆゑよし。ゆゑよしなし。ゆゑよしなき。ゆゑよしなくも。ゆゑよしなくて。ゆゑよしなくては。ゆゑよしなくてや。ゆゑよしなくてやは。ゆゑよしなくてやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざらん。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべき。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきや。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやはあるべからざるべきやは。ゆゑよしなくてやはあるべからざるべき

名所

梅津　山城川　桃園の桃　太秦　広隆寺

山の内　松の尾　もゝ福寺

蝉　物狂の舞　同　白木綿　産衣　白砂つゝじ

梅文　一挙

ムラカキノ　同　みそぎ川　さゞ　この内

紫野　茜　あやめ　麻そが

ゆうり　花の苑　雲林院　蓮臺野

布留山　枸の森

六田　大和　淀　河　みそぎ　蛙

ムツタ　高瀬さゝ　柳川　流の名水

おさゝ　水分山

武庫　摂津　山

入江　泊　もゝの浜

岳　行者の松　雷岳　わらの浜

ゆつ葉ノ嶽　雑波浦　栗津　住吉山

塩干ノ浦　夕附月　もゝ

容好き　師直り　音の糸水　千歳

室泊　播磨　芦屋沖　生駒

室ノ上り　もゝ浦　遊女　時もと　大照

席田　美濃　うねめ川　霧　はらゝ

氷も　あろぐ　あろぐとゝ

みそぎ月

清井　同　出雲社　井戸の音　もゝとせ

文　もゝとせ　伯耆君

室ノ浦　下野　煙　清井　大照

相坂　関　川霧　もゝ　霧　東路

土作　南代岸　有名の濱風

室戸　法　開ゆふ　弘法の師　糀

室の泊門　播ノ　名所　久尾　風あらき　津波風

我りう　我名所名

向岡　武蔵　ひさし　野　まだくき　秋萩

糸芒　白雲　久附月　うす紅葉

武蔵野　名所　手枕　月　まのゆふ

妻も籠もれり　ほとゝぎす　若葉つゞ　わだゝ

合戦　ひとつの雲　塙　若葉

武蔵　金沢貝　へちま

名所　幸の名所　塙　井

野　漆葉　角田川

二俣川　荒蘭乃　関乃関　江戸

菱飢　久津々　海松食　沈

陸奥　名所　千賀塩竈　秋風ふく白河の関

名所　仙春紬　武隈の松

衣川　高館　秀衡　住家の館　外濱

漆　金　紅の花

宀

鶯　異名　匂ひ　経よむ　ゑつゝ

金衣　花見　黄鳥

雪消　庭　梅　山里　垣根　行　笑花

園の朝日　春の谷の戸　谷の菴　住

琴ノ　付　本綿付　雪　立田山

お坂の雪　ふもとの野　音羽の中山　名里

紫　紬　出ぶかの野　笛　衣

双紙風　吹　音羽の中山　名里

卵の糸　香具

河内の関　常盤山

佐奈田与一ゝる紙鶯ともひろとぞ延喜
のゐ久ゐ女を鶯のわゝ
なりゝてそ。後撰
まうけてゐくひさめ
時に来在ゝ桑樹に鳴則蟷螂熟ゝ
月於田畝中得玉堅如卵者輒取以賣破
之則鶯在其中ニゝ
まる風よ吹とけてな
于丘隅ニゝ谷とあく
宿のありもしくりとう
喬木ようつゐを其室頭有酒鶯呼客ゝ誰
家碧樹鶯啼而羅幕猶垂ゝ
ウソ 偽蝉ハチ 狐の
鶖 犬呼 兎口
てゐうそれもひいとうれくりてもそれ
のわゝねゐる。鶯ハ
とうひうそれ
出よゐ出るもうゐ鶯ゝそゐくれる
去よゐゝかゝまく
となり

鶉 古弥 荒ゝ野の秋風 尾花 萱原
里月 庁野
ゐ城を 蛙 草田鳧 鶉 野ま 床の山
鶉なくふゝくゐ 竹 板りく月ぐい
宿。面りまの伏屋の風吹ハ畔つゝひゝて
うゝなくゝうゝなくゝ杜森のなくゝあり。
まぬうきまの下表のうけ鶉をもうゝわゞ
なりゐり。鶉の府よう
となり
一名鳴津鳥 月れゐ死而川蛍
鶫 滝川 大井川 桂川 宇治河 伊賀河
能刈氷田の秋よ雪月物午れ秋ゐに秋の牡
をゐゐゝ梅津川ゐゐのうを少よ
庭のゐうもくれゐりゐ。あの鳴秋のをひ
ようう浪のはなくはゐやゐ雨ゐりゐ秋の
とゐ鯫ハ秋泉苑の他

兎（ウサギ）

月ノ表ノ村 筆ノ馬ノ如シ

疱瘡（ホウサウ） 越後

五文ノ兎ノ如ク病ク葛城山ノ如シ 王衡星散而為兎ト云ヘリ 快鷹鳥那ノ如シ 卧兎（ヲシ）ト云ヘリ 商紂之時大亀生毛兎生角ト云ヘリ 王者加恩（ハウ）着老（ヒ）則白兎見（アラハル）ト云ヘリ 兎ノ月ノ表ノ白兎ト云ヘリ

半（ウレ）

田ノ畔（アゼ） 畦（アゼ）ノ如シ

畢（アミ）ヲ 網ノ如シ

蝿 鬼 大日 天狗 威徳明王 虎

夜ノ八時 市 蠟（ラウ）引物 画（エガ）ノ像

額（ヒタヒ） 出門 仏（ホトケ）ノ如シ 牡丹

大和ノ諺ニ牛ヲ売ッテ牛ヲ買ヘトアリ 牛ヲ売ッテ牛ヲ買ヘトアリ

額（ヒタヒ）

出門（サンモン） 仏（ホトケ）ノ如シ 牡丹

大和ノ諺ニ牛ヲ売ッテ牛ヲ買ヘトアリ 牛ヲ売ッテ牛ヲ買ヘトアリ

山路（サンロ）ノ如シ 弥勒（ミロク）堂 宗庙 祭 千歳ノ松

夜ノ八時 市 蠟（ラウ）引物 画（エガ）ノ像

蝿 鬼 大日 天狗 威徳（井（ケ）ノ）明王 虎

半（ウレ） 田ノ畔（アゼ） 畦（アゼ）ノ如シ 畢（アミ）ヲ 網ノ如シ

畢（アミ）ノ如シ 桃林（タウリン） 狼藉

畢（アミ）ノ如シ 桃林（タウリン） 狼藉

畢（アミ）ノ如シ 桃林（タウリン） 狼藉

魚

海魚　川魚　蒲鉾　氷魚　鮒　鯉　鯰　鯊　鰌　鰻　鯉　鯔　鯛　鰈　鰹　鰯　鰺　鰒　鯨　鱈　鮫　鰐　鱶　鱏　鱒　鮭　鱚　鰆　鰤　鰡　鰕　鯱　鯒　鯖　鰶　鰊　鰮　鰹　鰤　鰡　鰕　鯱　鯒　鯖　鰶　鰊　鰮

魚釣

鯊　鯛　鰈　鰹　鰯　鰺　鰒　鯨　鱈　鮫　鰐　鱶　鱏　鱒　鮭　鱚　鰆　鰤　鰡　鰕　鯱　鯒　鯖　鰶　鰊　鰮

姥

姥桜　豆腐　瓜　やっこ　門脇　略　亭　うば　白河　桜　小町　蛤　貝　渋

後妻

柳の巣　雷　鼓　桜色の妻　芸者　天丼　嵐　彩の風鈴　蒹葭　徳楼　宝暦　風　渋の音　丑の時参り　本私　今悔　乃火　誉の松風　猫婦

浦 汐風 汐干 浦人 川綱石
伝吉 恋愛大津 絵馬の海 岩梨
小屋 苔葺 草屋 漁火 月夜 釣
孫右衛門 傾城 人形狂

浮草 沈姫 小児の癖 田川 画
柳絮化為萍 秋萍満敗船 句
三体詩 まりもの 浮

浮木 盲亀 仏 門 杭
うつか舟

浮世 夢 男 死 行燈 人形狂
道心者 傾城 秋風 袋
蓮花初開楽 人形狂

海（ウミ）

釈鞅（シャクオウ）云（イフ）海（ウミ）洞（ホラ）庭（テイ）巽（タツミ）魚（ウヲ）業（ゲフ）龍（リウ）脱（ヌケ）鱗（ウロコ）近（チカ）江（エ）蛍（ホタル）根

松の下

皇（スメラ）子（キ）赤（アカ）ま丶ま丶ばかりのころわ〳〵中（ナカ）ゟ海となりてをゝ河（カハ）ゟ海（ウミ）通（カヨ）ひ博物志（ハクブツシ）注（チウ）よめり。愁（ウレ）如（ごと）海（ウミ）ゝ井蛙（セイア）不可以語（カタルベカラズ）海（ウミ）ゝこのゝ仏（ほとけ）ごと有（ア）つ智（チ）をもてうごかしてやゝ〳〵さ海（ウミ）をこゑ〴〵ゝ

らんぞ〳〵海（ウミ）のうれわる魚（うを）のすゞ〳〵とも云（いう）ものぞ。

我（わが）愁（うれひ）如（ごと）山（やま）我（わが）涙（なみだ）如（ごと）海（うみ）ゝ

ぬる夜（よ）の人（ひと）のひとこゝろそ無（なき）秋（あき）浮（うき）千（ち）海（うみ）ニとうたのごとこゝろをなけきのひとこゝろそれさうとなけきのひとこゝろ

とゝけくり。工（たくみ）灯油（とうゆ）加（くは）大海水（たいかいすい）ゝ

浮橋（ウキハシ）

蜃（シン）気（キ）楼（ロウ）陰（イン）の私（わたくし）ゝ

みとのまぐ〳〵

うたゝねのゆめとあはでこのまゝうきねのうらにくちやはてなん

よき事（こと）のうきはしとだにたのまねばこゝろ浮（うき）寝（ね）の夢（ゆめ）ぞはかなき

ゆめとあそびて寝（ね）よとてやうきはしをわたしそめけん

仁別（にべつ）の湖（みづうみ）旱（かんばつ）魃（ばつ）して伊（イ）予（よ）二（ふた）町（まち）ゟり橋（はし）をそ

卯（ウノ）花（ハナ）

時（とき）鳥（ほとゝぎす）雪（ゆき）月（つき）花（はな）章（しやう）　垣（かき）見（み）草（ぐさ）　初（はつ）夏（なつ）季（き）

玉川（たまがは）の里（さと）　小野（をの）ゝ里（さと）

生野（いくの）ゝ関（せき）の夜（よ）　仏（ほとけ）の誕生（たんじやう）　夏賀川（なつがは）岸（きし）

うくひすのうつりかをりしさつきやみ

やまうつきなきぬ。垂（たれ）ごめのうちよりさけろうの花（はな）

汀（みぎは）するなとそ。

花（はな）ともちるともとゝ。

瓜（ウリ）

洁（きよ）ら　胸（むね）星（ぼし）　ある　名（な）所（どころ）　九条（くでう）

孫鍾（そんしやう）ともみん家貧（いへまづ）しくて瓜（うり）を作（つく）りしゝ。なりさま

もぬこそのく瓜（うり）とそりけるよりつさこと

そのけさとさこのいふ瓜（うり）よおてやしし。吾君（わがきみ）の殿

ゟ一さる代（よ）のころ一つのこにそうなる

つとそれ。りさやうこのつうさのうりにし

ゟしとほうこのひよ。二月中旬（にがつちうじゆん）ゟ進（すゝ）瓜（うり）と

絶句（ぜつく）ゟ。秦始皇驪山（しくわうりさん）ゟ作（つく）りし冬瓜（とうくわ）ゟり

鄭灼勤学多苦心熟着仄時輙偃卧以仮鎮
心起誦讀ス小児の仇とならい香味とそ〳〵
と本ヲ自うのひ〳〵い天石の代とならい。仇と含く千
風をてるもわり

占

辻立 判断 病医療 産 軍
わやうき命 行路 うせもの あやうき星 帰り
大吹出門場門 庚申 尻梅 待旅人 首途 着
衰記ようもち。同一条猪門 中又出産の時
てうとにこひきる二疋 放てうるひ〳〵
なり愁中ニ上命 看周易 うつゝへ
訟 彭田 堺目 盗人 占師 初を旅
寺社造営 会
ひ〳〵のもう為ちうこ
とうん。門の名後る仏
一日吉の祥興と吉新よう
のかし聴訟吾猶人也必也使無訟乎ゝ大学此
金言ゝ。十六夜記ハ孫徳会ゝうもよゝもハ
大家ゝ。笙声切〳〵訂秋寒ゝ
ら〳〵。笙声切〳〵訂秋寒ゝ
歌 月之 着見 船 催る楽 私ら 賀 酔酒 薬 非楽
雉之 石薬 比丘尼 尺八 台方 兵
馬子 念仏 公家 木樵 追善 祈祷
順礼 左迂 書物 梶の葉 女非男非
餓別 早の飯 盲 蛙 鼓人 糸竹の声 聖の声
妻恋 武士のやうく 雲清鴻
住吉 鬼し感となん 神のやうし
祇園〳〵三所の神納受〳〵。小式部ゝうよ
冥途の役ゝもゝそ〳〵。民戸々泰愚近ゝ
ゝ作ゝ時三年もゝゝ〳〵の合〳〵作ゝとゝ格造の
羽ゝし。兼久の軍敗をそ三人の坊ゝ首の座よ
ゝのゝそ勅ゝし当ゝ武士の八十ゝ

浴川の流れ八くねとくくれハ武蔵さうん
じてたゞけうり二条中納言為明秀行うくく
拷問とのぐわり〳〵。王元之ハ七歳の時磨の行を作
り〳〵。ね冷泉院の池河白鳥ともなりるるとかや
してくよんせのハじうを女房遊ゆじうりくれい
ふうそてなれと作もう〳〵にうこれ
ばくかね間ねよりり。史くひの行あり。平の経乃
行わり。百濶の王仁天竺の婆羅も大和うと漢
せうとく

謡　謡姫　孟の女　神子　催馬楽

あさくら　着もうけ　咳気　うくれ

五もうけ寒衣　能

詩　躍　白居易　秋

秦青うこのハ林木をうごかし秋をうひとう
や。物むのいろ〳〵とみうこのこととあとけてこと
こひもうひてと出揃ようけや。漢高ハ大風
歌とはくうとてうこうめ天下をきつめ給へり。
男ハ人のふうりうことにさはく給をいとかりく

ふうりうく歌メハかりうてあれうひうくく
至文中納言のうをのぐうり

魅　中法　乱思　病人　ま負
葬礼　民　孤子

愁破　崖寺ハ杜詩こ。子旧無憂者其惟
文王乎以王季乃為父以武王為子こ。憂心
忡々待宜入とさしハ賢宰相のもく。不幸よ
うまこてよもうくくのうらうくとまてまよ
よりひとりくうくのうらうくとまてまよ

薄雲　源氏　墨絵　入口　雨雪
河内の国のとをりうけうまよなりんとそんがり
川まり〳〵。月の暈ハ雨よとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

薄墨　雲　蓑ぐのり　吊ら状
律儀の衣　眉

判官の大夫尉とうひしてる八りとの名を商
ふとぞしなり。遠山ニ無数隠々処胃遠水ニ
無波高与雲斉と王摩詰ガ賦なり。うた
ふまよりくもつきとそゆるさるの月よ
ゆのかりうひ笑をよ辛をつをりてく学問ハ
拙きものゝたとへとなるこゝろをうたへる歌なれ

ウス　茶茶鰯　清きものゝ称　茜
臼　大黒　地ごぐり　梢
豆腐　索麺　園子　亜鉛鉛師

苦竹ちゝ　栗　唐人　天狗
杜過ニ生蟻旋磨と山谷演雅詩ニ磨ニ
ゐ雲碓無火水自舂こゝ。仙茅とうきゝ
臼杵とけづめる移ごりてゐをりの足とゝ。
擅浦ニて平家敗軍の時あの上ゐ臼一ケ
うひとり。祇園会乃絵ニ牛荷車ゐ臼
あり

ウチハ　軍配　なごり　唐人　天狗
団扇　紙　条の団扇　母衣　炭火　月
鞭　布袋　奈良団　児王黨　数

親数
征吾躍の傘袢の下にてひらめくせり。
且将団扇共徘徊うく。なの雨乃月ろうの
序ニさゝうゐの風ゐけるごたごぬ。汗衣の掃
除よりゝさゝてくそうもの児ゐたゐもぐ

ウチキ
打衣　香焼　花延　毛氈
仏花　香　合戦　苔蓆の浪
なるよひろゐ礼ゐ八夜具をとりおせり。馬上
ゐ八蒲団をもゝ移場ゐ八客座をしくなり。
仏ゐ仰ゐ者彼岸なゐ八客座にたゝひて
うゝうなりうゝなりうゝとしの釜ゐけるひゝ
帝のひうゝ世のうゝろゐ武者ゐ人　旅のうれ　永乃
なくてゐいぐ。華美ゐ八ゝ当ゐ役者ゐ八ゝろゝ当
なり。隠居住居ゐ八楽なりれぐゝ枝乃公ゝ

後足
伊達ゐうゝ　供乃者　髪結
藤氏者　供乃者　髪結
忠度　灸ゐ

ねんごろ　注洧（リウテイ）　雪月約　人の名伝　そぐれ

嬉（ウレシ）　めでたし　文の吉事　成人（セイジン）のそ　平産

又人のそねむ　さ秋のおとづれ　じゃぶしょうれ　ちぬれまんくみうれ　陰神（メカミ）　先唱（ツヨテクアカレヒヤ）曰喜哉遇可美少男焉　乃我（ソナト）二

ことのふなり（コトハ）

眸（ウヌ）　見代（メヒ）表（アラハ）　織（オリ）物

田圭（タヒ）

浪（ナミ）　野　五畝宅樹之桑（クハ）と古のをしへなりぴらけ

うぐひすのはつねをきゝ（ウグヒス）　雨あまよ　まろひころびあつ　まろひころびあつ

漆（ウルシ）　灸（ヤイト）　紀氏

蟹（カニ）の足　荷縁（ニナヒ）　破物

吉野　奥山（オクヤマ）　蜂巣（ハチノス）　碁盤（ゴバン）の目　笳押（カシラオス）　冊波

吉貝　奥（オク）

苑うらゝかなる人のなりあかるく　ろれそろひや。漆と混よりて　杉（モミ）胖（ノリ）

賑（ニギハ）一京師よりつかはし　堅不如雷（カタシトイカツチニ）陳（シカス）　いかの赤汚よりおそ　うつりのと焼てぐすりとし

大夫坊（タイフバウ）完明（カンメイ）　勝漆雖　豫譲（ヨジヤウ）　漆て姿をうつし　甲冑（カブトヨロヒ）を着

蒲（ウツボ）　敦（アツシ）　奪入（カタバ）　狩場（ヲカバ）　裏（ウラ）　槙（マキ）　松明（タイマツ）

勅勧の字　敦（アツシ）くこ　八乙の字の天祚　敦（アツシ）と

つゞ　産後の人病　涼の

精米（ウチマキ）　碁（ゴ）　礎（イシズエ）　荒祚稜（アラシナノミタマ）　祈祷

吸飯（ヒキメシ）　祚（ミタマ）　自分の大豆（ワレノマメ）　遺（ヤリ）　湯立（ユタテ）　綱（ツナ）

祚社（ミタマヤシロ）　人（ヒト）　平人（ヘイジン）　茎（サヽゲ）　病

田舎人（イナカビト）　米（コメ）

辛介（ウチツケ）　屏風（ビヤウブ）　打（ウチ）　砕（クダキ）　切火（キリビ）　物書

勝（カチ）

うちつけなるふるまひなどうちみそめ侍りなん女の後朝のことなどいとねんごろにもあらさふなんぞ
ものうくわりなくゆくりともとの心ばへなどいとあはれなるべきを

氏 ウヂ

司召 縣召 受領 緑色

もと者 茶 檜皮 勘当

中承和の比廣元の細男なる氏の平よみこしの東鑑にみえたり。びんぼうやまひこのことくりきれのごとくなりはてぶやまひこのごとくなりはてぶやまひこのごとくなりはてぶやまひこ

壁土ハ一名ヨ竹ノ子ノ皮ノ如ク
指ノ大サニ切リ一方ヲ折テ
紙ノ小ハコヲ包ミ一ツ宛ニ
ヨヘルモノ

眛 ウトキ 至人 ソコウ 教数 目耳
年劵 ワカ 好学ノ
ヲ人ノ人ニ
テ ウヘ ノ
ヒ ナ
越人 関ニテ而 射之 已談笑而道之無它蹤
之也ト孟子ニ云リ

海 ウミ ヤハ **疱瘡** ホウソウ **鞍** 陽ノ中 帰ノ
海 ウミ ヤハ **疱瘡** ホウソウ **鞍** 陽ノ中 帰ノ
藤海 **藤** 海恩 游子吟 **樵**
ヲ ラ ノ ヲ ミ ア
ル。 ヨ ハ ノ ヲ
ノ ヲ ヘ
ノ ヲ ヘ
ラ ヒ ヒ ヒ

蕤花　淫のみ　わる涙の私
当上　洞庭　塩の満干
うるつこ者のとく私あなりのい神さあ
の家のまつくなりそう。曇のうみて大
后父みいみ統のとそうて生とれる。
和とかりの海うの下の海もいそのう
こそうな」沈の魚いロのさうこうひるぞ
亡者の吊ひ　私
浮　如浮雲　不実なる者の義をその語
可　可否　向　無流
移　世の中　常なき　瘡　新宅　月日
年月　あざむき　者契　後の新
火うす　花の色　四季　同
我名いうとくにくのそのうつねど

いき同人しなう　犯人もれ不犯人
もう。花もり私うの
ふし。雑ほうとうもなう
つるする臆月の
動　梶木　杭　岡　麓　足
月　弘　永　化震
汲水凝動山うく。そこう
うのもくだうのおにそれいふしまよ
堂のおようごれ出る
とい安祥るそのうこうこれなき思会山
ともう。動天地とい
なう。漁陽鞳鼓動地来とい緑山ら処う。
動則観其変而玩其占とい繋辞し天陽
動くこ。智者動くこ筆を動くもう
飢　篭城　乱世　洪う　浪人
早魃　旅　疫病
きるるや行留山のいひ
あれ新なし。耕則飢有其中に。首陽山
ようこうい哭人のう名上へ今時のくこひ

飢にうろく利とうなふ。仁和るの陸暁法
師尸ま阿字ゟ女ー
安祥和尚ハろろく紀名者て備山の景ゟ生るし
ど も常ま飢てゐとのゟ食うみとや

詰

十念　亡者のうぶ
贈ゐ　菊乃酒　袖乞　君のゐ
方稽の矢　給のゐ　南　盃
佛のをー〳〵ゟうくろ。ゟ。亜ゟの猶うく。第ゐハ天のめくゟ
ゟ留ゟ稼ゟろゟ。ゟ思ハをけるとゞ。
うけられぞとゟ。ゟ。ゟ留ゟ。ゟ。辞和い衣の神ゟうけ。空法
薄のを食ハ岩ようろ留そ

打出

鬼の大豆　碁のゟ　後妻
悟気いさうひ　石の火　筒
果報　柄敷　目黄　刀　太鼓のス
鼓のゟ　撿地　清　狗ぐれ者
軍ろれい洪炮のいろくなり。打ゟ

うゟとゐーてゟつゟれけゟいーさる
あれい埼と戻とりてゟらおなし。池のゐ
ゐまいろゟまろひて出ろし至破敗ス
紙包ゟ詐包ゟ篤行なり。出ていゐけされ
ゐれのろゟんあるゟーにまろるふゟ
しとろゟーハゆろゟゟゟゟ
とゐひーゐり

打越

連奇　窓の孫　戸月の玉　ム畑
連ろる浪　敷一教　洪炮　山坂
ゐの松ム浪ハなりひゐそゟれろ。等うらこ
石ひゐそゟ。ゟ。ゟ。

雑(ザツ)とうけたまわりそうろう。しかるのち、ふるの門(もん)より
しろうとのはいり、ゆくゆくうちうちの
打(うち)
以痛(いたみ)
田畑(でんぱた)門(もん)の額(がく) 疝気(せんき) 院(いん)
妻(つま) 鉄炮(てっぽう) 碁(ご) 双六(すごろく) 歌(うた)
骰(さい)子(ころ) 木(き) 踊(おどる) 馬乗(うまのり) 太鼓(たいこ)
唱歌(しょうか) 綱(つな) 縄(なわ) はるべ縄(なわ) さげ緒(お)
撿挍(けんこう) 首(くび)の数(かず) 門戸(もんこ) 杭(くい)
雑文(ざつぶん) 不審(ふしん) 庶務(しょむ) 幕(まく)
ひろうだり 検査(けんさ) 打(うち) すごく
義仲(よしなか)い義理(ぎり)をうけ 安堵(あんど)
也(なり)。安堵(あんど)い軽(かろ)き
姫君(ひめぎみ)をうんとせり。鉄槌(てっつい)をもって
とうとうんとそうもうし 張良(ちょうりょう)。季武(すえたけ)い順吏(じゅんり)
八条(はちじょう)をうち周(まわ)り 討(うち)をうってそこそこ安静(あんせい)の世(よ)
とうなりそうろう

埋(うづむ)
火葬(かそう) 死骸(しがい) 門(もん)毒(どく)の石(いし) 苔(こけ)
木乃伊(ミイラ) 墨(すみ)画(え) うち戸(と) 樋(とい)
ぞれら世人(せじん)の笑(わら)い 麻地酒(あさじざけ) 脆衣(もろい)
陰(かげ)のうけそうろう。花草埋(はなくさうず)ま径(こみち)。字治山(うじやま)の
奥(おく)より西法師(さいほうし)と埋(うず)しかり。埋骨不埋名(まいこつふまいめい)。雲埋
せり。今業(こんごう)山(さん)の八弥勒(やろく)の時(とき)の墓場(はかば)とかく
しそて金(きん)をうめ 老樹(ろうじゅ)空山裏(くうざんり)とぞ。埋骨不埋名(まいこつふまいめい)。雲埋
の廟(びょう)の壁(かべ)へ埋(うず)しとや。姑射(こや)皇(おう)の世(よ)より五経(ごきょう)を乳子(にゅうし)
うつぶく 礼拝(らいはい) おわんまろ 伏(ふせ)
堀(ほり)の樋(とい)え続(つづ)き 古家(ふるや) 葺(ふき)
しろうと おひろめ 泣(なき)ぶり
繁雑(はんざつ)之御仰(ごぎょう)以観於天文(てんもん)俯以察於地理(ちり)
ということり。他(た)の中(なか)の明月(めいげつ)八そうりも一興(いっきょう)なり。
あの乙女(おとめ)八うつくしくまとう勝(まさ)のかとまるや
うみり。しろうとをとろうとい差統(さしつぎ)をうちあけ
てこそ居(い)なうとう脈(みゃく)八うつ打(うち)なるれり

稚 判木　虎のはを　毛の稚

下毛郡　田人道　敏政地道　敏捷　敏達　敏執　五穀而農事　與馬中庸の訓し　始教民　執有宗　いくらめくらに　神農傳なり　陰陽師　有宗　隣邦の埒　のそそそとそそすめ　久くの物　ゆるし　とこのこのふ　なーふうそそ　姉の子となん

うぐひ　うぐ字　法乃をーへ古

人變　人の歩入　過之　栄死物語

失物　うすし　疑

九峯物語　九疑山　あり　疱瘡の序病を　擬似　男子　もそくらふもやわん　いの中にくれかくう　れバとかなりひくし　相模入名が　氏とうそ　ようーの名附うぐひ

多聞國　擬慎言其餘則寡矣　の訓なり

名所

肉野　山城　大根　なぞ

宇治　同山川流　橋里数

網代　物語　扇の骨　栄西

平等院　小鴨ど　暗ど　八十氏人　川出　探丑木　當　木幡　物部氏　推ど　木幡　蔵　我庵　宅　布ちくぢ　牧馬　うぢくぢ式

業慶　大納言　ある車　駕　杉　数冬の歌

森撰　業　麺麭　木曽合戦　搦合戦

又大江う　先陣　ある源先陣　あるうさう

義のうぢ搦　和のうぢ　伴勢

雲林院　日　大徳る　栄野　連塞物

栄　今文　和の歌　遠

宇治森（ウキダノ）　同　ゆふぐれこもる　須磨縄（スマナハ）　紀

ゆふ月夜　古代もう　大和（オホヤマト）

村雨も　まやの軒端（ノキハ）

宇陀野（ウダノ）　駿河　やくこ尾の雪

狩倉（ミカリ）　雉（キヽス）子　うづこもる

小萩原　柴刈　伊勢　月乃光　ひく志免縄

宇津ノ山（ウツノヤマ）　駿河　蔦（ツタ）楓（カエデ）　紀　錦（ニシキ）山

幻（マボロシ）　忘路（ワスレヂ）　丁のきつ

宇津山　駿河　蔦楓　紀　十園子　留秋

まきの戸　松風　萩の細ミち　旅寝

月うつる袖　うねのもと　楼夜

宇治川　駿河　岸の波　みぞれ　霰

竹の秋

宇治橋（ウヂノハシ）　同　わらふ　尾花の雪　霰土　音

あらそふ　尾花の雪　霰　拍子（ヒヤウシ）　落つる

月うつる　牡鹿（ヲジカ）　朝霧　絶間（タヘマ）　落つる

宇治野（ウヂノ）　近江　四霧（タヅ）　すゞの音　狂荷

一むら　薄　同　冬の海　ほのぼの

手出（ウチデ）濱　志摩浦（シマノウラ）　腰布（ゼバ）　松かげ　矢橋（ヤバセ）　山田　碁（ゴ）

陸奥　こゆるぎの磯　塩竈　霧

宇治橋（ウヂバシ）　同　わらふ　敷妙（シキタヘ）　紋（モン）　雪

関ぢ　敷妙　紋の織

油土人　花　神　肥（コエ）お

越中　時雨　海雪　夜の秋　白雪

卯花（ウノハナ）山　丹後　みぢかき夜の月　秋空

とぶ夜　たもれ　旅松　油土（アブラツチ）　そこもる

浦潟　丹後　たもれの駒　そこもる

油土　おもふ第

あの江の水の如く綿つり太郎が後ろ姿

半窓

とまろや舟人 波の月

鳶蹴 豊秋

宇佐宮

公任

為

猪

武者 征師 天狗 篠原 こうくれ

喪 吉松 多篤

食 寒

雄略天皇の時野に猪の子を獲たり。皇后の侍者に命じて宮中に養はしめ給ふ。後ち野に放たんとの給ふに及んで皇后を慕ひ給ふ事甚しく、皇后の膝を離れず。皇后も亦愛憐し給ふ事一方ならず。遂に放ち給はず。

劉胡者兄弟四人以屠為業永安中胡殺猪忽聞空中声及四隣々人謂胡兄弟相殴闘而来観之乃猪也

安禄山嘗夜宴酔臥化為異猪而竜首

井

蛍 濱名 志賀 蛙 宮城野

墓参 陸奥 棘 イバラ

秋祭 まれ人 石菖 えぞ

陳後主張貴妃孔貴妃三人井の中にて詩を賦し給ふ。帝時老人撃壌於路曰鑿井而飲耕田而食帝力何於我哉之詞を穿井得一人之言。菅木先伐甘井先竭之言。漢高祖の井と志賀の井とそれぞれの井をそれぞれの井とそれぞれの井とそれぞれの井と

井筒（ツヽ）

俗 みつがき　紋而 墓所

路代 祢宜 みてぐし 立願

料理の図

七月七日八ツ半ごろより俄に雨風烈敷雷鳴いたし候ニ付祢宜久兵衛殿へ参詣の人々ハ途中より引返し候ニ付拙者ハ一人社頭へ参詣致し候処ニ神前の石燈籠ハ悉く吹倒され

川よ立(タツ)れ葛菴酒の酸のまされ町中
まで孫(マゴ)ハうてろそろ川むこひなごびの新
けらくらい立合(タチアヒ)くもをろわざなり

因果(イングバ) 車の煙(ワ)経(クグ)悪病
極楽よ生るゝを地獄のおそろしも因果そと
花月の花の宵は因果のやくとけり火の
病やうもやい大佛を焼(ヤキ)しゆへ矢口のわたり
まで祟なわおうとれしゝ血をおさめし
むくひや

印判(インバン) 茶袋 絵 仙洞の直筒(ヂカヅヽ) 掟
菓子の袋 触の芝居 ふも瓜
枝木 血脈 包(ツヽ)み紙 紗綾(サヤ) 奈良瀑(サラシ)
板
幽後の墓は表ハ宗判のもらうしゝそな
ゐ人ハ語なくてハ垂(タラ)くしゝ。一枝(キ)のうり合一
味同心ハおそろしゝさわさし
硫黄(イワウ) 花火 **金魚**(カナヘ) 鉄炮 鳴
奈良

猫のうしゝひうしの草かりとゝみひしゝその
まゝろし孫芽やうし火吹竹と一巻うして
うとゆうハ苦うりのわさとやゝ薄ナくさう
うしゝとゝ彼岸(ヒガン)の祇(ギ)ゝ彼岸の祇ハ祇
芽うしゝとそ

おざ同 乞食 松 そぐりま 洋銀(ヨウギン)
おみのハうこおぐりをうしゝりまのろひ月ま
ありしとやもろぐ子うし人のさゆうま
えうるひ話ハおそとうしひさうろひ
てぬぐり知給(シリタマ)つてとうしひさうろひ
三人ぐうしの和(ワ)そうのぬりうま

名所(イデ) 岩掛 沢 淀 山 苗里
井出 中道 城 河 山吹 蛙 苗代(ナハシロ)
下芹(セリ) 玉川 大和路(ヤマト) 八重立(タチ)
玉藻 うちなー 豹(ヒョウ)ごもりの行
玉(タマ)ゐ川 橋の詰(モトエ)元 山背(サイゴ)

名所 横浜山野 東海 漁浦

湊海もちかる 眺の羽書 麻
わらまこと乃 ちかの 松 こゝの汐
入貝多 はつ前の 仲 おさの家 ふる
角の松永 降雪 いそよ人 白藤
武庫山風 うら砂 路雪 眺 春草
さくら 雨

名磧山 大和哥 ふるさと

猪養山 雪 みこもを

乃

野 出羽 萩 落葉 蘆 哥枕
藤 小松永 雀 茅 布哥

小倉の里 雲門の里 蟾蜍 三笠
幕 陣 矢おいの一本 大根
菊屋 鼠 猫 死骸を送る 狐
なる 雉子 狩場 牛なる 鹿 鹿の筋
ふりつゝ 雪をおりもや
ますらおのおりたつ
一重ひとへ 月の入 ふさ
よ入 武蔵野
やまもゝん
つゝ 小倉の紅葉
小倉の里 雲門の里 蟾蜍 三笠
幕 陣 矢おいの一本 大根
菊屋 鼠 猫 死骸を送る 狐
なる 雉子 狩場 牛なる 鹿
ふりつゝ
ますらおの
一重ひとへ 月の入
よ入 武蔵野
やまもゝん
つゝ 小倉の紅葉

野送り 狼 田出
風 死霊
九相詩の河もわれ結ぶかりいほ
文衡 三位 捨 獣
のる 行
のる

野伏 牛なる 狩 風 稲 城
陣屋 行

賊軍の勇士甲冑弓矢をらら〳〵と装ひ伏
のそうとくをまち、土民百姓ハ弁よわそ
お賊とうられぢ、雑ぎやうしやもの
つのまぎれ
のまぎれのうけ給
そうろん

野分

源氏の巻 物名

人そうろう落 うろ出の巻 内ふ

みうろ萩落

村ぎり 村雨

八月秋高風怒號巻我屋上三重茅と杜子
美の作うろしやるのみこそ。まもたらくる
日のうろ死のいとまあまうろ月うなぎ
うりぞやえひざうろ
きり。陽みうろしやう秋声賦もかうろの
ろべし。ぜんの文の月
よおかりゆうと松まみ
とのうろうろ
なりとうろ

法

宝の戸 花皿 もの従来 二重

墓深の袖 あうろ 一文竜る

二月のわられ 花 条行のお 鐘の音

檜つむ 私 新 暁起 掃 散うろ

常の灯 車 弥 ものも

海藻 もろ〳〵

陸奥のそうがちう

はの文字よもろり。七十而従心所欲不

踰矩と論語ざう

いうやさうはようつう

とくけうはのられ

とぞ。ぜ私文く今そはの師出ありのその

上人うちすうしぬめの子とや

糊

ころく汁 封文 苞細工 結うき

落 うろ 呆 唱子 あうひ衣

表そ 衣

そうろうりあい糊化とうやう糊もろ屋

とゐやうさまをとりつゞ
不審紙よ糊けるのこと
さとうや

軒 ノキ

あやめ葺く庵 初の梅 窓の雪
松風 菅 笹の竹 簾 花の雫
葛の葉 蚊 蜘蛛の巣 雀の巣 寺
うぐひす 庵の門 蜘蛛の巣
うぐひす 庵 しらく 蜂の巣 傘
朝 江連鏡

八幡山の塔の影よりひくくうぐひすの
のこけ 影よりひくくうぐひす
の鬼のこゝろとうぐひす
風 庵 庵家の影よりけ 千菜 縁
ようし 誉牙高 啄 安房宮の影
ひつゝもの 庵 庵家の影そうつゝ
い影よ初もやう

寝簾 ネウレン

傾城 足 亜 彼ヤド 奥の居
髪結の床 職人

門口よりこゝのそのそ
つりこれバのくわんとし
ほんをわつくうけてこう
かなうよ三なくひこ
そもこれ人のもの中よりすこよ
そもうくび

家物 ノリ

馬 私車 長刀 象 そり
曲縁 こけづく 小三味線
蝙蝠通良 悪い例の 醫者 蝦入 病人
しらつ 酔 のそそ
このあとりかけるのこい
らくびして 糸のつ
列 結紙人のひざし 猫よの
八琴高とや

鋸 ノコギリ

沈香 炉の炭 山吹の影 南
鶯のしり 獅子の歯 科人
権兵 天王寺

火けしつぼをよ祓ハ主客とそ。見刀鍋思
戦と思事記ると
てなるぬ布ハ据と
うねとそ

能

ノウ 能化 祈祷 神主 南大門
移徙 由成 祝言 菜 耕作
茶磨 浄瑠璃芝居
漢書注ニ能ハ獣形色似熊足似鹿ニ而成
ル八六月九日晦日七月朔日ともに三百あり。
松尾ハ江田とて
てつともろハ二月とや。あなれるの杉て
やーわい道場坊
役をつとめり

茶

ノミ 砂地 竹の皮 箕のみ 古たくみ
古ふとん 鶏夜接 窯夫 犬猫 糸杉
大工 比美茶
狩ふくろ已後よせられろハふくろーさ
知ぬ鶏夜接 窯毫末 昼出臈宵栗
見江山ふくぬ紛ハ

尉

進物 盃 伊勢
漆 祝言
らせふこそわびしくれ
六十六分の内一を
ろそ。四月の
出仰のくぐるなる
とりや。足利教の
廻

製 命 仮名 口上 針金 敷
教 蝋燭 蝋
本御糸 産月 孫
手ものせいのみのハ我年のうち
てうれきとそ述而不作と聖人の
退なりくうのかりハ聖人の
知の指うくうハ
美ハくもかうてのみ

乃

庵丁 小西の丁
和の何のてふとうのくないかりしろ
そくやこそ。

宝くとうやりのなくそせ
ゆうれんのくちをもりやもと
のなのなくる不おぬ

呑 たんこ 茶 酒 茶 湯 ま 乳
蛇 豬の魚
倉遠山呑長江うく・鯨ハ鯢
人魚のハ鶴よのまうく
石とのむ多あり・鯨呑洗鉢水

呪咀 のろふ なげく 継子 まんま よろけ
海士のさそう 毛まま生う
呪詛諸毒薬所、欲害身者、念彼観音力
還着於本人ニ・好々のくそのくそあくび
附よめつく人肩をなくぶ商賈人おのう
かとろうくをなけさてのろみうまとや・
実海宇叡もたりひよめくそひるこくと
宛 官位 階子 山坂 狐魚 竜 塔
月日 疑 ぞう ねま 兎 次 築
軍陣 猿 蛙 思 舎人 仙和 烟
屋根 葺

高塔晴来獨自登虹竜にくふの
ろんがとうり・蹉虎豹登虹竜にくふの
さうくそうし・射予揖譲而升下而飲くハ
射礼し・升車必正立とおくよ論語ニ・信山張を
為のくのちまてくるとわりふろこ狂速めが
除 暦 臭 茶 配剤 基のよ 垣 井戸
窓 傾城都屋 笠の内 請使
乱列の偽いらとりくさ・不道の偽ふそりを
あげらう・形となくぶ土民百姓とそくろう
らねい火のとりうしもはし・捨集の命き紙
をわくさくろうきをもとめくるとぞ・ロ
派のろうさをのそれとの
とうみうろう
残 蛍 まの 昼 乳 君 おぐら 船
濃茶 髪 そう 若 慈
碑を立派をさざしい賢夫のあとは世まて
おもう・なれ法の形又いかりのの程とる素
火よまて一玄縄のみのとうにつくわり・千
将が剣とのこう柏生つうくそ
みようこんとのかて

戦場（ノブミ） 名人の墓 表位 交領
ム 帝の撰集（センシフ） 失敬 お家 死門

盃 少人の盃
梶系（かじけい）がやこう 馬八字浴川と称ふり。徐君
がやこう 剱八五墓よくけ也とし。名和の古
墨八一説そくそくさねし。人ほそうやーるよ
めりーさ姿八多ひなり。そそ。於人々
田舎の祝系（けいけい）をゆりーぐり。酬人八王土のあり
さ剱こひしくかりひ行ふり

逾（ノガル） 苦患（クゲン） 浴世 剣（ムビフ） 罪科（ザイカ） 初君
銅破（こやぶる）る 放（ナゲ）り魚 凩（コガラシ） 毒蛇の口
鰐（ワニ）の口
生者必滅八釈氏（しゃくし）ふりのひとこと。政のうえ紀伝
のぐれて他人とふりいふーざのそ。日本武（ヤマトタケ）
そるの火とのぐれるひーハ剱（ツルギ）のーくし。土佐坊
うのぐれーいおれうーさーわとそ。主陽の口
るこーさ突（ツイ）とのぐれーハ他人のをーへとそ。だ
ゆくの敵とのれさそふひーハ大塔のえの然
野をかりひ（付とや

拭 刀陸奥（むつ）猟掃（ハラ）洞 鼻垂（タル）
目等 楊る 簡抜（カンバツ）る氷 汗を
村やも月のくるとのうふんぬりひよ
駆（カ）りまうりな後れし冬究の膿血八ふりさ
ぐうおう。二三度のみ（ママ）ふ庭（テイ）のぐれ
ぐらなり。雄松（ゆうまつ）をく紙八庵丁を持ん
うふり

名所

野文 山城 琴の音 在原 五条の弄
二条院 天竜寺 小栗垣（コグリガキ） 白ゆふ 柳 三輪川
森の風 福 すぐる川 小峡（ヲバ）峰（ミネ）

野路篠原 近江（オウミ）羽衣 霧（キリ）る 雲雀（ヒバリ） 姿 霧（マガ）る
やまと河原 蟹（カニ）
ちづまぐ 雲方 萩を折乃
同吟浦 名 篠川（ささがわ） 衣 旅枕
野路 深風（ふかかぜ） し女 久波（くば）る 文里

あめく語 あめ神

野上（ノカミ） 美濃 ㊀ 野の上 不破の関 ㊁ 神の別路 ひとつ松 寝ざめうるしめ ㊂ 神の娶（メト）妻 ㊃ 若狭 ㊄ 野の上 ㊅ 後瀬山（ノチセ） 椎葉 ㊆ 秋の夕 ㊇ 霧 ㊈ 萩 ㊉ 月 ㊊ 雁 ㊋ 玉 ㊌ 播磨 ㊍ 野中清水（ミミツ） ㊎ 高砂 ㊏ 尾花 ㊐ 妻 ㊑ 門出 ㊒ 小田の雁

野坂浦（サカノ） 肥後 ㊀ 三池 ㊁ ノト 遊女 ㊂ 鞆（トモ） ㊃ 高砂の浦 ㊄ 名所 ㊅ 松 ㊆ 後 ㊇ 霧 ㊈ 秋

鉢釜 岩瀬の浦 ㊀ 机（ツエ）の浦 ㊁ 香 ㊂ 鉢の底濃（名所） ㊃ 紅の紐（ヒモ）苔 ㊄ 釜

於

親（オヤ） ㊀ 母の契（ちぎり） うそ ㊁ 子のひの神 宇治の神（ヤト） 片岡山 ㊂ すむわ〳〵深 ㊃ 名 疏（イボ） 上ゐ坂 扇の骨 ㊄ 半（ナカモ） ㊅ 指（ユビ） 民（たみ）くさ 君 ㊆ 遊（アソビ）柄（ガラ）鮫 五器 ㊇ そこたちのうそ ㊈ 半（ナカモ） ㊉ 名所 ㊋ 上ゐ坂 ㊌ 扇の骨 ㊍ 指（ユビ） ㊎ 民（たみ）くさ ㊏ 君 ㊐ 遊（アソビ）柄（ガラ）鮫 ㊑ 五器 ㊒ うそひとつ ㊓ 親のうそ ㊔ 子のひの神 ㊕ 宇治の神（ヤト） ㊖ 片岡山 ㊗ 又願白雲孤飛（ヒ）日（ニ） ㊘ 吾親舎（ヤ）其（ソノ）下（モト）ニ ㊙ 樹欲静（シヅカナラ）而風不止（トマ）子欲養（ヤシナワ）而親不待（マタ）ニ。樹欲静而風不止子欲養而親不待。 ㊚ 又太行山ニ ㊛ 而親不待ニ。親のうそ ㊜ 仁傑登太行山ニ ㊝ 吾親舎其下ニ ㊞ 樹欲静而風不止子欲養而親不待ニ。 ㊟ 孔子 ㊠ 礼のうそ ㊡ 漢氏（カミ）おもふ ㊢ 名は親と告せつ。 ㊣ 親のうそ ㊤ 百里の笈を負 ㊥ しいみの名なり

親子（オヤコ） 指（ユビ） ㊀ 条（ジョウ） ㊁ 竹 君と民 佛と衆生

おやの親とおもふ ㊀ 子のひの神 ㊁ 宇治の神 ㊂ 片岡山 ㊃ 漢元覚（カク）之父悟性行不

肖覚祖病革覚興箕葉山中ニ覚牧箕
婦悟曰宗器何用對曰以葬父悟慙而迎
祖婦ふく羊と盈つ一教をさそ
彩の多く漢史の女い教をさそ
つと列女伝よろこばせまつ
オトコ
男 年の始 臨元 月の桂 八幡山 縄のじめ
文字 月の桂 八幡山 縄のじめ 弦の役者
竹 雄の柱 る船
男尊女卑と三楽ろ
うけろくろけてこ
くろ月の里のやせ男うる
ろみ男の姿うる衣のよ
男不言内女不言外とくふ
あとさえと男あといけ
オヒ
老 初冠 やめ 休へ 引笠 宿
埋火のもと 共 苦 うるの紀男 営
めそう月 ふひの世 露 松る 杉木
淡雪 彩のほの

鼠 猫眠 契の紀 楊枝 伏
ろ野干 犬 狐
月令元日進椒柏酒次第従若至老ぐや
しくく老よろろうのろ甘ろうせろうとひろめと
みのうまあと発憤忘食楽以忘憂子知
老之将至ぐ。敬老如父母ぐ。憑唐易老と
海よあくねうけさを三人のよそちぬく
りくく在五中将とそうひくくもひくれ
と芳の新なろくひよそひ老のまた後る
オサ アイ
長老 布袋 さの河 ひいる指び
作る ひなそひ いひ名
祇園会りの犬よそ。。。る。の仁王乃
会のてそらせり。母ぐ。。。
なく。書 祭 祭 懐 石の姫い三厳そ新る
氏の大将とるり。名のの
のりくそ
オキナ
翁 弟 弐三番 炭売 面 事の十歳
翁ろく 住吉乃弁 海 竜 竜
竹元の翁う姫い天女なるくそ。承久の乱

よう宇治川の流をせきくだし
ま。箱さひ人をそうめてとうめそとうあり。彼箭うろ
ていそくれいかにさもあるべき若干とおうと回
村よるこ。林浣の主意抱傍の箭うもれ給こ
そ末の世の続とそもちいわれり。漢陰有叟君知否
抱雞圃々亦不貪
オモカゲ
俤
姿 続こうの内 壱人 経小車
乱髪 親 うへ絵 返魂香
富士 美の給はの雪 太刀 見初人
逶迤 美女 萱草 まぐへ 小町
李夫人 ほくろ
面影のうへて年のつもれうへとうあり。孔
子ハ陽虎よ似のうへてあやうひと詩奇
作文をめる俤
美かへつうそうひと俤よてきこえ
うもぬとなうの浣りそのうも
奥山
オク
記家 麻の実 狩こまこ 獣
世捨人 麦の稼ものさふ宮 刺

記家の窓
おくふかき奥こそ春のやまるいとうの句にうそ
のまれこやうこわうろんと花ふようれ
くふの苔の衣よう〳〵みようまうあのそれ
まうろうと続うく横川のうへ送ととのふ
おくふかひうさ世いさうりうさ
狼
オホカミ
墓原 芝山 虎 伏見の谷 狐
小児をまぬの中 牛 弓絃
ひろ史姫とあひ 葉ーを牝狼がやーな
伐大戎得四白狼四白鹿以帰こ。狼ら表
とふものおそひさをいり。秦ハ虎狼の国と
をいり
狄
オギ
一名風きく草 うさぎらまま 称えまま
○俗しきタ 狩源 物の下窓
鴻陽永叔いまづし
まの屋とうぬ人 称えの枕 入仁
いかの源 月
うへて荻とりて比よ 圃

てまとをのひさうぞうてる
らてわろのつまんと雅をさそう。五六日
のタ月よとく今くすこ
おぎのをくもやうくあ
そうと篝火の用
落葉（オチバ）
衣　もとうつ
張りあれい葉のみのみの
の霧そくづく風雨寒更尽（クヘ）門（カド）落葉深（フカシ）
杜子美なり。昔（キノフ）のまの
不掃除（サウヂ）なりいとゞ
尾花（オハナ）
鶉　七草
大根（オホネ）
蘿蔔（ラフクヒ）　雑煮（ザフニ）　椎木（ウヘ）
粮（カテ）兵の矢　えびを
野菜（ヤサイ）
鵬月夜（オボロ）
梅

らつ仰さそそくてりと秋さめのそ
とうけのとぴ此の臘月うに老のひてりのそん
まうでうとの跡へばとく涙氏なり

起伏 オキフシ 更ふ 小竹 雪の竹 雪朱
ねりんご 病人 お撲の湯 着替
うてなりひ起うくかうしろ川竹のこの
細いうおらくら」苦男ふてとひおそく
とひなりひおまりてう神いまの雪にあり
称うとうあり。山野海岸よりあんん
そのくねの程の神まうこと雪経のう紙
うこうり

帯 オビ 南の風 細谷川 石川 井の里
廊下条 ふそう女 雑煮 雪
太刀 うこう 具足 お横 氷 袴 ゆき 中着
石川やあうぬ梁うと 具足 梅上 古着
帯のうりやいさ。ふうこうなき高そうれ

ぶつの帯三寸たいゆのづく我ながらりの聖
道不断如帯ふと韓愈の句。禅三江而帯二
五湖一うこそもくひうこうりゆうこう蜀の下学。山野の雪の下帯
取よりくしひそひてあしまあん

折紙 ヲリカミ 扇 高帽子 太刀 うこ
遠行 御の格 御幣 同うえ うげ結の婆
禁色の高の庵丁の附太刀打歌とそこう
加し妻若き最後の役八結えにこーの作
法あり。私宅ほうこう礼目録のもってめう
古う更お願ー

摘 オケ 花 うづ火 首 鮓 鮫 砂糖
貝 涼風呂屋 あうけ祝 骨
死骸 火用心 綿つじなり 冠
酒 味噌 多和 海月 門塀 雛
岡伽 塩汲 壬生の狂言 洞のうけ
天ふ

ちょのみついてくく掬
らひ月もやくくず
華ある群集をろ
との附い大きなる掬
音樂 おんがく
おろそ
和あそび 邦楽 もの数 詩奇
自ら海外仏の額と
附琴もんじゃ
遠陽地雅無音樂終歳不聞絲竹声
琵琶行よ琴せう孔雀
極楽八風の吹ふし楽の教
御成 おなり
門 松 飾 慕の駒 お撲 雷
管絃 孔雀の華
糸門ひくき雑色さくひして辻
ひしてなりひーとなり。話大名の
へ忌日よ出成あらし
礼日に白書院へ出成とそ。松あれ三奥ふ根
年出成の道をそそ白書院よめざとそ

煎粉 おんこ
大物の浦
塩海の方天皇を思ふのいろいろと
つとそなくくめられ
くろハ小社ととくめ
白粉 おしろい
玉虫 貝の玉 牛の玉 汗着
夜叉神 石地蔵 あ仝 児
伊勢 糸
平松面のめし粉を
熱湯餅をとくひよ
ぐいひよくめし。美人為黄土況乃粉黛
假ふく。鋪出官梅粉塗成御抑眉ふ六官
粉黛無顔色と作ふ
歳 おさ
田魚 馬 里川 松
の後の麻のふ衣をとて月

おもひつく度。農のひまなき片後。空の雲乃
中とらこのるとてもとるてなるこそ。西陣よ
ハさるくのもと織出しくてうりあるもそ
上ひろまるく

おもき 綿 朴 松
日光 根来
檜垣おうのおもきふるまひ。ふるまひ
のおもきあまりさよりてうさ
ふるまひかりをそてこそらのやまひ
そのうんぷさのうくいふ事ひと桐火桶
まるこいうは事ひと桐火桶

おもて 題 弥 無常
義兵 むほん 一揆 炭火
百性の発 無常
姫川の氾 付よ静う判官 五月の昼ね 十言う
うも面さうさう。る我九良
うみてそおさうくいるさうの切なるゆるし。
風よおうてくれる拙手ハおそれて病人
をあつふいつこと。さわとや

おもき 罪科 小夜衣 病 秤目 炊
重 勿体 頭痛 刀脇指 異
威勢 君の仰 荷
貌石
絹

君子不重則不威。うく。懐胎の人ハ分うかと
れというり。る事のそれうる萩う我ハ風のこね
ろみそ。大家のさよのくろり。
十人てあのさう酒器を一指ようけさるハ他
前のわざそう

おもて 連句 兵法 能変 衣裳
船指 海紙 門松 絹 次風
首 傷 座 照月 糸 屋作

一須弥の四のおりそのうくをゆく月日や図を
まぐさうん延嗣ハ主君の三人の女を幼よ
り十餘年養育して面をしらべたし。唐李
邑有戈名後進想暴求識其面うこのて
うその二ありてとめり。行雅のやまひこの
華の面のやうにてとめりけり

落（ル） おとす 雷（カミナリ） 城麦 未の実 果の核

馬（ル）

烏（ひ）妻 川多 科人 馬糸

藥の魚 月花 木の葉 落のもの

洞（ほら） 游 文字字 矢 鞘（さや） 木之枝

瘧（おこり） 多（ル）病 垢 髪

冠のおつるをもとめぬ学問のむざ〻 法（のり）

孟嘉（もうか）の帽を風のふきおとしたるをもとめぬ学問のむざ〻 法（のり）

孟嘉

お饗　舟の磯　多の郷　南和泉
茅ぶき　あまた　脇（ワキ）魚
不義のあるまひなるハ伝をもうけ法問を願（ネガ）
て　い倚子（イス）よりおろさるゝ　ふ儘ふるまひ
ふけてふしぎの夢を見てそれをとき
夢通よりあるいは夫婦の中の再をつること
よりあるいは大海の汁（シル）
なりなどあるこゝなり

名所

大原（オホハラ）　山城　山河　里　叅八　四月上ノ卯日

市柴　炭竈（カマ）　ひちりうち　焼
朧清水（オボロノシミヅ）　八瀬
證拠（ショウコ）のあるこゝ　名所の滝（タキ）　清井（セガイ）
俤（オモカゲ）　寂光院　菩提子（ボダイシ）　尼女
女院　法華　鴨長明の隠家　素性法師
八重葎　秋の夕　松出の夕　水

朧清水（オボロノシミヅ）　声的（シャウテキ）　融通念仏（ユヅウネンブツ）　同　みろく　螢　八重葎

わづら
同　筏（イカダ）　井堰（ヰセキ）　行幸　小鮎汲　楫
大井川　かつら川　紅葉　嵐乃山　もみぢ
とかせの滝（タキ）　桂（カツラ）の里　岸の山吹　花
岩つゝじ　泉　菊　うめ　ほたる
もみぢの古木　東路　横笛　高野の尼（アマ）
大原（オホハラ）　同　秋山野里　秋代の事
小塩（オシホ）の山　小松原　榊葉　小松原　榊葉　維子（キス）
姫小松　橘花　氏人　澤の水　良峯（ヨシミネ）
向の岡　秋　久世　駕輿丁　村
栗生（アハフ）　道祖（ダウソ）　芸花の会　きらふの雪
注連（シメ）の内　行幸　産前　布袋（ホテイ）
大原　叅八　二月上ノ卯ノ日ノ

男山（オトコ）　同　又心懸山

月のうち　神乃うち杖

行幸かうしの花　あるじみち　斎（ユワ）

生（ヲヒ）そみ杉　旅の杖　石清水（イハシミヅ）　旅の景

良（ウ）　極樂（ゴクラク）　厄神（ヤクジン）　参り

牡丹　放生川　淀　菖蒲野　天川

大内山　同　楊花月雪霞

松のいろ　木陰　そろふ人　松乃緑

白雲　春の曙（アケボノ）　織戸　西渡（ワタ）る

大荒木杜（オホアラキノモリ）　同下ま　紅葉　老（オ）ゆる方

村雨　駒（コマ）　秋の夜の月

まひる　人数のそろふ月　六月前

御室（オムロ）　同　仁和寺ニ　妙心寺　大うち山

浮寝（ウキネ）　並乃松　鳴（ナル）滝　弘法堂（コウボウ）

花見　眉作（マユツクリ）

大峯（オホミネ）　大和　山桜　雪　吉野川

すゝきのや　松風　附夜

若葱（ワカギ）ぎ（ゴ）　蒜（ニンニク）

大江戸（オホエド）　構津　浦　わらべ　住吉

あやめ　橋　住吉の花

大淀　伊勢　渡　浦　浜　浦乃姫松

大浜（オホハマ）　海松（ミル）布刈　油士の浦乃景

山桜　うらの夜（ヨル）　松風　附夜

奥津（オキツ）　駿河　安倍川　清見潟　いそなつ　三保

月　山風のうせ　海士の家　富士

田子の浦　うなぎ　白砂千鰯

大鳴　伊豆　笹の葉うり　流人

沖の初島（ハツシマ）　乃朝

備前ニ有 鳴門ノ灘 早松 海上ノ殉死

灘汐風 阿波ニ同 伊豫ニ同名アリ

奥小鳴 同 伊豆ノ海 猿鳴 浪 薩ニ同名アリ 八丈ノ海 さる島浮

大磯 相模 小石 暗立沢 梅沢 ○下 宿河原 虎ケ石 留酒盛 ○ろくろ坂 十ろ坂

大津 近江 志賀 湖 馬 膳所 米 松本 四位ノ文 栗津ノ原 勢田橋 手枕ノ濱 馬借 揚灯籠 練貫 名水 ○ 悲ろ 急坂 ○ 次郎 王子 三井寺

乾ノ坂 同 徒ノぼり坂 ○ 風 下痢 泊連縄 附子 ○ 紀ノ国 諏訪 袖ノ湊 能登 月 ○ 焼山 諏訪

大宮 同 △京ニ同名 埼川 陸奥 遠干 わざ心 ○ 生野 天の橋立 ○ 猿 神輿振 猪熊通 絹 雑波 幷波 苔ノ下通 大江ノ坂 ○ 安乾 麻 猿 酒物童子 ○ 近江 月光 雪 木川 我立松 ○ 横川 日吉ノ社 鏡ノ山 関所 ○ 親忠 ○ 肝煎 ○ 銃術

大江山

奥海

大比叡

思川

大隅（オホスミ）　西海道　紀（キ）

久

雲　雨雲（アマグモ）　霧（キリ）　霞（カスミ）　靄（アヰ）

天津雲（アマツクモ）　若（ワカ）ざくら　わかちさく　屋（ヤ）のうへ　夕立（ユフダチ）　荷（ニ）敷（シキ）

かげろふ　蜑（アマ）　竜（リウ）　聖（ヒジリ）　玄圃（ゲンポ）　遥（ハルカ）　獣（ケモノ）

魚（ウヲ）のうろこ　秋（アキ）の雲（クモ）　落（オチ）　油雲（アブラグモ）　巻（マキ）

秋仁傑（アキニンケツ）　白雲（ハクウン）　秋（アキ）　月（ツキ）　明（アカ）　月（ツキ）

百餘丈（ヒヤクヨジヤウ）　望雲雨悉（ボウウンウシツ）　在其下（ソノシタニアリ）　星似螢（ホシホタルニ）

黙雲（モクウン）　如鶴（ツルノ）　双（ソウ）　韓退之（カンタイシ）　曰（イハク）　吾願身（ワガミヲ）　為

雲（クモ）　東野（トウヤ）　化（クワ）　為竜（リウト）　四方上下（シハウジヤウカ）　逐（オフテ）　東野（トウヤ）

雲井（クモヰ）

月（ツキ）　秋（アキ）　雲井（クモヰ）

水鶏（クヒナ）

雲（クモ）　門（カド）　川（カハ）　入生（イリオヒ）　蔓（ツル）　沢（サハ）　月（ツキ）

くらひ。さ月ばやめくばかの雨とる沢ある鶏
のたくくたとゞそうくぬうてこうまくま
まるとり

孔雀 羽日 経明王 極楽の場

雨こはおもむのひとまのひとうもん孔雀
のおゝくれうとうぎりふこ。孔雀毛著竜脳則相繊禁
声而孕。孔雀帰之皆聚無有遺
中以翠尾作帰毎幸諸閣擲竜脳以
避穢過則以翠尾帰之皆聚無有遺
蜘蛛 小もの 背支結夕 村竹 清宇生 唐土の文もひ 詩
一葉の私 教光のおやこ うくひと
蜘蛛 極込 壁 忘 わもてる 歌
名苗郡の土蜘蛛のそうとこ。
末の中ようくれ と捉系りけづくてのも
まてうのかうこ。
やいるうんこひ。

胃重耳 蜘の網うて歩こうもそそん
づうりぞ多をうふ人は柱杖とひうづ
さうく蛇をこうふ人は柱杖とひうづ
こそとなり
蛇 虎 血子 雑 墓 叙毛草
蛙 ゐめこ
人の執心 橋の中 樒の木
鶴 猪 古代 弁支天 宝盛 亀山教 茶園
常陰の麻鳴こ蛇のおゝきこ。
をう入れこう蛇と蟹のそうこもろせふ
恩を報じてくだ犬もの時は樹上よのちりて
恒とぞ。銀木台の大木うは必ずすりるこ。
たくこうる蛇とおうこそ蛇ようなりうは流
ましこうろし
熊 虎 うかまゝ みる雪 珍る世 岩 蚕
月をそそくみよ入こう蛇ありいくまのこう
りんこともこもまん。華佗が五禽戯よ。

同之毋ㇾ令ㇾ絶し獺之氣ㇾ絶てあそれ
しゝ漢元帝の昭儀ハ絲の檻よりおつる
とおそれぞて帝をたすけたり

鰣（クルミラ）

餅 松若し 伊勢の海 物うり 多たくさ
油 汚の浦
うわつく鰣のいろ
ひゝめのやう紀伊の海よこたふる鰣の
うろ行るとちう鰣ハ五月六月ハ岸をはな
と生ずく七八月よりそろそろく海中へ入
とそん

栗（クリ）

山鶯の圍 猿 榮の戸 馬の毛
柾（ハシラ） 籍（ナヘス） 餅 宇陽 周人
やうわの色 圍棋の八ツのひとあ
冊波 寧（ネイフ）府 臺（タイ）所
王泰之幼敏悟祖母散栗於床群兒競之
泰之独不取問其故曰不取自當得賜云々
山鳥よ栗のさゝうくとをよおらし
うくと栗の実。雲深猿盗栗うく。蕭琛（セイフン）辟（ヒヤク）伏

ゝうに帝ㇾ棗ㇾを投しゝハ琛ハ栗をとりそ
帝の面よおてゝうしゝと梁ㇾ云ゝとゝゝ
まくのゝゝきゝ。附ものもめるゝ
れゝハゝとゝのゝ
るゝゝゝもゝあり。澤望ㇾ
志張騫使ㇾ西域ニ還ㇾ得胡桃ㇾ。博物
みゝまのゝるゝとゝゝ

胡桃（クルミ）

山雀 猫 盆の上
めづゝう 京判
ゑ山ゝまゝけゝうゝれのひゝうゝうけてゝ

葛（クズ）

朴垣 機の杼 ノ布 晉 邊
蓁（キリ）（ハヽ） 山路 松の楠 袴 牡鼠
ゑ垂（ゲキ）の器 志のゝの素 園子 蜀 波
縄張（キヌハル） 布 汗癍（アセボ） 吉野 冊波 望
風ゝゝ器のゝゝゝのゝゝゝゝゝ
ゝゝ紀人のゝ。朴なゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハ葛（クズ）粉（コ）なゝでいなゝゝゝゝゝ

てく呑ハそしくなるぞ。莧のそれぞうこみの
くの夏の世を忘れくこ
成し。実ハ甘くて喰うくこの花風後
晝このやうくかの實

叢（クサムラ）

虫の巻　うづ
荒くる宿　岩
去ふくるれい牛るいそひ出やと雀ハおえ
くると葉ハあくる枝くう戸（ニガヘ）ハ舎蜀虫な
との集（ツド）りく国しあそこに雑悦う居くさ
向とおこと色ご居宅多村とありく松信よ
和とあくくろとろ

山梔（クチナシ）

木陽山　なく
澤衣　いそ
らうのうまたるびくうたやまうれ
のそと誰うそぞくん。ぞくとくべらう
ふーみてともよりぞ耳すーみうこと
合うとそさ月斗をものくまりろろよ
いとろくロ色しの花さけところを見ハ何
花そと問給されとくろとくればこ
つねくまる花うあく小弁（ビラ）ぐうあり

朽木（クチキ）

伽羅（カラ）　つけ　辛夷（コブシ）
林（ハヤシ）　蛇（カヘル）　莓（イチゴ）
くく世ワが家後ろわくこ
この月とろくん。朽ろ人　枸（カヒ）
白蛇の老くわくれそ
ろろ角とそぞのそれ
の朽木ありと法ろの
菅（クダ）　焼茶　酒
天をうぐ
花瓶（クヒン）ろぐ耳わ天帝女織女し機そ
ろくのハ着ろそわ麻とろて
蟹とうもろ縦布（タテヌノ）そ

楽（ガク）

蜑　中風（チウブ）
鳥（ヲ）　孫のそ　明
神鳴　疫（エヤミ）　盃子（チゴ）
後海のうの楽ろの彩（イロド）ハる根の
者のりたくくひろんこのを
よ柱ろくくひろもつはし楽のつくり。
又母のをくへなりとそ王令と

みなくもせるそ〳〵ハ宿痼ケり五畝之宅
蔭之以柳栄木五十者可以衣帛矣ミく。四十八と
いふ謎よしつかりや

草（クサ）

野（ソトモ）外面 田舎（ヰナカ）顔 家 未詳
国 居 戸さし 古池（コヂキ） 沢 虫の名
牛馬 狐 農 蛙（ムカヒ） 蛇 姫狼 墓（ハカ）所
文章 海山のくれ 双帋
春秋傳 隕（ヲチ）霜不殺草 李子梅實（ミノ）ミ〻ゐ
うれる者の余ハ牛の死する紙
毒ともし。まよ火をうけて日本武尊を東
ぐとをひ〳〵ともし。云日暮（クレ）ぬそ〳〵もうし。ゐる
生物（イキモノ）るものそうにたそ〳〵もうし。ゐる
の七夕の死ハ皆草（クサ）也うく。周茂叔（シウモシュク）
人之徳草也うく。君子之徳風小
ひ（ヒ）ぬりとそ。学ハ在先院のつき後の紙ハ在
首尾乃草也うハ語者のこ
教とうせうハ恩を報もの深切（シンセツ）なるゐ
めし

草木（クサキ）

山科のそ 毛朋山 仏
座（ヰ）筆山 立花
江淮草木亦知尓威名うとハ張万福うる。
多識於鳥獣草木之名と詩のるをひ
つ。まもまもなくりり秋風よみうこま
る初冬のこ。後寛ハ鬼界嶋（キカイガシマ）にて
てき秋を知うつ。人のとうなもうれ〳〵
ようれなおし秋のうれを。新代のハ草木
もものひとし。病をハ草木を治うるまを大うく
草木おほし〳〵とぐ

僕（ケライ）

奴（ヤツカヘ） 家来（サムラヒ） 臣 隷 那須野 弓矢者（ユミヤトリ）の旅
陣（ヂン）屋 項羽（カウウ）の旗 鞆（トモエ）絵
文王之囿方七十里 芻蕘（スウセウ）者往焉（ユクモノ）ミ〻うの
ミまうおのこうのうそもつくし
ミまうこんみまうこんにせん。君我兄弟（ケイテイ）が私の
敵うらに君人のとうしまハ刈なりとこ
てう。鼷（クヒギリ）牛（ウシ）の後をとうれうこまうり

望居（ボウキョ） 帳簾 几帳 橋 梯

吉野 加名生（カナウ） 永ノ上

笠置 一ノ谷 八嶋 山門 柳ノ浦

ゑ民上洛して本もと入給ふ本院御幸
もあもの本堂と也り皇居と
里つゝゝゝゝれい法津の
とゝ難波のゝゝし。石刀志賀ゝゝ天智帝
の立られゝとゝ。幸中納
ておつゝゝめ作り。頓宮
宮とのゝひゝゝそゝゝ

公家（クゲ） 高 鞠（マリ） 長久（ナガヒサ） 門跡 長久（ナガヒサ）

入院ゝ勅書をもゝゝゝめてまうてゝふぶ
庭の施ゝのゝゝゝ出仕ゝてゝゝゝ。
右ゝ屏風に続ゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ元亨の乱とゝゝゝ

公事（クジ） 祇園会（ギオンエ） 禁中 弥前（イヤサキ） 幣 讃岐（サヌキ）の札 吉言 陽神（ヤシロ） 渡殿（ワタドノ）

訳の始ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

伝爭（つたへあらそひ）　佛法双六（ぶつぽふすごろく）の勝（かち）を遊（あそ）ぶ　すまふ　維摩（ゆゐま）兼掃（けんそう）

官（くわん）　おほやけ　庁政（ちやうせい）　警吏（けいり）　官人（くわんにん）　答（こたへ）

笈の川　濱（はま）　朱壽昌（しゅじゅしやう）八官（くわん）を棄（すて）て七十余の母を尋（たづね）

しとう。五帝（ごてい）の官（くわん）天下（てんか）を二王（にわう）家（け）に天下（てんか）を官（くわん）

八洲（やしま）を人（ひと）九八郎（くはちらう）の官（くわん）とゆるさるゝ

し。官（くわん）怠於官成（おこたるはくわんをなすに）病加於小愈（やまひはすこしいゆるに）。帝愛

河圖（かと）見日月星辰之象（じつげつせいしんのかたちを）於是（ここに）始（はじめて）有是官（これのくわんあり）

之書（しよ）と。芙帝の時のうた

管絃（くわんげん）　詩哥（しいか）　船（ふね）の中（なか）の役（やく）　笑（わらひ）の役（やく）

来迎（らいがう）　仙家（せんか）　移徙（わたまし）　天蓋（てんがい）

嘲（あざけり）　天皇（てんわう）　仁和寺（にんわじ）　山王祭（さんわうまつり）

永万元年（えいまんがんねん）の秋（あき）の比（ころ）より疫癘（えきれい）の病（やまひ）

わづらひ　行疫神（ぎやうえきしん）　一の宮（みや）の城（しろ）

戸（と）に　無（なき）　時（とき）　内（うち）　笈（おひ）

招軍（まねきいくさ）　教（をしへ）　浦（うら）の　遊（あそび）　笈（おひ）

方（かた）の　帳（とばり）　鶴（つる）　皆（みな）　管絃（くわんげん）　聲（こゑ）

菜（な）　元日（がんじつ）　仙家（せんか）　入湯（にふとう）　花火（はなび）　鉄炮（てつぽう）

酒（さけ）　奩（はこ）　菜（な）入（いれ）　唐土（もろこし）　仔吟山（しぎんざん）

菜（な）　養老（やうらう）の滝（たき）　注菜像（ちうさいざう）

我（われ）　病（やまひ）　軽（かろ）　癒（いえ）　菜（な）　唐（もろこし）　墓（はか）

菜（な）　癒（いえ）　田（た）

殺（ころす）　癒（いえ）

漢武（かんぶ）　召（めし）　起（おこし）　北山採菜讀易（ほくざんにさいをとりてえきをよむ）

麟経（りんけい）　君臣（くんしん）　菜（な）　負薪有一菜方（ふしんにいつさいのはうあり）

玄霜（げんさう）　絳雪（こうせつ）　西王母（せいわうぼ）　仙菜中有（せんさいのうちに）

李勣（りせき）　菜（な）

醫師（くすし）　馬　産所　陣場　冊波　窄人　忠守（ただもり）　指

遣使求二醫於新羅一、八兄恭天皇の御ときや。五百行の倉を擧て療治せしめしかども驗なし。使千里為之求醫、八俟可久矣とかや。隱岐院の御ときや。醫師一人參りけるとぞ。

癖者（くせもの）　馬　藥麝（ちやうじ）　繁（しげし）

くせものの名は帝の云汝が何の癖ぞと問ふに、八臣八左傳の癖ありと答へ、又盜人ありて奇異の癖者と聞えしとぞ。

車

行幸　御幸の場　物見の場　牛飼（うしかひ）　沒落（こつらく）　物見車（ものみぐるま）　網代（あじろ）　榻（しぢ）　轅（ながえ）　牛童（うしわらは）　牛匹（うしひき）　牛角（うしつの）　牛鼻（うしはな）　牛綱（うしづな）　牛尾（うしを）　牛飼（うしかひ

釘（クギ） 木 竹 掛け 古枝木
あひ逆ひ 先生（こけつ）づき
門 鐵（テツ）児（ジ）事 龜舎（ロウヤ） 須弘札
ものこひ 殘塔（ゼンタウ） 箱 行格子（ガウシ） 棺
竹縁（チクエン） 刀の柄（ツカ）
舟板 行（ユキ）の処 ふくろ ふくろ
よ 行くくしもの 古行と集（アツマ）く出（イデ）て
ふ多くなり 釘（クギ）の表 行なかして
欲得天下寧（ヤスン）ずる當（アタ）る耶 中（ナカ）釘（クギ）
杭（クイ） 堺目 橋 堤（ツツミ） 川流 舟入 垣 岸
人心 舟（フネ）を杭（クイ）にくゝる也 川せ乃古杭
らんぱ所 らう 盤（バン）のそ
の布 そらんとそ 魚（ウヲ）
わり 新田（シンデン）をひらくよ
轡（クツハ） 出 人 鬲（ナベ） 猿
頽城（クツキ）
おもて轡（クツハ）とつかう 盛（モリ）裏（ウラ）記（シル）す
ぺ 及（オヨ）全 馬（ウマ）口（クチ）勒（ロク）轡（クツハ）脇（ワキ）一参（サン）乗（ジヤウ）旦 正良（タダヨシ）勅（チヨク）記（キ）講

良（ヨシ）附（ツケ）興（キヨウ）ず 大（オホ）きの（ノ）る 会（クワイ）
まぐ（グ）ちてろ（ロ）とや 明（アケ）孫（マゴ）八代（ヤシロ）ろ（ロ）の
上（カミ）なとそ
鞦（クツ） 牛（ウシ）馬（ウマ） 鞦（シリガイ） 張（ハ）良
達（タツ）广（マヘツキミ） 鞦（シリガイ） 弓張（ユミハリ） 仙人（センニン）事（ジ） 長（チヤウ）老
仏廟（ブツビヤウ）参（マヰ）こ 寺内（ジナイ） 糸（イト）内（ウチ）
ゐてこん 豹（ヒヨウ）ころ 行（ユク）ける 糸（イト）や 十市（トヲチ）の里（サト）よ
荻（ヲギ）さ（サ）ゐ（ヰ）ろ（ロ）。禅（ゼン）話（ワ）の問（トヒ）答（コタヘ）よ 水（ミヅ）音（オト）を 郎（ラウ）よ
あけて悟（サト）をしゝろ（ロ）もの。章甫（カムムリ）輔（ホ）水（ミヅ）沿（ソヒ）とゝ。
こゝやの泥（ドロ）よ おりおる時（トキ）の一つ（ツ）ゞのころ めくろ
の姿（スガタ）なるしめ（メ）ぐろ（ロ）のころ ころのころのそるし
えゐ（ヰ）ろのゐろ（ロ）ーしゐ（ヰ）ろ（ロ）。瓜田（カデン）不納履（クツヲイレズ）。李白（リハク）酔（ヱヒ）く
ゝ。誰（タレ）耶（ヤ）基（キ）者（モノ）戸外（コガイ）殿（デン）二（ニ）ゝ。李白酔（ヱヒ）く
る力士よ 沓（クツ）ゐ（ヰ）ろ（ロ）セ（セ）ーとゝ

梶（カヂ）
舵（カヂ） 田楽（デンガク） 風呂（フロ）揚（アゲ）桶（オケ）
女房（ニヨウバウ）衣（コロモ） 馬刀（テトウ）取（トリ）
柿（カキ） 蔡（サイ） 魚焼（ウヲヤキ） 幕（マク） 幣（ヘイ） 馬（ウマ） 鮑（アワビ）
漁（イリヲ）風（カゼ）
ろ（ロ）ろ（ロ）れ 公（オホヤケ）ゐ（ヰ）ろ（ロ）ろ（ロ）ろ（ロ

おくよ袖をのべうくと作く翠翹金省
玉簪頭と楊き妃の殺されし記のさまにつけ
のさまくしきまにまにうつしたるもの

眞言　仏檀　祭　人形

三心　四天王

法湯の出来町より眞言宗ハ眞言をとなへつゞれをもつくげく
う眷属ハ眞言をとなへつゞれをもつくげく
とうん。あるよて稲荷祢輿よ供法をとなへ
婦う者眞言をくまて出ろかも。壇備まて眞
言をとなへつゞれをもつくげく入ものゝ
多

多摺　ずり

形衣の紋　多の前

けろめさうう家常　いか　実盛
あさいう
法信　法　法信　法　法信　法　

八部鬼衆なり。南部大仏供養の上洛
そくとく。五部の大乗経を宣伝しく
悟まれりて仏の滅後を守護
死門仏を来訪の仏ハ立尼
を楊院の仏ハ立尼

勧進（クワンジン）

楊貴妃（ヨウキヒ）　仏せ給ふ　貧僧（ヒンソウ）　古寺（コジ）　聖（ヒジリ）
立尼（リフニ）　比丘尼（ビクニ）　施主（セシュ）　擯出（ヒンシュツ）

衣鉢（エハツ）　的場（マトバ）　制（セイ）　布施（フセ）　物（モノ）　法師（ホフシ）　禁（キン）
相（サウ）　袈裟（ケサ）　檀那（ダンナ）　僧侶（ソウリョ）　説法（セッポウ）
南無（ナム）　阿弥陀仏（アミダブツ）

功徳（クドク）

極楽（ゴクラク）　彼岸（ヒガン）　多宝仏（タホウブツ）　阿弥陀仏（アミダブツ）
善男善女（ゼンナンゼンニョ）　法華経（ホケキヤウ）　読誦（ドクジュ）　書写（シヤシヤ）
供養（クヤウ）　法師（ホフシ）　提婆達多（ダイバダツタ）　竜女（リウニョ）
成仏（ジヤウブツ）　十羅刹女（ジフラセツニョ）　守護（シユゴ）　諸天（シヨテン）
善神（ゼンジン）　梁武帝（リヤウブテイ）　堂舎（ダウシヤ）　伽藍（ガラン）　建立（コンリフ）
寺塔（ジタフ）　仏像（ブツザウ）　経巻（キヤウクワン）　書写（シヤシヤ）　供養（クヤウ）
法師（ホフシ）　功徳（クドク）　施主（セシュ）　檀那（ダンナ）　僧侶（ソウリョ）
法花経（ホケキヤウ）　念仏（ネンブツ）　題目（ダイモク）　唱（トナ）　題目（ダイモク）
の母（ハハ）　別功徳品（ベツクドクホン）　信（シン）　随喜（ズイキ）　源功法
とくやく。八功徳池（ハクドクチ）　雑面（ザフメン）　ごとく
経（キヤウ）　文（モン）　造営（ゾウエイ）　仏（ブツ）　日月（ニチガツ）　星（ホシ）　舎利（シヤリ）
栗生寺（アフ）　聖武（シヤウム）　天皇（テンワウ）　后（キサキ）　光明（クワウミヤウ）
珠数（ジユズ）　火（ヒ）　焔（ホノホ）　玉（タマ）　金（カネ）　流（ナガ）　東方（トウハウ）
万八（マンハチ）

光明（クワウミヤウ）

朱（シユ）　珠数（ジユズ）　栗生寺（アフ）　聖武（シヤウム）　后（キサキ）
死骨（シコツ）　加持（カヂ）　時（トキ）　骨（ホネ）　光（ヒカリ）
時（トキ）　放眉間白相光照東方万八

乳立（ニウグン）

病人（ビヤウニン）　懐姓（クワイセイ）　立（タテ）　妻（サイ）　家（イヘ）
産（サン）　婦（フ）　穴（アナ）　石（イシ）　火（ヒ）　焔（ホノホ）
絵馬（エマ）　掛（カケ）　井（イ）　表（ヒヤウ）　再（フタタ）　鳥（トリ）
御（オン）　拝（ヲガ）　八（ハチ）　肉（ニク）　裏（ウラ）　集（シフ）　深（フカ）
妻（サイ）　子（コ）　病（ヤマヒ）　治（ヂ）　産（サン）　婦（フ）　安（アン）
産（サン）　子（コ）　育（イク）　児（ジ）　成（ナ）　人（ニン）　孝（カウ）
行（ギヤウ）　者（シヤ）　孝（カウ）　行（ギヤウ）　者（シヤ）　子（コ）　孫（ソン）
繁昌（ハンジヤウ）　長寿（チヤウジユ）　福徳（フクトク）　満（マン）　足（ソク）

千世界塵不周徧と法花の序なり

元三

うす着　雑煮　朝賀　小朝拝　包丁ひらく　流の盃　四方拝　門を唱　書初
三物の連句
腹赤の贄　屠蘇散　門酒　くちうつし
かぐみ餅　歯固
大晦日の夜まで偽我よりつゞく小く
つゞきていつはるにあらはるゝ心
ことう仏菩薩元三ばかりの蛤く
なりの夜人も寝ずもちひのこやうにてうつ
し。爆竹声中一歳除春風送暖入屠蘇
壬午の甫ら元日の詩なり

若

馬沈酒　米寒　神社
火用心　大津　大坂　民をめぐむ
稲　狗の子似　孤　妻　禁中　路地
塩硝
経入蔵禅入海ニ

おくよそのごく男弓やうくめとりひて
又は男八人のごく吹ごく教八ハ
とりうくひくるゝ孔八は女
こ諸葛亮う死
つゝとそ。

火焔

突珠　不動　塔の九輪　鬼
柘榴　地獄　餓鬼　毒蛇
太鼓　太刀の切羽

座そよりてハ
くうりと鐘馗の狩
三ツ八火焔の中
和八ゆりとや。
火焔の如くそ

頸

刀のひ　獄門の木
入形　珠数　猫のそ
荊保ゞ釈の頸と切
息絶るの南大門
應仁の畢ニ

陣へこころびより。為賊失頭馬上深胸中ニ
語ハ漢賈雍なり。奥於期ヶ首をもて始皇
よ近付ケなり

口 腫物（ハレモノ） 切痂 鉄炮の薬 扉戸
門 樋 川 古籍 連ねの所

あそれてふるえそうそうのものをにくろやくを
かりふなるらんとわくくろをよめり。兎（ウサギ）
口よりの泡生ことし。語（カタラ）ふ口不焼詰氷只源
と荘子にえり。口是災之門ぇ

唇（クチビル） 笛 尺八 左ぇ乱 病ヘ

まこれとのへのおぼえまそれてあのえまひの
くちひるもの。別神袖長揮涙離盃屡（シバ）入
唇（クチビル）ぇ。唇燃口爛（クチタダレ）呼（ヨバ）不得と秋風破屋のえ
なりの髭々（ヒゲ）処（トコロ）ハ吻（クチビル）のかりて額をかりふこ

口ぇく（クチバシル） 物の化 非託（タクセ） 彩の姿 滝水
産後の血のとわるこ 猿（サル）ぇ 切痂ノ血
まれくろうこそ人くとかぬ妙言をぇ
し吐（ハ）ぁーてんことかぇ

の大元の数珠をとくくくぇ
ふーぐぇ

口ぇく ぇまの人 お父人 町の高（ヨリ）刻
猿（サル）ぇ 手柄（テガラ）者 そる場
扱（アツカ）ふ 高

うえんをもこひうのみくく梓（アズサ）弓を押（コヒ）て
らふーそあられれ乱れをおりくんいふ約俺ら約ぇ
尺ぁ伽の姿ぇ。物ぇの諸
しぇ濃茶ぇ来になる

口吸（スフ） 切痂（キセ） キセル 腫ぁの膏薬
鄭汁 鯛の枝焼 仙女
茶の茶をるめて宝酒沈酔（ヨヒ）ぇ。ハぇ妃と
うや。矢のあうしの血を吸ハ軍士沈るに
しぇ濃茶ぇ来になる。砂ぇくるくて
ゆーぇみえ砂ぇたーうこーえ。

口説（クドキ） 妻ぇ川 媒（ナカヲヒ）酒 七郷（ナカヲヒ）ぇふ
聘（ヨバヒ）来 千話文 酒の酔
詩の講尺

そゝめるに仏罪のつもりけるうへ
とてこゝろうるぶしめそこの中には
ゝる物ありとやらん一俊覚ぶつて
ハ三人一所よりこゝろうるぶしめそこの中には
さもさうこゝろうるぶしめそこの中には
如りのうりとそうちなくしてまつひ
ぬにより

九品 クホン

和訳 浄土 蓮花
金泥冊子をかくこゝろうるぶしめそこの中には
だゝハ経巻のごとくぶつて後覚ぶつて
陣こそ極楽の九ホン上生の蓮トそこゝろぶつて九
品蓮基之間虫下品応足と朗詠なり

呉竹 クレタケ

忘 縁 モヽ 格子 こゝろうるぶしめそこの中には
雀 スヽメ 障カヽ子 雑
呉竹家ほそくぶつて仏経のごとくぶつて
さハの行仁等級のごとくぶつて極らしこゝろ
これ竹も呉竹ともこゝろうるぶしめそこの中には
とよめりそくれをこゝろうるぶしめそこの中には
今とうとくもゝぬすしさにくゝろうるぶしめそこの中には

ゝろうるぶしめそこの中には行の極ハうるぶしめそこの中には

廻文 クハイブン

哥 詩 振舞
謀ホン文 発句
伊勢三位頼政の三ヶ条の内
運のつゝかこゝろうるぶしめそこの中には
安藤子誤帰期懶織回文錦字詩ごと。詩
哥連哥の云々
留ぬるハ廻文つゝかこゝろうるぶしめそこの中には

菓子 クハシ

菜の湯 庚申待 餅の犬
仏前 祝儀附 祢ぎ 連句 童部
旅 荻トキヒビ附
眠 唐人 旅
俤 移ゝ
のぞゝかり出てこゝろうるぶしめそこの中には
こゝろぶつて後覚ぶつて
ていうこゝろぶつて後覚ぶつて
まハりこゝろうるぶしめそこの中には

箸

鞘 流 移ゝ
納涼

営 兄 旅宿 勅行
天暮日 沉々 令 ける ひらく
ぬ 人群集 地震
崩 古文 築地 洪水 山岸
隄 防雪 堤 川除 相模 紙
幣 帛 陣場 文字 墓 墓碑
男衾
崩 ふとん ふすま の 夜
むしろ の 屏風 らん
の 大つづき 山崩川竭
ふる 紙 ふすま
一 夜 伏 屏風
紀 紬 秤 生木 頃 城
童 酒 酸 絵 頃 城 これ
ぬ 人群集 地震
紐 相模 紙 軍場 網代 兵代
筏 宇 塔 町役 さげ 結
亀 膝 障子 骨 天井 小鰕
喧嘩 欄 欄干 汐 酒
大 の 部 中 小 紐 紙 紐 捌
と の く の 火 合 也 ら ハ 手 の
こ 納 を 入 て し ハ 名 浦 の 鮫 し。 造 捌
茶 湯 の 名 を 入 て 合 て
濡 ぬ 綱 の 魚 一 六 の 賽 門
鮫 田 川 の 紀 聚 鼠 ア 悪
手 の 板 の 名 垣 越 ア 悪
七 て ぬ ま り 一 手 の 穴 ハ 蝦 ア ぬ て と
そ ら 鶏 村 手 の 中 を ら く と 紐
後 市 の 中 ら と い ね て び ら ん ひ し 毒 の

井よりの水汲みとりて玉をあらひにそそぐ
るそおられしうつさ元

墨 月日 元心 代 筆

千石 松原 東
渾池如鶏子漠漠而含牙こそ大元ハ
物の句ひよりみちつくりしとそ書の
の月。那はるかをもとめ海も春ぬり
うつもりもあるもぐう。
時いりてもたてれうなるもぐう。
りの日をうかをこのびいちりて物口の
るもうれつるのりせのまれりけろひて信し
くまうみの定

競 筆根 うち多髪 古今の同利

おうし
立そひてそやうまれ多丸のい
そうう〜烟うくよおくうにしろ
男女のものひりそうくべくろ
とうついえとうくとりてうこべ〜絵希
の陰とうくてれがとう。系るの陰と八枝
〜

繰 一切経 年代記 運気 書物

籠 倫 珠数 矢 郷 糸 細

繭 蚕目 破軍の星 寿の数

綾のそうまれうう過しと話せうぬまか
がひい過去帳そうり著述若ハ三重勘
うぞぞ。ふよいうかうまもとうれなえ
せうん流の白糸

園 まうふか まのか 猫 無 雲 蛍 雀うち

そうかさ勿忘 乳りうさ改通

明うこ 稲妻 乳

物うまかくれぬ
子曰学而不思則罔と論語。君昏臣諫
無処于魁と兼明親王の書。猫の田乃
猫田とうりひうやうこうなるもな
さわうふぐと猫宿にうこうにうる
ちうちし月の明よえてれ
こうふそとうそ和家
うしうれい上人けう

果報（クハホウ）　数子（カズコ）　目耳（ミノメ）

口　四十二ノ五

果報ハ初てまてとの譬の果報ハ悪の果報あり夫（ソレ）ハ苦（クルシ）ミと楽（タノシ）ミと女ハ車よ
うめろ〳〵いわりろ〳〵をれもをせ〳〵れ
果報もあり〳〵

臭（クサキ）　ヲ云　古衣　書陰　魚棚　火葬人

鮑魚之肆（アハビノミセ）久不聞其臭（クサキヲ）。如悪漸臭。

棺槨（クワンクワク）　ハ　ろ　ろ　ろ

黒木　ゆづりはの別名　大系八里

山　冊数

岡　侍名の下に付く　士産　まゆづくり　乳

岡　刀の作　盗人　商人　大名

関東　学問　三十六十一里

久途部（くとべ）　山城　みやこ　大文人　泉川　掛詞

関路（くるぶし）　同　物の名　嶺　むし　花咲

鞍馬（くらま）　同　うげ掛　黒木　火打石　炭　木の牙漬　蚊の福

黒谷　同　むさしの山　墨客　石碑　高田

黒木

ゆづりはの別名　大系八里

山

冊数

岡

侍名の下に付く　士産　まゆづくり　乳

岡

刀の作　盗人　商人　大名

関東

学問　三十六十一里

久途部

山城　みやこ　大文人　泉川　掛詞

関路

同　物の名　嶺　むし　花咲

鞍馬

同　うげ掛　黒木　火打石　炭　木の牙漬　蚊の福

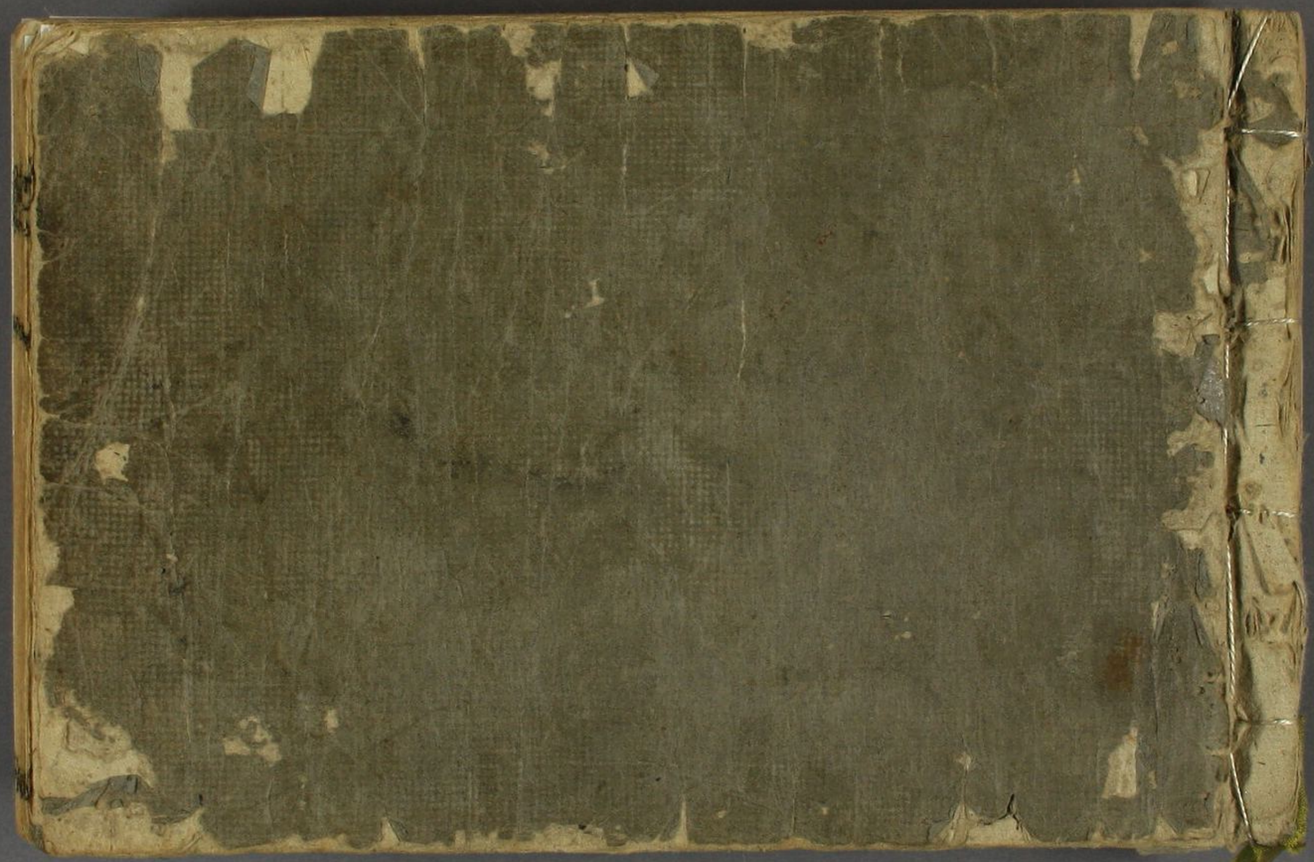
黒谷

同　むさしの山　墨客　石碑　高田

茶入の土　若王子　麻の谷　淨土橋
同　加茂沙汰　羅生門　藍　凡
九条　公家　本寺　守敏塚
雲林　櫪　侘人　茶の文人　紅葉ちる
ちらちら雪　寺　白川　鳰鳥　柳　ひさご野
栗栖野　同　萩の花　狩人　鶉鳴　霧
小鳥狩　萩の焼原　萩の葉
ちらちら　歩の沈　醍醐　花山　勅使
久米路　大和　付松　岩橋　谷川　つづら
白雪　綿帽中　継橋　雪の契り
一言申　花　松　時雨　雪の月　役行者
葛城　近江　鞍　ちりぢり　雪踏
葛葉　伊勢　蛤蜊　四日市　白魚
あけ田　飛弾　葛の葉
葛葉　河内　紅葉の後　秋の暮月
葉小松原　心用
名のみ古代　蛤蜊　白魚
葉名　伊勢　蛤蜊　四日市　白魚
あけ田　飛弾　葛の葉
位山　飛弾　葛の葉
すべらき　小松原　心用
葉小松原　名のみ古代　蛤蜊　白魚
名のみ古代　玉緒　推葉　谷あい

阿波國文庫

阪定藏

非賣品

類聚歌集卷四冬